0004690000

0004690-000

312.1-G292g-Mz

元老院会議筆記

明治法制経済史研究所・編

財政経済学会

前期　第1巻

1943

ABC

元老院會議筆記

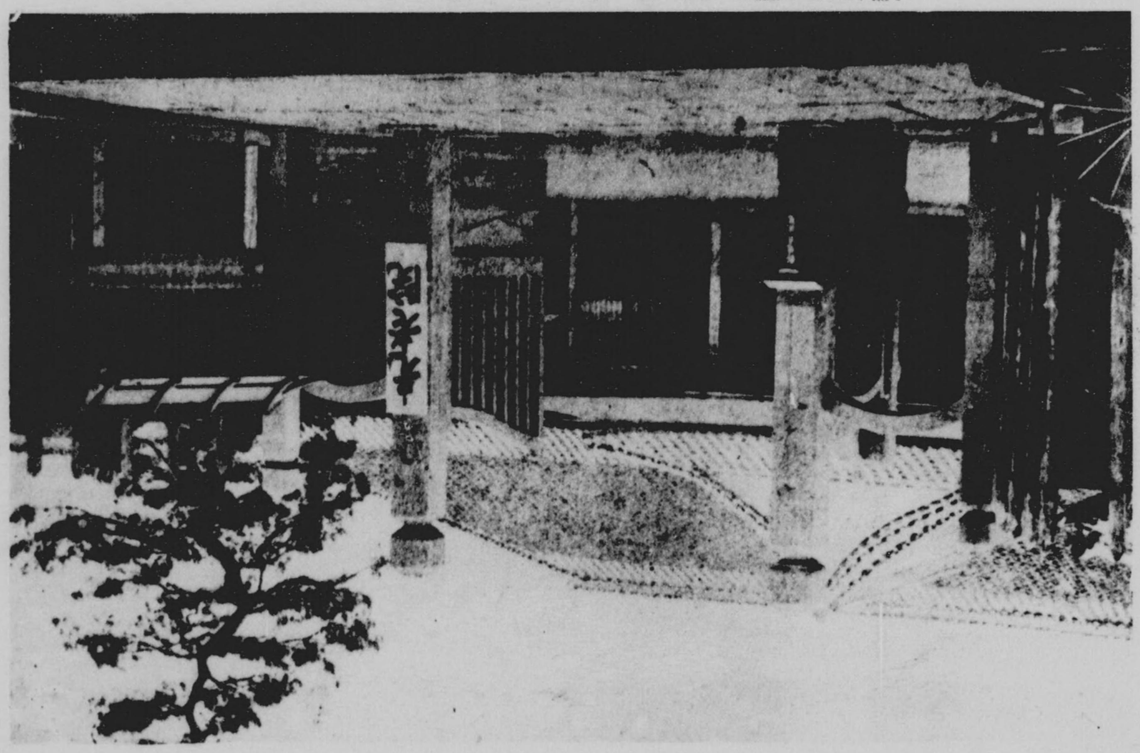
前期
第一卷

明治法制經濟史研究所編

元老院會議筆記

前期
第一卷

東京 財政經濟學會



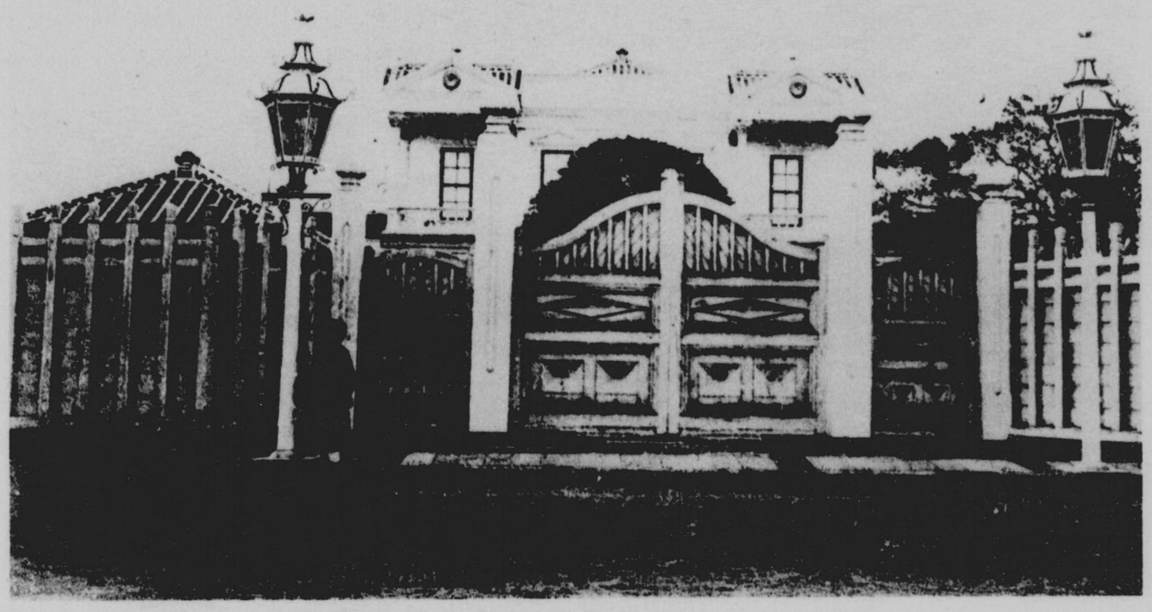
（近衛傅鄭公爵町田邸前泉水）　院老元の頃年九八治明

題簽

司法大臣
岩村通世閣下

312.1
G29g
M

32763



明治八年十二月落成せる元老院内議事堂

緒　言

元老院は、先の左院の後を承けて明治八年七月五日に開院式を擧行せられ、翌九年一月十四日より活動を開始してゐる。

その設立に關し、八年四月十四日の詔を拜するに、明治天皇には『朕今誓文ノ意ヲ擴充シ、玆ニ元老院ヲ設ケ、以テ立法ノ源ヲ廣メ』と宣はせられ、また『地方官ヲ召集シ、以テ民情ヲ通シ公益ヲ圖リ、漸次ニ國家立憲ノ政體ヲ立テ』と仰せられてゐる。尙また、明治九年九月七日には早くも議長有栖川宮に詔書を下し給うて憲法草案の起草を勅命あらせられてゐる。かくの如く、元老院は五箇條の御誓文の聖旨を擴充し、立憲政體の實現を期し給ふ畏き大御心により設立されたこと明白であつて、封建の舊殼を脫却した日本が、近世法制國家としての輝かしき發足に方り、まことに深甚の意義を副へたものといふべきである。

爾後、元老院は、明治二十三年國會開設に至る十有五年間の立法機關として、財政經濟から民政、軍事、産業、外交等各般に亘る新制度、新法律の發布、これが改廢等に關する案件の論議決定を行ひ、立憲國家としての第一階梯を築くに重要なる役目を果したのである。凡そ國家の發展はその國の制度法律に基くものであるが故に、元老院會議の經過筆記が、明治聖代の隆々たる發達の迹を檢覈するに唯一無二の津梁たるべきは論を俟たぬところである。本書全十六卷は卽ち元老院存在の前半たる開會以降十五年末に至る會議筆記を

採錄せるものである。

仍て、編者は各議案筆記の項末に、或は自註を以て、或は參考文献を添へて讀者の繙讀に便なるやう意を用ゐたが、尙、參考文献として採錄を要するものは其の分量極めて多く、各議案筆記末尾に收載し得なかつたものは、之を第十六卷中に收めることとした。元老院開會第一年たる明治九年の成績を見るに、議決上奏されたる議案は五十三議案四十八件の多きに上り、また同院の上奏せる意見書も二十件の多數に及んでゐる。意見書がかく多數上奏された事は、元老院十五年中第一に位し、以て如何にその發足の活潑であつたかが想像せられるが、意見書に就いての編者言は、之を所收する第三卷に讓り、本卷には、たゞ第一、第二卷を通じて明治九年の概說を掲ぐるに止めておく。

○

明治天皇が、維新以來國家の發展並に民意の統合に御軫念あらせられたことは寔に恐懼に堪へざるところであるが、國內未だ靜謐ならざる明治五年には、早くも近畿中國九州地方を御巡幸あらせられて各地の民情を覽はせ給ひ、明治九年には再び龍駕を東北に進め給うて奥羽地方を御巡幸あらせられたのである。洵に當年の盛事として鴻恩の無疆なるに萬民感泣せざるものはなかつた。

然るに、當時、地方民は未だ新政府の施政に泥まず、殊に明治六年の地租改正は却て農民の貢金を困迫せしめ、遂に各地に騷擾の勃發を見るに至る等極めて憂慮すべき狀態であつた。天皇はこの農民困苦の實情を詳さに覽はせ給うて還幸あらせられたのであるが、畏くも翌十年一月地租減稅の詔を下して、十年以後の地租を百分の二分五厘に引下げられることになつたのである。この地租引下に關しては、固より木戸、大久保等の建議が採擇された爲めでもあらうが、編者は、兩度の御巡幸によつて、地方民の稼穡艱難なることを御軫念あらせ給うた難有き聖慮に基くものであると拜するのである。

○

明治九年の元老院は、明治新政府が多年斷行し得なかつた華士族處分に關する難問題の下附を得て、或は檢視し、または議定して解決し得たことは、元老院史中特筆すべき事績であらう。卽ち、三月二十三日「制規アル服裝着用ノ外帶刀ヲ禁止スル」の議案を檢視上奏し、同月二十八日太政官布告第三十八號を以て廢刀の劃期的法令が布告せられた。

次で、八月五日華士族の秩祿處分が行はれ、金祿公債證書條例を發布して、家祿賞典祿は永世たると一代或は年限給與たるとを問はず、公債證書を以て一時に下賜することとした。この秩祿處分は、廢藩に伴ふ政府當然の處置であつて、財政的には固より、政治的にも、社會的にも、この外に採るべき途が無かつたのである。

華士族問題解決の法案としては、右の外「合家禁止議案」「男戸主女戸主他ヘ入夫緣組ノ議案」並に「金祿公債賣買ヲ禁ズル件」（號外第十二號意見書、第三卷參照）等が元老院を通過して上奏布告せられ、一方に於ては、從來の銀行條例を大改正して華士族の實業轉向を便ならしむる等、諸種の法令制度が設けられたのであるが、然し、多くは所謂士族の商法に終つて成功するもの少く、却つて逆效果を生むに至つたのは遺憾である。

かくして、廢刀令に次ぐに祿制の改革を以てせられた守舊の士族は既に武士の權榮を奪はれ、また經濟的苦境に追ひ込まれたが爲めに、遂に大義を忘失して明治の新政を怨むに至つたのである。卽ち、九年を中心に勃發せる佐賀の亂、熊本神風連の亂、長州萩の亂、西南の役等は、名を征韓論に藉ると雖も、亦廢刀、秩祿處分の二令がその原因に無關係であつたとは斷じ難いのである。

○

報道機關に關して明治政府は始め言路洞開の途を講ずることを以て第一の事業としたが、一度民權論が擡頭するや、遽かに態度を一變して言論抑壓の政策に轉向し、明治八年六月、遂に彼の有名な讒謗律八條、新聞紙條例十六條を發令した。かくして、民論彈壓の武器は容赦なく振廻はされ、論客の下獄する者頻々として停止する所を知らぬ狀態であつたが、一方新聞社に於てはこれが對策として、最も地位低き記者を名義人としたので、地位ある記者を縛するの法律は空文となつた。（小野秀雄氏　日本新聞發達史）

茲に於て、政府は第二の武器を使用せざるを得なくなり、九年二月八日、更に八ヶ條の「新聞紙條例追加案」を元老院に檢視せしめ（未發布）、七月五日には「新聞、雜誌、雜報ノ國安ヲ害スルト認メラルヽモノヲ發行禁止又ハ發行停止」することを發令して倍々その鋭鋒を揮つたのである。之が爲め、新聞雜誌の發禁、廢刊に會ふもの接踵無限の有樣であつた。然しながら、かゝる彈壓の大暴風中にあつて新聞雜誌の創刊されたもの、東京のみでも三十八種の多きに上り、これ等のうちには禁止後直ちに他の休業を引受け、改題して發行されたものもあつたので、十一月八日政府は、更に其取締規則を元老院に檢視せしめ發令した。

○

明治九年の經濟界を瞥見すれば、八月一日株式會社組織に依る「米商會所條例」の發布によつて、新に東京大阪等に於ける米商會所の設立、三井銀行の開業等新制度に基く商業機關の出現が擧げられる。

米商會所條例の發布に就いては、之より曩き、大阪堂島米商會所並に東京商社に於ける限月賣買が意外な盛況を呼び、その反面弊害も亦簇出したので、政府は明治七、八年の兩年に亘つて、「株式取引所條例」並に「米穀相場會所準則」を發令して之を改革せんと試みたが、遺憾ながら右の二條例は歐米經濟思想に基く模倣的條例であつたために實用に卽せず、殆ど空文化されて所期の目的を達することが出來なかつた。然も前年來の金融梗塞と、豐作による米價の暴落（八年四月八圓臺より九年五月四圓臺に下落）とは極端に農村を窮迫せしめ、遂に各地に於ける暴動となつて現はるゝ狀態であつたので、政府はこゝに從來の理想を拋擲し、當業者の希望を容れて大阪堂島米商會所の現況と舊慣を詳さに報告せしめ、これに基いて我が國獨特の株式會社組織による「米商會所條例」を發布するに至つたもので、この新組織は果然民意に投合して急速なる發達を招來し、最近世取引商業の基盤をなすに至つたのである。

○

元老院に於ては、此の年警察、裁判所に關する諸種の議案を決定上奏したが、就中、特筆すべきは六月布告せられた「改定律例第三百十八條改正」である。卽ち、依證斷罪を以て舊來の拷問を廢止せんとする劃期的法律であつて、これは、議官の改正意見書（號外第四號意見書、第三卷參照）を元老院が採擇し、五月二十二日原

案の通りに議決して翌日上奏したものである。正に司法界の跳躍的進歩である。

○

最後に海運貿易に關しては、朝鮮開港と上海航路の獲得がある。朝鮮開港は江華灣事件の收獲であるが、上海航路に至つては、從來英國汽船ピーオー會社の獨占に屬し、我が海運界は殆ど手の出しやうが無かつたのである。然るに明治九年三菱汽船（後の日本郵船）が戰を挑んで遂に彼を退け、ピーオーに代つてその航海權を獲得するに至つたもので、今日より回顧して殊更に痛快を覺えるのである。三菱汽船の勝利は我が海運界の勝利であつて、また最近世日本の海外進出に先鞭をつけたものといふべきである。

爾來、汽船に對する關心が一般に昂まつた結果、船員志望者も次第に增加し、その航海術も愈々外國人水先案内の手を離れてもなし得るまでに發達したので、これら船員に對する法律を必要とするやうになり、明治九年末には早くも「西洋型船水先免狀規則案」が議決せられ、十一、十二年の頃に至つて漸次その數を增すに至つたのである。世界に冠たる海運日本の發足を顧みる興味ある史料である。

昭和十八年八月

編者識

元老院に就いて

元老院設立の經過と意義

明治天皇は、明治八年四月十四日元老院大審院ヲ置クノ詔を下して次の通り仰せられてゐる。

朕卽位ノ初首トシテ群臣ヲ會シ五事ヲ以テ神明ニ誓ヒ國是ヲ定メ蒼民保全ノ道ヲ求ム幸ニ祖宗ノ靈ト群臣ノ力トニ賴リ以テ今日ノ小康ヲ得タリ顧ニ中興日淺ク內治ノ事當ニ振作更張スヘキ者少シトセス朕今誓文ノ意ヲ擴充シ玆ニ元老院ヲ設ケ以テ立法ノ源ヲ廣メ大審院ヲ置キ以テ審判ノ權ヲ鞏クシ又地方官ヲ召集シ以テ民情ヲ通シ公益ヲ圖リ漸次ニ國家立憲ノ政體ヲ立テ汝衆庶ト俱ニ其慶ニ賴ント欲ス汝衆庶或ハ舊ニ泥ミ故ニ慣ルルコト莫ク又或ハ進ムニ輕ク爲スニ急ナルコト莫ク其レ能朕カ旨ヲ體シ翼贊スル所アレ

抑も維新の大業は、五箇條の御誓文より廢藩置縣に至るまでを第一段階となし、憲法發布、國會開設を以て完成と看做すべきであらう。然して、その中間に介在するのが元老院の開設であつて、同院の存在は五箇條の御誓文並に憲法の制定と共に、實に一連紐帶の關係に在るのである。

今、元老院開設に至るまでの經過を顧みるに、法學博士穗積八束氏は「憲法制定の由來」の文中に於て『蓋し我が立憲の本旨は、上千古固有の國體を宣明し、下議院を開き、萬機公論に詢はんとす、御誓文は此の國是を宣言して甚明白なりとす、之を明治第一の憲法と謂ふべきなり』と述べてゐる。まことに立憲の宏謨は維新の初め、五箇條の御誓文によつて明確に決せら

れてゐるのである。

この御誓文の聖旨を一日も速かに實現せしむるためには、政治體制の確立を急務とせること謂ふまでもない。然し維新當初の所謂地方三治制に在つては、猶ほ各藩割據の舊態そのまゝであり、封建の餘弊を革むる事不可能であつたので、遂に二年六月の版籍奉還となり、越えて四年七月の廢藩置縣となつて、漸くこゝに地方政治の體制が整備せらるゝに至つた。

また、中央政府に於ても屢々官制の改革を行ひ、明治七年七月從來の太政官制を更定して正院及び左右兩院を置き、天皇親政の實を一層明確化するに及んで、こゝに一應中央地方の政治體制が確立したのである。一方、五箇條の御誓文の聖旨を實現するにその中核となるべき國憲の制定に關しては、早くも明治五年頃より官民の間に論議擡頭し、官論の漸進的なるに反し民論頗る急調にして、論爭は逐日活潑となつて來た。この中に在つて明治七年板垣前參議等による民撰議院設立の建白が突如として現はれるや、積年不平の人心に投じて世論沸騰、天下騒然たるものがあつた。こゝに起つたのが、明治八年一月の所謂大阪會議であつた。

大阪會議は、大久保利通、伊藤博文、井上馨、板垣退助、木戸孝允、黑田清隆等朝野の政客が大阪に會して、時局收拾の協議妥結を行つたもので、當時故山長州に在つた木戸を會同せしむることが一の難點とされたのであるが、三條實美の斡旋によりて遂に成就せるものと傳へられる。その會合の内容に就いては詳かでないが、穗積博士の述べてゐるところによれば

朝野の諸老相會し俱に國運の危殆を憂ひ行掛りを捨て同心協力以て大政を輔翼せんことを約したるもの〻如し、板垣氏の論は急進に走る、木戸氏は其論固より立憲にして國會を開くに在るも漸を以て進まんとす、兩氏の相會するや幸にして意見の疎通を見たりと謂ふ。此の會合の申合せの草案なりと傳ふる者を見るに約束の第一は「我輩は立君定律の政體を以て定說と爲すべし」とあり、憲政を大權の基礎の上に行はんとするの方針は玆に愈々固しと謂ふべし。當時木戸氏自ら筆を執りて席上畫定せられたる改革案の圖あり、左の如しと傳ふ。

天皇陛下		
内閣太政大臣	左右	
參議		
行政	大審院	元老院

とあり、概要を把握するに足る。また他に、元老院の下に地方官の欄を設け、兩者を上下議院とせるものも傳へられてゐる。

尙ほ「三條實美公年譜」卷二にも大阪會議に就いて『政體一變立憲制度等ノ議ニ及フ、時ニ東久世通禧　勅使トシテ來リ臨ミ　聖旨ヲ傳宣シ併テ公ノ手書ヲ致ス（中略）是ヨリ公連日孝允、利通、退助、馨、博文等ト會シ、元老院大審院地方官會議縣會等を創設シ以テ立憲政體ノ基礎ヲ立ンコトヲ謀ル』と述べてゐる。

之即ち重臣等が宸襟を安んじ奉るべく聖旨を奉戴履踐せる結果にして、その年四月十四日、左右兩院を廢し、元老院大審院設置の大詔が發せられ、こゝに立法司法行政三權分立の制が確立するに至つたのである。元老院設立の經緯並にその意義は以上によりて截然たるものがある。

元老院と其會議筆記

八年四月十四日元老院大審院設置の詔下つて、元老院を元左院跡（宮城前祝田町）に設けらるゝや、四月二十五日元老院の職制官等並に十二條の元老院章程が定められ、之と同時に議官の第一回特選が行はれて、勝安房、山口尙芳、鳥尾小彌太、三浦梧樓、津田出、河野敏鎌、加藤弘之、後藤象二郎、由利公正、福岡孝弟、吉井友實、陸奥宗光、松岡時敏、副島種臣の十四名が任命された。然し、島津左大臣、岩倉右大臣の兩者を以て元老院大審院の議長に充てんとの内議ありとの事にて議長の任命なく、且つ、勝、副島は議員を拜辭して受けなかつたので、四月二十七日、各議官は投票を以て後藤象二郎を副議長に選び、

當分議長空席のまゝ進むこととしたが、五月三十一日後藤副議長のなせる議官增員の上奏を御裁可あらせられて、更に有栖川宮熾仁親王以下十名の議員が七月二日に任命せられた。また、六月三十日には議案條例が定められ、七月二日には四項三十一條の議事條例が定められたので、七月五日　天皇親臨の下に輝かしい開院式は擧行されたのである。

こゝに於て元老院は先づ內會議を開き、議官の分課を廢し、議事條例を修正し、また、推問條例、議案取扱順序、修正案議決法、議長官房職制等を定めたが、一方太政官に於ても、元老院の權限問題等よりして、元老院章程並に諸條例改正の必要を認めたので、太政官は九月十二日達を以て『其院章程更正相成ニ付夫迄ノ處開議見合可申此旨相達候事』と開議を見合せることを命じた。然して十一月二十五日に至り、職制並に章程の改革を斷行して副議長の下に幹事二名を置くこととし、陸奥宗光、河野敏鎌の二人が議員中より轉じて幹事に就任し、越えて十二月二十二日、二十三條に亘る元老院議長幹事職務條例、七條より成る議案條例、四條より成る議案檢視條例等の元老院條例が定められたので、同日、太政官は『其院職制章程並ニ諸條令改定御下附相成候付テハ來ル九年一月ヨリ開院可致此旨相達候事』といふ達を出して議事を開かしむることとした。

その改定せられた章程を見るに、第一條に『元老院ハ議法官ニシテ凡ソ新法制定舊法改正ヲ議定スル所ナリ』とあり、第七條には『元老院ハ新法ヲ制定シ若シクハ舊法ヲ廢止改正スヘキノ意見書ヲ上奏スルコトヲ得其批可スル者ハ內閣ニ於テ案ヲ成スノ後再ヒ本院ニ下シテ議定若クハ檢視セシム』とあり、又、第十一條には『元老院ハ立法ニ關スル建白書ヲ受ク』とあつて、元老院の職責分野を明確にしてゐる。

かくて、八年開院式を擧行せる元老院は、劈頭かゝる紆餘曲折のため同年中は專ら內會議のみに終始したが、同年末議事堂の落成、條例の改正等ほゞ準備が完了し且また前掲のごとき開院の命を承けたので、九年一月十四日に至り初めて議長空席のまゝ會議を開いたのである。隨て元老院會議の筆記は九年一月以降のものに屬し、八年中の事に關しては日誌となつて止められてゐるに過ぎないが、その日誌も僅かに七月中のものが存在するのみで、（第一卷卷頭に採錄）餘は未だ檢索し得ない。

因に、九年一月開議當時の議官名を擧ぐれば次の通りである。

副議長　後藤象二郎

幹事　陸奥宗光　河野敏鎌

議官　熾仁親王　山口尙芳　三浦梧樓　津田出　由利公正
吉井友實　柳原前光　佐野常民　黑田清綱　長谷信篤
大給恒　壬生基修　秋月種樹　佐々木高行　齋藤利行
福羽美靜　井上馨　松岡時敏

前年任命された福岡孝弟は其の年五月十九日に罷め、加藤弘之は十一月二十八日に退官し、鳥尾小彌太は九年一月八日陸軍大輔に任ぜられて居らず、勝、副島の拜辭と共に人の上にも開院劈頭少からざる移動があつた。後藤象二郎もまた三月二十八日に副議長を罷めたので、三月三十日有栖川宮熾仁親王假任副議長に、五月十八日更に議長に任ぜられ、こゝに初めて議長を戴くこととなり、陣容は完く整つた。

かくして新設せられた元老院は、爾後明治二十三年國會開設に至るまでの十有五年間、憲法草案の起草を初め、財政、外交、軍事、文敎、產業等全般に亘る新法の制定、舊法の改定等に從事して議法機關としての職責を果したが、その存立期間中議決上奏せる案件は、議案數七五九、意見書五六件の多きに及び、眞に日本をして近世法制國家としての骨骼を備へしむるに至つたその功績は、まことに沒すべからざるものがある。

明治天皇は開設當初より同院の將來をいたく重視遊ばされ、一月十五日（明治十年—十九年）の開院式に行幸遊ばされたことは、今日の帝國議會親臨に異らず、その他にも前後二回に亘つて臨幸あらせられてゐる。また明治九年十一月以降は侍從に議事傍聽を命ぜられ、明治十年十月以降侍從を改めて侍補を差遣せられたのであるが、明治十二年七月侍補官の廢止が御內定遊ばさるゝや、『自今ソノ會議筆記ハ手許ニ差出セヨ』との難有き勅語をさへ賜つてゐる程で、國會開設に至る迄の天皇の御軫念は實に恐懼に堪へぬものがある。

終りに元老院會議筆記のことに就いて一言したい。

速記なき當時の元老院はその會議記錄を造るに當り意味筆記に據る事とした。

意味筆記とは、古來會議及裁判の口供等を書取るため、文字の筆畫を省き或は符號等を用ゐて意味の要領を記し、後總員の稿本を參酌して一本に編纂したもので、其のため辯者より筆者の巧拙が問題とされたものである。

因て元老院に於ては最も宜き筆記を造らんとして優秀なる書記官を多數配置し、また明治九年一月二十二日議事內則を制定し、其の第七條並に第九條を以て『開議ノ時ハ大書記官以下本課書記官一齊ニ議事堂ニ出席シ議長左右ノ椅卓ニ就キ（中略）議事ノ筆記ハ大書記官以下本課書記官同一ニ之ヲ稿シテ彼是相照シ誤聞漏脫ノ患ナカラシム（下略）』と定め、編成せる一本を念のため『議長ノ檢印ヲ受ケ』しむる事とし、其の萬全を期した。

會議筆記は始め日誌中に胎生したが、〔八年日誌第六號並九年日誌第一號及第二號參照〕後、編纂並に閲覽の都合上獨立單行のものとし、〔第四號議案以下參照〕上梓して其の都度元老院議官並に關係先に配布したが、極めて小部數であつたため、今日殆ど巷間に其の影を認むることが出來ないのは勿論、專門家と雖も全冊を入手すること不可能であらう。

尙、元老院の沿革並に職制、章程に就いては第十六卷中に採錄することとした。

元老院日誌第一號

明治八年七月五日

天皇元老院ニ臨御シテ開院ノ式ヲ行ヒ賜フ其次第左ノ如シ

開院式

一 午前第八時〔朱書〕本院幷內外史式部寮官員大禮服着用同院ヘ先着ス

一 午前第九時三十分天皇御出門鹵簿恒例ノ如シ

一 午前第九時皇族大臣參議及ヒ院省使廳東京府長官次官大禮服着用同院ヘ先着ス

本式ハ百官參着スヘキノ處場所狹隘ニ付本文ノ如シ

一 儀仗兵幷樂隊整列ス

一 臨幸ノ報知ヲ得テ皇族大臣及諸官員奉迎ス

一 通御ノ節儀仗兵敬禮ヲ行フ

一 樂隊樂ヲ奏ス

一 便殿ニ着御

一 式部ノ官員副議長議官書記官ヲシテ席ニ列セシム

一 式部ノ官員諸官員ヲシテ席ニ列セシム

一 式部頭

出御ノ事ヲ奏請ス

一 出御式部頭先導朝儀ヲ引ク皇族大臣參議宮內卿輔侍從長扈從ス

此時諸官員敬禮ス

一 御着床扈從ノ諸員其席ニ分列ス圖ノ如シ

一 立御左ノ如ク勅語アリ副議長議官書記官敬禮ス

勅語

本日　朕爰ニ親臨シテ始テ本院ヲ開キ爾衆議官ニ詔ク　朕前日衆庶ニ告クルニ元老院ヲ設ケテ立法ノ源ヲ廣ムルノ旨ヲ以テシ乃爾衆議官ヲ以テ立法官タラシム尙クハ爾等各乃ノ心力ヲ一ニシ乃ノ職任ヲ盡シ允ニ上下ノ康福ヲ圖ラハ實ニ國家無疆ノ休ナリ欽テ斯意ヲ體シテ其能ク贊襄セヨ

一 副議長ヲ召シ勅語ノ書付ヲ授ケ給フ副議長拜受敬禮シ復席ス

一 入御

此時諸官員敬禮扈從初ニ准ス

一 還幸

諸官員奉送奏樂等ノ式初ニ准ス

一 諸官員退散

以上

還御ノ後副議長衆議官ニ奉答書ノ艸稿ヲ示シ異議ノ有無ヲ問フ異議ナシ即明後七日奏聞ス可キ趣ヲ演說シ終テ各官退出ス

本日參院ノ皇族及勅奏任官左ノ如シ

皇族

東伏見　二品宮
伏見　二品宮

三職内外史

太政大臣　三條實美
參議　木戸孝允
同　大久保利通
同　板垣退助
同　大木喬助
同　寺島宗則
同　伊藤博文
權大内史　日下部東作
小外史　谷森眞男

元老院

副議長　後藤象二郎
議官　有栖川二品宮
同　壬生基修
同　柳原前光
同　大給恒
同　由利公正
同　秋月種樹
同　齋藤利行
同　山口尙芳
同　吉井友實
同　黑田清綱
同　陸奥宗光
同　佐野常民
同　三浦梧樓
同　津田出
同　河野敏鎌
同　松岡時敏
大書記官　細川潤次郎
權大書記官　本田親雄
同　丸岡莞爾
同　古澤滋
同　河津祐之

少書記官　細川廣世
同　司馬盈之
同　大井憲太郎
權少書記官　馬屋原彰
同　戸田秋成
同　伊勢時治
同　山本弘

院省使廳府

二等判事　玉乃世履
大藏省三等出仕　松方正義
大警視　川路利良
陸軍少輔　大山巖
内務少輔　林友幸
外務少輔　森有禮
文部省四等出仕　小松彰
中警視　安藤則命
開拓幹事　調所廣丈
教部省六等出仕　鈴木魯
東京府六等出仕　福岡義辨
宮内省式部寮

宮内卿　德大寺實則
宮内大輔　萬里小路博房
侍從長　東久世通禧
宮内少輔　杉孫七郎
宮内省六等出仕　櫻井純造
宮内省七等出仕　竹内節
侍從番長　米田虎雄
侍從　高辻修長
同　綾小路有良
同　北條氏恭
六等侍醫　猿渡盛雅
式部頭　坊城俊政
式部助　五辻安仲
式部權助　橋本實梁
式部寮七等出仕　岩倉具綱

元老院日誌第二號

明治八年七月七日

副議長參内本月五日開院式ノ節ノ　勅語ニ奉答ス其手續左ノ

如シ

一　午前第九時副議長大禮服着用　皇居ヘ參上
一　御學問所　出御
一　副議長　御前ニ進ミ左ノ如ク奉答ス
本月五日
陛下本院ニ　親臨シテ開院ノ式ヲ行ヒ且誥ルニ
聖意ノ向フ所ヲ以テス臣等謹テ
聖意ヲ奉體シ黽勉從事シ將ニ以テ上下ノ康福ヲ圖ラントス伏シテ奉答ス
明治八年七月七日　副議長
議官

一　讀了テ奉答書ヲ　主上ニ奉ル
一　入御
一　副議長退出

○
會議ノ上議官ノ分課ヲ廢ス（六頁參照）

○
任少書記官　正六位北垣國道

元老院日誌第三號

明治八年七月八日
補五等出仕　權大書記官　古澤滋
建白課被仰付　同　河津祐之

元老院日誌第四號

明治八年七月九日
任大書記官　正院八等出仕　白井勇象

○
正院御雇佛人ジューブスケ及米人フエルベツキ本日本院ヘ雇替ノ約ヲ定ム

元老院日誌第五號

明治八年七月十二日
任權大書記官　正六位永井尙志
任權中書記生　文部省中書記　川口鬻
補十四等出仕　中野良範

元老院日誌第六號

明治八年七月十三日
任權少書記官　土方左平
同　賀川純一

○七月十四日
任大書記生　若松縣大屬　吉田千足
○七月二十日
任權大內史　大書記官從五位　細川潤次郎
議官以下委員分課等如左
議長官房委員
同　議官　陸奥宗光
同　同　津田出
同　同　河野敏鎌
同　同　加藤弘之
議長官房
權大書記官　本田親雄
同　權少書記官　馬屋原彰
同　同　戸田秋成
用度課　少書記官　細川廣世
同　權少書記官　山本弘
記錄課　權大書記官　丸岡莞爾
同　權少書記官　賀川純一
建白課　權大書記官　永井尙志
同　少書記官　北垣國道
日誌課　權少書記官　土方左平
編修課　少書記官　橫山由清
調査局　權大書記官　河津祐之
同　少書記官　司馬盈之
同　同　大井憲太郎
同　權少書記官　中江篤助
同　同　伊勢時治

○七月二十二日
任議官兼二等侍講　二等侍講從四位　福羽美靜
任大書記官　權大書記官正六位　本田親雄
任權大書記官　沼間守一
議長官房兼推問掛　權大書記官　沼間守一
○七月二十三日
任大書記生　島田三郎

○七月七日分
○會議　欠席　中旅長　谷信篤　病中　佐々木高行

本日正午十二時四十分着席

病中松岡時敏　病中加藤弘之

議長發言ノ方法ヲ議ス

○議長各議官ニ對シテ曰議事條例中議長或ハ會議中自己ノ意見ヲ說述センカ爲メニ己レ議官ノ列ニ入ラント欲スルトキハ其間議官中ヨリ假ニ自己ノ代理人ヲ撰ムヿヲ得可シト有リ然ルニ院内ノ規則等ヲ議スルニ方テハ議長ノ席ニテ其說ヲ演ルモ可ナリト云ヒ又ハ必ス議官ノ席ニ列シテ說ク可シト云フ兩說分岐セリ衆議如何

○陸奥宗光曰院内ノ規則ヲ改革セントスルノ類ハ議長ノ席ニテ說クモ妨無ル可シ

○津田出曰陸奥ノ說ニ同意ナリ

○河野敏鎌曰陸奥ノ說ト反對ナリ議長ノ性質ハ可否ノ說未タ極ラサルニ己ノ說ヲ述フ可キ者ニ非ス故ニ條例ノ明文ニ從ヒ己ノ說ヲ述ルトキハ必ス議官ノ席ニ着ク可シ

○津田出曰議長當然ノ職務ニ於テハ河野ノ說ノ如シ只院内ノ規則改正等議長ノ說明ヲ要スル類ハ陸奥ノ說可ナリ

○秋月種樹曰院内ノ規則ヲ改正スル類ハ議長其席ニ在テ演ルモ可也

○山口尙芳曰章程ニ所謂起草ノ權ハ議長議官ノ區別無シ且今日ノ議事ハ院中ノ規則ニテモ奏上ノ議案ニテモ之ヲ議シ之ヲ草スルヿ自ラ議長ノ權内ニ備ハレリ

○鳥尾小彌太曰今日ノ問題議決ニヨリテハ條例中第三條改正ノ事ニモ至ル可シ然レハ先問題ノ主意ニ付テ可否ノヿヲ問ハル可シ余ハ大體河野ニ同意ナリ論枝葉ヲ生スルヲ欲セス

○齋藤利行吉井友實黑田清綱壬生基修三浦梧樓ハ河野ノ說ト同意

○議長河野ニ同意ノ者ヲシテ右手ヲ擧シム應スル者九人多數ヲ以テ議長自己ノ意見ヲ演ル時ハ必議官ノ列ニ就ク可キニ決ス

同日午後一時二十分議長鳥尾小彌太ヲシテ議長代理タラシメ己議官ノ列ニ加ル

○議長書記官ニ命シテ後藤象二郎ノ意見書ヲ讀マシム左ノ如シ

常立ノ各課ヲ廢スル議案

本院ニ於テ議官ノ分課ヲ常立シ各其課ニ該ラシムルハ其制秩然タルカ如シト雖ヒ今復之ヲ案スルニ歐米各國議院ノ體タル必シモ分課ヲ常立シテ議官各其課ニ該ルヿ無シ且實際ノ景況ニ就テ之ヲ觀ルニ其効シ無キヲ覺フ何則議案ノ物タル其事必ス交互錯綜シテ特ニ一課ノ事項ニ止マラサル者比々皆是ナリ其之ヲ脩成スルヤ必ス衆課相依リ其事ヲ行ハサルヲ得ス否ラスンハ臨時ノ委員ヲ設テ之ニ付セサルヲ得ス然則分課ヲ常立スルハ殆ント有名無實ナルヲ免レス且元老院ノ體ニ於テモ其宜ヲ得サル者ノ如シ故ニ今常立ノ分課ヲ廢シ議事アルニ當テハ議長乃チ議官若干員ヲ撰ヒ之ヲ委員ト爲シ其事ヲ脩成セシメントス若シ又議案一時ニ麕集スルトキハ數派ノ委員ヲ設テ之ヲ脩メシメン

其レ此ノ如ク常立ノ分課ヲ廢スルトキハ書記官以下多員ヲ要セス隨テ費用ヲ減却スルニ足ル唯ニ此ノミニ非ス事簡ニ務約ニシテ其効或ハ大ナラン且議官參院ヘ會議ノトキハ固ヨリ之ヲ要スト雖ヒ其他ハ委員ヲ除クノ外ハ常ニ參院スルヿ勿ラシメハ時間ヲ徒費スルノ憂ナカラン

前二項ノ如クナレハ卽今各課ニ屬スル所ノ書記官以下ハ之ヲ議長ノ附屬ト爲シ常ニ其指揮ニ從テ務ニ就カシメ議案ノ脩成アルニ當テハ委員ノ請求ニ應シ或ハ議長ノ命令ヲ以テ各委員ニ附屬シ其事ヲ補助セシメン

○河野敏鎌議案ノ主意ニ付立案者ノ說明ヲ望ム

○後藤象二郎說明シテ曰本案ノ主意ハ大畧課目ヲ廢スルニ在リ其所以ハ調査ハ精密ヲ要スレヒ此ニ精ニシテ彼ニ疎ナルハ議官ノ本性ニ非ス本院ノ議スル所ロハ日本全國ノ法律ニ關スル者多シ故ニ精疎ナク一體ニ通曉センヿヲ欲ス且舊左院ノ蹟ニ付テ親ク分課ノ弊ヲ見ルニ恰モ諸省中ニ寮司有ルカ如シ一課中議論二派ニ分ルヽトキハ課長ヲ定テ決セサルヲ得ス甚議院ノ體裁ニ非ス故ニ課目ヲ廢シ一議案毎ニ委員ヲ撰テ之ニ擔當セシメント欲スルナリ

○河野敏鎌曰後藤ノ說ト反對ナリ平時ニ課ヲ分チ閑ニ方テ一課ノ事ヲ研究セハ調査精密ニシテ其上ノ議決ハ容易ナルヘシ今ノ議官素ヨリ法律ニ富ルニ非ス若シ之ニ授ルニ漠然一體ノ責ヲ以テセハ誰カ能ク之ニ任シ調査ノ精密ヲ得ンヤ故ニ分課ヲ存シ相競テ己カ所任ニ精議ヲ盡サシムルニ若カス

○陸奥宗光曰其事ヲ研究スルノ意ハ河野ノ說ト畧同意ナリ只豫メ研究スルモ議案ノ下リタルニ應シテ研究スルモ研究ハ同一ナリ本院ハ學校ニテ各科ヲ擧フカ如キ者ニ非ス平日ヨリ此等ノ法ハ此ノ如クセント研究スル等ノヿアルヘカラス故ニ分課ヲ廢シ議案ノ來ルニ應シテ研究ヲ爲ス方然ル可シ

○後藤象二郎曰本院ト左院ト其體タル異ナリト雖ヒ其事ヲ議スルハ則相同シ常立分課ノ弊ハ左院ノ經歷中ニテ明ラカナリ故ニ之ヲ廢スルニ若カス

○河野敏鎌曰左院ニテ會議アリシハ僅ニ兩三回ナリト聞ケリ
引テ以テ本院ノ事體ヲ論シ難シ

○後藤象二郎曰左院ニテ會議ノ兩三回ニ止リシハ分課有リシ故ナリ一課ノ專議或ハ數課ノ合議ニテ之ヲ決シ之ニ與カラサル課ニ於テハ院中ニ何事ノ議決セシヤヲモ知ラサルニ至ル是分課ノ廢セサルヲ得サル所以ナリ

○山口尙芳曰本院草創ノ際事周密ナラサレハ不可ナリトノ論ヲ以テ各國ニ於テモ議院ニ分課ヲ設ルノ例アル等ヲ斟酌シ上奏シテ制可ヲ經タリ今分課ノ得失實驗ヲモ經スシテ想像ノ說ヲ以テ遽ニ之ヲ廢スルハ不可ナリ

○後藤象二郎曰此ノ元老院ハ經驗シタル後始メテ定ムルト云「更ニナシ今日マテ建白等ノ事務ニ至リ課ヲ立委員ヲ設ル等彼是參考スルニ果シテ分課ハ立テサルヲ可トスル也

○河野敏鎌曰事務ノ差支ニ因リ見ル所アリテ課目ヲ廢スルハ可也本院未タ實際着手シタル「ナシ諸官省ト雖モ始メ定シ儘ニテ終リ迄行ハルト云「ハナキ事ニテ必スヤ改革シテ實際ノ差支ナカラシムルナリ故ニ分課ヲ存シ果シテ實際ノ害アル時之ヲ改テ可ナラン

○陸奥宗光曰　人多ケレハ雜事多ク雜事多ケレハ隨テ費用亦多シ分課セリトテ事業ハ格別ニナシ故ニ經歷ヲ待タス今ニシテ廢スルニ如カサルナリ

原文註　此外往復討論記者原稿ニアリト雖モ大意分課廢存ノ二ニ過ス今之ヲ畧ス

○議長原案ニ同意ノ者ニ右手ヲ擧ケシム應スル者十二人卽チ原案ニ決ス

○議長又書記官ニ命シテ後藤象二郎ノ意見書ヲ讀マシム左ノ如シ

起立ヲ以テ擧手ノ法ニ換ヘントスル議案

議事條例討論規律第四條可否ヲ計算スルニ擧手ヲ以テスルノ法未タ之ヲ實際ニ用ヒスト雖モ當院追々數名ノ加員ニ相成ニ付頗ル計算上ノ不便ヲ起ス可シ因テ近日地方官會議ニ用ユル所ノ起立ヲ以テ可否ヲ表スル方一目瞭然而已ナラス從テ體裁モ又宜カル可シ

議員異議無キヲ以テ本案ニ決ス

午後第三時退席

凡例

一、本書は、宮内省本を校正の底本とし原本に忠實なることを旨として編纂した。故に、濁點、句讀點、送り假名は元のまゝとし、「〔コト〕」「〔トキ〕」「〔トモ〕」の如きも原本に從つた。但し、原本中注意點を示す數種の符號は、編纂の都合上「　」に統一して他のものとの混雜を防いだ。また、編者の書入は〔　〕を以て圍つた。

一、排列は元老院編纂並に綴込の例に倣ひ、大體號數順編年體とした。

一、必要の箇所には〔註〕を入れ、參考文獻を附載して補足し、また參考文獻には其の出典を揭げた。

一、〔註〕は史的叙法に從ひ元勳大官と雖も敬稱を略した。

一、本書の題簽は司法大臣岩村通世閣下にお願した。

元老院會議筆記　第一卷（自明治九年一月至同年七月）

目次

丁年ノ制度ヲ定ムルノ儀……（第一・二號議案）……一
改定律例第百五、六條・第百四十三、四條改正增加之議案……（第三號議案）……七
道路附橋梁法案答議・同附錄堤防法案答議……（第四號議案）……三五
懲役人又犯罪條例及懲役人逃條例……（第五號議案）……四五
控訴上告手續（明治八年）中改正ノ儀……（第六號議案）……五五
新聞紙條例（明治八年）追加ノ儀……（第七號議案）……六一
度量衡三器議案……（第八號議案）……六九
（得遺失物律議案……（第九號議案）……七九
改定律例名例律第三十八條改正ノ儀……（第十號議案）……一三五
徵兵令（明治八年）第六章第十二條中成丁簿ヲ國民軍名簿ト改正ノ儀……（第十一號議案）……一三五
代人規則第三條改正ノ儀……（第十二號議案）……一三五
明治七年一月第十四號達司法警察規則廢止案……（第十四號議案）……一三七
糺問判事職務假規則案並司法警察假規則……（第十五號議案）……一三七

元老院會議筆記

前期第一卷（自明治九年一月至同年七月）

制規アル服着用ノ外帶刀禁止案……〔第十六號議案〕……一四三
官吏懲戒例設定案・新律綱領改定律例中職制幷官吏公罪ニ係ルモノヲ廢スル議　附第十三號議案奉遵經緯……〔第十七號議案〕……一四五
改正雇人盜家長財物律改正私借官物律・竊盜條例……〔第十八號議案〕……一五九
合家禁止案……〔第十九號議案〕……二〇七
控訴上告手續第十八條ヘ但書追加案……〔第二十號議案〕……二三三
改定律例第三百十八條拷訊改正案……〔第二十一號議案〕……二三七
寫眞條例制定議案……〔第二十三號議案〕……二四五
陸軍武官恩給令罷役俸並恤金令及將官退職令案……〔第二十四號議案〕……二四九
徵兵令中徵兵編成並概規則其一中增加並改正案……〔第二十五號議案〕……二五一
金穀借用證書讓渡ノ儀……〔第二十七號議案〕……二五二
再犯・加等罪例條例案……〔第二十八號議案〕……二六五
新聞紙雜誌雜報ノ國安ヲ妨害スル者發行禁止案……〔第二十九號議案〕……二七七
國立銀行條例案……〔第三十號議案〕……二七九—三〇〇

目次終

第一號議案
第二號議案
有ハ會議ヲ經スシテ之ヲ奉遇ス故ニ筆記ヲ欠ク

丁年ノ制度ヲ定ムルノ儀

元老院日誌　明治九年　第一號

○一月一日
午前第九時判任官以下參賀

○一月四日
政始ニ付午前第九時本院官員一同出院ス

○

○上奏
副議長後藤象二郎謹奏　元老院ノ設立ハ客歳四月ニ在リト雖モ事ノ草創ニ係ルヲ以テ未タ聖諭ヲ全スルヿヲ得ス職制爰ニ改マリ條例爰ニ新ニ且命スルニ開院ノ事ヲ以テス之ニ加ルニ議場亦落成ス凡ソ本院事ヲ行フノ物ニ於テ粗備具セリト謂ヘシ則本月十二日ヲ以テ議場ヲ開キ當ニ務ムヘキノ事ニ從ヒ立法ノ源流ヲシテ混々合マサラシメント欲ス是臣ノ懇望スル所ナリ謹奏
明治九年一月四日　副議長　後藤象二郎

○一月五日
新年宴會ニ付午前第十一時奏任官以下ニ酺宴ヲ賜ハル

○一月八日
任陸軍中將兼陸軍大輔　陸軍少將兼議官從四位　鳥尾小彌太
右宣下ノ御達アリ

○一月十四日　〔闕　以下第二號議案の筆記である〕

○會議

出席議官

一番　壬生基脩
二番　松岡時敏
三番　山口尙芳
四番　大給恒
五番　齋藤利行
七番　福羽美靜
九番　秋月種樹
十番　陸奥宗光
十三番　佐野常民
十四番　柳原前光

十六番　〃　有栖川宮
十八番　　長谷信篤
十九番　　佐々木高行

午前第十時開議

○議案

自今滿二十年ヲ以テ丁年トス

各國丁年異同表略ス

成丁年度之儀伺

成丁年度之儀ニ付是迄何等御布告ハ無之候得共制度通ニ載スル所ヲ閲スルニ本朝ノ制其男廿一ヲ丁ト爲ストコレアリ又稱德天皇天平寶字元年詔曰今ヨリ以後宜ク十八ヲ以テ中男トナシ廿二以上ヲ正丁ト爲スヘシ云々ト有之又令義解戸令ニ其男ハ廿一ヲ丁ト爲ストアリ其他晉隋唐ノ法制各小差アリ又佛蘭西民法第一卷第九條ニ丁年二十一歳ノ齡ヲ云トコレアリ又方今改正ノ我徵兵令第十三條ニ男兒二十歳ニ至レハ兵役ニ就クヘキ云々同第十二條ニ全國ノ男兒齡十七歳ヨリ云々成丁簿ニ載セ有之右等ニ依テ相考候ニ成丁年度廿一歳歟廿歳歟十七歳歟發輝ト推究イタシ難ク且當省伺定メ成規モ無之ニ付仰

上裁候早急御指令被下度此段相伺候也

明治八年十一月廿四日

内務卿　大久保利通

太政大臣　三條實美殿

追申本年九月十日附ヲ以士族後見其他ノ儀相伺候中幼少ノモノ年度差定ノ趣相伺候處未御指令無之早々御裁令被下度此段添テ上申候也

○議事筆記

○議長書記官本田親雄　ヲシテ議案ノ全文ヲ朗讀セシム

○十番陸奥宗光曰　丁年ノ制本案ノ如クニシテ然ルヘシ

○二番松岡時敏曰　右ニ同シ

○十九番佐々木高行曰　滿二十年ヲ以テ丁年ト定ルノ議內務省ノ伺アルハ是マテ一定ノ制ナキ故ナリソノ丁年ヲ定ルニ就テハ必スソノ理由ナカルヘカラス又定ル以上ハ人生何歳ニ至レハ何程ノ公權ヲ有シ又何歳ニ至レハ何程ノ義務ヲ盡スヘキノ理ヲ明カニ辨セシムヘシ然レハ先ツ人生ノ負擔スヘキ權利ノ本分ヲ以テ年齡ノ度ニ從テ次第シ而メ後ニ丁年ノ制ヲ定ムヘシト思フナリ

○十番陸奥宗光曰　十九番ノ說其理ナキニ非スト雖丁年ノ制度從前ヨリ一定セサルヨリ內務省此伺アリ先ツ年齡ヲ定メテ以テ其制ヲ立テサレハ民法刑法等悉ク標準トナスヘキナク徵兵代言ノ類ニ至リ皆差閊アリ故ニ此議アル所以ナレハ本案ノ如クニシテ可ナラン

○十三番佐野常民曰　大意十九番ト同シ丁年ヲ定ムレハ夫々ノ事ニ涉リ皆年齡ヲ究メサルヘカラス然ルトキハ是々ハ二十年是々ハ二十一年ト云ノ制ヲ定メ其理由ヲ書スルノ意見書ヲ具セサルヘカラス

○十九番佐々木高行曰　十番ノ說從來丁年ノ制一定ナキ故ニ內務省ヨリ伺出タルニ付本案ノ如クニシテ可ナリトノ說ハ十九番ニ於テ異見アリ吾　皇國ノ制二十二年モアリシコトニテ夫是深ク講究セサルヘカラス今日ニシテハ暫ク滿廿一年ヨリ滿廿五年迄ト定メタシ夫レ各國ノ制モ各異同アリテ一定セサル故ニ凡廿年ト定メントセルナラン然ルニ人生年齡何年ニ至レハ普通ノ公權ヲ有シ普通ノ義務ヲ負擔セシメテ何程ノ權利ヲ與ヘテ至當ナルヤヲ先ツ考定セサルヘカラス然シテ後其年度ヲ制定スル「當然ナリ抑　皇國ノ制ハ專ラ租稅上ヨリ起リ歐洲ノ制ハ民法上ヨリ來ルト覺フ米國ノ如キ婚姻ノ年齡等ハソノ習慣ニ沿フト聞ケリ故ニ刑法戸婚等ノ事モアレ共義務ヲ負擔スルハ定制ナキヲ得サル處ニシテ且吾國イマタ何歳ノモノ何等ノ權利ヲ與ヘ幾歳ニ至レハ何々ノ事務ニ就クヲ許スト云フ」無クシテ只滿二十年ヲ以テ丁年トスル時ハ府縣施政上實際ニ於テモ差支アルヘシ

○十番陸奥宗光曰　十九番ノ說詳明シ難シト雖大約ノ意旨ハ百般ノ民法年齡ニ係ルノ事件ヲ制定セサレハ不可ナリト謂カ如シ今ヤ陸軍ノ徵兵ハ何年戸主ハ何年ト云フカ如ク民刑上差向キ不同ノ故障アリ故ニ先ツ一般ノ制ヲ定メサルヘカラス是レ內務省ノ此伺アル所以ナリ然レハ其年度ヲ定メテ後ニ十九番ノ說ノ如クニナシテ可ナラン

○七番福羽美靜曰　本案ノ如ニシテ可ナラン　皇朝ノ古ヘ中男ノ制アリ是租稅ニテハ如此他ノ雜事ハ如此ト云ヘル制ヲ設ケテ事ノ遲速ニヨリ丁男ト中男トヲ分ケタリト見ユ今ヤ各國ノ制度ヲモ酌量シ滿二十年ヲ以テ丁年トスルナレハ先ツ此制ヲ定メ後中男ノ制ヲモ定ルカタ可然ナリ

○一番壬生基修曰　本案ニ異議ナシ七番ノ說ノ如ク丁年ノ制度定リタル後ニ中男ノ制ヲモ定ラレタシ

○議長曰　本案ヲ可トスル者ハ起立セラレヨ

起立者九人

○議長曰　多數ニ從ヒ本案ヲ可ト決ス

○十番陸奥宗光曰　本案ニ付既定ノ法ニ矛楯スルモノアリ本院ノ意見書ヲ上申セント欲ス請フ之ヲ演說セン如何

○議長曰　可也〔註　以下號外第一號意見書會議の筆記である〕

○十番陸奥宗光　意見書案ヲ意ヲ演說シテ曰

滿二十年ヲ以テ丁年ト爲スノ議ハ既ニ決定ヲ經タリ然ㇾ方今既定ノ法律及規則ノ中認テ以テ丁年ト爲ス可キ者彼此其數ヲ異ニス今滿二十年ヲ以テ丁年ト爲スㇾキハ改テ以テ同一トナサヽルヲ得ス因テ之ヲ左ニ條陳ス

一改定律例名例律第三十八條ニ曰凡侍養子孫ト稱スルハ年十六以上成丁ノ者ヲ謂フ若シ家ニ丁男ナシト雖ㇾ妻若シクハ女年十六以上ノ者アレハ留養スルヿヲ聽サス

右ハ年十六以上ヲ以テ成丁ト爲ス今滿二十年ヲ以テ丁年ト爲スㇾキハ宜シク滿二十年以上ト改ムヘシ妻若クハ女ノ年ノ如キモ之ヲ改ムルハ言ヲ俟タサルナリ彼新律綱領名例律老小廢疾收贖條ニ所謂十五以下ノ如キハ固ヨリ丁年ニ關セサルヲ以テ此論ノ及フ所ニ非サルナリ

一徵兵令第六章第十二條ニ曰全國ノ男兒齡十七歲ヨリ國民軍籍ニ入リ云々翌年ノ成丁簿ニ載セ云々

右ハ十七歲ヲ以テ成丁ト爲ス其國民軍籍ニ入ルカ如キハ敢テ此議ノ及フ所ニ非スト雖ㇾ今滿二十年ヲ以丁年ト爲スㇾキハ成丁ノ二字ノ如キハ宜シク之ヲ改正ス可シ其兵籍ニ編入スルニ二十歲ニ至ル者ヲ以テスルハ亦敢テ此議ノ及所ニ非ルナリ

一代人規則明治六年第二百十五號布告第三條ニ曰凡ソ代人ハ心術正實ニシテ二十一歲以上ノ者ヲ撰ム可シ

右ハ二十一歲ヲ以テ代人タルヿヲ得ル然ㇾ今滿二十年ヲ以テ丁年ト爲スㇾキハ此亦宜シク滿二十年以上ニ改ム可シ

其レ此ノ如ク異同ヲ來ス所以ノ者ハ未タ丁年ノ制ヲ確定セサルニ由ル然ㇾ各國ノ制度ヲ考究スルニ丁年ト謂フト雖ㇾ事ノ何物ヲ論セス丁年ヲ問フ者ハ未タ之レ有ラサルナリ彼ノ兵役婚姻等ノ如キ其年齒ハ別ニ法律ノ在ルアリ必シモ一定ノ丁年ニ由ル者ニ非ス故ニ本邦ニ於テモ物ニ就キ類ヲ推テ之ヲ商量セサルヘカラスト雖ㇾ前三項等ノ類ノ如キハ果シテ之ヲ改ムヘシ

○四番大給恒　曰　十番ノ意見ニ付テ謂フ（オモ）ニ本案滿廿年ト決議ノ上ハ之ニ犯觸スルモノ皆改ムヘキハ論ヲ俟タス本院ノ意見書トシテ上申スル者ナレハ其書面ヲ衆議官一同ニ示シテ可ナラン

○議長曰　十番ノ意見書ヲ上申スルニ同意ノ者ハ起立セラレヨ

起立者十人

○議長曰　多數ニ從ヒ本院ノ意見書ヲ上申スルノ議ニ決ス且明十五日午前第十時ニ會シテ此意見書案ヲ檢視スヘシ

午前第十一時三十分退席

○一月十五日

○會議

出席議官

一番　壬生基脩　　三番　山口尙芳
四番　大給恒　　五番　齋藤利行
九番　秋月種樹　　十番　陸奥宗光
十三番　佐野常民　　十四番　柳原前光
十五番　黑田淸綱　　十六番　有栖川宮
十八番　長谷信篤　　十九番　佐々木高行

丁年ノ儀意見書

午前第十時開議

○議事筆記

○議長曰　丁年議案ノ意見書ヲ上奏スルヿハ昨日既ニ決定セリ故ニ今其上奏案ヲ檢視ニ付セントス若シ不備不明ナリトシテ改正スヘキ者アラハ宜ク之ヲ議スヘシ

○議長書記官本田親雄ヲシテ意見上奏案ヲ朗讀セシム（昨日議事筆記ニ見ユ）

○四番大給恒　曰　異議ナシ

○議長曰　四番ニ同意ノ議官ハ起立セラレヨ

起立者十人

○議長曰　多數ナルヲ以テ可ト決セリ

午前第十時四十分退席

○一月十七日

○上奏

別紙丁年ノ儀ニ付本院議定書

勅裁ヲ仰キ候爲メ御上奏有之度候也

明治九年一月十七日

副議長　後藤象二郎

太政大臣　三條實美殿

丁年ノ議

丁年之制　皇國近時定度ナシ自今滿二十年ヲ以テ丁年トスルノ議古今內外邦ノ制ヲ參酌シ本年一月十四日本院會議ニ於テ本案ノ如ク決定スル所ナリ本議ニ因リ本院ノ意見書ハ別紙ニ具シテ以テ謹テ上奏ス

明治九年一月十七日　副議長　後藤象二郎

丁年議案ノ意見書（十四日議事筆記ニ見ユルヲ以テ略ス）

右明治九年一月十四日本院會議ニ於テ丁年ノ議案ヲ決定スルニ因リ併テ此意見書ヲ決定ス冀クハ此意見ノ如ク舊法ノ改正アランヿヲ謹テ上奏ス

明治九年一月十七日　副議長　後藤象二郎

〔註〕右は明治八年十二月廿九日內閣より下附されたもので、〔後之を一號議案とす。元老院回牒參照〕元老院は明治九年一月四日之を各議官に廻達し、亦一月七日には「丁年の制度を定むるの議に付、來る十二日午前第十時開議候條、同日午前第九時三十分迄御參院可有之」と廻牒した。然るに一月十日に至り元老院は「右詮議の次第有之」として一旦本案を返上したが、一月十二日再下附されたので〔後之を二號議案とす〕前記の如く可決確定し、舊法改正の意見書と俱に一月十七日上奏した。尙本案は明治九年四月一日太政官第四十一號を以て布告された。又舊法改正の意見書も採用された。〔十、十一、十二號議案參照〕

〔參考〕元老院回牒記

本年下附之議案逐次左之通番號相立向後何號議案ト稱呼イタシ候條爲御心得及御達候也

明治九年二月九日　〔署名闕〕

明治九年中下附議案番號

八年　八年十二月廿九日下附
第壹號　丁年ノ制度ヲ定ムルノ儀
右詮議ノ次第有之九年一月十日返上

九年　九年一月十二日下附
第貳號　丁年ノ制度ヲ定ムルノ儀

〔中略〕

本院從來ノ意見書番號別紙之通相定自今逐次番號ヲ相附候條此段及廻達候也

〔明治九年六月日闕〕　有栖川議長

丁年ノ儀意見書
右號外第壹號〔○印は朱書の略〕

〔下略〕　〔柳原家文書〕

第三號議案

改定律例第百五、六條第百四十三、四條改正增加之議案

元老院日誌　明治九年　第二號

○一月二十三日

轉補秋田縣十二等出仕　十三等出仕　德弘千速

○

第三號改定律例第百五條第百六條第百四十三條第百四十四條改正增加ノ議案第一讀會

○一月二十八日

第三號議案第二讀會

午前第十時十五分着席

議長代理　陸奥宗光

出席議官

一番　壬生基脩　四番　大給恒
五番　齋藤利行　六番　三浦梧樓
八番　河野敏鎌　九番　秋月種樹
十三番　佐野常民　十四番　柳原前光
十五番　黑田清綱　十六番　有栖川宮
十八番　長谷信篤　十九番　佐々木高行

○議長曰　本日ハ第三號議案ノ第二讀會ナレハ例ニ從テ是非ヲ討論ス可シ

○書記官（藤澤次謙）　左ノ一條ヲ朗讀ス

改正雇人盜家長財物律

凡雇人家長ノ財物ヲ盜ム者ハ竊盜ヲ以テ論ス管主者ハ一等ヲ加ヘ罪懲役終身ニ止ル

○九番（秋月種樹）曰　本條雇人家長ノ財物ヲ盜ム者ヲ竊盜ヲ以テ論スルハ外人相互ニ盜ム者ト同視スルニ似タリ抑モ雇人盜ハ

凡盗ト同シカラス雇人ノ家長ニ於ケル猶官吏ノ官ニ於ケル如シ家長ノ信任ヲ得テ其家ニ隷從シ其家長ノ財物ヲ盗ム官吏ノ官物ヲ盗ムト其理一ナリ故ニ家長ノ財物ヲ盗ム者ハ常人盗ヲ以テ論シ其管主者ニ係ル者ハ監守盗ヲ以テ論ス改定律例ヲ至當トス故ニ此ノ改正ハ不可ナリ

○十九番佐々木高行　曰　原案ニテ可ナリ

○十三番佐野常民　曰　本條ハ不可ナリ其所以ハ雇人ト家長トノ間ハ其情誼自ラ君臣主從ノ如シ外人ト異ナリ然ルニ外人互ニ盗ム者ヲ以テ論スル時ハ自ラ雇人ヲシテ家長ヲ輕ンセシムルニ至リ其情誼ヲ割クノ理ニ當リ人ヲ敎ユルノ道ニ非ス一體律ハ人ノ惡ヲ懲スノ主意ナレハ第一其主意ニ背ケリ新律綱領ノ凡盗ニ準シテ論スルハ解ス可カラス故ニ改定律例ニ常人盗監守盗ヲ以テ論ストナセシハ家長ト雇人トノ情誼ヲ酌テ定シナルヘシ併シ官物私物ノ別モ定メサル可カラス雇人ト外人ノ別モ立テサル可カラス故ニ常人盗ニ準シテ論ス監守盗ニ準シテ論スト兩ナカラ準盗ヲ以テ論スルニ改メテ可ナリトス

○十九番佐々木高行　曰　十三番ノ說ハ官物私物ノ別ヲ立テ官物ヲ盗ム者ニ準シ兩ナカラ準盗トナスヲ可トスト云ト雖モ余ハ原案ニテ可ナリトス如何ニモ雇人ハ月給等ヲ受ケ自ラ主從ノ義アリト雖モ其内ニハ一日雇ヒ等種々ノ差等アリテ輕キモノモアリ然レハ總テ之ヲ論スルトキハ外人相互ニ盗ムノ律ヲ以テ論シ管守者ハ又一等ヲ加テ不可ナルナシ是レ罪ヲ定ムルハ輕カランヲ欲スル意ナレハナリ

○十五番黑田清綱　曰　十九番ニ同意ナリ

○十九番佐々木高行　曰　親屬相盗モ雇人盗モ凡テ輕キヲ以テ論ス然レモ主從ノ義ニ背キ盗易キヲ盗ム方ヨリ論スレハ重クスヘキナリ常人ノ官物ヲ盗ムハ雜犯律トシ死ニ入ラス此モ官物ヲ盗ム其情ヨリ云ヘハ盗易キヲ盗ム其罪重クスヘキナリ然ルニ支那ハ君主專制ノ風習ニテ加ルニ君臣主從ノ情義ヲ酌量シテ總テ之ヲ輕クセリ立憲政體上ヨリ之ヲ論スレハ家長ノ信任ヲ得ル者之レニ背キテ盗ムナレハ猶重キニ就テ論スヘシ然ルニ今歐洲ニテハ官物ヲ盗ムモ一般ノ律ト同クセリ總テ歐洲ノ律ハ支那律ヨリ數等ヲ輕クスト雖モ監守盗ハ之ヲ重クセリ畢竟各其風習ニテ定メシ者ナレハ前說ノ如ク原案ニテ可ナリ

○八番河野敏鎌　曰　十三番ノ說ト大同小異ナリ十九番十五番ハ原案ヲ可トスト雖モ此ノ條ハ修正スヘシ十九番ハ支那律ヲ引テ論ヲ立ツレトモ支那ハ支那ノ慣習アリ只一偏ニ論ス可カラス日本ノ律ハ監守盗ハ死ニマテ入ル總テ支那西洋各其慣習アリ日本ノ今日ヲ以テ論スレハ罰ハ惡事ヲ懲スニ止ル理ニテ雇人家長ノ財物ヲ盗ムハ外人互ニ盗ムヨリ重クシ管守者ハ又一等重クスルハ至當ナリ抑モ雇人ハ同居スル者ニテ彼ノ門外ヨリ入リ來リ盗ヲナス者ニ比スレハ甚タ爲シ易キモノナリ今日實際上ヲ見ルニ家長ノ雇人ノ爲メニ誤ラレ其害ヲ受ル者多シ外人ト同視ス可ラス佛國ニテハ雇人盗ヲ重クス其權衡白晝ニ貳人以上盗ヲナス者ト同クセリ此ニ因テ觀レハ雇人ノ罪ヲ輕クスルハ不可ナリ余ハ竊盗ニ一等ヲ加ヘ管守者ハ又一等ヲ加ヘ罪懲役終身ニ止ルヲ以テ至當ナリトス

○十三番佐野常民　曰　前ニ論スル如ク雇人ノ家長ノ財物ヲ盗ムハ官物ヲ盗ム者ニ同シキアルモ亦死ニ入ルヘキ者ニ非ス故ニ準罪ニシテ雇人ハ常人盗ニ準シ管守者ハ監守盗ニ準シテ論スレハ可ナリ

○八番河野敏鎌　曰　修正ノ意ハ十三番同意ナレトモ準シテ論ストナス時ハ流三等ニシテ懲役十年ニ止ル故ニ竊盗ヲ以テ論シ加等シテ懲役終身ニ止ルヲ以テ可ナリトス

○十三番佐野常民　曰　監守盗ニ準シ常人盗ニ準スル時ハ罪懲役十年ニ止リテ差支アリトセハ罪懲役終身ニ止ルノ字ヲ補フテ可ナリ

○八番河野敏鎌　曰　十三番ノ說ニヨレハ名例律ヲ改メサルヲ得ス是名例律ニ準シテ論スル罪ハ十年ニ止ルトアレハナリ故ニ竊盗ニ一等ヲ加ヘルヲ可トス

○十三番佐野常民　曰　名例律ニ常人盗ト枉法トノ二ツヲ擧テ論セリ然ルニ監守盗ハ死ニ入ルモノナリ然レハ右ニ準シ罪懲役終身ニ止ルトナスヲ可トス

○八番河野敏鎌　曰　十三番ニハ常人盗ト監守盗トニ準シ罪懲役終身ニ止ルトセント論スレモ準スト云ヘハ正犯ニ非スシテ罪懲役十年ニ止ルハ新律以來一般ノ名例ナリ故ニ竊盗ニ一等ヲ加ルヲ可トス

○十三番佐野常民　曰　監守盗ハ死ニ入ル者ナリ故ニ準シテ論シ罪懲役終身ニ止ルトナシテ可ナリ若シ名例律ニ差支アラハ之ヲモ改メテ可ナラン

○書記官藤澤次謙　左ノ一條ヲ朗讀ス

雇人盗家長財物條例

凡雇人家長ノ財物ヲ管守シテ私ニ自ラ借用シ及ヒ人ニ借ス者證書ナキハ竊盗ニ準シテ論ス證書アルハ二等ヲ減シ罪懲役三年ニ止ル

○十五番黑田清綱　曰　官物ハ長官ノ物ニ非ス監守スル者モ亦一人

ニ非ス然レハ一人ニ借用ノ「ヲ言ヒ置ケハ私借ノ「モナシトセス家長ノ財ハ現ニ家長ノ所有物ナレハ私ニ借用トハ云可カラス若シ之レヲモ證書ノ有無ニ因テ罪ノ輕重ヲ定ムル時ハ後來甚タ煩ヲ生スルヲ恐ル仍テ改定律例ノ儘ヲ可トス

○議長曰　然ラハ此議案ハ却クルノ說ナリヤ

○十五番黑田清綱曰　然リ

○十九番佐々木高行曰　十五番ニ同意ナリ

○五番齋藤利行曰　十五番ノ說一應ハ理アリト雖モ證書ノ「ハ私借官物條ニモ同樣ナリ然レハ本條モ之ヲ存シ其文字ヲ修正スヘシ試ニ云ヘハ借用ノ字ヲ使用トシ證書ノ字ヲ文字ト改テ可ナラン若シ此ノ條ヲ却ル時ハ官物條モ却ケサルヲ得ス故ニ之ヲ修正シテ兩ナカラ存スルヲ可ナリトス

○一番壬生基修曰　五番ト同意ナリ

○九番秋月種樹曰　大約五番ニ同意ナリ然レモ證書ヲ文字ト改メテハ恐クハ不分明ナラン清律ノ注ニ因テ文約ノ字ニ改ルヲ可トス

○十五番黑田清綱曰　五番ノ說ニ存シテ修正スト謂フト雖モ使用ト云フ時ハ自ラ費用スルナリ若シ費用スル者ヲ證書ノ有無ニ依テ罪ノ輕重ヲ分ツ時ハ是レ盜心ヲ敎ユルナリ故ニ本條ハ却ケテ可ナリ

○五番齋藤利行曰　家長ノ財物ヲ私借スルニ證書ノ有無ニテ輕重ヲ分ツハ當レリトス既ニ新律綱領ニモ私借官物條ニハ證書ノ有無ヲ以テ別ヲナス故ニ本條モ文字ノ有無ヲ以テ輕重ヲ分ツヲ可ナリトス

○四番大給恒曰　稍ヤ五番ノ說ニ同シ然レモ私ニ自ラ借用ト云フ「ハ甲乙互ニ承諾ノ上ニ非レハ借ノ字ハ下シ難シ乙自ラ借リテ甲承諾セサレハ則盜ナリ從來私借ノ字自然慣用スト雖モ今日實際ニ於テ盜ミシ後手ヲ換ヘ借トナス「少ナカラス私ニ借用ト云フ「ハ惡弊ヲ敎ユルニ似タリ本條モ人ニ借ス方ハ之ニテ可ナリ若シ修正スレハ自ラ借用シノ字ヲ除キ自借ハ盜ニ入レテ可ナラン然レハ私借官物條ニ相觸ル「アルヘシト雖モ其レハ尙ホ其條ニ至テ說明セン

○九番秋月種樹曰　私借ハ盜ト同シト雖モ抑モ借ルト云者ハ其手續キ盜ムトハ大ニ異ナリ其盜借ヲ分ツハ裁判官ノ所見ニアリ元來律ニ借用ノ字アリ然レハ則チ借用ノ字其儘ニテ可ナリ

○四番大給恒曰　自ラ借ルト云ヲ除キ盜ムト云ニ付ルハ酷ナルニ似タリト雖モ其本ニ返リテ云ヘハ自ラ借用ノ字出ル上ハ盜ト分チ難キ「アラン其情ヲ汲ム「ハアルヘシト雖モ元ト法律ト云モノハ衰民ヲ保護スル爲メニ設ルモノナレハ顧ク

ハ其弊ノ本ヲ防カントス情ヲ汲メハ千種萬狀ニ涉リ容易ニ推究シ難シ今其本ヲ推究スレハ借用ノ字出ル理ナシ故ニ除キテ可ナラン

○八番河野敏鎌曰　自ラ借用ノ字ニ論アリト雖モ余ハ存シテ害ナシトス抑モ私借ト盜ト其間甚タ分チ難シト雖モ然レモ其承諾ヲ得スシテ使用スル者之ヲ盜ム者ニ比スレハ其間幾分ノ愍諒スヘキモノアリ譬ヘハ官員ノ事故アリテ追テ月給ヲ以テ返上スヘキ旨ヲ同僚ニ告ケ暫時官金ヲ借用スルアリ又ハ相應ノ給金ヲ取タル雇人ノ其同輩ニ告ケテ家長ノ物ヲ借ルアリ之ヲ彼ノ墻ヲ踰ヘ壁ヲ穿ツノ盜ニ比較スレハ其間大ニ輕重アリ如此モノ裁判上大ニ勘考ニヨキ「アルヘシ故ニ借用ノ字ハ存シテ可ナリ

○四番大給恒曰　八番ノ論ハ解シ難シ其同僚同輩ノ譬ハ則チ證書アル方ニ入ルモノナラン自ラ借用トハ家長ト雇人トノ間ニアリ家長承諾セサルニ借ルハ盜ト同シ然レハ此借用ノ字ノアル爲メニ遂ニ愚夫愚婦ノ惑ヲ來シ不知不識盜ト同シキ罪ヲ犯スモノアルニ至ラン人ニ借ス方ハ本案ニテ分明ナリ自ラ借ル方ハ分明ナラス總テ律ハ家長雇人共ニ過チナキ爲メ設ケタルモノナレハ借用ノ字ハ除キ本ヲ防クヲ可ナリトス

○八番河野敏鎌曰　四番ノ說誤解ニ近シ余ハ只其犯情ノ深淺ヲ云シナリ假令ヒ證書ナキニモセヨ盜ムトハ自ラ別ナリ今一ノ譬ヲ設テ說ン一ノ官員アリ官金ヲ携ヘ旅行スルニ當テ事故アリ忽チ私金盡キ已ムヲ得スシテ官金ヲ借リ歸來其趣ヲ申告ス固ヨリ證書アルニ非ス然レモ裁判官之ヲ推究セハ盜ムトハ別ナルヘシ又三井組等ニテ給金ノ百餘圓モ取リタル者已ヲ得サル事故アリテ家長ノ金ヲ三四十圓借ルアリ是亦恕シテ見サルヲ得ス畢竟盜借ノ別ハ實況ニ就テ察知スヘシ故ニ借用ノ字存シテ可ナリ

○十四番柳原前光曰　八番ニ同意ナリ且修正ノ說アルニ付テ陳述セン改定律例ニハ餽送ノ「モアリ本案ニハ其事ナシ故ニ本案モ及ヒ以下ヲ人ニ借シ或ハ餽送スル者憑據アルハ云々憑據ナキハ云々ト改メテ可ナラン

○五番齋藤利行曰　四番八番追々討論アリ且八番ノ後ノ譬ヲ聞クニ官員ノ旅行云々竊盜ト同ク論シ難シ雇人亦同シト云ハ了解ス抑モ雇人盜家長財物ハ其別區々アリ譬ヘハ一雇人家長ノ爲ニ旅行シ私金盡キ家長ノ金ヲ借用シ歸來其已ムヲ得サル子細ヲ告ル時ハ證書ノ有無ヲ論スル理ナシ本條ハ家長金何十圓ヲ雇人ニ渡シ旅行セシム雇人歸來其金額不足ヲ生ス之ヲ不審ナリトシテ後漸ク雇人ノ費用セシ「ヲ覺ル者ヲ云

ナラン八番ノ譬ハ輕ク視テ只借ルト云字ノ出ルヲ論ストスレハ可ナリ之ヲ以テ雇人盜家長財物ヲ論ストスレハ不可ナラン

○八番河野敏鎌曰　五番ノ說ニ付テ陳述セン余ノ譬ハ雇人家長ノ財ヲ借ルニ付テ其情ノ愍諒スヘキヲ云シナリ五番ノ譬ハ乃チ窃盜ナリ苟モ人ノ所有物ヲ費用スル窃盜ト謂ハスシテ何ソ然レモ雇人旅中ニ在テ已ヲ得サル事アリテ家長ノ金ヲ使用ス而シテ雇人未タ歸來セサルノ間ニ在テ其事發覺セハ如何未ク盜ト借トヲ判ス可カラス且借用ノ字ハ久シク慣レ用ヒタリ故ニ之ヲ存セハ裁判官擬律ノ際ニ於テモ廣クシテ可ナラン

○四番大給恒曰　八番五番ノ說ニ付テ尙ホ說明セン一體情ヲ汲メハ限リナシ盜ト云ヒ借ト云フ曖昧ノ事ニ至ラシメス其本ヲ防キ其源ヲ塞クヲ可トス若シ此借ノ字ヲ存セハ之カ爲メ害ヲ起スヿアルヘシ八番ノ譬ニ三井組等ノ雇人旅中ニテ家長ノ金ヲ使用スル說アリ然レトモ旅行スレハ初ヨリ幾何ハ旅費幾何ハ用意金ト持參スヘシ而ノ箱館長崎等ニ在テ意外ノヿニヨリ旅泊延滯スレハ之ヲ使用スルヿアルヘシ如此時ニ方リ借用ノ字ヲ存セハ遂ニ盜心ヲ生シ初メ盜ンテ後借ルノ姿ニ換ルノ弊ヲナスニ至ラン故ニ借用ノ字ハ除クヲ可トス

○八番河野敏鎌曰　四番ノ說ハ余ノ派出雇人ノ說ニ付テ遂ニ雇人用意金ノヿニ及ヘリ夫レ旅中ニ在テ天變地殃等不意ノ延滯ヲ生スルハ百般アルヘシ余ハ用意金ノヿニ論及セス又既ニ費用シ後姿ヲ換ヘ借用ト僞ルノ弊ハ此外ニモ種々アルヘシ併シ是等ハ裁判官ノ審聽スルアレハ決テ姿ヲ換ヘサスルヿアル可カラス況ヤ本條ハ竊盜ヲ以テ論ストアリテ罪ナキ者トセス然レハ借用ノ字存シテ可ナリ

○四番大給恒曰　八番雇人旅行ノ譬ヨリ余カ用意金ノ譬ニ變シ遂ニ情ヲ汲ムニ涉ル抑モ情ヲ汲メハ其ヿモマタ甚タ多シ故ニ姑ク之ヲ置カン余ハ借用ノ字ノ不當ヲ論セシナリ

○十三番佐野常民曰　本條ヲ存スル以上私借官物條ト同ク管守者ニ非ル者ノ罪ヲモ定メ置テ可ナラン其修正ノ如キハ官物條ニ至テ之ヲ陳述セン

○議長曰　今已ニ正午ヲ過ク故ニ一ト先ツ議場ヲ退キ午後一時ニ至リ後條ヲ會議セン

午後一時再ヒ着席

○書記官藤澤次謙　左ノ一條ヲ朗讀ス

竊盜條例

凡客廩倉戸及ヒ工人舟子脚夫馬丁車力等其寄託ヲ受ル所ノ財物ヲ盜ム者ハ並ニ竊盜ヲ以テ論シ一等ヲ加ヘ罪懲役終身ニ止ル

○十九番佐々木高行曰　原案ニテ可ナリ

○九番秋月種樹曰　寄托ヲ受ル者ハ卽チ監守人ナリ然レハ改定律例ノ如ク監守盜ヲ以テ論スルヲ可ナリトス

○八番河野敏鎌曰　十九番ト同意ナリ若シ九番ノ說ノ如ク監守盜ヲ以テ論スレハ正犯ニシテ死ニ入ルナリ本條「寄」托ヲ受ルト雖モ固ヨリ一時ノヿニシテ監守者トハ稍ヤ別アリ故ニ原案ニテ可ナリ

○四番大給恒曰　原案ニテ可ナリ

○十三番佐野常民曰　九番ノ說ノ如ク監守者ト同クスヘシ併シ準シテ論シ死ニ入レサルヲ以テ可ナリトス

○五番齋藤利行曰　本條全ク一時ノ寄托ヲ受クル者ニシテ監守者ト同シカラス故ニ原案ニテ可ナリトス

○一番壬生基修曰　原案ニテ可ナリ

○十八番長谷信篤曰　原案ニテ可ナリ

○十三番佐野常民曰　竊盜ニ一等ヲ加ル時ハ罪ニ擬スル其差ナキニ似タリ今母子車力ノ如キ賃錢ヲ受ケテ人ノ物ヲ預ル其物ヲ保護スヘキノ義務アリ而シテ其保護ヲ失スル時ハ其信義ヲ失フ者ナリ故ニ類例ヲ立ル時ハ監守者ト同クス可シ前ニ陳述セシ準罪ハ十年ニ止ル例ナレハ箇條ノ時ハ懲役終身ニ止ルノ字ヲ加ヘテ可ナラン

○書記官藤澤次謙　左ノ一條ヲ朗讀ス

改正私借官物律

凡監臨主守監守スル所ノ官物ヲ私ニ借用シ若クハ人ニ借ス者證書ナキハ監守盜ニ準シテ論ス證書アルハ二等ヲ減シ罪懲役三年ニ止ル其借ル者監守人ニ非サレハ證書ノ有無ヲ分タス竊盜ニ准シ一等ヲ減シ罪懲役二年半ニ止ル若シ自己ノ物ヲ以テ官物ニ抵換スル者罪亦同

○五番齋藤利行曰　曩キニ雇人條ニ於テ陳述セシ如ク本條モ修正ヲ加フヘシ而ノ若シ自己ノ物ヲ以テ云々ノ一節ハ改定律ト位置ヲ異ニス且ツ情ヲ知ル者ト知ラサル者トヲ區別セリ本條モ宜ク其區別ヲナスヘシ

○十五番黑田清綱曰　改定律例ニハ官ノ財物トアリ本條ニハ官物トアリ官物トシテハ器物ニ係リ金穀ノヿニ涉ラス宜ク官ノ財物ト改ムヘシ

○四番大給恒曰　大抵五番ノ說ト同意ナリ且借用ノ字ニ付テハ曩キニ說明セシ如ク本條モ使用ト改正セハ可ナラン

○八番河野敏鎌曰　十五番ノ說ノ如ク官物ト云フ時ハ多ク器物ニ係ル今實際上書籍類ヲ借ルハ金穀ヲ借ルヨリ輕シ其情態大ニ異ナルモノアリ故ニ本條ヲ修正シテ明清律ノ如ク器物ト錢糧トヲ別ツヲ可ナリトス

○十九番佐々木高行曰　八番ト同意ナリ

○五番齋藤利行曰　官物ノ字ニ付テ十五番八番ノ說アレモ器物ト曰ヒ錢糧ト曰フ同ク是官物ナリ既ニ官物トアル上ハ器錢トモニ其内ニアリ故ニ原案ニテ可ナリ

○八番河野敏鎌曰　五番ノ說ノ如ク新律綱領ニハ官物ノ字ヲ以テ器物錢糧ヲ兼ネタリ抑モ此改正ト云フハ不備ヲ足シ不明ヲ詳ニスル趣意ナレハ既ニ清律ニモ區別アリ且實際ヲ考ルニ器物ヲ贓ニ計ル時ハ苛酷ニ涉ル「アリ故ニ之ヲ區別シテ修正スルヲ可ナリトス

○議長曰　私借官物ト私借錢糧ト兩律ヲ設ル意ナリヤ

○八番河野敏鎌曰　今日ハ未タ修正案ヲ提出セス然レモ器物ハ如此錢糧ハ如此ト同條中ニ區分シテ書スレハ可ナラン

○十九番佐々木高行曰　私借官物ノ中ニ錢糧ト器物トノ別ヲ書キ加ヘテ可ナリ

右討論畢リタル時八番議官議長ニ向ヒ別段ノ演述ヲナサント請フ議長之ヲ諾ス

註　以下十四行は便宜上號外第二號意見書會議筆記の項に特に重出する。

○八番河野敏鎌曰　曩ニ鶴ケ岡縣平民森藤右衛門本院ヘ献白ノ事件ニ付三浦議官及ヒ余其取調ノ任ニ當リ既ニ取調ノ末尙ホ事實詳審ノ爲メ沼間權大書記官以下ヲ該縣ニ發遣セシメ其後歸京シテ差出ス所ノ事實取調書ニ就テ考ルニ初メ藤右衛門訴ル所ト符合シ縣官不正ノ事跡明瞭ナリ故ニ本院章程改正以前ニアラハ宜ク速カニ縣官ヲモ推問スヘキ者タリ然レモ今日ニ在テハ推問ノ權亦本院ノ爲スヘキ所ニ非ス故ニ此取調書ハ之ヲ政府ニ上リ以テ政府ノ參考ニ供セントス而メ其之ヲ上ルニ方テハ宜ク本院ノ意見書ヲ添フヘキ者ニ似タリ若シ異議ナキ時ハ明日取調書ヲ各議官ノ閲見ニ附シ然シテ後意見書起草ノ手續ニ及ハント欲ス

○議長曰　今八番議官ノ陳述スル處ノ取調書ハ明日午前第十時ヨリ午後第三時迄ノ間參院熟閲アルヘシ

午後一時五十分退席

元老院會議筆記　明治九年二月二日

第三號議案第三讀會　第五號議案第一讀會ノ後之ヲ開ク

議長代理　陸奥宗光

出席議官

一番　壬生基修
二番　松岡時敏
五番　齋藤利行
八番　河野敏鎌
九番　秋月種樹
十三番　佐野常民
十四番　柳原前光
十五番　黑田清綱
十六番　有栖川宮
十七番　津田出
十八番　長谷信篤
十九番　佐々木高行

○議長曰　今第三號議案ノ三讀決議會ヲ開ク然ルニ此各條ノ議案ノ趣旨ハ總テ相連帶シタルモノナレハ先ツ各條ヲ連帶シテ其可否及ヒ修正ノ決ヲ取リ而シテ後每一條ニ付其決議ヲ取ラントス各議官ニ於テモ此意ヲ領シ各議案ヲ連帶シ發論スヘシ

○書記官藤澤次謙　左ノ一條ヲ朗讀ス

改定律例第百五條第百六條第百四拾三條第百四拾四條ヲ刪除シ別紙ノ通改正增加ス

○一番壬生基修曰　初條ト第二條ハ修正スヘシ

○二番松岡時敏曰　雇人盗家長財物律ハ原案ヲ可トス其他ハ修正スヘシ

○五番齋藤利行曰　雇人盗家長財物條例ト私借官物律ハ稍ヤ修正ヲ加ヘテ可ナラン

○十三番佐野常民曰　雇人盗家長財物律ト私借官物律ハ修正スヘシ雇人家長ノ財物ヲ盗ムヲ竊盗ニ準スルハ輕シ改定律例ノ意ヲ宜シトス此ノ改正案ニテハ不可ナリ

○十五番黑田清綱曰　雇人盗家長財物律ト竊盗條例ハ原案ヲ可トシ餘ハ修正スヘシ

○九番秋月種樹曰　修正ス可シ

○十四番柳原前光曰　修正ヲ要ス

○十九番佐々木高行曰　十五番ト同シク雇人盗家長財物律ト竊盗條例トハ原案ニテ可ナリ其他ハ修正スヘシ

○十六番有栖川宮曰　修正スヘシ

○十八番長谷信篤曰　修正スヘシ

○議長曰　修正ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

盡ク起立ス

○議長曰　全會一致ヲ以テ修正ニ決ス

改定律例第百五、六條第百四十三、四條改正增加之議案　一五

○議長曰　是ヨリ書記官ヲシテ逐條議案ヲ朗讀セシムルニ付第三讀會ノ規則ニ從ヒ各條ニ付テ發言スヘシ

○書記官藤澤次謙　左ノ一條ヲ朗讀ス

改正雇人盗家長財物律

凡雇人家長ノ財物ヲ盗ム者ハ竊盗ヲ以テ論ス管守者ハ一等ヲ加ヘ罪懲役終身ニ止ル

○八番河野敏鎌曰　此條修正スヘシ抑此律ハ支那律ニ依リ輕クセリ然レ𪜈輕クスヘキ道理ナシ其所以ハ五等親ノ例各居ノ親ト雖𪜈之ヲ輕クシ他人ト雖𪜈同居スレハ親屬ニ同ク輕クス是レ恩養ノ方ヨリ論ヲ立ルナルヘシ然レ𪜈家長ノ罪ヲ雇人ヨリ容隱スルヿハアレ𪜈雇人ノ罪ヲ家長ヨリ容隱スルヿハナシ雇人ハ家長ニ對シ其恩養ヲ受ルノ義アル他人ニ異ナリ其上盗犯ヲ防クニハ其防キ難キ者ニハ罪ヲ負ハシテ重クスヘシ假令ヒ外居スト雖モ雇人ノ其仕ル處ノ家長ノ財ヲ盗ムハ誠ニ易キ者ニテ家長ノ之ヲ防クハ誠ニ難キ者ナリ故ニ雇人ノ罪ヲ重クシテ防クヲ可トス今竊盗ヲ以テ論スルハ輕キニ過キタリ曩ニ第二讀會ニ於テ竊盗ニ加等スル事ヲ陳述スレトモ追々熟考スレハ差支ルヿアリ其所以ハ竊盗ニ一等ヲ加ヘテ贓ヲ計レハ常人盗ヨリ重クナリ又二等ヲ加レハ監守盗ヨリ重クナルアリ故ニ此竊盗ヲ常人盗ニ改メ監守者ハ監守盗ヲ以テ論シ並ニ罪懲役終身ニ止ルヲ可トス併シ此比較ノ勘定ハ今詳ニ陳述シ難シ暫ク置テ再陳セン

○十三番佐野常民曰　此條ノ罪ヲ輕クセサルハ八番ト同論ニテ常人盗ト監守盗ニ擬スルヲ可トス而シテ以テ論センカ準シテ論センカノ處ニ到テハ準シテ論スルヲ可ナリトス雇人ノ家長ノ家ニ仕ルハ其恩情ヨリハ寧ロ信義ヲ重スルニ如カス信義ヲ重スヘキ人ニ背キタル者ヲ不見不知ノ他人ヲ以テ論スルハ信義ヲ人民ニ教ユル道ニアラス又竊盗ハ主從ヲ分チ常人盗ハ主從ヲ分タス故ニ常人盗ニ擬シ難キ旨嚮ニ委任法制官ノ說明アリト雖モ主從ヲ分タサル却テ可ナラン如何トナレハ雇人ノ家長ノ財ヲ盗ムハ主モ從モ信義ニ背クハ同罪ナリ故ニ主從ヲ分ツテ罪ヲ輕重スルハ不可ナリ併シ官物ヲ監守スル官員ト同視スヘカラス依テ八番ノ說ノ如ク死ニ入レサルヲ可トス又準シテ論スル時ハ流三等十年トナリ名例律ヲ改メサルヲ得サル說アレトモ原案ノ儘ニテモ改定律例八十四條ノ名例ヲ改メサルヲ得ス彼此トモニ同ク改メサルヲ得ヌヿナレハ余ハ準シテ論ストナシ名例律モ共ニ改メ雇人家長ニ於ケルノ信義ヲ重ンシ常人盗トナス方可ナリトス

○九番秋月種樹曰　第二讀會ニ於テ陳述スル如ク常人盗監守盗ヲ以テ論スル方ニ修正スヘシ

○八番河野敏鎌曰　嚮ニ勘定ノヿニ付テ中止セシヿヲ尚ホ再ヒ說明セン第二讀會ニ竊盗ニ二等ヲ加ヘ云々ト演說シタレ𪜈左スレハ却テ監守盗ヲ以テ論スルヨリ重シト云フ所以ハ改正七贓例圖ヲ閲スルニ竊盗ハ百十圓ニテ懲役七年之レニ又二等ヲ加レハ終身トナル而シテ監守盗ハ百五十圓ニテ懲役終身トナル此ニ至リ竊盗ニ二等ヲ加フルハ監守盗ヲ以テ論スルヨリ重クナルアリ

○五番齋藤利行曰　原案ヲ可トス十三番ノ說一應ハ最ナリト雖𪜈此改正ノ由テ起ル主意ヲ察スルニ元ト雇人ト家長トノ間ニ於テ盗ミ易キヲ盗ムハ其信義ヲ失スル故改定律例ニテ重クセシナラン然レ𪜈復之ヲ考ルニ家長ノ財ハ一人一已ノ財ニシテ官物ハ天下人民保護ノ財ナリ然レハ私有ト公有トノ權衡常人盗ヨリ輕クスヘキ者アリ今新律綱領ノ意ニ基キ此改正アルナラン其筋ニ付テ見レハ原案ニテ可ナリトス

○一番壬生基修曰　罪ハ輕キニ基クヲ宜シトスト雖𪜈余リ寛宥ニ失セリト考フ余ハ八番ト同ク常人盗ニ準シテ論シ監守盗ニ準シテ論スルヲ可トス

○議長一番ニ問テ曰　以テ論スルハ八番ノ說ナリ一番ニ於テハ準シテ論スルヤ以テ論スルヤ

○一番壬生基修曰　準シテ論スルナリ

○十九番佐々木高行曰　原案ヲ可トス抑雇人家長ノ財ヲ盗ム其信義ヲ重スル一點ヨリ論スレハ凡盗ヨリ重シ又一家人トシテ論スレハ凡盗ヨリ輕シ總テ支那律ハ一家人ハ輕クス其內ニモ親屬ハ又輕クス雇人ハ奴婢同樣一等程輕クセリ畢竟親屬相盗ムノ情ヲ推及シテ輕クスナラン又盗ミ易シト云ノ方ヨリ論スレハ盗ミ易キ物ヲ防クハ十分嚴密ニ其方法ヲ立サレハ其弊害アルヘシ然レ𪜈是ハ雇人ニ限ラス此外ニモアルヘシ改定律百四十二條ニ百工等ノ受業師ニ於ケルモ竊盗ニ準シテ十年ニ止ム是モ盗ミ易キヨリ論スレハ凡盗ヨリ重クセサルヲ得ス今獨リ雇人ノ方ノミ重クスルノ道理ナシ孰レトモ支那律ハ輕クス併シナカラ清律ハ後チニ條例ヲ設ケテ參酌セシ樣子ニテ追々人情ノ浮薄ニ赴クヲ歎キシヿアリト云フ凡ソ門內ノヿハ恩ヲ以テ義ヲ裁シ門外ノヿハ義ヲ以テ恩ヲ制スルハ支那ノ律意ナリ歐米各國ノ律ハ異同アリト雖𪜈之ヲ概シテ云ヘハ監守盗ニテモ死ニ入ルナシ且ツ一體ノ律モ輕クセリ本邦ニテモ追々進步スルニ隨ヒ監守盗モ死ニ入ルヿナキ樣ニ運ハンヿヲ欲ス今雇人ノ罪ヲ輕クシテ其弊アル歟果シテ弊アルニ非ス總テ刑律ハ已ムヲ得ス設ルヿニテ其弊アル者ハ嚴酷ニセサル可カラス本條改正ノ如キハ時勢

人情ニ戻ルヿナシ然レハ刑法ハ輕クスルヲ以テ可トスヘシ到底重クセサルヲ得サルノ道理ナシ恩義上ヨリ論スルモ盜ミ易キ方ヨリ論スルモ互ニ其道理ハアルヘシ平心ニテ平視スレハ詰リ凡盜ニシテ可ナリ又恩義ヨリ論スル時ハ鬪毆律ノ雇人ノ家長ヲ毆チ死ニ致ス者ハ原ト死ニ入ル者ト雖モ改定律例ハ終身ニ止メ輕クセリ獨リ盜罪ノミ監守盜ヲ以テ論スルハ苛酷ナラン五番ノ說ニ官物ハ人民ノ財ナルヲ以テ重クスト云ト雖モ總テ支那律ニハ官物ハ人民公共ノ義トシテ人ヲ撰シテ監守スル物故之ヲ盜ム時ハ人民一般ニ其害ヲ蒙ルヲ以テ一等二等ヲ重クセリ此家長ノ財ハ一家ニ係ル稍ヤ親屬ノ物ヲ盜ム情アリ一家ノ内ニ盜ムハ他人ノ物ヲ盜ムト一樣ニ論シ難キ者ナレモ凡竊盜ヲ以テ論シテ可ナリトス

○十五番黑田清綱曰　十九番〔ニ〕同意原案ヲ可トス

○十四番柳原前光曰　八番ノ常人盜監守盜ヲ以テ論スルヲ可トス併シ官物ト同樣ナラサル爲メ公私ノ別ヲ立テ罪懲役終身ニ止ル權衡ヲ宜シトス

○十六番有栖川宮曰　八番ニ同意ナリ

○議長曰　修正ヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

起立者七人

○議長曰　多數ニ因テ修正ヲ要スルニ決ス

○議長曰　修正中常人盜ヲ以テ論ス監守盜ヲ以テ論スト常人盜ニ準シテ論ス監守盜ニ準シテ論ストノ別アリ卽チ十三番ハ準シテ論シ而シテ名例律ヲモ改ムル意ナリヤ

○十三番佐野常民曰　準シテ論スル時ハ名例律ヲモ改メサルヲ得ス又原案ニテモ八十四條ノ名例ヲ改メサルヲ得ス同ク改ムルヿナレハ此改正ニハ準罪ヲ以テ論シ名例律ヲモ改ムルヲ可トス

○議長曰　準シテ論スルニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

起立者二人

○議長曰　多數ニ因テ常人盜監守盜ヲ以テ論スト云フニ決ス

○書記官藤澤次謙　左ノ一條ヲ朗讀ス

雇人盜家長財物條例

凡雇人家長ノ財物ヲ管守シテ私ニ自ラ借用シ及ヒ人ニ借ス者證書ナキハ竊盜ニ準シテ論ス證書アルハ二等ヲ減シ罪懲役三年ニ止ル

○十五番黑田清綱曰　私ノ字ハ公ニ對シ官ニ對スル辭ナリ然ルヰハ雇人盜家長財物條ニハ私借ノ字ヲ用ヒ難シ此條ハ費用受寄財産律ニ入ルヘキ者ナリ故ニ刪除スルヲ可ナリトス

○五番齋藤利行曰　原案ヲ存シ稍ヤ修正ヲ加ヘテ可ナラン借用ノ字モ證書ノ字モ穩當ナラス余ハ借用ヲ使用ト改メ證書ヲ文字ト改メテ可ナリトス第二讀會ニ於テ證書ハ文約ト改ムルノ說モアレトモ文約ニテハ約束ノヿトナリ雙方貸借二人以上ニ非レハ用ヒ難シ此處ハ一人一己ノヿナレハ譬ヘハ手代ノ者二人アルニ一人ノ者一人ニ借ル子細ヲ述ヘテ文書ヲ認メ置クモ文字ナリ又出納ヲ監スル一人ノ番頭暫時借用スル子細ヲ認メ置クモ文字ト云ヘシ然レハ文約ヨリハ文字ノ方其意義廣クシテ可ナリ

○十九番佐々木高行曰　十五番ト同論ナリ

○九番秋月種樹曰　借用ノ字ハ使用ト改メ證書ハ文字或ハ文約ノ内ニ改メテ可ナリ併シ文字ト云フヰハ少ク漠然タルノ意アリ文約ノ字ハ清律ノ註ニ見ユレハ之ニ改ムルヲ最モ可トス且ツ竊盜云々ハ監守盜ヲ以テ論スルヲ可ナリトス

○八番河野敏鎌曰　此條モ修正スヘシ借用ノ二字穩當ナラスト雖モ從來用ヒ來ル字ナリ且ツ官ノ事ニ付テハ支那律ニモ常ニ用ヒ來レリ今家長ニ對シテ用ユルヲ解ス可ラストセハ官ニ對スルモ解ス可ラス暫ク慣用ニ因テ借用ノ字ヲ用ユルヲ可ナリトス而シテ私ニ自ラ借用ト云フハ盜ト何ソ異ナラン然レハ前條ノ權衡ヲ以テ監守盜ヲ以テ論シ罪懲役終身ニ止ルトスルヲ可ナリトス證書ハ憑證ト改ム可シ文字トシテモ文約トシテモ皆ナ書キタル物ヲ云フナリ今書キタルモノナキモ或ハ一人ノ堅固ナル人ニ其借ル子細ヲ云ヒ置ケハ書キタル物ヨリモ却テ其證トナルヿアルヘシ故ニ憑證トスル方其意義廣クシテ可ナラン余ハ之ヲ修正シテ自ラ借用シ及ヒ人ニ借ス者憑證ナキハ監守盜ヲ以テ論シ罪懲役終身ニ止ル憑證アルハ一等ヲ減シ罪懲役十年ニ止ル其借ル者管守人ニ非ルハ憑證ノ有無ヲ分タス常人盜ヲ以テ論シ一等ヲ減シ罪懲役七年ニ止ルトナスヲ可ナリトス

○二番松岡時敏曰　本律既ニ修正ニ決スレハ本條モ其罪ヲ重クセサルヲ得ス余ハ八番陳述ノ通ニテ異議ヲ存セス

○十八番長谷信篤曰　八番ニ同意ナリ

○一番壬生基修曰　第二讀會ニ陳述スルアリト雖モ追々熟考スレハ八番ノ說ニ同意ナリ

○十三番佐野常民曰　大約修正ノ意ハ八番ニ同シ併シ其證アル者ハ監守盜ニ二等減スルヲ至當ナリトス

○議長曰　此議案ニ付種々ノ修正案アリ然ルニ第一ニ此原案ヲ存シテ修正スルノ說ト全ク刪除スルノ說トノ別アリ今此原案ヲ存シテ修正セントスルニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

起立者九人

○議長曰　多數ニ因テ原案ヲ存シテ修正スルノ議ニ決ス

○議長曰　竊盜云々ヲ改メテ常人盜監守盜ニ準シテ論スルト常人盜監守盜ヲ以テ論スルトノ別アリ今常人盜監守盜ヲ以テ論スルト云フ說ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

起立者八人

○議長曰　多數ニ因テ常人盜監守盜ヲ以テ論スト云フニ決ス

○議長曰　借用ノ字ヲ使用ノ字ニ改ムル說アリ借用ノ字ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

起立者六人

○議長曰　多數ニ因テ借用ニ決ス

○議長曰　證書ノ字ヲ改メテ文字トナスノ說アリ原案ノ證書ト云フニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

起立者ナシ

○議長曰　起立者ナキヲ以テ證書ノ字ハ取消ス

○議長曰　憑證ト改ムル說アリ今文字ト憑證ノ決ヲ取ラントス文字ト改ムルノ說ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

起立者一人

○議長曰　少數ニ因テ文字ノ說ハ取消ス

○議長曰　文約ト改ムル說アリ今憑證ト文約ノ決ヲ取ラントス文約ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

起立者一人

○議長曰　少數ニ因テ文約ノ說ハ取消シ憑證ト改ムルニ決ス

○議長曰　其證アル者監守盜ニ二等ヲ減スル說ト憑證アルハ監守盜ニ一等ヲ減スル說トノ別アリ監守盜ニ二等ヲ減スルニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

起立者四人

○議長曰　少數ニ因テ二等ヲ減スル說ハ取消シ一等ヲ減スルニ決ス

○議長曰　時已ニ正午ニ至レリ故ニ暫ク會ヲ散ス

午後一時再開場

○書記官藤澤次謙　左ノ一條ヲ朗讀ス

竊盜條例

凡客廩倉戸及ヒ工人舟子脚夫馬丁車力等其寄托ヲ受ル所ノ財物ヲ盜ム者ハ並ニ窃盜ヲ以テ論シ一等ヲ加ヘ罪懲役終身ニ止ル

○十四番柳原前光曰　本條ハ原案ニテ可ナリ或ハ改定律例ノ如ク監守盜ヲ以テ論スル事ナリト云說モアルヘシト雖モ馬丁脚夫等ノ一時人ノ托ヲ受クル者ハ官吏ノ官物ヲ監守スルト其責同シカラス故ニ原案ニテ可ナリトス

○十九番佐々木高行曰　十四番ノ說ノ如ク原案ヲ可トス

○五番齋藤利行曰　十四番同論ナリ

○一番壬生基修曰　原案ニテ可ナリ

○八番河野敏鎌曰　此條モ修正スヘシ如何トナレハ雇人盜家長財物條ノ雇人ニ類スル者アリ既ニ委托ヲ受クル時ハ監守者ト異ナラス惟舟子脚夫ニ至テ自カラ雇人ヨリハ輕キモノアリト雖モ托ヲ受テ物ヲ監守スル責ハ異ナルナシ況ヤ客廩倉戸ニ到テハ巨萬ノ財ヲ預ル等其責大ニ重キ者アリ故ニ並ニ監守盜ヲ以テ論シ一等ヲ減スト改ムヘシ然レハ窃盜ニ一等ヲ加ヘ又一等ヲ加ヘタル者ナリ原案ニテモ窃盜ニ一等ヲ加ルトアレハ則チ常人盜ト同權衡ナリ

○九番秋月種樹曰　八番ニ同意監守盜ヲ以テ論シ一等ヲ減スト改ムヘシ

○十三番佐野常民曰　原案ニテ可ナリ寄托ヲ受テ監守スルハ雇人ト同シト雖モ雇人ノ家長ニ對スルハ其家內ニ在テ月給等ヲ受ケ其他恩義モアリ豈ニ之ヲ一時見ス知ラスノ者ノ寄托ヲ受クルト輕重同視スヘケンヤ且ツ凡盜ト同フセスシテ一等ヲ加ヘタレハ原案ニテ權衡宜シトス

○議長曰　原案ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

起立者八人

○議長曰　多數ニ因テ原案ニ決ス

改定律例第百五、六條第百四十三、四條改正增加之議案

○書記官藤澤次謙　左ノ一條ヲ朗讀ス

改正私借官物律

凡監臨主守監守スル所ノ官物ヲ私ニ借用シ若クハ人ニ借ス者證書ナキハ監守盜ニ準シテ論ス證書アルハ二等ヲ減シ罪懲役三年ニ止ル其借ル者監守人ニ非サレハ證書ノ有無ヲ分タス竊盜ニ準シ一等ヲ減シ罪懲役二年半ニ止ル若シ自己ノ物ヲ以テ官物ニ抵換スル者罪亦同

○五番齋藤利行曰　此條修正スヘシ雇人盜家長財物條例ニ同ク借用ヲ使用トシ證書ヲ文字トスヘシ且改定律例ニハ情ヲ知ルノ有無ヲ分別セリ監守人ニアラスシテ借ル者ハ其分別ヲ立ツヘシ罪ハ原案ノ通ニテ可ナリ余ハ借用云々ヲ修正シテ使用シ若クハ人ニ轉借スル者文字ナキハ監守盜ニ準シテ論シ文字アルハ二等ヲ減シ云々其借ル者監守人ニ非ルハ文字ノ有無ヲ分タス情ヲ知ル者ハ窃盜ニ一等ヲ減シ云々情ヲ知ラサル者ハ坐セストナサントス然レモ使用ト文字ノ「ハ最初ヨリ連帶シテ發言スル「故此ノ如ク發言スト雖モ已ニ雇人盜家長財物條ニ於テ借用ト憑證トニ決スル上ハ借用憑證ニテ可ナリ連帶ノ發言ユヘ此事ヲ一應陳述ス

○十五番黑田清綱曰　借用證書ノ「ハ已ニ雇人盜家長財物條ニ決

セリ今復タ論スヘキナシ曩ニ第二讀會ニ陳述セシ如ク此條ハ官ノ財物トナシテ條内ニ什物ト錢糧トヲ區別シテ修正スヘシ罪ノ權衡ハ原案ニテ可ナリ

○十九番佐々木高行　曰　第二讀會ニ陳述セシ如ク十五番ノ說ノ如ク什物ト錢糧トヲ區別シテ修正スルヲ可ナリトス而シテ錢糧ハ借ルモ盜ムモ同樣ナリ其什物ニ至テハ大ニ異ナル者アリ譬ヘハ書類ヲ借ル等ノ如キハ十日以内ハ箇樣十日ヲ過レハ箇樣ト區別スヘシ併シ今日ニ在テ其日數ヲ定ムルハ難シ是ハ只其輕重ヲ比較スルモノナリ余ハ之ヲ修正シテ凡監臨主守官ニ係ル錢糧等ノ物ヲ將テ私ニ自ラ借用シ或ハ轉借人ニ與フル者文記アリト雖トモ並ニ贓ヲ計リ監守自盜ニ準シテ以テ論ス其監守ノ人ニ非ラスシテ借ル者窃盜ニ準シテ論ス若シ其錢糧ヲ除クノ外一應ノ官物ヲ將テ私ニ自ラ借用シ或ハ轉借人ニ與フル者ハ價ヲ計リ坐贓ヲ以論ス若シ損失アルモノ窃盜ニ準シテ論ストナサントス坐贓ハ輕シト雖モ是ハ其品モ存シテアリ錢糧ハ原案ヨリ重ケレトモ什物ハ品ノ有無ヲ分ツテ輕重ス然レハ此權衡ニテ可ナラン

○八番河野敏謙　曰　此條大ニ改正スヘシ十五番十九番ノ說ト稍ヤ意ヲ同フス孰レニモ錢糧ト什物トヲ區別スルハ兩說ニ同シ第二讀會ニハ私借錢糧律トナシ其内ニ付テ什物ヲ書加ヘテ可ナリト陳述シタレモ尙ホ考ルニ律ト條トニ分ツテ立ルニ如ス是レ迄官物トナシ來レハ律ハ私借官物律トシテ錢糧ノ「ヲ擧ケ其條例ニ至テ什物ヲ擧クヘシ余ハ之ヲ修正シテ凡ソ監臨主守監守スル所ノ錢糧ヲ私ニ借用シ若クハ人ニ借ス者憑證ナキハ監守盜ヲ以テ論ス憑證アルハ一等ヲ減シ罪懲役終身ニ止ム其借ル者監守人ニ非レハ憑證ノ有無ヲ分タス常人盜ヲ以テ論シ一等ヲ減シ罪懲役十年ニ止ル而シテ別ニ私借官物條例ヲ設ケテ曰ク凡ソ監臨主守官ニ係ル器具物什ノ類ヲ以テ私ニ借用シ若クハ人ニ轉借シ及ヒ之ヲ借ル者懲役五十日十日ヲ過クレハ坐贓ヲ以テ論シ二等ヲ減ス其所犯極テ輕キ者ハ情ヲ量リ違式ニ問ヒ輕重ヲ分ツ其自己ノ物ヲ以テ官物ニ抵換シ若クハ典賣スル者ハ並ニ錢糧ヲ私借スル者ト罪同此ノ如クシテ宜カラン凡テ明清ノ律ニ據リ修正スル所ナリ

○十九番佐々木高行　將ニ發言セントス　議長之ヲ中止シテ曰　討論ハ第二讀會ニ於テシ本日ハ第三讀決議會ナレハ各一度ノ發言ヲ許ス併シ前說ヲ敷衍スル事ナラハ發言スヘシ

○十九番佐々木高行　曰　諸是レ迄ノケ條ニ決議ナリタレハ罪ノ權衡モ自ラ違ヒ來ルアルヘシ嚮ニ陳スル修正ハ二讀會ヨリノ意見ナレハ念ノ爲メニ此ノ「ヲ陳述ス

○十三番佐野常民　曰　イツレ修正ヲ要スヘシ雇人盜家長財物條例ニ依レハ官物モ錢糧ト什物ヲ分タスシテ可ナリ且借用スル者證ナキトテモ監守自盜ノ死ニ入ル者ニ非ス況ヤ證アル者罪懲役終身ニ止ルハ酷ナリ此處ハ二等減シテ權衡宜カラン又自己ノ物ヲ以テ抵換スル罪亦同ト云ハ曩ニ委員法制官ノ說ニハ改定律例ノ例ヲ以テ看ルト云ト雖モ監守人ニ非サル者ノ抵換モ同例ニスル爲メニ後段ニ書キタルハ原案ヲ可トス其借ル者ノ情ヲ知ル有無ヲ分ツハ十五番ノ說ト同意且官物ノ字ヲ官ノ財物ト改メ雇人盜家長財物律ノ家長ノ財物ト同シク成スヘシ

○議長十三番ニ問テ曰　二等ヲ減スルトハ監守盜ニ付テ減スルヤ

○十三番佐野常民　曰　然リ

○議長曰　然レハ原案ノ通リナリヤ

○十三番佐野常民　曰　然リ

○議長曰　修正中數說アレトモ先ツ原案ト修正ノ決ヲ取ラントス修正ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

起立者十人

○議長曰　多數ニ因テ修正ニ決ス

○議長曰　錢糧ト什物トヲ區分シテ律ト條例ヲ設ル說アリ此說ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

起立者八人

○議長曰　多數ニ因テ此說ニ決ス

○議長曰　官物ヲ官ノ財物ニ改ト云說アリ此說ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

起立者一人

○議長曰　少數ニ因テ此說ハ取消ス

○議長曰　私借官物律中ニ就テ錢糧ト什物ヲ區分スル說アリ此說ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

起立者五人

○議長曰　少數ニ因テ此說ハ取消律ト條例ヲ設ル說ニ決ス

○議長曰　情ヲ知ルノ有無ヲ分ツ可シト云說アリ此說ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

起立者二人

○議長曰　少數ニ因テ此說ハ取消ス

○議長十九番ニ問テ曰　曩ニ監守自盜ニ準シテ以テ論スト云ヘリ右ハ唯準シテ論スト云フノ意ナリヤ

○十九番佐々木高行　曰　準シテ論スルナリ

○議長又問テ曰　今文記アリト雖モト云說アリ然レトモ證書ノ字ハ曩ニ雇人盜家長財物條ニ於テ既ニ憑證ニ決セリ然ル說ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

改定律例第百五、六條第百四十三、四條改正增加之議案

ヵハ憑證ノ有無ヲ問ハサルヿナリヤ

○十九番佐々木高行　曰　然リ

○議長曰　十九番ノ憑證ノ有無ヲ問ハサルニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

起立者一人

○議長曰　少數ニ因テ此說ハ取消ス

○議長曰　刑名ヲ本案ノ如クスルニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

起立者一人

○議長曰　少數ニ因テ此說モ亦取消ス

○議長曰　監守盜ニ二等ヲ減スルト一等ヲ減スル說アリ二等減スルニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

起立者一人

○議長曰　少數ヲ以テ此說ハ取消シ一等ヲ減スルニ決ス

○議長曰　十九番ノ坐贓ト八番ノ坐贓ニ二等ヲ減スルノ說アリ十九番ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

起立者一人

○議長曰　少數ヲ以テ十九番ノ說ハ取消シ八番ノ說ニ決ス

午後一時五十分閉場

元老院會議筆記　明治九年二月十三日

第三號議案ノ修正案決議會

出席議官

一番　壬生基修
二番　黑田清綱
三番　陸奥宗光
四番　由利公正
五番　有栖川宮
七番　長谷信篤
九番　佐々木高行
十番　佐野常民
十一番　秋月種樹
十二番　山口尙芳
十四番　柳原前光
十六番　齋藤利行
十八番　吉井友實

內閣委員一番外一等法制官　鶴田皓

午前第十一時開場

○議長曰　本日ハ過日決定シタル修正案ト曾テ內閣ヨリ付セラレタル原案トノ可否ヲ決セントス各議官例ニ從テ發言スヘシ

○書記官藤澤次謙　左ノ二案ヲ朗讀ス

原案

改正雇人盜家長財物律

凡雇人家長ノ財物ヲ盜ム者ハ竊盜ヲ以テ論ス管守者ハ一等ヲ加ヘ罪懲役終身ニ止ル

修正案

改正雇人盜家長財物律

凡雇人家長ノ財物ヲ盜ム者ハ常人盜ヲ以テ論シ管守者ハ監守盜ヲ以テ論シ並ニ罪懲役終身ニ止ル

○番外一番鶴田皓曰　雇人盜家長財物律ハ原ト奴婢盜家長財物律ナリ曩ニ奴婢ノ字ヲ改ムルヵ併テ其權衡ヲ量リ常人盜ヲ以テ論シ管守者ハ監守盜ヲ以テ論スルヿニ改正アリシニ尙ホ其擬律ノ重キニ過クルヲ以テ此度更ニ改正ヲ要スルニ至リシナリ原ト新律綱領ニハ凡盜ニ準シテ管守者ト雖モ懲役十年ニ止メシニ改定律例ニ至リ常人盜ヲ以テ論シ管守者ハ監守盜ヲ以テ論ス然ルヵハ罪死ニ入リ甚タ酷ナリト謂フヲ以テ此改正ヲ要スルナリ明清律ハ凡盜ノ罪ニ一等ヲ減ス之ニ據テ見ルモ改定律例ノ常人盜ヲ以テ論スルハ甚タ酷ナリ且雇人ハ家長ト同居シテ其間親屬ニ近シ雇人ノ家長ヲ告ル者ハ干名犯義ヲ以テ之ヲ論ス故ニ竊盜ヨリ之ヲ重クスル理ナカルヘシ此度ノ修正案ニテハ常人盜トメ竊盜ニ一等ヲ加ヘ監守盜トメ又タ二等ヲ加ヘタルモノナリ而シテ監守盜ハ死ニ入ル者故其別ヲナス爲メ懲役終身ニ止ルトナスノ意ナラン然レモ到底死ニ入レスシテ之ヲ終身ニ止ルモノナラハ最初ヨリ之ヲ輕クシテ可ナリ常人盜ハ原ト常人官ノ財物ヲ盜ム者ヲ謂フ今之ヲ雇人家長ノ條ニ借リ用ユル趣意ハ權衡上ヨリ來ルナラン然レモ名ノミニ就テ論スルヵハ譬ヘハ逃亡スル者杖八十賭博モ杖八十均シク八十ナレハ逃亡スル者ハ賭博ヲ以テ論スト謂フモ可ナリトスルカ如シ名既ニ正シカラス權衡モ亦宜シカラス故ニ原案ノ儘ヲ可ナリトス又監守盜ハ百五十圓ニテ懲役終身ナリ窃盜ニ一等ヲ加レハ百二十圓ニテ懲役終身トナル然レハ此ニ至テハ修正案却テ原案ヨリ輕クナリ不都合ナリ故ニ總テ原案ヲ可ナリトス

○十番佐野常民曰　曩ニ第三讀會ニモ論セシ如ク雇人ノ家長ト同居スル者ヲ親屬ノ同居スル者ニ比例シテ云フ時ハ其罪ヲ輕クスヘキ者アリ併シ給料等ヲ取ル雇人ノ家長ノ家ニ同居シ

其家長ノ財ヲ盗ム是義ニ背テ盗ミ易キ物ヲ盗ムナリ親屬ノ間ニハ情アリ雇人家長ノ間ニハ義アリ情ト義トモ分別シテ說ヲ立サル可カラス況ヤ見ス知ラスノ者ノ所有物ヲ盗ムト同ク論スヘキ者ニアラス是義ヲ重スル方ヨリ論スルナリ而シテ官物ヲ窃取ルトハ輕重稍ヤ異ナルアリト雖モ亦大ニ之ニ似タル者アリ今原案ニテハ親屬ニモヨラス官物ニモヨラス中間ナル見ス知ラサル者ノ物ヲ取ル窃盗ヲ以テ論シタルハ甚タ不都合ナリ若シ修正案ノ常人盗ヲ以テ論スト云名義ノ不似合ナルト云フヲ論スレハ或ハ然ルヘシト雖モ既ニ改定律例ニモ常人盗ヲ以テ論シタリ窃盗ニ一等ヲ加フルハ常人盗ト同權衡ナリ監守盗モ亦之ニ一等ヲ加フルノミ然レハ修正案ノ主意只原案ニ一等ノ重キヲ加フルノミ況ヤ死ニ入ラスシテ懲役終身ニ止ルニ於テヲヤ然レハ常人監守盗ヲ以テ論シ聊モ不都合ナク又下ニ敎ユルニ其義ヲ重スルノ意モ明ニシテ最モ可ナリトス故ニ總テ修正案ヲ可トス

○十一番秋月種樹曰　原案ノ竊盗ヲ常人盗ト監守盗トニ修正スルハ家長ノ一家ニ雇人ヲ置クハ卽チ天子ノ官府ニ役人ヲ設クルト同シク名義ニ於テモ又然リトスル意ナリ新律綱領ヲ改定律例ニ改シ時モ定テ此意ヲ取テ改シナラン故ニ修正案ヲ可ナリトス

○三番陸奥宗光曰　修正案ヲ可トス其所以ハ十番ノ說ニテ盡スト雖モ尙ホ之ヲ說明セン雇人ノ家長ノ財ヲ盗ムハ常人ノ官物ヲ盗ムト同キ事ハ其來ル所アリ支那ニテモ又タ日本ニテモ古來ヨリノ慣習ニテ□□ハ役人ヲ奴隷シ視ル猶家長ノ雇人ヲ視ルト異ナラス而シテ雇人ハ家長ノ關鑰モ帳簿モ預ル者ニテ家長ノ信任スル者ナリ此等ノ信任ヲ受クル者其家內ノ財ヲ盗ムハ誠ニ爲シ易キ事ナリ故ニ之ヲ保護スルニハ十分其法ヲ嚴ニ爲サル可カラス而メ明淸ノ律ニテ却テ之ヲ輕クスルハ又其理ナシト云フ可シ最モ改定律例鬪毆律ニ雇人ノ家長ヲ毆チ死ニ至ラシムル者懲役終身トアリ是其鬪毆等ノ事情ニ於テハ雇人ノ家長ニ於ケル凡人ト異ナラサルモノアル可シト雖モ此權衡ヲ以テ之ヲ親屬相盗ノ律ニ持チ來ス可カラス凡テ一家ノ財物ハ其親屬ノ間ニ在テハ殆ント共通スルモノナレトモ雇人ノ家長ノ財物ニ在テハ決シテ共通スルノ理ナシ故ニ雇人ノ家長ノ財ヲ盗ム者ハ其義ヲ責メ其罰ヲ重クシ決テ彼ノ墻ヲ踰ヘ壁ヲ穿テ盗ム者ト同クスルハ甚タ不都合ナリ常人盗監守盗ヲ以テ論スルハ其名義ニ於テハ委員ノ說明ノ如クナリト雖モ方今ノ慣用ニテハ監守盗ト云フモ亦タ常人盗ト云フモ共ニ一ノ盗名ニ過キス然レハ之ヲ以テ論スルニ何ノ不可アラン譬ヘハ支那ノ古今ニテ工部卿尙書ト云フハ殆ント日本ノ民部ノ事ヲ統轄スルモノヽ如クナレモ方今日本ノ工部卿ノ管スル所ハ工業ノ事ヲ司レリ然レハ必スシモ唯タ其名ノミニ拘泥シ難シ之ヲ要スルニ雇人ノ家長ニ於ルハ其信任ヲ受ケ帳簿モ關鑰モ預ル者ニテ其財ヲ盗ムハ甚ナシ易クシテ其信ニ背クモ大ナリ故ニ此等ノ者ハ重ク此ヲ防キ置クヘキナリ而シテ其罪遂ニ懲役終身ニ止ル事ニテ改定律例ヨリハ輕クナレリ今回ノ改正ハ罪ヲ輕クスルノ主意ナレハ則チ其主意ニモ叶フ事故總テ修正案ヲ可ナリトス

○十二番山口尙芳曰　三番十番ノ說ニテ十分意ヲ盡セリ今ヤ其漏ル處ヲ說明セン親屬ト雇人家長トハ甚相近キ者ニテ情ヲ以テ主トスルハ番外委員ノ說ナリ親屬ハ各其間ニ於テ相保護スルノ情アリ是情ヲ以テ論スヘシ雇人家長ノ間ニ於テハ日夜同居寢食ヲ俱ニス而ノ其物ヲ盗ムトハ最モナシ易シ然ラハ之ヲ防ク方ヲ立ルヤ嚴ヲ以テ主トナスヘシ是一般ノ竊盗ニ準スル理ナキ所以ナリ法ヲ設ル趣意盗ミ易キヲ戒ムヘシ此ヲ親屬ノ情アル者ト同ク論シ難シ故ニ修正案ニテ可ナリトス

○十番佐野常民曰　前說尙ホ盡サヽル所アリ今一應敷衍シテ之ヲ言ハン雇人ト家長トノ間ハ親屬ノ同居スルトハ大ニ別ナル者アルハ三番十二番ノ說ノ如シ夫レ親屬ハ各其情アリ雇人家長ニ至テハ財物モ共通セス其同居ノ間ハ其情ニ就テ云フアルヘシト雖モ是モ亦タ雇ハレテ月給ヲ取ル間ノ事ニテ若シ其雇ヲ止メ其給ヲ離ルレハ則チ他人ナリ親屬ニ至テハ假令同居セストモ決テ他人ト云フ可カラス是始終其情ニ就テ云フヘシ雇人家長ノ同居スルハ義ニ就テ云フヘク情ニ就テ云フ可ラス然レハ親屬ノ情ヲ以テ之ヲ同視スルハ不可ナリ故ニ修正案ヲ可ナリトス

○議長曰　原案ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

起立者一人

○議長曰　多數ニ因テ修正案ニ決ス

○書記官藤澤次謙　左ノ二案ヲ朗讀ス

原　案

雇人盗家長財物條例

凡雇人家長ノ財物ヲ管守シテ私ニ自ラ借用シ及ヒ人ニ借ス者證書ナキハ竊盗ニ准シテ論ス證書アルハ二等ヲ減シ罪懲役三年ニ止ル

修正案

雇人盜家長財物條例

凡雇人家長ノ財物ヲ管守シテ私ニ借用シ及ヒ人ニ貸ス者憑證ナキハ監守盜ヲ以テ論シ罪懲役終身ニ止ル憑證アルハ一等ヲ減シ罪懲役十年ニ止ル其貸ルモノ管守人ニ非サレハ憑證ノ有無ヲ分タス常人盜ヲ以テ論シ一等ヲ減シ罪懲役七年ニ止ル

○番外一番鶴田皓曰　前案既ニ修正ニ決スル上ハ此條例ニ至テ原案ヲ主張スルトモ最早其益ナキ事ナレトモ其改正セシ趣意ヲ一應陳述セン原案ニテハ此條例ハ家長ノ財物ヲ借用スルノ方故ニ準盜トナシタリ修正案ニテハ直チニ監守盜ヲ以テ論シ懲役十年ニ止ルナリ若シ以テ論ストシテ止ルト云フナキ時ハ遂ニ死ニ入ルナリ故ニ此ノ如クナスナルヘシ元來私ニ借ルト云ハ證文ナク自分ニ借ル事ナレハ其實ハ相ヒ對スル者アルヿナシ然レハ他日假令ヒ返濟スル心アリト云ト雖モ盜トモナスヘシ又次ノ人ニ借スト云ハ已レニ入ルニアラス或ハ人ノ依賴ヲ受ケ已ムヲ得ス一時取替等ノ事ヲナス者ニシテ私ニ財ヲ取ルノ欲心ハ一點モアルヿナシ故ニ之ヲ準盜ニナシタリ又次ノ證書ト云ハ書キ物アル者ニテ尙又二等ヲ減シタリ修正案ニテハ一等ヲ減ス何等ノ意アリヤ孰レ

原案ヨリ見レハ十年ト三年トニテ七年ノ差アリ餘リ重キニ過ルニ似タリ而ノ憑證ト修正スルニ至テハ文字ナキトテモ證據ニナル者アレハ減等スル事トナリテ却テ原案ヨリ輕クナル處アルニ似タリ然レモ一體ハ證書ナケレハ借ルノ理ハ立チ難シ故ニ原案ニテハ證書アル者ハ唐律ノ意ヲ取テ二等減トナス又修正ノ其借ル者トアルハ私借官物律ノ其借ル者ト云文意ト同視スレハ解シ難キモノトス然レトモ今修正委員ノ說明ニ雇人中ノ人同雇人ヨリ借ルト云文意ニシテ及ヒ人ニ借ス者ト云ノ反對ト聞キ了解セリ此七年ノ罪ハ原案ニ之レナシ元來官ノ財物ハ私借スル事ヲ許サヽル原則ナリ故ニ其借ル者云々トアルナリ此雇人ノ條ニモ之ヲ揭クル趣意ハ蓋シ之ニ基ナラン然レモ貸借ハ人民相互ノ間ニ在テハ普通ニ行ハルヽ事ナリ其レ故ニ民法ニ載スヘキ者ナレト改定律例ニ揭ケタレハ俄ニ刪ルヿヲ得スシテ之ヲ存スト雖モ然レモ其借ル者云々ニ至テハ全ク刪ルヿ可ナリトス且雇人ノ家長ニ於ケル其情義猶ホ親屬ノ如シ故ニ親屬容隱幷干名犯義ノ律ニモ之ヲ揭ク今修正ノ如クスレハ此律ヲモ改正セサルヿヲ得ス然ラサレハ律ヲ立テタル總テノ趣意ニ違フナリ

○三番陸奥宗光曰　本條ハ既ニ本律決議アル以上固ヨリ修正ヲ可トス員外ノ說ニ私借ノ字ハ穩當セサルニ似タリト雖モ清律ニ將係官錢糧等物私自借用或ハ轉借與人者雖有文字並計贓以監守自盜論ストアリ私借ハ卽チ取モ直サス監守盜ナリト註釋セルモノヽ如シ一體私借シテ其證ナキ者之ヲ盜トナスハ當然ナリ然レハ私借ノ字不都合ナシ原案ノ竊盜ニ準シ一等ヲ減スルハ其眞盜ナル者モ私借ノ名ヲ以テ罪ヲ輕クスルヲ得ラルヽ事トナリテ人ニ詐ヲ敎ルニ當リ甚タ不可ナリ且本律ニ於テ懲役終身ニ決スル上ハ此條例モ證ナキ者ハ懲役終身トナスヘシ原案ノ律文ニハ以テトナシ條例ニハ準ストナシタルハ不可ナリ又證書ノ字モ不可ナリ明淸ノ律ニハ文記トモ文字トモアリ本邦今日ニテハ證書ト云ヘハ一般貸借ニ用ユル所ノ證書ト誤ルノ恐レモアレハ憑證トナスヲ可トス私借官物條ノ管守人ニ非ルト云ハ滿天下ノ人ニ係リ此條ノ管守人ニ非レハト云ハ雇人ニ係レリ此律ノ題目ハ雇人盜家長財物條例ナル以上ハ其借ル者ト云ヘハ雇人ヨリ外ヲ謂ハサルハ明了ナリ淸律ノ其監守ニ非ルノ人借者トアルト同文ニテ卽チ雇人ノ借ル者ハト云事ニテ何モ不可ナルヿナシ又此修正アリテモ親屬容隱干名犯義ノ律文ヲ改ルニ及フ可カラス夫レハ情義上ト財產上ヨリ區別シテ論ス可キ事ニテ既ニ十番十二番ノ說明モアレハ別段今之ヲ說明セス總テ修正案ヲ可トス

○十二番山口尙芳曰　本條ハ原案ヲ可トス新律綱領製定以來二百五十圓以上ヲ絞トス是錢糧ノ盜ニ非ス器物ヲ混シテ云ナリ私借官物律ニハ錢糧器物ヲ分ケ此條ハ之ヲ分タス是錢糧器物ヲ混スル者ナリ然レハ雇人ノ條ニ在リテハ器物モ重クナリ官物條ニ在テハ輕クナル甚タ不可ナリ故ニ錢量ト器物トノ書分ケヲナスヘシ又其借ル者云々ハ總テ管守スル者ハ私スル事モ爲シ得ヘシト雖モ其管守人ニ非レハ私スル事ハ爲シ難シ然レハ假令ヒ雇人中ノ者ニモセヨ此ハ一般ノ世人ト聞ユヘシ警ヘハ出納役ヲスル者主人ノ物ト思フテ借リ後ニ官物ナルヿモアルヘシ情ヲ知ルノ字ハ改定律例ニアリ本條ハ情ヲ知ルノ有無ナシ故ニ圖ラスシテ難ニ罹ル者アラン孰レ此修正案ハ差支ル所アルヘシ故ニ原案ノ如クスル歟或ハ情ヲ如ルノ字ヲ加ル歟ノ二ヲ可ナリトス

○三番陸奥宗光曰　十二番ノ說ハ今日ニ在テハ不用ナリ修正案ヲ捨テ用ヒサル事ナレハ論ナシ然レモ修正案ハ既ニ第三讀會ニ於テ決議セリ然ルヲ今日復之ヲ議スレハ修正ノ修正ナリ本日會議ノ趣意ニ違フ故ニ不用トス

○議長曰　十二番ノ說ハ修正ノ修正ナリヤ果シテ然レハ發言ヲ停ムヘシ本日ハ原案ト修正案トノ可否ヲ決スル爲メ各一度ノ發言ヲナスヘシ然レトモ修正案ノ文意第三讀會ニ於テ

決議スル趣意ニ違フ處アレハ其趣ヲ陳述スルハ可ナリ

○十二番山口尚芳曰　原案ト修正案ノ可否ヲ陳スルニ付テ修正案ノ字句ヲ吟味スルヿモ併セテ陳述スヘキ事トナス敷ニ前ノ如ク陳述セリ

○議長曰　第三讀會ニ決議スル修正案ニ違フ所ナキ時ハ字句上ノ意見ハ別段ニ提出スヘシ

○十二番山口尚芳曰　番外一番ニ於テ前案既ニ修正ニ決スル上ハ本條異論ナシト云ト雖モ余ハ修正案ニテハ差支ル處アリトス故ニ番外一番ノ說ノ漏ル所ヲ贊成セント欲スルナリ抑モ修正案ニ管守人ニ非スシテ借ル者常人盜ヲ以テ論ストス譬ヘハ家令ハ管守人ナリ家扶ノ借ル者ハ家令ノ財ト見認メテ借リ後ニ家主ノ財ナルアリ其情憫ムヘキ者ナリ本條ノ借ル者ト云ハ一般ノ人ト聞ユ乙ノ家扶甲ノ家令ヨリ借ル時ハ何モ知サル者ナリ之ヲ常人盜トナス甚タ酷ナリ改定律例ノ情ヲ知ルノ字アルヲ可ナリトス故ニ修正案ヨリハ寧原案ヲ可ナリトス

○十番佐野常民曰　三番ノ說明既ニ盡セリ然ルニ其借ル者ニ付テ十二番ノ說アレトモ此ハ修正案ノ儘ニ可ナラン改定律例ニハ情ヲ知ルノ有無ノ字ヲ書シタレモ曩ニ第三讀會ニ於テ討論ノ末其字ヲ加ルニ及ハサルニ決シ次ノ私借官物律ニモ除キタレハ今加ルニ及ハス又其借ル者云々ハ雇人ノ外一般ノ人ニ及フノ疑ナキ事ハ既ニ三番ノ說ニテ明了セリ且文章上ニテモ雇人ノ管守人ニ非ル事ハ斷然疑ナシ監守盜常人盜ヲ以テ論スル事已ニ決スル上ハ此修正ニテ可ナリ

○議長曰　原案ト修正案トノ可否ヲ決セントス修正案ヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

起立者十一人

○議長曰　多數ヲ以テ修正案ニ決ス

○書記官藤澤次謙　左ノ二案ヲ朗讀ス

原　案

改正私借官物律

凡監臨主守監守スル所ノ官物ヲ私ニ借用シ若クハ人ニ借ス者證書ナキハ監守盜ニ準シテ論ス證書アルハ二等ヲ減シ罪懲役三年ニ止ル其借ル者監守人ニ非サレハ證書ノ有無ヲ分タス竊盜ニ準シ一等ヲ減シ罪懲役二年半ニ止ル若シ自己ノ物ヲ以テ官物ニ抵換スル者罪亦同

修正案

改正私借官物律

凡監臨主守監守スル所ノ錢糧ヲ私ニ借用シ若クハ人ニ借ス者憑證ナキハ監守盜ヲ以テ論ス憑證アルハ一等ヲ減シ罪懲役終身ニ止ル其借ル者監守人ニ非レハ憑證ノ有無ヲ分タス常人盜ヲ以テ論シ一等ヲ減シ罪懲役十年ニ止ル

私借官物條例

凡監臨主守監守スル所ノ器具什物ノ類ヲ以テ私ニ借用シ若クハ人ニ轉借シ及ヒ之ヲ借ルモノ懲役五十日十日ヲ過クレハ坐贓ヲ以テ論シ二等ヲ減ス其所犯極テ輕キ者ハ情ヲ量リ違式ニ問輕重ヲ分ツ若シ自己ノ物ヲ以テ官物ニ抵換シ若クハ典賣スルモノ並ニ錢糧ヲ私借スル者ト罪同

○番外一番鶴田皓曰　本律モ原案ニハ準盜トナス然レモ雇人盜家長財物律既ニ修正案ニ決スル上ハ此ニ至テ辨スルモ益ナキニ似タリト然リト雖モ準盜ニナシタル所以ハ一應說明セン本律修正ニテハ死ニ入ル處アリ前ニ雇人ノ條ニモ陳述セシ如ク財ヲ已レニ取ラスシテ人ニ借シタル者ハ虛贓ニシテ一點ノ欲心ナシ其者ヲモ監守盜ヲ以テ論シ死ニ入ルハ甚酷ナリ一體監守盜常人盜ハ淸律ニテハ雜犯トシ竊盜ノ如キ眞犯トハ異ナリ故ニ官物ハ私物ト反シ始メヲ嚴ニシテ終ヲ輕クス譬ヘハ監守盜常人盜ハ竊盜ヨリ一二等重シ然レモ流ニ至レハ准徒ニ換ヘ其贓一千兩ニ至ラサレハ死ニ入ルヿナシ監守盜ノ死ニ入ルハ淸以來ノ事ナリ此修正ハ人ニ借ス者モ死ニ入ル此處ノミハ準盜ニナシテ可ナラン又財物ト錢糧トヲ區別スル片ハ其罪モ輕クナルアリテ宜シカラン併シ如此スル片ハ雇人ノ方モ區別セサレハ不權衡ナラン且玆ニ懲役五十日トアルハ明淸律ノ笞五十ニ據ルナルヘシ曩ニ新律綱領ヲ製定スルノ時ニ方テ總テ明淸律ヨリハ一二等ヲ輕クスヘキ勅アリテ一般ニ輕減セリ故ニ常人盜ニテモ明律ニ杖六十トアレト新律ニハ笞五十トシ竊盜モ笞五十トアレ、四十トセリ今日ヨリ之ヲ視ルモ總テ一二等ヲ輕ルクセサレハ一般ノ權衡ヲ失フモノアラン又自己ノ物ヲ以テ官物ニ抵換云々元來錢糧ト什物トハ性質ヲ異ニシ且明淸律ニモ之ヲ區別スルヲ以テ如此改正セシナラン然ラハ此官物抵換云々モ錢糧ノ部ニ加フルヲ可ナリトス既ニ明淸律ニモ錢糧ノ部ニ之ヲ加ヘリ今改正ノ如クスル片ハ什物ノ性質變シテ錢糧トナルニ似タリ到底趣意ハ虛贓ヲ以テ論スルニ在ルナリ

○三番陸奥宗光曰　總テ修正ヲ可トス只今番外一番ノ說ハ甚タ明了ナリ且人ニ借スハ虛贓ナル故輕クス可シトノ說アリ然レモ時ニ依テハ大ニ重クナルアリ何トナレハ他人ノ物ヲ他人ニ借スノ理ナシ若シ他人ノ物ヲ以テ他人ニ借セハ虛實贓ノ

別ナク即チ盗ムニ違アル可カラス然レハ人ニ借ス者モ監守盗ヲ以テ論シ不都合ナシ而シテ其情ノ誠ニ憫諒スヘキアル時ハ本邦ニハ明治七年第百三十四號布告ニ判事ノ權内ニ附與セル五等輕減例アリ又特旨ヲ以テ死ヲ宥メ罪ヲ輕減スル「モアリ其事宜ニヨリ如何樣ニモ斟酌ヲナスヲ得ヘシ且監守盗ハ明清律ニテ死ニ入ラサル事ヲ引ケトモ本邦ニテハ監守盗ハ死ニ入ル事ノ例ナリ若シ明清律ノ如ク二盗ヲ雜犯トシテ其一千兩ニ至ラサレハ死ニ入レスト云フ事ヲ善トスレハ別ニ一般ノ改正ヲ要スヘシ今之ヲ引テ此私借官物律ニノミ就テ論スヘキニ非ス又懲役五十日ハ一二等ヲ減セサレハ勅諭ニ因テ製定セル一般ノ律意ニ違フト云フト雖モ既ニ此回内閣ヨリ附セラレタル雇人盗家長財物ノ原案ニ竊盗ヲ以テ論ストアリ然レハ必シモ明清律ヨリ輕クスルニ非ス畢竟其場合ニ因テ之ヲ定メテ可ナリ抵換云々ヲ錢糧ノ方ニ入ル可シト雖モ清律錢糧ノ註ニ金帛ノ類トアリ本邦ニテハ官ノ十兩札ト壹兩札ト換ヘ金貨ト銀貨ヲ換ル類モアリ又什物ニテハ金時計ト銀時計ト換ル類モアルヘシ併シ到底什物ニハ犯情輕キ者モアルヘシ故ニ修正案ノ如クシテ可ナリ此錢糧什物ヲ區別スル「ハ雇人ノ條ニハ入用ナシ何トナレハ雇人ノ方ハ官物トハ情狀大ニ異ナル者アリ官員ノ官物ヲ取扱フトハ違ヒ雇人家長ノ間ハ親密ナルモノニテ其上ニ商人ノ錢糧ト什物ハ殆ト一物ナリ譬ヘハ藥店ノ藥種ニ於ケル紙店ノ紙類ニ於ケル皆商賣品ニシテ錢糧ト同キモノナレハ之ヲ區別セス一條トナシテ可ナリ

○九番佐々木高行曰　修正案ノ大體ニ就テハ論ナシ但十日ヲ過クレハ借物ヲ計リ坐贓ヲ以テ論シト改メテ可ナラン然ラスンハ若シ十日ヲ過ルトキハ贓ノ輕キ者ハ却テ五十日ヨリ輕クナルナラント誤解セン又次ノ所犯ノ二字ヲ犯情ノ二字ニ改テ可ナラン

○議長曰　曩ニ十二番ニ向テ論セシ如ク修正ノ修正ハ他日ニ附スヘシ

○十二番山口尙芳曰　此修正案ニ律ト條例トヲ區別スルニ就テ番外ノ說ヲ聞キ尙ホ熟考スルニ原案ヲ可トス改定律例ノ常人盗ノ條ニ官ノ財物ヲ盗ムト云フハ錢糧ト什物ヲ混シテ謂フナリ若シ修正ニ決スレハ此モ改メサル可カラス又修正ノ錢糧ノ條ニ私ニ借用スル者憑證アルハ一等ヲ減ス雇人盗家長財物律ニモ一等ヲ減ス而シテ什物ノ條ニハ管守スル者ノ借ルモ人ノ借ル者モ同ク論スルハ甚不可ナリ故ニ原案ト修正案ト孰レヲ存セントナラハ寧ロ原案ヲ存セン新律以來財物ト云ヘハ錢糧ヲ合シテ謂フナリ今回モ雇人盗家長財物條ハ舊ニ依テ區別セス私借官物條ニ至テ之ヲ區別スルハ不可ナリ故ニ原案ヲ可ナリトス

○番外一番篤田皓曰　前說只ラサル所アリ今一說ヲ引證セン盗大祀神御物盗乘輿服御物ノ律アリ均ク是重器ヲ盗ム者ナリ然ルニ新律綱領ノ絞ニ處スルヲ改定律例ニテ懲役終身ニ改メタリ然ルトキハ今官物ヲ借ル者ヲモ死ニ入ルハ不權衡ナラン

○三番陸奥宗光曰　今一回前說ヲ敷衍セン大祀神御ノ物ヲ盗ムモ懲役終身ナル故官物ヲ私借スル者ヲ死ニ入ルハ不可ナリトノ說アレトモ本邦ニテハ錢糧ヲ重ンス是今日ニモ監守盗ノ死ニ入ル所以ナリ但借リタルニテ盗ムニ違フトノ說アレ𪜈私借シテ其證ナキ時ハ即チ盗ナリ若シ證アレハ一等ヲ減スルニテ宜シ孰レ私借ト盗トハ殆ント同一ノモノナリ彼此ヲ通考スルニ修正案ニテ不可ナル所ナシ

○十二番山口尙芳曰　錢糧ト什物トヲ區別スルハ法意ニモ不都合アリ錢糧ハ倉庫ノ内ニ儲フ者ニテ他人ノ之ヲ借ル證書ナキニ歸スヘシ器具什物ハ之ヲ取ルニ容易ナル場處ニアルナリ又其價モ千圓以上ニ昂ル品物モアル可シ故ニ今日ニ到ルマテ區別セス贓ノ高ヲ以テ論スル「トナセリ仍テ原案ヲ存スルヲ可トス

○議長曰　修正案ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

起立者十二人

○議長曰　多數ヲ以テ修正案ニ決ス

午後〔第〕四時閉場

【註】右は明治九年一月十五日内閣より下附、二月十三日の會議に於て改正雇人盗家長財物律は修正に決し、其他は原案を可とし一月十五日上奏した。〔第十八號議案　參照〕

【參考】1司法省伺　八年三月十五日

雇人盗家長財物律監守盗常人盗ヲ以テ論スルハ苛酷ニ相涉候ニ付先般律例調書中ニモ御改正ノ儀伺置キ候處現今犯罪者夥多有之斷然現律ニ照シテ論スレハ死ニ入ル者モ不寡甚憫然ノ至候依テ右律速ニ御決定相成處刑充當ヲ得セシメ度若シ御決定ニ相成候ハヽ此ニ牽連抵觸スル所ノ私借官物律及ヒ雇人家長ノ財物ヲ私借スル例モ幷テ御決定有之度乃チ別紙律案御布告案相添此段相伺候也

追テ雇人家長ノ財物ヲ私借スル例ハ職制律私借官物條ニ入レ難ク因テ雜犯律費用受寄財產條ニ入レ第百四十四條ハ眞ノ雇入ニ非サルヲ以テ此條ヲ删去リ更ニ竊盗條ニ入レ候ヘハ體裁モ宜シカル可クト存候ニ付各條ヲ分ツテ相認メ差出候也

2 法制課議案　八年四月二十九日

別紙司法省上申雇人盗家長財物律御改正ノ儀審案候處右律例ハ固ヨリ苛酷ニ候ヘトモ其他之ニ類スル者少カラス且先般律例改正ノ儀同省ヨリ上申有之此條ハ即チ其一ニ付即今此條ノミ御更正有之候トモ全部御改正ノ節ハ其權衡ニ因リ尚又御改革可相成モ計リカタキヿヨヘ此條ハ姑ク舊貫ニ仍リ速ニ全部ニ御著手之有候方可然儀ト存候ヘトモ元老院ノ意見如何トモ難計且固ヨリ舊法改革ニ關スル儀ニ付同院ノ會議ニ附セラレ可然哉仰高裁候也

3 法制局議案　九年一月十四日

別紙司法省伺雇人盗家長財物律御改正ノ儀審案候處右ハ一タヒ元老院會議ニ付セラレ候ヘ尼其改正案中權衡ニ於テ猶穩當ナラサル廉有之候ニ付司法省主任ノ者ニ協議候處異議無之候間附箋ノ如ク御改正相成更ニ元老院議定ニ附セラレ可然哉豫メ議案相添ヘ仰高裁候也

4 元老院へ達　九年一月十五日

改定律例第百五條第百六條第百四十三條第百四十四條改正增加ノ議案

右其院議定ニ付スルノ勅ヲ奉ス

5 元老院上申　九年二月九日

去一月十五日下附アリシ處ノ改定律例第百五條第百六條第百四十三條第百四十四條改正增加ノ議案去月二十八日第二讀會ニ附シ本月三日第三讀會ニ於テ院議決定別紙修正案及意見書起草相成候ニ付供檢照候且右修正案決議會來ル十三日開場致シ候條此段併テ及上申候也

6 元老院上申　九年二月十五日

別紙改定律例第百五條第百六條第百四十三條第百四十四條改正增加ノ議ニ付本院議定書勅裁ヲ仰キ候爲メ御上奏有之度候也

7 元老院上奏　九年二月十五日

去一月十五日下付ノ改定律例第百五條第百六條第百四十三條第百四十四條改正增加ノ儀二月十三日院議ニ於テ改正雇人盗家長財物律及條例改正私借官物律ハ修正ヲ加フヘキニ決シ其他ハ原案ヲ可トス仍テ別紙修正案並ニ其修正スル所以ノ院議ヲ摘書シテ併テ之ヲ上奏ス、〔以上、法規分類大全・刑法門一ノ三五七〕

8 新律綱領及改定律例

德川政府既ニ倒レ明治維新ニ際シテハ暫時幕府ノ舊ニ依リテ其刑律ヲ用ヒタルカ專ラ寛仁ノ趣旨ニ從ヒ著著トシテ刑政改革ノ歩ヲ進メ明治元年四月先ツ假刑律ヲ編纂シタルモ其後三年十二月之ヲ廢シテ新律綱領ヲ制定シ六年六月更ニ改定律例ヲ頒布シテ明治十四年末マテ二者ヲ併セテ實施シタルカ其間ニ於テモ刑事法制ノ改廢少ナカラサリキ〔泉二新熊　日本刑法論　一五七〕

第四號議案

道路附橋梁法案答議
同附錄堤防法案答議

元老院會議筆記　明治九年二月五日

○第四號議案檢視會

出席議官

五番　有栖川宮
七番　長谷信篤
九番　佐々木高行
十番　佐野常民
十一番　秋月種樹
十二番　山口尚芳
十四番　柳原前光
十五番　松岡時敏
十六番　齋藤利行
十八番　吉井友實

午前第十時開場

○議長曰　本日ハ第四號議案ノ檢視會ヲ開ク各員例ニ遵テ檢視ス可シ

○書記官藤澤次謙戸田秋成　左ノ三案ヲ朗讀ス

道路附橋梁法案答議
道路橋梁法案答議附錄
堤防法案答議

○十番佐野常民曰　全篇ノ意議章句トモニ舊法ニ牴觸シ及不備不明ノ條款アルヿナシ只此原案ノ檢視ニノミ附セラレシ事ニ付テ一論ヲ發シ衆議ヲ取ラント要ス如何

○議長曰　本案ニ於テ牴觸及不備不明ノ條款ナクンハ宜シク條例ノ成規ニ遵ヒ發論ヲ禁スヘシ尤モ意見ノアルアラハ別ニ意見書ヲ提出シテ衆議ニ附スヘシ

○十番佐野常民曰　諾

○十二番山口尚芳曰　此檢視ノ事ニ論議アリテ開陳セント欲スルニ本案奉還上奏ノ後ニ至リテハ其論旨貫徹セサルモノアリ故ニ先ツ上奏ノ前ニ方ツテ之ヲ論センヿヲ要ス

○議長曰　本案ノ檢視ニ附セラレタルニ付テノ發議ナリト思ハル然ラハ抑檢視ト云フヿヨリ論シ起シ之ヲ破毀スルノ說

ヲ立テサルヲ得スト云フカ如シ固ヨリ欽定ノ成規ヲ破毀スルヲ得サルハ言ヲ竢タサルナリ

○十二番山口尚芳曰　此原案ハ甚タ民法ノ要目ニ係ル若シ之ヲシモ檢視ニ附セラルヽモノトセハ將來民法ニ關スル律令悉皆檢視ノミニ止ルノ端ヲ開クニ似タリ之ヲ論セサルヲ得ス

○議長曰　原案ハ書記官朗讀ノ後數秒時間抵觸及不備不明等ノ發論ナシ故ニ檢視ハ既ニ經過セシモノナリ今此檢視ト云フヲ破毀スルカ又ハ此原案ハ手續キヲ經テ上奏シ然シテ後檢視ノフニ付テ意見アラハ別ニ議ヲ開テ衆論ヲ取ルヘキカノ二岐ニアリ今若シ檢視ヲ破毀スルノ議ナラハ本日直ニ其會ヲ開クヘシ若シ破毀スルノ說ニアラスンハ本日ノ檢視ハ條例ノ成視ヲ遵行シテ後別ニ意見書提出ノ手續ヲ以テ議會ヲ開クヘキナリ

○十二番山口尚芳曰　原案ハ議席朗讀ノ時ヲ以テ初テ公然ニナリタルモノトス故ニ原案ヲ檢視シテ始テ其不當ナリトノ意見ヲ發生シ來リシナリ宜シク上奏前ニ建議セスンハアラス

原文註云云破壞ノ字ノ論アリ略ス

○議長曰　十二番ノ論旨其要領ヲ詳ニセス譬ヘハ此原案ヲ檢視ニ附スルヲ不當トノ意見アリ依テ檢視ヲ經スシテ之ヲ論議スルカ又ハ此原案ハ規則ニ遵ヒ奉還シ別ニ檢視ノフニ附テ意見ヲ上ルカノ二者ヲ分タサレハ之ヲ經理處分スルノ方向ヲ得ス故ニ兩議ノ分別明瞭ニ說明アルヘシ

○十二番山口尚芳曰　之ヲ檢視ニ附スルト否ラサルトノ別ハ內閣ノ意ニアリトハ章程ニ明文アリ敢テ議ヲ容レス否只此原案ハ民法ノ要目ナリ之ヲ檢視トスルトハ又本院立法ノ權限ニ關觸スルモノアリ故ニ遺憾ナキ能ハス之ヲ論スルノミ

○議長曰　其主意ハ了解セリ其說ノ方向ヲ聞クノミニアラス之ヲ取扱フノ手續ヲ聞カサレハ其取扱ヲナシカタシ原案檢視ノ當否ヲ論スルナラハ退テ再ヒ席ヲ開クヘシ若シ之ヲ破毀スルノ論ナラハ今直ニ其會ヲ開テ衆議ヲ取ルヘシ今日ノ席ハ檢視ノ會ヨリ成リ立チタリ故ニ其二岐ノ分ヲ說カン

○十二番山口尚芳曰　此原案ノ檢視ニ附セラルルハ異存ナシ今此原案ハ奉還シテ向後此ノ如キ法律ノ種類ハ必ス檢視ニノミ附スヘキニアラス議定ニ附セラルヘシト云ノ意見書ヲ上ラハ遺憾アルフナシ

○議長曰　十二番ノ說ノ如ク檢視ノ意義ニ付テ本院ノ權限ヲ論スルナラハ衆議ヲ取リテ之ヲ決スヘシ

○十一番秋月種樹曰　十二番ニ問ハントス此檢視ノ條款ニ付權限ヲ論スル意ナリヤ又ハ案中ニ就テ論議ノアルナリヤ

○議長曰　十二番答辯セヨ

○十二番山口尚芳曰　固ヨリ案中ノ條款ニ付テ可否ヲ論スルノ權ナシ今本院ノ檢視ヲ經テ之ヲ上奏スル以上ハ卽チ國法トナルナリ如此セハ向後民法ニ關スル立法ハ一切檢視トナルノ例規ヲ創ムルニ似タリ仍テ之ヲ憂フルノミ

○十一番秋月種樹曰　檢視ト議案トノ類別ハ內閣ノ意ニアリ今此原案カ民法ナリトテ條例ヲ履マツシテ建議スルハ穩當ナラス別ニ論議ヲ開キテ院議ヲ開申スヘシ然ラハ只此原案ノ民法ニ關スルト云ノミナラス刑法治罪法其他總テ五法ニ關スル條件ニ論及スヘシ

○十番佐野常民曰　檢視ト議定トハ內閣ニ於テ定ムルトハ章程ニ明文アリ又論議ノ權ナシトノ條例ヲ遵奉セシ以上ハ又此原案ヲ論議スルフ能ハス然レトモ全國道路ノ制ヲ定ムルハ民法上ノ要目タリ然ルニ之ヲ檢視ニ附セラル主趣ノ向フ處了解シ得タシ宜シク先ツ檢視上奏ノ前內閣ニ向ツテ其檢視議定類別ノ目的ヲ問ヲ至當トス

○十五番松岡時敏曰　曩日議定ニ附セラレシ丁年制度ノ議ハ卽チ民法ノ大眼目ナリ今日ノ檢視案ノミ民法ナリト云ヘカラス然ルニ前日ハ既ニ議定ニ附セラレ今日ハ檢視ニ附セラル其輕重其他ノ別ニヨツテ內閣ノ所見アル固ヨリ條例ノ所揭ナリ若シ意見アラハ別ニ會議ヲ開クヘシ目今議論ハ甚タ條例ノ成規ニ犯觸ス宜シク速ニ此議ヲ閉スヘシ

○十二番山口尚芳曰　十五番ノ說ニテ丁年制度ノ議定ニ附セラレシ事ヲ思ヘハ此檢視案ヲ以テ民法ノ議ハ檢視ヲ以テ創ムルト見做スヘキノ說ハ銷盡セリ然ラハ只此原案ハ檢視ニ附セラルヘキニアラス議定ニ附セラルヘキモノナリト云フ意見ヲ上ラサルヲ得ス

○議長曰　然ラハ此原案ノ檢視ヲ中止シテ先ツ檢視議定ノ辨別ヲ內閣ニ問フヘキノ事ト原案ハ檢視上奏シテ後別ニ意見書ヲ呈進スルカノ兩岐ニ就テ決議ヲ取ルヘシ

○十二番山口尚芳曰　假令此檢視ヲ經スシテ意見ヲ開陳スルモ尙前日私娼街賣條例廢止ノ事ニ付建言アリシモ同樣ノ手續ニ取扱ハヽ別ニ不可ナルナカルヘシ

○十五番松岡時敏曰　今日ノ案ハ條例ヲ遵行シテ滯リナク上奏スルヲ可トス丁年ノ議ハ之ヲ議定ニ附セラレ道路堤防ハ之ヲ檢視ニノミ附セラルヽ事ノ區別ハ解シカタキニ似タレトモ廟議深意ノ存スルアラン宜シク速ニ檢視ヲ遂クヘシ

○十二番山口尚芳曰　此意見ヲ開陳スルノ議ハ議長ノ權內ニ在リ宜ク速ニ之ヲ開クヲ可トス

○議長曰　十二番ニ問ハントス議長ノ權ヲ以テ議會ヲ開クヘシト云ハ丁年ノ議ト此同ノ原案ヲ檢視ニ附セラレタルトノ

辨別如何ヲ伺ヒ出ツヘキノ議ヲ開カントスルノ謂ナリヤ

○十二番　山口尚芳曰　既定ノ法ニ違ヒテ之ヲ檢視ニ附セラレシ所以ノモノヲ論セントスルナリ

○議長曰　凡ソ民法ノミナラス法律ノ事ハ一切必ス之ヲ議定ニ附スルト云フヿハ未タ曾テ之ヲ政府ニ聞カス抑事ニ輕重アリ之レ類別ノ字アル所以ナリ法ノ種類ヲ以テ必ス議定ニ附スルト否ラサルトヲ定ムルノ理ナシ十二番ニ於テハ尚ホ前說ヲ主張スヘキヤ

〔原文註　卽原案上奏前權限云々ヲ上陳スルノ說〕

○十二番　山口尚芳曰　然リ

○議長曰　十番ニ問フ此原案ヲ奉還セサルノ前檢視類別如何ヲ內閣ニ問ハントスルノ說尙ホ前議ノ通ナリヤ

○十番　佐野常民曰　然リ

○議長曰　原案檢視ヲ取テ上奏セサルノ前其檢視ニ附セラレシ事ノ不的當ナルヲ上陳スルノ說ト檢視ノ成規ヲ履ミタル上別ニ論議ヲ開申スルトノ二岐ニ涉ル仍テ今其第一議ニ就テ議決ヲ取ラントス則チ第一議ニ同意ノ議官ハ起立ス可シ

起立者四人

○議長曰　第一議ハ少數ナルヲ以テ第二議ノ檢視ノ成規ヲ履ミ別ニ上陳スルノ說ニ決セリ

○議長曰　意見書ヲ作ルヘキカ又否ラサルカノ決ヲ取ラントス今意見書ヲ作ルニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

起立者九人

○議長曰　多數ナルヲ以テ意見書ヲ作ルニ決セリ

註　右は明治八年七月三日、五日及十三日當時下院に擬せられたる地方官會議に於て各々決定せる議案を更に上院に擬せられたる元老院の檢視に附する爲め明治九年一月廿五日內閣より下附されたもので、元老院は二月五日之を檢視し同日上奏した。道路橋梁法案答議、同答議附錄は九年六月八日太政官第六十號を以て達せられた。又堤防法案答議は同日太政官第五十九號を以て達せられた。尙本檢視會に提出されたる議案は九年六月發布の布告文か又は前年地方官會議に於ける決議文か不明であるが參考文獻として兩方とも採錄した。

〔參考〕1 地方官會議ヲ開ルノ詔　八年七月十七日

會議終ルヲ告ク朕深ク汝各官ノ能ク誠ヲ致シ言ヲ竭スヲ嘉ミス奏スル所ノ答議ハ更ニ元老院ノ議ヲ徵シ朕親ラ之ヲ裁スヘシ汝各官自今往テ常職ニ就キ益爾ノ力ヲ盡シ以テ我カ治ヲ贊ケヨ

2 元老院副議長後藤象二郎上奏　八年五月二十三日

臣象二郎本月五日ノ達書ヲ拜觀スルニ各地方官ヲシテ六月二十日ヲ以テ東京ニ集會セシム蓋シ客歲五月二日ノ　勅諭及ヒ議院憲法等ニ基ク所ナリ而シテ　詔書ニ云ク　朕踐祚ノ初神明ニ誓ヒシ旨意ニ基キ漸次ニ之ヲ擴充シ全國代議人ヲ召集シ公議輿論ヲ以テ律法ヲ定ムト又曰ク先ツ地方ノ長官ヲ召集シ人民ニ代リ協同公議セシム云云乃チ知ル地方官ノ會議タルヤ夫ノ律法ヲ立定スルニ於テ未タ必スシモ關與スル所無キニハアラス又案スルニ曩キニ地方官ヲ召集スルニ方テ未タ元老院ノ設ケ有ラス故ニ其事他ニ關與スル所無シ然トモ今日ニ至テハ則チ然ラス本院ハ所謂新法ノ設立舊法ノ改正ヲ論セス玆ニ議定セサルコト無キ者ニシテ卽チ　陛下律法ヲ立定スルノ權制ニ參與スル者ナリ然ラハ則地方官ノ會議決定スル者ト雖モ苟モ本院權限ト關與スル所ノ者ハ其上奏スルノ前必ス先ツ本院ニ送致シ本院協同商議ヲ經テ然ル後之ヲシテ初メテ　陛下ノ允裁ヲ請フヲ得セシムヘシ此ノ如クンハ庶幾其立法ノ權ニ於テ合同一致ノ宜シキヲ得敍異錯出ノ害ヲ除キ秩序ニ就ク所アラン抑此事タル本院ノ職掌ニ於テ其關係スル洵トニ少小ニアラス且ツ臣象二郎本院章程增補改正ノ叡旨ヲ奉シ現今從事スル所ニシテ地方官會議ニ關與スル所ノ權限ニ至リテハ最モ勘査審定セサル可カラス是今日ノ急務タリ伏シテ願クハ速カニ本議ヲ決シ之ヲ地方官ニ　勅諭アランコトヲ謹テ上奏ス

〔以上、法規分類大全一・官職門一七／五六〕

---

3 道路附橋梁法案答議

第一條

明治六年八月大藏省ノ布達タル東海中山陸羽道ノ如キ云々ト揭載シタル而已ニ過キス爾來各府縣ノ申牒ヲ檢スルニ甲ハ認テ一等トシ乙ハ二等トスルモノアリ此ノ如ク齟齬スル所以ノ者ハ他ナシ路線ノ起ル處ト其達スル地位等ヲ明言セサルヲ以テナリ故ニ之ヲ廢シテ更ニ良制ヲ立テサルヘカラス

第二條

抑道路ハ內外ノ交誼ヲ遂ケ物產ヲ通シ全國ノ脈絡ヲ暢達スル爲メニシテ其興廢ハ國土ノ隆衰ニ關スル者ナレハ首府ヨリ各開港場ニ達シ外國ノ交通ニ係ル者及ヒ各鎭臺各府縣廳ニ達シ或ハ各鎭臺各府縣ヲ拘聯シ人民ノ保護ニ關スル者其他村市ノ爲ニ設クル者等ヲ大別シテ三道ト爲シ各道每ニ之ヲ三等ニ小分スル左ノ如シ

國道

一等　東京ヨリ各開港場ニ達スル者

二等　東京ヨリ伊勢ノ宗廟及各村各鎭臺ニ達スル者

三等　東京ヨリ各縣廳ニ達スル者、及各府各鎭臺ヲ拘聯スル者

縣道

一等　各縣ニ接續シ及各鎮臺ヨリ各分營ニ達スル者

二等　各府縣本廳ヨリ其支廳ニ達スル者

三等　著名ノ區ヨリ都府ニ達シ或ハ其區ニ往還スヘキ便宜ノ海港ニ達スル者

里道

一等　彼此ノ數區ヲ貫通シ或ハ甲區ヨリ乙區ノミニ達スル者

二等　用水堤防牧畜坑山製造所等ノ爲メ該區人民ノ協議ニ依テ別段ニ設クル者

三等　神社佛閣及田畑耕耘ノ爲ニ設クル者

右ノ內一道ニシテ各種ヲ兼ル者ハ其類ノ重キ者ニ從フ國道幷縣道ノ道幅其土地ノ景況ニ據テ各地各殊ナル者ナレハ今遽ニ之ヲ一定シ實地ニ施行スヘカラスト雖モ預メ一般ノ法則無キ時ハ道路ヨリ生スル百般ノ事件其準據ヲ失フノ患アリ仍テ左ノ定ヲ以テ一般ノ法則ト爲シ且將來新設スル所ノ道路ハ其土地ノ便宜ニヨリ此道幅ヲ保タシメントス

國道

一等　道幅七間

二等　同　六間

三等　同　五間

縣道　同　四間乃至五間

里道ニ至テハ要スルニ該區ノ利便ヲ達スルニ在テ其關係スル所隨テ小ナレハ必ス之ヲ一定スルヲ要セス

第三條

前件ノ議ニ因リテ道路ノ種類ヲ判定シタル上ハ橋梁ハ卽チ路脈ヲ互續スル者ナルヲ以テ道路ノ種類ニ隨フヲ至當トス然レ𪜈其幅ノ如キハ必スシモ道幅ニ隨フヲ要セス

第四條

既ニ道路ノ種類ヲ分チタル上ハ其種類ニ應シテ國費縣費區費ノ別ヲ定メ又其一路線中ト雖モ工事ノ輕重ニ於テ政府ト地方トノ分任スル制限ヲ定メサルヘカラス然ルニ本邦經緯租ノ制未タ立サルヲ以テ今遽カニ之レカ出費ノ制限ヲ確定シ難シト雖モ實際ニ就キ之ヲ考ルニ亦費用ノ出處ヲ定メサルヲ得サルモノアレハ假リニ其制ヲ立ル如左

國道　國費

縣道　國費　縣費折半

里道　區費

各地從來ノ制ヲ見ルニ或ハ富藩主ノ城郭居館遊園又ハ鎭守菩提寺祈願所等ノ爲メニ設ケ殊ニ藩費ヲ以テ支給シ來リ置縣以來之ヲ國費ト爲ト爲スモノアリ此等ノ類ハ實際ニ就キ之ヲ改正セントヲ要ス

但人民ノ協議ニ依リ該縣一般ヘ負擔シ其費ノ課出ヲ爲ス等ハ其地方ノ適宜ニ任ス

第五條

牧畜鑛山製造所等ノ爲メニ設クル者ノ如キハ工費共其所有主ノ擔任スル所トス但新築更正等ニ係ルモノハ其區內ノ區戶長ニ稟議シ地方廳ノ許可ヲ得テ施行スヘシ

第六條

橋梁幷ニ渡船ハ路線水ノ爲メニ切斷セラル、ヲ互續スル者ナレハ道路ノ制ニ準シテ處分スヘシ尤縣道里道ト雖モ或ハ大河ニ切斷セラレ或ハ絕壁ニ支障セラル、等ニテ公益ニ關スル巨大ノ工事ヲ要スルモノハ其實際ニ就テ之ヲ內務省ニ稟議シ費用ノ幾分ヲ國庫ヨリ助給スルヿアルヘシ

第七條

國道縣道ニ係ル橋梁渡船等ハ工事經費トモ第一條第二條ニ準シ之ヲ處分スヘキモノナレ𪜈人民ノ篤志ニ出テ自費ヲ以テ築造シ國費ヲ助ケントスルモノハ情願ニ任スヘシ尤其後年保存ノ費用モ之ニ同シト雖モ若シ之ヲ辯スル能ハサルモノハ道路ノ制ニ依テ處分スヘシ

第八條

國道縣道ヲ遮斷シテ村里又ハ田園等ノ爲メニ河川ヲ通シ又溝渠ヲ鑿ル類其國道縣道ニ架スル橋梁ハ其便益ヲ得ル村里及田園所

第一條

國道ハ全國ノ公有ニ屬スルヲ以テ內務省ノ直管トス其維持保存及掃除ノ方法ハ沿道地方官ニ於テ適宜之カ處分ヲナシ其新築更正及修繕ハ土木寮ノ擔任トシ工事ハ地方官ニ委托シ經費ハ國庫ヨリ給スヘキモノトス

但一項ノ工費五百圓以下ノ修繕ハ地方官ニテ處分ノ上申出ヘシ

第二條

縣道ハ各縣ノ公有ニ屬スルヲ以テ內務省ニ於テ之ヲ統管ス其工事ハ地方ノ擔任スルトコロト雖モ新築更正ニ係ルモノハ內務省ニ稟議スヘシ費用ハ總テ其一半ヲ縣內ニ賦課シ其一半ヲ國庫ヨリ給スルモノトス

第三條

前條ノ如シト雖モ瑣々タル修繕及維持保存幷掃除等ノ費用ハ地方官ニ於テ適宜之ヲ縣內ニ賦課スヘシ然レトモ霪雨或ハ洪水等ノ爲メ破損ニ至ルモノハ其費用前條ニ依テ處分スヘシ

第四條

里道ハ各區ノ公有ニ屬スルヲ以テ地方官ノ統管トス其工事及費用ハ該區內ニ於テ擔任シ尋常維持保存及掃除等ハ區戶長協議ノ上便宜處分スヘシ

道路附橋梁法案答議、同附錄　堤防法案答議

有主ノ擔任タル可シ

第九條

三府三港ノ市街ハ三道ノ例ニ仍リ難キヲ以テ之ヲ特別ノモノトス

第十條

國道ノ幅ハ一等ヲ七間トシ二等ヲ六間トシ三等ヲ五間トシ縣道ハ四間乃至五間トス

但本文ハ前途ノ目的ヲ立ルモノナレハ其施設ノ如キハ各地ノ實況ニ依リ緩急アルヘシ

第十一條

凡道幅ハ路傍左右ノ水ハキ又ハ並木等ノ敷地ヲ算入セサルモノトス

第十二條

水ハキ並木等ノ敷地幅ハ實地適當ナル詞ヲ以テ內務省ヘ申立ヘシ

第十三條

橋梁ハ道路ノ種類ニ隨フヘシト雖モ其幅ノ如キハ必スシモ道路ニ隨フヲ要セス唯橋際ハ成ヘキ丈ケ餘地ヲ設ケ車馬衝突ノ累ヲ防クヲ要ス

第十四條

三道ノ等位他日必ス變換スヘキモノト思量セハ三等ノ格位ニ拘

5 堤防法案答議

泥セス實際ノ見込ヲ以テ內務省ヘ申立ヘシ

第一條

河川ニ等級ヲ施スハ去ル明治六年八月大藏省ノ布達ヲ始トス爾來幹川ハ一等トシ派川ハ二等トシ支川ハ三等トスルノ體ニ歸セリ此レ治理ノ方ヲ得タリトスルカ抑河川ノ狀タルヤ山嶽ノ傾斜面ヨリ雨水ヲ流送シ來リ平地ニ至リ合流スル者ナリ然リ而シテ地質ニ難易アリ水勢ニ强弱アリ是ヲ以テ砂土ノ流落ニ因スル害ハ源流ヲ良好ニ維持シ河床堆游ノ害ヲ除カサル可カラス流力ノ速度ニ因スル害ハ雨水ノ河床ニ歸スルヲ遲澁セシメ下流衝激ノ因ヲ減セサル可カラス河水ノ溜潦ニ因スル害ハ更ニ流路ヲ適度ニ開イテ海ニ放チ橫溢ノ因ヲ減セサル可カラス是等ノ諸工概ネ幹川ニ輕クシテ支派ニ重シ然ルトキハ則幹派支ノ等別要スルニ其當ヲ得ス今之ヲ廢セサルヲ得ス

第二條

河水ハ降雨ノ量ニ因テ活動スル者ナレハ其治理ノ法ニ於ケルモ每川差異無キヲ保タス故ニ各地ノ實際ニ付キ官民ノ協議ヲ以テ適應ナル方法ヲ設ケサル可カラス然リト雖モ其工事地方ノ力ニ及ヒ難キ者ハ內務省ニ負荷シ工費ノ出處ハ第五條第六條ニ依ルヘシ

第三條

治水ノ法ヲ大別シテ二トス曰豫防ノ工曰防禦ノ工ナリ豫防ノ工ハ禍害ノ因ヲ減スルモノニシテ防禦ノ工ハ禍害ノ現ニ來ルヲ防ク者トス其目概ネ左ノ如シ

預防ノ工ニ屬スル者

上流壑澤ニ草木ヲ繁茂セシムル事

橫渠ヲ山腹ニ設ル事

瀧堰ヲ溪澗ニ築ク事

平原ニ至リ地ヲ選テ溜池ヲ開ク事

以上雨水ノ河床ニ歸スルヲ遲澁セシメ下流暴漲ノ因ヲ減シ併テ砂土ノ流落河床堆游ノ害ヲ防ク者

河ノ流心ヲ矯ル事

河積ヲ適度ニ保ツ事

洲及島嶼位置ノ便宜ニ從ヒ之ヲ一方ノ岸ニ結ンテ亂流ヲ防ク事

河內ノ障碍及流降ヲ妨クル築物ノ類ヲ除キテ流降ヲ快フスル事

放水ノ節度

以上河流ヲ良好ニ維持シ衝激澁滯河床堆游水面亢隆橫溢等ノ害ヲ除キ併セテ舟運ノ便益ヲ計ル者

防禦ノ工ニ屬スル者

沿水本支ノ堤防

道路附橋梁法案答議、同附錄　堤防法案答議

堤外前地ノ保護

護岸ノ工

以上水ノ地ヲ侵スヲ防禦スル者

第四條

工費ノ出ツル處從來各區其制ヲ殊ニシ一村內ニ於テモ亦異同アルニ至ル一時之ヲ改ント欲スルモ其勢行ハレサル者アル故ニ地租ノ改正ニ從テ漸次之ヲ改定センヿヲ要ス

第五條

本邦ノ地勢ヲ見ルニ流域ノ全國ニ跨ル者アルヿナク其最モ大ナル者ト雖モ僅ニ一局部ヲ占ムルニ過キサレハ其工費ヲ負荷スルモ亦其局部ノ地方ニ於テ適宜ノ割合ヲ定ムルヲ當然トス尤河狀ノ難ナル民產ノ薄キ實力ノ堪ヘサル者ハ國庫ヨリ助救セサルヲ得ス

但局部ノ定メハ各縣ニ跨ル者ヲ內務省ヨリ處分シ一縣內ニ止ル者ヲ其地方廳ニ於テ處分スヘシ

第六條

前條ノ如シト雖モ方今地租ノ改正ニ際シ且經緯租ノ制立サレハ今俄ニ之ヲ確定シ難シ依テ工費ハ暫ク從來ノ仕來リニ準據シ尙從前官費ノ確證ナキ者ト雖モ實地民力ノ及ヒ難キモノハ其景況詳細內務省ヘ開申シ官費ヲ仰クヘシ

但從來人夫諸品等舊草高ニ賦課スル者ハ地租改正ニ隨ヒ地價

ニ賦課スヘシ

〔以上、地方官會議日誌。明治文化全集四ノ二九八　三〇二　三三四〕

6 太政官達第五十九號　明治九年六月八日

明治六年八月大藏省ヨリ相達候河港等級ノ儀ハ渾テ相廢シ候條此旨可相心得尤工事及費用ノ儀ハ先從前ノ通可相心得此旨相達候事

〔註〕明治九年內務省達乙第八十三號（九年法令全書　五九三）參看

7 太政官達第六十號　明治九年六月八日

明治六年八月大藏省ヨリ相達候道路ノ等級ヲ廢シ更ニ別紙ノ通相定候條右分類等級各管內限詳細取調內務省ヘ可伺出此旨相達候事

但費用ノ儀ハ追テ一般布告候迄從前ノ通相心得ヘシ

國　道

一等　東京ヨリ各開港場ニ達スルモノ

二等　東京ヨリ伊勢ノ宗廟及各府各鎭臺ニ達スルモノ

三等　東京ヨリ各縣廳ニ達スルモノ及各府各鎭臺ヲ拘聯スルモノ

縣　道

一等　各縣ヲ接續シ及各鎭臺ヨリ各分營ニ達スルモノ

二等　各府縣本廳ヨリ其支廳ニ達スルモノ

三等　著名ノ區ヨリ都府ニ達シ或ハ其區ニ往還スヘキ便宜ノ海港等ニ達スルモノ

里　道

一等　彼此ノ數區ヲ貫通シ或ハ甲區ヨリ乙區ニ達スルモノ

二等　用水堤防牧畜坑山製造所等ノタメ該區人民ノ協議ニ依テ別段ニ設クルモノ

三等　神社佛閣及田畑耕耘ノ爲ニ設クルモノ

右ノ內一道ニシテ各種ヲ兼ルモノハ其類ノ重キモノニ從フ國道並縣道ノ道幅其土地ノ景況ニ據テ各地各殊ナルモノナレハ今遽ニ之ヲ一定シ實地ニ施行スヘカラスト雖豫メ一般ノ法則ナキ時ハ道路ヨリ生スル百般ノ事件其準據ヲ失フノ患アリ仍テ左ノ定ヲ以テ一般ノ法則ト爲シ且將來新設スル所ノ道路ハ其土地ノ便宜ニヨリ此道幅ヲ保タシムヘシ

國　道

一等道幅　七間

二等道幅　六間

三等道幅　五間

里　道

道幅四間乃至五間

里道ニ至テハ要スルニ該區ノ利便ヲ達スルニ在テ其關係スル所隨テ小ナレハ必ス之ヲ一定スルヲ要セス

橋梁ハ即チ路線ヲ互續スルモノナルヲ以テ道路ノ種類ニ隨フヲ至當トス然レモ其幅ノ如キハ必スシモ道幅ニ隨フヲ要セス

〔註〕明治九年內務省達乙第七十三號（九年法令全書　五八〇）參看

第五號議案

懲役人又犯罪條例及懲役人逃條例

元老院會議筆記　明治九年二月二日

○第五號議案第一讀會

議長代理　陸奥宗光

出席議官

一番　壬生基修　　二番　松岡時敏

五番　齋藤利行　　八番　河野敏鎌

九番　秋月種樹　　十三番　佐野常民

十四番　柳原前光　　十五番　黑田清綱

十六番　有栖川宮　　十七番　津田出

十八番　長谷信篤　　十九番　佐々木高行

午前第十時十五分着席

○議長陸奥宗光曰　各議官ノ番號ハ每月初メニ改ムル例ナレモ前月ヨリ引續キノ會議ニ付今改メテハ筆記上不都合ヲ生スル故先ツ前月ノ番號ニ依テ會ヲ開カン

○又曰　本日ハ第五號議案ノ第一讀會ヲナシ續テ第三號議案ノ第三讀決議會ヲ開クヘシ

○書記官藤澤次謙　左ノ二條ヲ朗讀ス

懲役人又犯罪條例

凡懲役終身ノ囚人又百日以下ノ罪ヲ犯ス者ハ第五條ニ照シテ棒鎖ヲ科シ壹年以上ノ罪ヲ犯ス者ハ四日以上七日以下ノ棒鎖五年以上ノ罪ヲ犯ス者ハ八日以上十日以下ノ棒鎖ヲ科ス懲役終身ノ罪ヲ犯ス者ハ絞

懲役人逃條例

凡懲役終身ノ囚人逃走スル者ハ棒鎖三日再ヒ逃走スル者ハ

絞

凡懲役終身ノ囚人逃走シ外ニ在テ又罪ヲ犯ス者ハ懲役人又犯罪條内懲役終身ノ囚人又罪ヲ犯スノ例ニ照シテ科斷ス

〔原文點〕第三號議案第三讀會筆記ハ別冊ニ載ス

元老院會議筆記　明治九年二月七日

○第五號議按第二讀會

午前第十一時開場　　十五番　松岡時敏

出席議官

一番　壬生基修
二番　黑田清綱
三番　陸奥宗光
五番　有栖川宮
七番　長谷信篤
九番　佐々木高行
十番　佐野常民
十一番　秋月種樹
十二番　山口尙芳
十四番　柳原前光

○議長曰　本日ハ第五號議按ノ第二讀會ヲ開ク各員例ニ遵テ討論ス可シ

○書記官藤澤次謙　左ノ一條ヲ朗讀ス

懲役人又犯罪條例

○十一番秋月種樹曰　原按ノ文意ニテ異論ナシ併シ日數比例ノ「少々說アリ突然ト第五條トアルハ律例ニ入リタル上ハ解スヘシト雖モ只此所ヘ突出シテハ解シ難カラン又タ一年以上云々ハ四日以上八日以下トシ五年以上云々ハ九日以上十一日以下トシテ修正スル方〔可〕ナルヘシ

○十四番柳原前光曰　十一番ト同說ナリ且名例律第五條ニ棒鎖ノ日數ヲ定ム其原笞一十ヨリ五十ニ至ルハ一日原杖六十ヨリ七十ニ至ルハ二日八十ヨリ一百ニ至ルハ三日トアリ懲役年數ノ如キモ亦各等差アリ其比例ヲ推ストキハ其條ノ日數モ十一番ノ說ノ如ク修正ヲ加ヘテ可ナラン

○三番陸奥宗光曰　原按ニテ可ナリ十一番第五條ノ字ニ付說アレモ此ハ改定律例ヲ此ノ如ク改正スル事ナレハ此ノ通リニテ宜シ且又日數比例ノ「ハ元ヨリ五刑條例ニアル如ク笞杖徒流ヲ懲役ニ改メ笞一十ヨリ五十ニ至ルヲ棒鎖一日又タ八十ヨリ一百ニ至ルヲ棒鎖三日ト縮メ定メタルモノニテ此ノ儘ニテ差閊ナシ故ニ原按ニテ可ナリ

○十六番齋藤利行曰　三番ト同意ナリ

○九番佐々木高行曰　三番ト同意ナリ

○議長曰　本條ニ於テ各議官ノ討論ハ既ニ畢レリト認ム依テ次條ヲ討論ス可シ

○書記官藤澤次謙　左ノ一條ヲ朗讀ス

懲役人逃條例

○九番佐々木高行曰　原按ニテ可ナリ其所以ハ新律綱領ニテハ死ニ入ルヲ改メテ棒鎖三日ニ定ム其意ヲ推究スルニ囚人ノ一度逃走スルヲ以テ直チニ死ニ入ルハ甚酷ナリ併シ終身懲役ニモナル程ノ者ハ姦惡ナル者ユヘ嚴ニ懲スヘキ說モアレトモ監獄則モアリテ囚人ニ善ヲ勸ムル樣ノ設ケアル上ハ追々戒心シテ逃走スル者モ少ナキニ至ルヘシ然レハ嚴刑ヲノミ用ヒテハ不可ナリ總テ死刑ハ減シテ可ナラント思考ス因テ原按ヲ可ナリトス

○十六番山口尙芳曰　九番ノ說ノ如ク原按ヲ可トス

○十一番秋月種樹曰　九番ト同意ナリ併シ懲役終身ノ者外ニ在テ又罪ヲ犯ス時ハ棒鎖三日ヲ科シ尙ホ懲役人又犯罪條例ニ照シ罪ヲ科スル事ナルヘシト雖モ此處其明文ナシ故ニ外ニ在テ又罪ヲ犯ス者ハノ下ニ棒鎖三日ヲ科シノ字ヲ加ヘ可然ナリ

○十六番齋藤利行曰　十一番ノ說アレモ棒鎖三日ハ只逃走スル者ノミノ罪ニシテ外ニ在テ又タ罪ヲ犯ス者ハ遂ニ絞トナル故ニ棒鎖ノ事ハ加フルニ及ハス

○十四番柳原前光曰　十一番ト同論ナリ十六番ノ說ハ解シ難キアリ外ニ在テ又罪ヲ犯ス者ハ逃走スル罪ト又犯ス罪トアリ故ニ逃走ノ罪ヲ科シタル上又外ニ在テ犯ス罪ヲ科スヘキモノナリ只又犯罪ノ例ヲノミ用フルハ前條ニ返テ處分スルモノナリ此處ハ二ツノ罪アルモノ故二罪ヲ科スヘキナリ

○三番陸奥宗光曰　十六番ノ說ハ明了ナラスト雖モ余ノ說ハ亦十一番十四番トモ反對ス今十一番十四番ノ說ニ二罪俱ニ科スルトアレト日本律ハ二罪俱發以重論ト云「アレハ原按ニテ可ナリ

○九番佐々木高行曰　三番ト同意原按ヲ可トス

○十番佐野常民曰　懲役終身ノ囚人逃走スレハ絞トアルヲ一等宥ムルハ可ナリ併シ棒鎖三日ノ罪ニ科スルハ輕キニ過キン其譯ハ懲役終身ノ囚人逃走スレハ絞ニ處スナリ之レニ代ルニ又罪ヲ犯ス時ハ棒鎖三日ヲ科シ尙ホ懲役人又犯罪條例ニ照シ罪ヲ科スル事ナルヘシト雖モ此處其明文ナシ故ニ外ニ在テ又罪ヲ犯ス者ハノ下ニ棒鎖三日ヲ科シノ字ヲ加ヘ可然ナリ

棒鎖三日ヲ以テスルハ不當ナリ改定律三百一條ニ五年以上ノ囚人逃走スル者棒鎖二日尚ホ原犯ノ年限ニ照シ新ニ拘役ストアリ是レ棒鎖ノ上ニ元ヘ引戻シテ罪ヲ科スルナリ懲役終身ノ者ハ元ヘ引戻スヿナシ難シ若シ之レヲ棒鎖三日ノミニ科セハ則チ二日ニ一日ヲ加ヘタル三日ヲ以テ死罪ニ代ヘルナリ恐クハ輕ニ失セン然レ𪜈棒鎖ノ罪ハ三日ヨリ以上ナシトセハ或ハ可ナラン然𪜈今十日ヲ以テ極度トス然レハ懲役終身ノ囚人ハ棒鎖日數ノ極度ヲ以テスヘキナリ

○三番陸奥宗光曰　十番ノ說ハ兩條ヲ混淆シテ見ルナラン改定律二百九十八條以下ヲ見レハ分明ナリ棒鎖三日ハ極度トナル故ニ原按ニテ可ナリ

○十番佐野常民曰　三番ニ於テ混淆セシト論スレ𪜈混淆セシニハ非ス改定律三百一條五年以上ノ囚人限內逃走スルトハ外ニ在テ別罪ヲ犯スモノニ非ス只逃走スルノ罪ナリ然ルニ棒鎖二日ノ上元ノ處ヘ引戻シテ新ニ拘役ス然ルニ懲役終身ノ者ハ僅一日ヲ加ヘテ三日トス則チ輕トスルナリ

○三番陸奥宗光曰　十番ノ再說ニテ混淆セサルヿハ稍明了ナリ然レ𪜈第二百九十九條ニモ載スル如ク懲役百日以下ノ囚人ナレハ新ニ拘役スルヿヲ得ルト雖𪜈之ハ懲役終身ノ者ナレハ元ノ處ヘ引戻スヿヲ得ス故ニ三日ヲ以テ可ナリトス且其身已ニ懲役終身ノモノナレハ棒鎖三日ノ后之ヲ免スニ非ス

○十二番山口尚芳曰　原按ニテ異論ナシ一體一年位ノ役囚ハ復タ世ニ出ルヿヲ得ル終身ノ役囚ハ復タ天日ヲ視ルヿヲ得ス故ニ監護人ノ隙ヲ窺ヒ逃走スル情アルハ小人ノ常ナリ其之ヲ遁走サスルハ監護人モ亦怠ラストセス故ニ情ヲ量ルトキハ三日位ヲ以テ可トス十一番十四番ノ說モアレト二罪ハ重ヲ以テ論スルヿナレハ此亦差支ヘルヿナシ

○十四番柳原前光曰　此ノ條二罪ハ重ヲ以テ論スル說アレ𪜈改定律第三百一條ニ五年以上ノ囚人限內逃走スル者モ亦例ニ照シテ棒鎖二日仍ホ原犯ノ年限ニ照シテ新ニ拘役スト雖𪜈若シ逃走シ外ニ在テ重子テ五年以上十年以下ノ罪ヲ犯ス者ハ並ニ拘役四年ヲ加フトアリ惟逃走スル者ハ棒鎖ヲ科シ其逃走シ外ニ在テ重子テ罪ヲ犯ス者ハ棒鎖ヲ科シ尚ホ拘役ヲ加フ者ナラン然則懲役終身ノ囚人逃走シ外ニ在テ又罪ヲ犯セハ棒鎖三日ヲ科シ尚懲役人又犯罪條例ニ照シテ科斷ス可キナリ若シ名例律ニ牴觸スルトセハ名例律ヲ改正スヘキナリ

○三番陸奥宗光曰　十四番ハ律文ヲ誤解セシナラン第三百一條ノ五年云々ハ逃走スル者ノ律ナリ其若シ逃走シ云々ハ外ニ在テ重子テ罪ヲ犯ス者ノ律ナリ嚮キニ十番ノ說明ノ時モ混淆セシト怠ヘリ十四番モ亦混スルト見ユ且名例律ハ諸律ニ關係スル者ニシテ單行スル者ニ非ス若シ三百一條ニ牴觸スルトシテ改メンヿヲ欲セハ別ニ意見書ヲ提出スヘシ此ノ議按ニハ關係ナキナリ

○十番佐野常民曰　元來懲役終身ノ者ハ夫レ丈ケノ重罪ヲ犯セリ第二百九十八條ニ一年以上ノ囚人限內逃走スル者ハ棒鎖二日再ヒ逃走スル者ハ懲役終身トアリ第三百一條ニモ棒鎖二日ノ上新ニ拘役スルヿアリ此等ノ比例ニ依レハ一日丈ケ加ヘテ三日ニテハ不當ナリ一体一人ヲ懲ラシテ衆人ヲ戒ムル律意ナレハ今少シク重キ方可ナラン

○三番陸奥宗光曰　十番ノ陳述スル三日ノ主意今始テ了解セリ此ハ元ト死ニ入ル者ヲ懲役終身ニ改定セシ事迄論スルニ及ハス若元ハ死ニ入ル者ナルニ付キ殺ス代リトセハ三日ハオロカ百日ニテモ輕シトス是ハ殺ス代ニ三日ヲ以テスル譯ニ非ス懲役終身ノ者ト雖𪜈一度ノ逃走ヲ以テ直ニ死ニ入ルニモ及フマシ去迚其儘ニモ捨置カタシ故ニ三日ノ棒鎖ヲ科スルナリ其再度ニ至テハ最早恕シ難ケレハ不得止絞ニ處ス第三百一條五年以上云々限內逃走スル云々ニ比シテ權衡宜シキヲ得ル且余ハ終身懲役ノ者ノ逃走スルモ一年懲役ノ者ノ逃走スルモ逃走ニ於テハ異ナルヿナシトス故ニ一度ハ棒鎖三日トナシ若シ是レヲモ懲リスシテ再ヒ逃走スル時絞トナシタルニテ可ナリトス

○十番佐野常民曰　三番ノ說アレトモ棒鎖ニハ各等差アリテ既ニ前條ニモ十日ヲ極度トス然レハ十日ヲ以テ此レニ當ツルヲ可トス原來死ニ入ルヲ改メ懲役終身トナシタルナレハ棒鎖ノ極度ヲ以テスヘキモノナリ

○九番佐々木高行曰　十番ノ說モアレト十二番三番ノ說ノ如ク此ハ惟逃走スル丈ケノ罪ナリ若シ此レヲ重クスレハ又犯罪ノ段々ト重クスル權衡ニモ差支ヘヲ生スル譯ニ付惟逃走スルハ棒鎖三日又タ罪ヲ犯セハ其輕重ニ因テ段々ト重クシ遂ニ罪ハ絞ニ至テ止ム其釣合大ニヨシ故ニ原按ヲ可トス

○議長曰　本條ニ於テモ討論既ニ畢レリト認ム依テ本會ヲ散ス可シ。

正午〔第〕十二時十六分閉場

元老院會議筆記　明治九年二月九日

○第五號議案第三讀會

出席議官

一番　壬生基修

二番　黑田清綱
三番　陸奥宗光
五番　有栖川宮
七番　長谷信篤
九番　佐々木高行
十番　佐野常民
十一番　秋月種樹
十二番　山口尙芳
十三番　福羽美靜
十四番　柳原前光
十五番　松岡時敏
十六番　齋藤利行

午前第十時三十分開場

○議長曰　本日ハ第五號議按ノ第三讀會ヲ開ク各員例ニ遵テ演說スヘシ

○書記官藤澤文謙　左ノ一條ヲ朗讀ス

改定律例中懲役人又犯罪條例懲役人逃條例ヲ增補シ第三百二條ヲ刪除ス

○三番陸奥宗光曰　本條ハ後條決議ノ結果ニヨリテ可否セサルヲ得ス然レモ余ハ後條モ本按ヲ可トスルヲ以テ本條ニ於テモ異議ヲ存セス

○十四番柳原前光曰　三番ト同意ナリ

○一番壬生基修曰　三番ト同意ナリ

○議長曰　三番ト同意ノ議官ハ起立ス可シ

衆議官盡ク起立ス

○議長曰　全會一致セリ

○書記官藤澤文謙　左ノ一條ヲ朗讀ス

懲役人又犯罪條例

凡懲役終身ノ囚人又百日以下ノ罪ヲ犯ス者ハ第五條ニ照シテ棒鎖ヲ科シ一年以上ノ罪ヲ犯ス者ハ四日以上七日以下ノ棒鎖五年以上ノ罪ヲ犯ス者ハ八日以上十日以下ノ棒鎖ヲ科ス懲役終身ノ罪ヲ犯ス者ハ絞

○十四番柳原前光曰　本條ハ既ニ第二讀會ニ於テ發言セシ如ク大抵ハ此儘ニテ可ナルヘシ併シ棒鎖ノ日割ニ至ツテハ少シク修正ヲ加フヘシ此日數ハ名例律ノ比例ニ依テ日割ヲナスナルヘシ然レモ四日以上七日以下又八日以上十日以下ト爲ス時ハ名例律第五條ノ日數ト符合セサルニ似タリ故ニ此ノ第五條ニ照シテノ七字ヲ三日以下ノト改メ七日以下ヲ八日以下ト改メ八日以上十日以下ヲ九日以上十一日以下ト改メテ可ナラン

○十一番秋月種樹曰　本條ノ主意ハ可ナリ其文面ハ修正ヲ要ス第五條ニ照シテトアルハ卽チ改定律例ノ第五條ナルヿハ固ヨリ言ヲ俟タス然レモ律書ニ精キ者ニ非レハ復タ何ノ第五條ナルヲ解セサル者アラン全國ニ布告スル者ナレハ此等ノヿモ亦タ注意セサルヘカラス次條ノ末項ニ例ニ照スノ言アリ是レ大ニ解シ易キニ似タリ故ニ第五條ニ照シテヲ例ニ照シテト改メントス日割ノヿハ十四番ト同意ナリ懲役ノ年限ハ一年一年半二年二年半三年ノ五等ナリ今四日以上七日以下ト爲スヽキハ五等ノ罪ヲ科スルニ及テ一日ノ不足ヲ生セン故ニ四日以下八日以上ト改ムルヲ可トス其例ヲ推テ五年以上十年以下ノ罪ヲ犯ス者ハ九日以上十一日以下ヲ以テ之ヲ科セハ特ニ適當ナルノミニ非ス裁判官モ亦準據スル所アラン

○九番佐々木高行曰　十四番十一番ノ說ノ如ク懲役年數ノ一年一年半等ノ割合ニ比スレハ或ハ然ラン併シ棒鎖ハ日數ヲ重サヌレハ難堪モノナリ棒鎖ナル者ハ監獄則ニ起原ス其終身ノ役囚ハ外ニ罰ヲ科スヘキナシ故ニ棒鎖ノ日數ヲ多クセリ然レモ余ハ其日數ヲ一般ニ短クシ六日ヲ以テ棒鎖ノ極度トナシ本條中一年以上云々以下ヲ一年以上二年未滿ノ罪ヲ犯ス者ハ棒鎖四日二年以上五年未滿ノ罪ヲ犯ス者ハ棒鎖五日五年以上十年未滿ノ罪ヲ犯ス者ハ棒鎖六日云々ト改正セハ可ナラン或ハ强壯ナル者一日二日ノ棒鎖ヲ以テ懲戒トナスニ足ラストセン然レモ一般ニ之ヲ視レハ日出ヨリ日沒マテ棒鎖ヲ付着シテ十日ハ堪ヘ難キモノアラン故ニ前段ノ如クナサント欲ス

○三番陸奥宗光曰　本條ハ第二讀會ニモ亦タ本日モ各員ニ於テ種々ノ論アリ殊ニ十四番十一番ノ說ハ畢竟其比較ノ段階ヲ失セリト云フニ過キス論者ノ意ヲ察スルニ懲役一年ヨリ三年ニ至ルヲ算スレハ五段階ナリ又タ四日ヨリ七日ニ至ルヲ算スレハ四段階ナリ乃チ比例ノ不都合ヲ生ス故ニ棒鎖ノ日數ヲ懲役年數ト同段階トシ一日ヲ加ヘテ八日以下ト改ムルナラン然レモ余ハ此段階ノ比較ハ符合セストモ可ナリトス如何トナレハ則チ改定律第五條ニ棒鎖一日原笞一十至五十トアリ此笞杖刑トモ方今同ク懲役トス乃チ懲役一十日ヨリ十日毎ヲ一段トナシ算スレハ懲役百日ニ至テ十段ナリ之ヲ棒鎖ニシテ惟三日ノ三段ニ縮メタリ此比例ニ依レハ原按ノ一年以上三年迄ノ五段ヲ四日以上七日以下ノ四段ニ當テタルモ更ニ不都合ナシ況ヤ四日以下七日以上或ハ八日以上十日以下トアルヲ見レハ其日數ノ伸縮ハ其場合ニヨリ裁判官ノ見込ニ任セ其活用ヲ得セシムルヿナレハ決シテ不都合ナカ

ルヘシ又九番ノ說ニ棒鎖ハ堪ヘ難キモノ故何ノ罪ハ何日ヲ限何ノ罪ハ何日ヲ限ル等ノ制限ヲ立ルト云フハ擬律ノ道狹クシテ却テ不都合アラン此四段三段ニ以上以下ヲ付ルハ歐州ノ律意ニモ適ヒ裁判官ノ活用ニ任スヿ甚タ可ナリ彼此ヲ推究スルニ此ノ如クナレハ九番ノ弊モナク又十四番十一番ノ不都合モナク到底原按ニテ可ナリトス

○二番黑田淸綱曰　三番ト同ク原按ニテ可ナリ又十一番ノ說ニ例ニ照シテト改ムル言アレトモ次條末項ノ例ニ照スノ言ハ又犯罪條內ノ例ニ照スノ謂ナレハ若シ此第五條ノ三字ヲ直チニ例ニ照スト改メテハ何例ニ照スヤ判然ナラス總テ原按ヲ可トス

○十六番齋藤利行曰　三番ノ說ノ如ク原按ニテ可ナリ

○議長曰　原按ヲ以テ可トスル議官ハ起立ス可シ

起立者十人

○議長曰　多數ナルヲ以テ原按ヲ可ト決セリ

○書記官藤澤次謙　左ノ一條ヲ朗讀ス

懲役人逃條例

凡懲役終身ノ囚人逃走スル者ハ棒鎖三日再ヒ逃走スル者ハ絞

凡懲役終身ノ囚人逃走シ外ニ在テ又罪ヲ犯ス者ハ懲役人又犯罪條內懲役終身ノ囚人又罪ヲ犯スノ例ニ照シテ科斷ス

○九番佐々木高行曰　本條第二讀會ニモ陳述スル如ク總テ原按ニ於テ異議ヲ存セス

○十四番柳原前光曰　本條第一項ハ既ニ三百二條ヲ刪除スレハ原按ニテ可ナリ第二項ハ修正ヲ要ス何トナレハ改定律第三百一條ニ懲役五年以上ノ囚人限內逃走スル者モ亦棒鎖二日仍ホ原犯ノ年限ニ照シテ新ニ拘役スト雖ヒ若シ逃走シ外ニ在テ重子テ五年以上十年以下ノ罪ヲ犯ス者ハ并ニ拘役四年ヲ加フトアリ是レ棒鎖二日ノ上ニ更ニ後犯ノ年限ヲ加役スル事ニテ縱令名例律ト矛盾スルモ二罪俱ニ罰スルノ意ナリ三番九番ニ於テ段々說明アレトモ三百一條ノ比例ニ依レハ終身ノ役囚ノミ一罪ヲ罰スルハ權衡ヲ失ストス故ニ凡懲役終身ノ囚人逃走シ外ニ在テ又罪ヲ犯ス者ハ棒鎖三日ヲ科シ仍ホ懲役人又犯罪條內懲役終身ノ囚人又罪ヲ犯スノ例ニ照シテ科斷スト改メテ可ナヲン

○十一番秋月種樹曰　十四番ノ說ノ如ク第三百一條ハ逃走シ外ニ在テ重子テ罪ヲ犯ス者ハ棒鎖ノ上仍ホ後犯ノ罪ヲ科スルノ意ナリ二罪(俱)發ハ重ヲ以テ論スルノ意ニ非ス左スレハ此條モ逃走ノ罪ヲ科セサル可カラス故ニ修正ヲ要ス其說ハ十四番ノ通リニテ一体異論ナシ

○十二番山口尙芳曰　原按ニテ可ナリ十四番十一番ノ陳述スル所ハ有限ノ役囚ニシテ此所ハ終身ノ役囚ナレハ全ク法意ノ違フ所アリ二年三年等有限ノ者ハ其逃走ニ付テ新ニ年數ヲ增シ其改心ヲ勸ム總テ人ノ性タル苦ニヨリテ善ニ移ル者ナレハ則チ有限ノ役囚ニ用ユル所ナリ終身ノ役囚ニ到テハ善ニ移スヘキノ道ナク只生カシテ置ク迄ノ主意ナレハ棒鎖ヲ加フルモ何ノ益カ有ン有限ノ役囚ニ比較スレハ不都合ナリト雖ヒ畢竟法意ノ違ヒナレハ原按ニテ可ナリ

○三番陸奧宗光曰　本條モ原按ニテ可ナリ第一項ノ懲役終身ノ囚人逃走スル者棒鎖ト云ニ付テハ曩キニ第二讀會ニ於テモ段々討論アリ其論意ハ改定律ノ第三百二條ニ凡ソ懲役終身ノ囚人逃走スル者ハ絞トアリ元來絞罪トモナリタル者ヲ棒鎖三日ニ改ムルハ餘リ輕キニ過テ權衡ヲ失フト云論ナリ死刑ニ代ル主意ヨリ論スレハ何ソ啻三日ノミナランヤ百日トテモ其價ハナカルヘシ若シ又タ死刑ニ處スルハ過酷ユヘ改メテ棒鎖三日トナストノ主意ヨリ論スレハ決シテ輕キニ失スルノ疑ナシ抑モ三百二條ハ過酷ニシテ他ノ條々ニ比較スレハ甚權衡ヲ失ヒタル如シ故ニ今如此改正シテ三百二條ヲ刪除スルハ極メテ適當トス且又懲役人限內逃走スルヲ防禦スヘキハ固ヨリ論ヲ俟タス其逃走スルヰ原犯罪狀ノ輕重ニ依テ懲戒ノ爲メニ幾分ノ差等ヲ設ケサルヘカラス然レヒ唯タ逃走シタル迄ニテ他ノ惡事ヲ働キタルヿナケレハ懲役一年ノ囚人限內逃走シタルモ懲役終身ノ囚人逃走シタルモ同シク逃走シタル迄ニテ別ニ犯情ニ於テ輕重アルヿナシ然レハ原犯ノ罪狀ニ依ツテ幾分ノ差等ヲ設ケ懲戒ヲナスニテ宜シトス改定律第二百九十八條ニ懲役一年以上ノ囚人限內逃走スル者ハ棒鎖二日云々同第二百九十九條ニ懲役百日以下ノ囚人限內逃走スル者ハ棒鎖一日云々同第三百一條ニ懲役五年以上ノ囚人逃走スル者モ亦例ニ照シテ棒鎖二日云々トアリ其第三百二條ニ至テ懲役終身ノ囚人逃走スル者ハ絞トアリ是レ三百二條ハ權衡ヲ失フタル者ナリ故ニ前ニ論スル如ク懲役人惟逃走シテ他ノ惡事ヲ働カサル者ハ原犯罪ノ輕重ニ依テ少ク懲戒ノ意ヲ加ヘ懲役五年以上十年以下ノ囚人逃走シタルヰ棒鎖二日ヲ科スル例ヲ推テ懲役終身ノ囚人逃走シタルヰハ棒鎖三日トシ再ヒ逃走スルヰハ絞トナス時ハ第二百九十八條第二百九十九條ト能ク權衡ヲ得テ甚適當ナリトス故ニ原按ノ通ニテ少シモ修正スヘキナシ且十一番十四番ノ說ニ二罪俱ニ罰スルノ意ナリトアレト是ハ大ニ名例律ト矛盾ス名例律ハ諸律ニ關スル者ニシテ單行スル者ニ非ス

若シ矛盾スルトセハ名例律ヲ改正スル乎或ハ三百一條ヲ改正セサルヲ得スト雖モ余ハ三百一條ヲ以テ俱ニ罰スルノ趣意ニ非スト認ムレハ名例律ト矛盾スル「ナシト思フ左スレハ名例律ヲ改正スル「ヲ用ヒス又三百一條ヲ改正スル「ヲ用ヒサルナリ然レモ附會シテ矛盾ストセハ別ニ意見ヲ提出スルヲ當然トス

○十六番齋藤利行曰　十二番ニ同意原按ニテ可ナリ

○議長曰　原按ヲ可トスル議官ハ起立ス可シ

起立者十一人

○議長曰　多數ナルヲ以テ原按ヲ可ト決セリ

■　右は明治九年一月廿八日内閣より下附、二月九日の會議に於て可と決し、二月十日上奏、二月廿八日太政官第廿二號を以て布告された。

〔參考〕1司法省伺　八年十月四日

懲役終身ノ刑名律上最多シ故ニ懲役終身ノ囚人年ヲ追テ增殖シ現今役場殆ト八百有餘人ニ至ル是以テ懲役中賊盜鬪毆等諸般ノ罪科ヲ犯ス者亦多シ然ルニ律例ニ懲役終身ノ囚人又罪ヲ犯スノ法ヲ載セス故ニ時時上申シテ處決ヲ仰クニ至レリ抑懲役終身ハ罪ノ極法ノ盡ル所再ヒ罪ヲ犯スト雖モ加役日數ヲ以テ科スル能ハス唯死ニ處スルノ一法アルノミ然レモ一概ニ之ヲ死ニ處スルニ忍サル者アリ依テ別紙ノ通五年以上三年以下ノ區別ヲ立テ以テ姑ラク其闕ヲ補ハントス且第三百二條ノ如キ逃走ノ罪ヲ以テ直ニ絞ニ入ルハ聊苛酷ニ過ク請フ此條ヲ刪リ更ニ別紙ノ通リ條例ヲ補ハ、權衡自ラ穩當可致ト存候右ハ諸縣ヨリ律例成法ナク差支候趣申出候間早速御確定相成一般ヘ御頒布有之度依テ條例草案御布告案相添此段相伺候也

2指令　九年二月二十八日

伺之趣第二十二號ヲ以テ布告候事

3法制局議案　八年十二月十二日

別紙司法省伺懲役終身ノ囚人犯罪等ノ儀審案候處該囚ノ犯罪ヲ一概ニ死刑ニ處シ候ハ實ニ忍ヒサル儀ニ付伺之通御聽許相成可然候ヘモ原稿ノ通ニテハ尚ホ苛酷ヲ免レス候ニ付一應同省ニ御下問ノ上左ノ如ク御改正御布告相成可然哉仰高裁候也（十二月十九日司法省ヘ下問翌年一月十五日異存無之旨回答アリ之ヲ略ス）

4法制局議案　九年一月二十二日

別紙懲役人又犯罪條例等司法省ヘ御下問相成候處異議無之候右ハ立法ニ關シ候儀ニ付元老院議定ニ付セラレ可然哉豫メ司法省ヘノ御指令案相副仰高裁候也

〔以上、法規分類大全一・刑法門一ノ三三四〕

第六號議案

控訴上告手續中改正ノ儀

元老院會議筆記　明治九年二月十二日

○第六號議案檢視會

議長陸奥宗光代理

出席議官

一番　壬生基修
二番　黑田清綱
四番　由利公正
五番　有栖川宮
六番　大給恒
七番　長谷信篤
九番　佐々木高行
十番　佐野常民
十一番　秋月種樹
十二番　山口尚芳
十三番　福羽美靜
十四番　柳原前光
十五番　松岡時敏
十六番　齋藤利行

午前第十時三十分開場

○議長曰　本日ノ議場ハ去ル九日頒布セシ所ノ第六號ノ議案ヲ檢視センカ爲ニ之ヲ開ク各員例ニ遵テ檢視ス可シ

○書記官薩澤大議　左ノ議案ヲ朗讀ス

第十五條　上告ヲ爲ント欲スル者ハ裁判言渡ヨリ二月內ニ上告狀ヲ大審院ニ捧ク可シ而ノ同時被告人ニ通知スルヲ要ス若シ原裁判所ヨリ大審院ニ至ルノ距離八里ヨリ遠キ時ハ二月ノ外八里毎ニ一日ヲ增ス此定期ヲ過レハ上告スル「ヲ許サス

上告狀中ニハ必ス左ノ事實ヲ記載スヘシ

第一　原告人ノ住所身分氏名

第二　代言人アレハ其住所身分氏名

第三　被告人ノ住所身分氏名

第四　証人又ハ引合人アレハ其住所身分氏名

第五　府縣裁判所ニ出訴シ又ハ被告ニテ呼出サレタル年月日及ヒ裁判言渡ヲ受ケタル年月日

第六　上等裁判所ニ控訴シ又ハ被告ニテ呼出サレタル年月日及ヒ裁判言渡ヲ受ケタル年月日

上告狀ハ正本一冊及ヒ副本五冊ヲ差出スヘシ

上告狀ニハ必ス左ノ書類ヲ添ヘ差出スヘシ

第一　府縣裁判所ニ於テノ訴狀並ニ答書ノ寫及ヒ裁判言渡書ノ寫

第二　上等裁判所ニ於テノ訴狀並ニ答書ノ寫及ヒ裁判言渡書ノ寫

第三　上告狀中ニ憑據ト爲ス書類ノ寫ノ各書類ニ番號ヲ朱書シ編シテ一冊ト爲シ又ハ葉數多ニ付編シテ幾冊ト爲シタル者

右ノ訴狀又ハ答書及憑據ノ書類ノ寫ヲ所持セサル者ハ原裁判所ニ出願シ裁判所ノ簿冊ヲ訟庭ニ取下ケ見坐ノ目前ニ於テ之ヲ寫シ取ルヿヲ得ヘシ

若シ原裁判所ニ於テ書類寫取ノ出願ヲ許サヽルニ因リ上告人其寫ヲ出シ能ハサル時ハ其旨ヲ上告狀中ニ記載ス可シ

○九番佐々木高行曰　本案ハ別ニ異議ナシト雖モ末段ニ至テ右ノ訴狀云々見坐ノ目前ニ於テ寫シ取ルヿヲ得ヘシトアリ次ニ若シ原裁判所ニ於テ書類寫取ノ出願ヲ許サヽルニ因リ云々トアリ既ニ寫シ取ルヿヲ得ヘシト云ヒ又寫取ノ出願ヲ許サヽルニ因リト云フトキハ前後牴觸ス是卽檢視條例第二條ニ所謂一案中互ニ相牴觸スル者ナリ特ニ牴觸ノミナラス原裁判所ニ於テ書類寫取ヲ許サヽルヿアルヲ明ニ表スルニ似タリ故ニ若シ以下ハ刪ルヲ可トス

○十二番山口尙芳曰　抑本案ハ上告ノ手續ヲ人民ニ示サンカ爲ナリ人民書類ノ寫取ヲ原裁判所ニ出願セシトキ若シ之ヲ許サヽルヿアラハ大ニ上告ノ障礙ヲ生ス然ルトキハ人民如何シテ可ナラン請フ九番ノ說明ヲ聞カン

○議長曰　本案ハ檢視ノヿナレハ別ニ可否スルヿヲ用ヒス九番議官ハ一案中ノ牴觸ト認テ之ヲ陳セシナリ十二番ニ於テモ牴觸ト認ムルヤ認メサルヤヲ陳述ス可シ但シ九番議官ノ陳述ヲ以テ不明瞭ト爲セハ猶之ヲ陳述セシメン

○十二番山口尙芳曰　上告者書類寫取ヲ出願セシトキ原裁判所ニ於テ之ヲ許サヽルヿアランニ豫メ其時ノ手續ヲ示サヽレハ上告者ノ惑ヲ生セン手續書トシテ之ヲ布告シ而シテ其惑ヲ生セシム手續書ヲ人民ニ示スノ益ナキナリ且其惑ヨリシテ時日ヲ遷延シ遂ニ上告ノ期限ヲ過ルニ至ラハ亦憫ムヘキニアラスヤ是牴觸ニ非ス尤上告者ノ爲ニ緊要ノ條件ナリ

○九番佐々木高行曰　抑見坐ノ目前ニ於テ之ヲ寫シ取ルヿヲ得ルト云ヘハ之ヲ寫取ルヿヲ得ルハ當然ナリ而シテ之ヲ許サヽルハ原裁判所ニ於テ必ス故アラン然モ既ニ之ヲ許ス以上ハ縱令何等ノ故アルモ之ヲ許サヽルヲ得ス且本案ヲ頒布スル以上ハ各種ノ書類ヲ所持セサレハ上告ノ手續ニ於テ缺ル所アルハ各裁判所ニ於テモ了知スルヿナレハ人民ニ於テモ寫取ヲ許サヽルヿナカラント思ハン然ルニ許サヽルニ因リト謂フトキハ大ニ人民ノ惑ヲ生セン備ハランヿヲ求テ却テ不備ニ陷ラン故ニ前說ノ如ク刪ルヲ可トス

○十二番山口尙芳曰　九番議官ノ所說詳ナラス但シ此手續ニ從ヘハ書類ハ總テ所持セサルヲ得ス若シ所持セサレハ原裁判所ニ出願シテ其書類ヲ寫取ルヿヲ得若シ之ヲ許サヽルトキハ其旨ヲ上告狀中ニ記載ス上告手續ニ於テ明且備ト謂ヘシ且若シ以下ハ注解ト見做シテ可ナラン注解ト見做ストキハ益牴觸スルヿナシ若又此等ノヿハ裁判所ニ於テ了知スル者ナリトセハ前ノ條々モ總テ無用ニ屬セン故ニ存スルヲ可トス

○十六番齋藤利行曰　九番議官ト十二番議官ト兩說ニ分ル余ハ九番ニ同意ス十二番ニ於テ注解ノ說アリト雖モ注解トモ言ヒ難シ前ニ寫取ヲ得ルト云ヒ後ニ許サヽルト云フトキハ無論牴觸ナリ故ニ九番ニ同意ス

○十二番山口尙芳曰　十六番ノ發言モ九番ノ發言モ牴觸ノ趣意ヲ說明セス但シ若シ以下ハ不言シテ自ラ分明ナリトノ意ナラン然モ若シ許サヽルヿアラハ上告者ハ奈何シテ可ナラン殊ニ三府六十縣未タ裁判ノ體裁モ整ハス鶴ケ岡縣ノ紛紜ヲ以テモ其事體ヲ知ルニ足ル可シ故ニ許サヽルナキヲ信スル能ハス若シ之ヲ信スレハ刪テ可ナラン且牴觸ト謂フヿハ一ハ許スト言ヒ一ハ許サスト言フ是ナリ本條ノ如キハ萬一之ヲ許サヽルトキハ此ノ如クス可シト謂フ意ナリ余ハ千思萬考スルモ牴觸ノ廉ヲ見出サス

○十六番齋藤利行曰　十二番ノ說アリト雖モ余思フニ前ニ寫シ取ルヿヲ得ヘシト云ヒ后ニ寫取ノ出願ヲ許サヽルニ因リト云フトキハ牴觸ナリ故ニ若シ以下ハ刪テ可ナラン且此ハ常ヲ示ス者ナリ千萬一ノ用ニ供スルニ非ス然則牴觸ノヿハ文面ヲ味テ明カナラン

○十二番山口尙芳曰　十六番ニ於テハ牴觸ノヿハ文面ヲ味ヒテ明カナラントノ說ナリ然モ余ヲ以テ之ヲ視ルニ所謂牴觸ナル者ハ譬ハ二罪俱ニ發スルハ重ヲ以テ論スト云ヒ又二罪俱ニ發スルハ俱ニ科スルト云フノ類ナリ故ニ本案ハ牴觸ニ非ス且若シ以下ヲ刪テ寫取ヲ許サヽルヿアラハ上告者ハ奈何スルヤ

○十四番柳原前光曰　余ハ上告ト控訴トハ區別アリト思フ然ラハ右ノ訴狀云々ノ條ハ各裁判所ニ於テ之ヲ遵守セサルヲ得ス既ニ之ヲ遵守スルトキハ寫取ヲ拒ムヿナカルヘシ若シ之ヲ拒ムトキハ國家ノ法令ニ違背スルナリ其時其旨ヲ上告スルハ當然ノヿナリ法律ハ最モ明備ヲ要ス若シ之ヲ存セハ却テ不備不明ニシテ大ニ上告者ノ惑ヲ生セン故ニ余ハ九番十六番ニ同意ス

○十二番山口尚芳曰　十四番ノ說ニ却テ上告者ノ惑ヲ生ストアリ然レモ西洋ニ在テモ猶此ノコトシ是卽人民ニ自由ヲ與フルノ趣意ナリ文明國ノ最モ貴フ所ナリ既ニ佛國民法中此等ノ言ヲ書載スル處アリ亦英米其他世界各國苟モ法律書中此等ノ言ヲ記載セサル者ナシ殊ニ本邦今日ノ事體ニ於テハ最モ欠ク可カラサルノヿタリ然レモ若シ他ノ法令ニ於テ既ニ此等ノヿヲ定ムル乎刪テ可ナラン未タ其ノ規則ヲ定メサル乎却テ上告者ノ惑ヲ生セン存シテ可ナリ

○十番佐野常民曰　牴觸ト不備不明トニ於テ既ニ衆議官ノ討論ヲ聞クヿヲ得タリ余ヲ以テ之ヲ視ルニ輕々一過スレハ牴觸ト認ム可キニ似タリ然レモ十二番ノ說明ニ據ルトキハ牴觸ノ在ル所ヲ見サルナリ尤寫取ヲ得ルト云ヒ寫取ヲ許サスト云フトキハ牴觸ナリ此ハ若シ原裁判所ニ於テ書類寫取ノ出願ヲ許サヽルニ因リ上告人其寫ヲ出シ能ハサル時ハ云々トアレハ萬一出願ノ許可ヲ得スシテ上告スルヿヲ得サルトキハ其上告書中ニ其旨ヲ記スレハ足レリトノ趣意ニテ卽變遇フノ處置法ヲ示ス者ナリ固ヨリ注解ニハ非スト雖モ上告者ノ疑惑ヲ解クニ足レリ其期ヲ愆ルノ患ナカルヘシ故ニ余ハ存スルヲ可トス

○二番黑田清綱曰　上告ノ事タル日一日ヲ緩クス可カラス然レモ裁判所ノ事宜ニ依リ速ニ書寫セシメサルヿアラハ遠方ノ者ニ至テハ殊ニ定期ヲ過ルノ恐アリ其時ニ及テハ之ヲ書中ニ記シテ上告ス大ニ便宜ヲ得ル者ニ非スヤ然ラハ存シテ可ナラン

○六番大給恒曰　情ニ於テハ各議官ノ論スル所甚明ナリ然レモ本案ハ檢視ニ付セラレシ者ナリ然則條例ニ據テ牴觸ト不備不明トヲ議セサル可カラス實地ノ如何ヲ論ス可キニ非ス余ハ惟牴觸ノ一事ヲ陳シ本案中ニ上告狀ニハ必ス左ノ書類ヲ添ヘ差出スヘシトアリ然則上告者ハ必ス左ノ書類ヲ差出スヘキナリ各裁判所モ亦其法ヲ知ラサルニ非ス既ニ上告者其法ニ從ヒ書類ヲ差出サントシテ之ヲ所持セサルトキハ其寫取ヲ願ハサルヲ得ス其願フ所以ノ者ハ政府ノ法令ニ從フナリ而シテ之ヲ許サス豈其理アランヤ第一第二第三ノ云々スル所ニ於テ明ナリ然則必ト云ヒ若ト云フトキハ牴觸ト謂ハサルヲ得ス之ヲ實地ニ施スニ至テハ議論ナシトセス然レモ論シテ實地ノ如何ニ及フハ檢視ノ趣意ニ非ス唯必ト云ヒ若ト云フハ斷然牴觸ナリ

○十二番山口尚芳曰　六番ニ於テ必ノ字ニ說アリト雖モ此ハ萬一裁判所ニ於テ之ヲ許サヽルトキハ其趣ヲ上告書中ニ記載セシムルノ謂ニテ卽上告ノ手續ヲ明瞭ニスルナリ且檢視條例ニ背クノ說モアレト其着目ノ所在ヲ明辨セサレハ牴觸及不備不明ノ原由ヲ書ス能ハサルナリ

○六番大給恒曰　上告ヲ爲ント欲スル者ハ裁判言渡ヨリ二月內ニ上告狀ヲ大審院ニ捧ク可シトアリ且必ス左ノ書類ヲ差出スヘシトアリ然則二月內ニ之ヲ爲サヽルヲ得ス且左ノ書類ヲ差出サヽルヲ得ス其期ニ及テ書類ノ寫取ヲ出願ス豈之ヲ許サヽルノ理アランヤ其此ノ如キヿアラントスル者ハ想像ナリ然モ裁判所ノ事宜ニ依リ取下ケノ日ヲ延スヿアラン此レ機ニ投セサルナリ許サヽルニハ非サルナリ且變化ヲ示スト謂フトキハ特ニ此ニ止マラスシテ種々ノ示ス可キ者アラン必ス左ノ書類云々トアルヲ以テ盡セリトス

○十一番秋月種樹曰　檢視ノ規則ニ背クヤ否ニ至ツテハ余ハ之レヲ討論セス然レモ前ニ寫取ヲ得ヘシト云フトキハ裁判所ニ於テ之ヲ拒ムヿヲ得ス而シテ后ニ寫取ヲ許サヽルニ因リト云フトキハ斷然牴觸ナリ

○十二番山口尚芳曰　之ヲ牴觸ト謂フ余未タ其所以ヲ詳ニセス若シ斷然牴觸トスルトキハ其理趣ヲ具ヘテ太政大臣ニ通牒セサルヲ得ス然ルニ牴觸ノ理趣判然ナラス請フ其理ヲ詳ニセヨ

○議長曰　十二番ニ於テハ各議官ニ對シテ牴觸ノ理趣ヲ請ヒ問ハントスル乎各議官ノ所見ハ過刻ヨリノ討論ニテ略之ヲ了スルナラン然レモ尙其詳明ヲ求メント欲スル乎

○十二番山口尚芳曰　然リ

○十一番秋月種樹曰　前ニ陳述セシ如ク寫取ヲ得ヘシト云ヒ又寫取ヲ許サヽルニ因リト云フ豈牴觸ニ非スト謂フ可ケンヤ然レモ余ノ說ハ六番ノ撰ニ異ナリ

○六番大給恒曰　本案中必ノ字ハ一篇ノ眼目ナリ然則第一第二第三ニ揭ケタル所ノ書類ハ差出サヽルヲ得ス固ヨリ上告セント欲スル者ハ原裁判ニ服セサル者ナレハ其情ヲ察スレハ本案中載スル所ノ書類ヲ所持セサルヿナカル可シ若シ之ヲ所持セサルトキハ裁判所ニモ此法令ヲ遵守スルハ當然ナレハ之ヲ拒ムノ理ナカル可シ政府ノ令スル所上告者ハ固ヨリナリ裁判所ニ於テモ之ヲ遵守セサルノ理アランヤ然則若シ以下ハ刪ルヲ可トス

○十二番山口尚芳曰　牴觸ノ事種々其說アリト雖モ未タ以テ牴觸ト爲ス可カラス請フ巡査ヲ以テ譬ヘン巡査ノ棒棍ハ其用敢テ之ヲ運スルニ非ス然モ劍戟ヲ以テ之ニ向フ者アラハ不得止之ニ應セサルヲ得ス裁判所モ亦然リ上告者ノ寫取ヲ許サ

ヽルニ非ス萬一其事アラハ之ヲ奈何セン人類ハ活物ナリ活物ノ所爲固ヨリ計ル可カラス故ニ一定ノ事ト雖モ亦活物ニ對スルノ處置ヲ設ケサル可カラス

○六番大給恒曰　十二番ノ眼目ハ人類ハ活物ナルヲ以テ變化ヲ示サヽルヲ得ス故ニ牴觸ニ非スト謂フナラン其或ハ然ラン然レモ其弊ヲ防クハ本案中廉々之ヲ示セリ若シ其時ニ臨マハ亦好處置ナシトセス故ニ若シ以下ハ之ヲ刪ルモ妨ナカラン且巡査ノ譬アリ余亦之ヲ假ン今巡査ハ其服黃線ヲ著ク其破損スルノ時其署ニ至リ「シヤケツト」ヲ著クルモ妨ナキヤ否ヤト問フ若シ之ヲ許サハ遂ニ種々ノ服ヲ着テ巡行スル者アラン而シテ之ヲ制セハ一ハ之ヲ許シ一ハ之ヲ許サス本案亦之ニ類セリ且若シ以下ヲ存スルトキハ一篇ノ文氣ヲ弱クセン刪ルヲ可トス

○十番佐野常民曰　元來本案ハ上告ノ手續ヲ示ス者ナリ故ニ處置ノ法ヲ論セサルヲ得ス文章ノミヲ以テ論ス可カラス爰ニ上告人アリ書類ノ中其一ヲ欠ク因テ之ヲ原裁判所ニ出願ス而シテ若シ之ヲ許サヽルトキハ上告者ハ如何シテ可ナラン請フ六番ノ說明ヲ聞ン

○議長曰　本案ハ檢視ニ係ル者ナレハ檢視條例ニ遵ヒ牴觸ト不備不明トヲ議スル「ヲ要ス可否ヲ討論スル「ヲ要セス故ニ牴觸ノ說明ニ於テ一層ノ詳明ヲ要スルナラハ妨ナシト雖モ今云々スルカ如キハ檢視ノ趣意ニアラス

○十番佐野常民曰　固ヨリ可否ヲ討論スルニ非ス然モ六番ノ說ハ原裁判所ニ於テ許サヽルトキ奈何スルノ說ヲ詳ニセス故ニ其說ノ詳明ヲ要セシナリ

○議長曰　牴觸ノ一邊ニ向テ詳明ナル陳述ヲ聞カント欲セハ幾度之ヲ要スルモ妨ナシト雖モ今十番ノ問ノ如キハ施行上ノ得失如何ニアリ此大ニ檢視ノ趣意ニ非ス故ニ他ヲシテ之ニ答ヘシムルノ理ナシ

○十番佐野常民曰　其理ハ會得セリ然モ余ハ猶牴觸スル「ナシト思フ

○十二番山口尙芳曰　此項ヲ刪ルトキハ手續ヲ欠クト謂ヘシ

○議長曰　各議官ノ論スル所之ヲ約スルニ末節ヲ牴觸トシテ刪ルト不牴觸トシテ存スルトノ二ニ過キス今其可否ヲ決セントス原案ヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

起立者八人

○議長曰　多數ナルヲ以テ原案ヲ可トス

右は明治九年二月五日內閣より下附二月十二日檢視を經過同日上奏二月廿九日太政官第廿三號を以て布告（廿號議案參照）

第七號議案

新聞紙條例追加ノ儀

元老院會議筆記　明治九年二月十七日

○第七號議案檢視會

出席議官

一番　壬生基脩　　十二番　山口尙芳
二番　黑田清綱　　十四番　柳原前光
三番　陸奧宗光　　十五番　松岡時敏
四番　由利公正　　十六番　齋藤利行
五番　有栖川宮　　十八番　吉井友實
六番　大給恒　　十九番　河野敏鎌
七番　長谷信篤
九番　佐々木高行
十一番　秋月種樹

午前第十時十分開場

○議長曰　本日ハ第七號議案ノ檢視會ヲ開ク各員例ニ遵テ檢視スヘシ

○書記官藤澤次謙　左ノ條々ヲ朗讀ス

新聞紙條例追加

第一條

寓言假說若クハ譬喩嘲謔隱謎ヲ以テ條例若クハ讒謗律ヲ犯ス者本例本律ニ依テ罰ヲ科ス

第二條

凡ソ罰金ヲ科セラレ納完スル「能ハサルモノハ其納完スルニ至ル迄其新聞若クハ雜誌雜報ノ發行ヲ許サス

第三條

條例第十二條以下若クハ讒謗律ヲ犯シ十二月內ニ處罰三次

ニ至ルトキハ其發行ヲ停止ス凡ソ停止ハ十日以上三月以下ニ限ル

第四條

第十二條ノ第二項若クハ第十三條若クハ讒謗律ノ第二條ヲ犯シタル時ハ特ニ其發行ヲ禁止ス

第五條

禁止若クハ停止ノ處斷ヲ受ケタルモノ其裁判ニ服セスシテ上告スト雖モ裁判ノ執行ヲ停メス

第六條

編輯人糺問ニ付保管セラルヽノ間ハ仍ホ編輯人タルヲ許サス

第七條

凡ソ投書ヲ記載スルハ編輯人必ス其筆者ノ姓名住所ヲ詳知スルヲ要ス若シ記載セル投書條例若クハ讒謗律ヲ犯シテ編輯人其筆者ヲ詳ニスル能ハサル時ハ編輯人其本罰ノ重キヲ科ス

第八條

官准ヲ得サル新聞紙若クハ雜誌雜報ヲ發賣スル者ハ各々罰金三圓以上百圓以下ヲ科ス

○十二番山口尚芳曰　本案ノ第二條第三條ハ新聞條例ニ牴觸シ且不備ナリ如何トナレハ第二條ニ凡ソ罰金ヲ科セラレ納完スル能ハサルモノハ其納完スルニ至ル迄其新聞若クハ雜誌雜報ノ發行ヲ許サストアリ第三條ニ條例十二條以下若クハ讒謗律ヲ犯シ十二月內ニ處罰三次ニ至ル時ハ其發行ヲ停止ス云々トアリ新聞條例ニハ社主持主編輯人印刷人各其責ヲ分テリ此二箇條ノ如キハ責任ノ人ヲ詳ニセス新聞紙ナル者ハ多クハ編輯人ノ手ニ成リ畢竟社主ハ金主ニ過キス他ハ摠テ編輯人ニ任ス若シ果シテ編輯人條例ヲ犯シ社主情ヲ知ラサルモ發行ヲ許サヽル歟新聞條例第七條ニハ紙中若クハ卷中載スル所第十二條以下ノ禁ヲ犯シ若クハ讒謗律ヲ犯シタル時ハ編輯人首ヲ以テ論シ筆者ハ從ヲ以テ論ス持主若クハ社主情ヲ知ル者ハ編輯署名ノ人ト同ク論ストアリ然ラハ編輯人罰金ヲ納完スル能ハサルモ一社ノ發行ヲ停止スルニ非ス此二箇條ノ如キハ編輯人罰金ヲ科セラレ納完スル能ハスンハ一社ノ發行ヲ停止スル者ナリ若シ本條ヲ以テ當然トセハ新聞紙條例ヲ變更セサルヲ得ス然ラスンハ牴觸ト謂ヘシ且一社中ノ者罰金ヲ科セラレ納完スル能ハスンハ其發行ヲ許サスト云フハ不備ト謂ヘシ罰金ノ法ハ西洋モ亦然リ元來錢ヲ取ルノ趣意ナリ然ラハ納完スル能ヲ得ヘキ道ヲ存セサル可カラス此法ノ如キハ囊ヲ奪テ金ヲ促スニ似タリ不備ニ非スシテ何哉

○十六番齋藤利行曰　十二番ノ說ノ如ク社主編輯人印刷人等各其事務ヲ異ニスト雖モ新聞條例讒謗律ハ一社中ノ者盡ク之ヲ遵守セサルヲ得ス而シテ之ヲ犯ス者アラハ罰金ヲ納メサルヲ得ス若シ之ヲ納完スル能ハスンハ一社中ニ於テ相助ルノ義務アリ初ニ當テハ各其務ヲ異ニスト雖モ此ニ至テ相助ルノ義務ヲ生ス若シ其義務ヲ欠クトキハ全社其罰ヲ蒙ルモ當然ト謂フヘシ其他尙ホ說アリト雖モ本案ハ檢視ニ係レハ之ヲ陳スルモ無用ニ屬セン唯本案ノ第五條ハ控訴上告手續第三十三條ニ牴觸ス三十三條ハ決放ヲ執行スル所ノ地方官ハ囚人若クハ檢事ヨリ上告スル能ヲ達シタル時ハ決行ヲ止メ云々トアリ此第五條ハ裁判ノ執行ヲ停メストアリ尤歐州ニ於テハ新聞條例ヲ特別ノ者ト爲スノ說アリ其說ニ據レハ敢テ妨ナキニ似タリト雖モ一般ノ上告ハ決行ヲ止メ而シテ新聞ハ之ヲ停メス三十三條ニ但書ヲ副ヘ新聞條例追加ハ此限ニ非ストセハ不可ナカルヘシト雖モ然ラスンハ此第五條ハ三十三條ト牴觸ス可シ　囲　三十三條全文　甘號議案[公]併看

○十二番山口尚芳曰　余ノ動議ノ未タ詳悉ナラサルカ將タ十六番ノ誤聞セシカ十六番ニ於テハ社中ノ一員罰金ヲ科セラレ之ヲ納完スル能ハスンハ社主之ヲ助ケサルヲ得スト信義上ヨリ論ヲ發スニ似タリ余ノ動議ハ新聞條例第七條ニ紙中若クハ卷中載スル所第十二條以下ノ禁ヲ犯シ若クハ讒謗律ヲ犯シタルトキハ編輯人首ヲ以テ論シ筆者ハ從ヲ以テ論ス持主若クハ社主情ヲ知ル者ハ編輯署名ノ人ト同ク論ストアリ其他各其責ヲ異ニセサルナシ而シテ此第二條第三條ハ之ヲ混同ス故ニ之ヲ牴觸ト謂フ且前後矛盾スルトキハ行ハレサル者ナリ

○議長曰　十二番ニ問フ新聞條例第七條ハ編輯人云々筆者云々持主若クハ社主云々ト分テリ然ルニ此第二條第三條ハ之ヲ混同セリト謂フノ趣意ナル乎

○十二番山口尚芳曰　然リ

○議長曰　十六番ニ問フ此第五條ハ訴訟上告手續第三十三條ニ牴觸スルヲ以テ第三十三條ニ但書ヲ副ヘントスルノ趣意ナル乎

○十六番齋藤利行曰　若シ此條例追加ヲ行フトキハ三十三條ニ但書ヲ副ヘサルヲ得ストノ意ナリ

○十四番柳原前光曰　十二番ニ於テ種々發議アリト雖モ余ノ說ハ粗十六番ト同意ナリ十二番ニ於テ此二條三條ハ新聞條例第七條ニ牴觸スト謂フト雖モ此追加ハ囊ニ行ハルヽ所ノ條例ヲ補フカ爲ナリ新法ノ舊法ニ勝ツハ法律上ノ習ナリ囊ニ

社主編輯人筆者等ヲ區別スト雖モ此追加ノ行ハル、ニ至ツテハ其區別ハ之ヲ取消ヘキ者ナリ故ニ余ハ之ヲ牴觸ト謂ハス

○十九番河野敏鎌曰　余ノ論ノ歸着ハ稍十二番ト同シ唯進路ヲ異ニスルノミ故ニ之ヲ陳述セン今十六番十四番ニ於テ十二番ヲ駁スルノ說アリト雖モ其當ヲ得ス且十四番ノ新舊其力ヲ異ニスルノ說ハ本案ノ如キニ對シテ發スヘキ者ニ非ス抑本案ノ第二條第三條ハ特ニ新聞紙條例ニ牴觸スルノミニ非ス大ニ本邦ノ律意ト背馳スル者ナリ如何トナレハ本邦ハ連坐ノ法アルニ非ス且條例第七條ニ持主若クハ社主情ヲ知ル者ハ編輯署名ノ人ト同ク論ストアリ然則情ヲ知ラサル者無罪ナルハ固ヨリ多言ヲ俟タサルナリ此第二條第三條ニ至テハ一概ニ抹殺ス律意ノ何ノ處ニアルヲ知ラサルナリ且十二番ニ於テ囊ヲ括テ金ヲ取ルノ喩アリ是誠ニ好譬喩ト謂ヘシ人ノ商業ヲ停テ其所得ヲ徵ス之ニ應セント欲スルモ不能ナリ故ニ此條ハ余ニ於テモ之ヲ不備ト謂フ第五條ニ禁止若クハ處斷ヲ受ケタルモノ其裁判ニ服セスシテ上告スト雖モ裁判ノ執行ヲ停メストアリ既ニ十六番ニ於テモ控訴上告手續第三十三條ニ牴觸スルノ說アリ余ノ說全ク之ニ同シ縱令西洋諸國ニ於テ何等ノ律アルモ各國自ラ其情態ヲ異ニスル者ナレハ法ツテ以テ萬國ノ法則トスルニ足ラス加之本邦ニ於テハ未タ一般ノ裁判ト新聞ニ關スル裁判トヲ異ニスルノ道理アルヲ見ス其道理ヲ見サルノ間ハ彼此ノ裁判ヲ異ニスルノ道理ナキナリ故ニ此第五條ハ特ニ上告手續ニ牴觸スルノミニ非ス立意ニ於テモ未タ當レリトセス

○議長曰　十九番ニ問フ本案ノ第五條ハ控訴上告手續第三十三條ニ牴觸スルト謂フノ趣意ナル乎

○十九番河野敏鎌曰　然リ

○三番陸奥宗光曰　余ヲ以テ之ヲ視ルニ本案中ニ不備不明且牴觸ノ處アリ然レ𪜈今十二番ノ說ノ如ク單ニ新聞條例第七條ニ牴觸スト謂フニハ非ス新聞條例ニハ或ハ全社ニ關シ或ハ一人一個ニ關スル者アリ然ルニ此第二條ハ唯罰金ヲ科セラレ云々ト謂フノミニテ何人ノ科セラルヽヤ否ヲ詳ニセス凡責ニ任スヘキ者ハ其分界ヲ立テサレハ不可ナリ故ニ此條ニ於テ余ハ之ヲ不備ト謂フ第三條ハ牴觸ノ說アリト雖モ第七條ニ第十二條以下ノ禁ヲ犯シ若クハ讒謗律ヲ犯シタルヰ首從ヲ分ツテ一人一個ヲ罰スルノ法ヲ示シ此條ハ一社ニシテ第十二條以下若クハ讒謗律ヲ犯シテ處罰三次ニ至リタルヰ全社ヲ處置スルノ法ヲ示ス者ナレハ全社ニ關スルト一人一個ニ關スルトノ區別アリ故ニ此條ニ於テハ余ハ異議ヲ存セス

第五條ハ十九番ノ說ノ如ク縱令他國ニ何等ノ法則アルモ本邦ノ成律ニ牴觸ス故ニ余ハ改正ヲ求ム可キ者トス第七條ハ所謂不備ナル者トス新聞紙條例第八條ニ新聞紙及雜誌雜報ノ筆者ハ云々トアリ其箋注ニ投書者ハ筆者ヲ以テ例ストアリ然ルニ此第七條ニハ凡ソ投書ヲ記載スルハ編輯人必ス其筆者ノ姓名住所ヲ詳知スルヲ要ス云々トアリ然ラハ則チ尋常ノ瑣事ト雖モ猶ホ其姓名住所ヲ詳知セサルヲ得ス第八條ト湊合セサルニ似タリ右ノ筋合ナルヲ以テ余ハ此條及ヒ第二條及ヒ第五條ハ通牒シテ改正ヲ求ムヘキ者トス

○六番大給恒曰　余ハ十二番十九番ト同意ナリ三番ニ於テ一人ニ關スルト一社ニ關スルトノ說アリト雖モ余ハ之ト所見ヲ異ニス牴觸ノ廉ハ十二番十九番ニ於テ既ニ之ヲ盡セリ故ニ再ヒ贅スルヿヲ用ヒス三番ニ於テ第三條ハ一社ニ關スル者ト論スト雖モ第一條ハ一身上ニ關スル者ナラン第二條モ一身上ニ關スル者ナラン然則第三條ノミ一般ニ關スル者ト見做シ難シ一般ニ關スル者ニ非サルヰハ情ヲ知ラサル者モ遂ニ罰ヲ受ルニ至ラン故ニ余モ亦十二番ト同ク牴觸ト謂フ且第五條ノ控訴上告手續ニ牴觸スルヿハ十六番之ヲ論シテ餘蘊ナキナリ

○九番佐々木高行曰　余ハ三番ノ說ノ如ク第二條第三條トモ一般ニ關係スル者トス然ラハ第三條ハ條例ニ追加スル者ナレハ妨ナシト雖モ第二條ハ所謂不明ナル者ナリ第五條ハ各議官陳述ノ如ク上告手續ニ牴觸ス但シ新聞條例ハ特別ナリト謂フ者アラン然レ𪜈條例頒行以來一般ノ法ヲ以テ之ヲ治ム然ラハ此條ハ舊法ニ牴觸スト謂ヘシ第七條モ三番ト同意ナリ且第八條ニ官准ヲ得サル云々トアリト雖モ既ニ新聞紙條例第一條ニ持主若クハ社主ヨリ願書ヲ捧ケ允准ヲ得ヘシ允准ヲ得スシテ發行スル者ハ法司ニ付シ罪ヲ論シ云々トアリ是官准ヲ得サル者ヲ罰スルノ法ニ非スヤ而シテ今復此條ヲ揭ク第一條ニ牴觸スト謂ヘシ故ニ牴觸且不備不明ノ條件ヲ擧テ其理由ヲ具ヘ三番ノ說ノ如ク通牒シテ改正ヲ求ムヘキ者トス

○十一番秋月種樹曰　第二條第三條ハ粗十六番ト同意ナリ元來新聞社ナル者ハ社主編輯人印刷人合シテ一社ヲ成ス者ナリ其一員條例ヲ犯シテ罰金ヲ科セラル一社擧テ之ヲ納完セサルヲ得ス而シテ之ヲ納完スルヿ能ハス乃チ該社ノ發行ヲ停止ス亦宜ナラスヤ第三條モ亦然リ其禁ヲ犯ス者縱令一人ニ止ルト雖モ一年三次ニ至ルニ迨テハ該社ノ不注意亦甚シト謂ヘシ全社ノ罰ヲ科セラルヽ自ラ招ク者ニ似タリ第五條ハ上告手續ニ觸ルヽト雖モ然レ𪜈歐洲ニ於テモ新聞條例ハ特別

ノ者トス故ニ本案ハ一モ牴觸スルヿナク且不備不明ノ所アルヲ見サルナリ

○議長曰　十一番ニ問フ摠テ十六番ト同說ナル乎

○十一番秋月種樹曰　第二條第三條ハ粗十六番ト同說ナリト雖モ第五條ハ全ク之ニ反セリ

○二番黑田淸綱曰　余ハ三番九番ト同意ナリ

○十二番山口尙芳曰　檢視ハ舊法ニ害シ若クハ牴觸シ及不備不明ナル者アレハ其理由ヲ具ヘ太政大臣ニ通牒シテ改正ヲ求ムルノ趣意ナリ然ルニ意見ヲ陳スルノミニシテ討論スルヿヲ得サルトキハ本院ノ議ヲ盡セリト謂ヘカラス

○六番大給恒曰　過刻九番ニ於テ本案ノ第八條ト新聞條例第一條ト牴觸ノ說アリ今一回ノ說明ヲ乞ハントス

○議長曰　九番其レ之ヲ說明セヨ

○九番佐々木高行曰　新聞紙條例第一條ニ載スル所ヲ見ルニ允准ヲ得スシテ發行スル者ハ法司ニ付シ罪ヲ論シ發行ヲ禁止シ持主若クハ社主及編輯人印刷人各々罰金百圓ヲ科ストアリ而シテ今第八條載スル所ヲ見ルニ官准ヲ得サル新聞紙若クハ雜誌雜報ヲ發賣スル者ハ各々罰金三圓以上百圓以下ヲ科ストアリ故ニ本條ハ第一條ニ牴觸スルト謂ナリ

○六番大給恒曰　始テ意ノアル所ヲ知レリ

○十二番山口尙芳曰　尙復前說ヲ敷衍セン本案第一條ニ云ク寓言假說若クハ譬喩嘲謔隱謎ヲ以テ條例若クハ讒謗律ヲ犯ス者ハ本例本律ニ依テ罰ヲ科スト新聞紙條例ヲ見ルニ其第六條末項ニ紙中若クハ卷中載スル所ノ事ニ付テハ紙尾署名ノ編輯人若クハ編輯人長一切ノ責ニ任スヘシトアリ然則寓言假說等ヲ以テ條例若クハ讒謗律ヲ犯シ第二條所謂罰金ヲ科セラルヽ者ハ編輯人ニ非スシテ誰ソヤ其編輯人罰金ヲ納完スルヿ能ハスンハ持主若クハ社主情ヲ知ラサルモ其發行ヲ許サルヽトキハ條例ノ社主編輯人印刷人等各其罪ヲ區別スル者ト支吾スト謂ヘシ故ニ大臣ニ通牒シテ改正ヲ求ムルヲ善トス

○議長曰　各議官ノ意見ハ既ニ陳述シ盡セリト想フ故其當否ヲ決セントス十二番ニ於テ本案ノ第二條第三條ハ新聞條例第七條ニ牴觸スト論セリ次テ十九番之ニ同意ス乃チ第七條ニ牴觸スト思考スル議官ハ起立ス可シ

起立者四人

○議長曰　少數ナルヲ以テ牴觸ノ說ハ之ヲ取ラス十六番ニ於テ本案ノ第五條ハ控訴上告手續第三十三條ニ牴觸スト論セリ次テ十九番三番之ニ同意ス乃チ第三十三條ニ牴觸スト思考スル議官ハ起立ス可シ

衆議官盡ク起立ス

○議長曰　全會一致ナルヲ以テ牴觸ト決セリ三番ニ於テ第二條ハ不備ナリト論セリ乃チ不備ト思考スル議官ハ起立ス可シ

起立者六人

○議長曰　少數ナルヲ以テ不備ノ說ハ之ヲ取ラス三番ニ於テ本案ノ第七條ハ新聞紙條例第八條ニ牴觸スト論セリ乃チ條例第八條ニ牴觸スト思考スル議官ハ起立ス可シ

起立者四人

○議長曰　少數ナルヲ以テ牴觸ノ說ハ之ヲ取ラス九番ニ於テ本案ノ第八條ハ新聞紙條例第一條ニ牴觸スト論セリ乃チ牴觸スト思考スル議官ハ起立ス可シ

起立者四人

○議長曰　少數ナルヲ以テ牴觸ノ說ハ之ヲ取ラス

圖　右は明治九年二月八日內閣より下附二月十八日の檢視に方り追加第五條は明治八年太政官布告第九十三號控訴上告手續第三十三條に牴觸するを以て改正刪除すへき旨太政大臣へ通牒す二月廿四日第五條刪除の報あり二月廿五日本案を上奏す。
尙文中新聞條例とあるは總て明治八年新聞紙條例の事である。

新聞紙條例追加ノ儀

〔號外第三號意見書新聞紙條例追加ノ儀參照〕

〔參考〕明治八年新聞紙條例の實施と其逆效果

西鄕一派の武斷派征韓論に破れて隱退するや、文官にて同論者であつた副島種臣、後藤象二郎、板垣退助、江藤新平等は引續き政府を去り、七年一月連署して民選議院設立の建白を提出した、日新眞事誌、郵便報知逸早く是を報道したれば、是非の議論續々新聞紙上に現れ、新聞紙の言論空前の盛況を呈した。

新聞紙の論說社會の呼物となると同時に雜誌を中心として政論を鬪はさんとする一派が生じた、其先驅をなす者は、津田眞道、加藤弘之、森有禮、杉享一、箕作麟祥、西周等主として當時の官學派を網羅した「明六雜誌」である、此雜誌は明治七年に發刊、翌年末迄繼續したが、其論調は漸進主義であつた。次ぎに福澤諭吉、林茂吉は「民間雜誌」を慶應義塾より發行して舊物破壞を主張した、是等は皆當時一流教育家の指導する者であるから、論旨至つて穩健であつた、然るに明治六年第一號を發行して直ちに廢刊したる「評論新聞」は、明治八年三月復活して更に第一號を發行し、直接時事問題を論じて政府に肉薄した、此雜誌は鹿兒島人海老原穆の主宰する所にて、橫瀨文彥、小松原英太郎等執筆して長閥打破の論陣を張り、當時最も猛烈なる內閣攻擊者であつた。

是等急進派の雜誌は民權主義の新聞紙と共に、板垣、西鄕等が隱退後鄕里に於て經營しつゝある私學校生徒の歡迎する所となり、加ふるに不平の士族は天下に充滿し、江藤新平、島義勇が兵を擧ぐるが如く、不穩の空氣次第に濃厚とならんとしつゝあるを以て、政府は更に言論の取締を嚴重にすると同時に、階級の區別を明かにし、華族、官吏等の威信を保護して秩序を保持するの必要を認め、外國の法令を解する官吏に命じて各國の新聞條例を研究せしめ、八年六月二十日を以て新聞條例十六條並に附則を發布し、同廿八日更に讒謗律八條を發布して新聞紙の取締を嚴にすると同時に、新聞記者及び投書家を獄に投ずることゝした。

新律の影響は忽ち新聞誌上に表れた、民權論は著しく下火となり、直截的なる筆法は曖昧と成り言辭を紆餘曲折せしめて法網を免れんとした、然して表面新律を恐るゝが如くにして、隱然之に反抗する論文、一時從來の民權論と交代するが如き形勢を示した、年少氣鋭なる曙新聞の末廣鐵腸は遂に此壓迫に堪ふるを得ず、七月二十日の紙上にて自ら筆を執つて是を攻擊した、次いで數日後條例を攻擊する匿名の投書あるを發見し、更に語氣を强めて之を紙上に揭載した、彼は友人の注意を受けたる時「囹圄に入つて天下の人心を喚起せんのみ」と答へたという。

八月四日彼は果して東京裁判所に呼出されて取調を受けた、彼は思ふまゝに陳述して罰金二十圓禁獄二月の判決を受けたが「監置の場所なし」との理由にて、東京府に引渡され自宅禁錮となつた、此事新聞にて報道さるゝや世人は非常に驚駭し、末廣に同情を寄するもの甚だ多く、却て人心を激動せしむるの動機となつた。

次いで八月十二日東京日日新聞編輯長代理甫喜山景雄は大阪人林醉平の投書を揭載し、教唆に問はれて禁獄十日罰金十圓に、十八日郵便報知新聞編輯人栗本鋤雲は同月四日の紙上揭載したる社說に付取調べを受け、廿日曙新聞編輯長末廣重恭（鐵腸）は高橋矩正子の投書の件につき又罰金十圓禁獄一箇月に、廿八日朝野新聞編輯長成島柳北は教唆に問はれて禁獄五日の刑に、卅一日郵便報知新聞編輯長岡敬孝は新律を誹毀して禁獄一箇月罰金十圓に處せられた、九月に入りては更に評論新聞、横濱毎日等に及び、文字の獄益々增加して、禁獄の多き新聞紙程聲價を高めるの奇現象を呈した。

新律が却て新聞の聲價を高からしめ、且つ世人に意外の感を抱かしめたことは前にも述べたが、直接關係を有する新聞雜誌を惡化せしめたことは爭ふべからざる事實である、また之を適用する法官は其無意義なるを知り、政府部內にも反對の意見を抱く者があつた。　〔小野秀雄　日本新聞發達史五四—八二〕

第八號議案

度量衡三器議案

元老院會議筆記　明治九年二月廿七日

○第八號度量衡三器議按檢視會

出席議官

一番　壬生基修
三番　陸奥宗光
四番　由利公正
五番　有栖川宮
七番　長谷信篤
九番　佐々木高行
十番　佐野常民
十一番　秋月種樹
十二番　山口尙芳
十四番　柳原前光
十五番　松岡時敏
十六番　齋藤利行
十九番　河野敏鎌

午前第十時開場

○議長曰　本日檢視ニ附スル處ノ本按種類表ハ概子圖解ニ過キス故ニ今本按第拾七號ノ本條六則ノミヲ朗讀セシムヘシ

○書記官本田親雄　本按ヲ朗讀ス

第拾七號

度量衡三器別紙種類表ノ通改定候條左ノ規則ノ通可相心得此旨布告候事

明治九年二月十九日　太政大臣三條實美

度量衡改定規則

第一條

三器改定ニ付各地方ニ三器製作所幷賣捌所ヲ設ケ製作所ニ於テ製作セル新器來ル三月十五日ヨリ賣捌所ニ於テ發賣爲致從前ノ桝坐秤坐ハ同日ヨリ廢止候事

第二條

各地方ニ舊器改所ヲ設ケ候條從前所持ノ三器來ル三月十五日ヨリ十二月廿五日マテニ右改所ヘ差出シ檢査ヲ請クヘシ

右期日ヲ過キ檢印ナキ器ヲ商業上ニ用フルヿヲ禁ス時宜ニヨリ掛リ官吏商家ニ入リ用器ヲ視察スヘキ事

但改所ニ於テ檢査ノ上新器ニ適合セル分ハ捺印シ廢スヘキ分ハ廢ノ字ヲ印シ總テ所持人ニ下ケ戻スヘシ

第三條

製作所賣捌所宮許ノ外三器製作賣捌一切不相成事

但尺ハ尺杖等一時便用ノ爲メ目盛致シ桝ハ芋烏芋等ヲ量ル爲メ箱ヲ製シ又ハ賣買スルハ苦シカラス

第四條

尺度秤量ノ目ヲ盛直シ桝ノ緣鐵弦鐵ヲ打替ヘ斗概ヲ修覆スル等ハ必ス製所作ヘ差出スヘク秤量ノ緒紐ヲ附替フルハ製作所又ハ賣捌所ニ差出スヘシ其他ノ人自儘ニ致シ候儀不相成候事

第五條

舊新器共檢印アルヲ賣拂度者ハ必ス賣捌所ニ可申出事

但秤ノ錘皿又ハ桝ノ緣鐵弦鐵等ヲ取離シ古鐵トシテ賣買スルハ苦シカラス

第六條

第四條以下ノ禁令ヲ犯ス者ハ其品取上ケ律ニ照シテ處斷スヘキ事

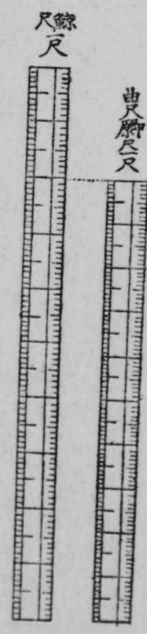
度量衡種類表

圖

度量衡種類表は會議筆記に省略れさたが便宜こゝに挿入した

尺度種類表

尺度圖本尺三分一之縮圖



右表面之通リ尺度ハ曲尺ヲ以テ原尺ト定メ尤種類ハ右曲尺鯨尺ノ二種ニ限リ候事

但製作器品ハ竹木鐵黃銅其外等各業ノ便利ニ就キ相製シ尤其寸尺或ハ三寸五寸或ハ一尺二尺各其寸法ヲ以テ相製シ候筈之事

附木呰曲尺ノ裏目ハ曲尺一尺ノ方斜ニテ一尺四寸一分四厘二毛餘ヲ一ト相立勾倍等定候ニ便用致候儀ニ付其規矩ヲ以テ目盛致候筈之事

尺度比較

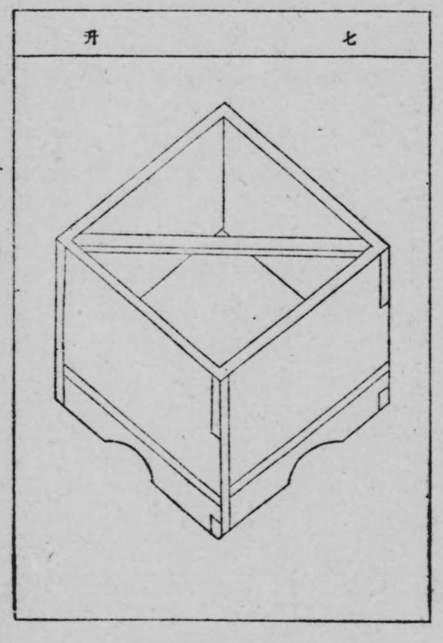
曲尺ヲ鯨尺ニ較ス　鯨尺ヲ曲尺ニ較ス

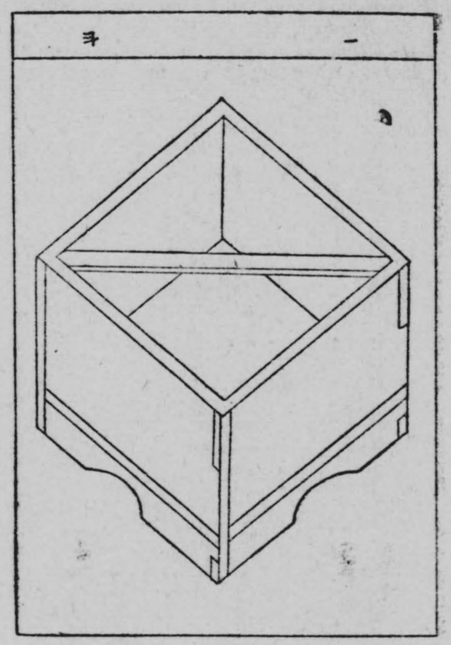
曲尺一尺　鯨尺一尺

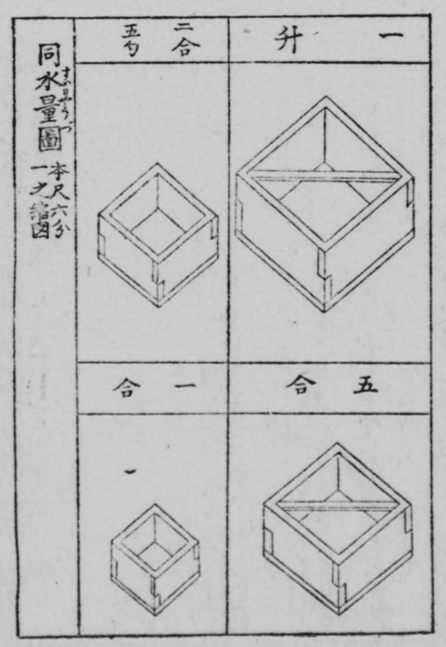
鯨尺八寸　曲尺一尺二寸五分

斗量種類表

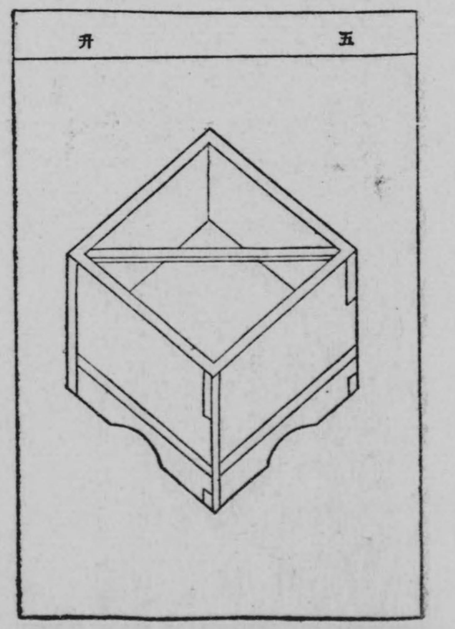
舊器穀量圖本尺六分一之縮圖

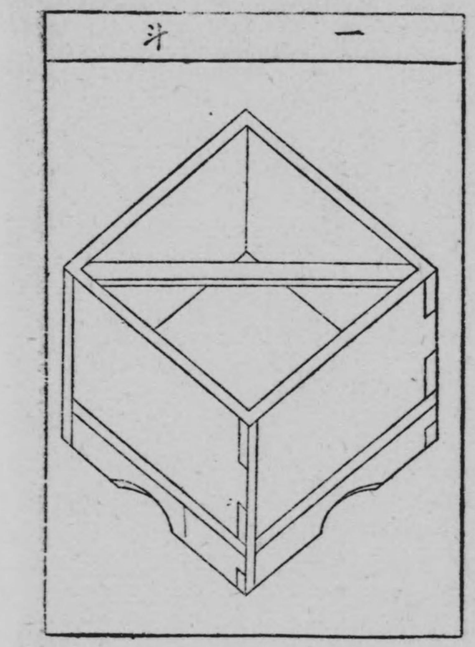


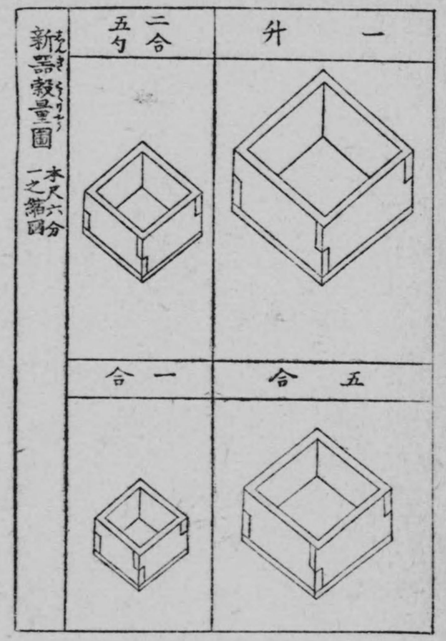


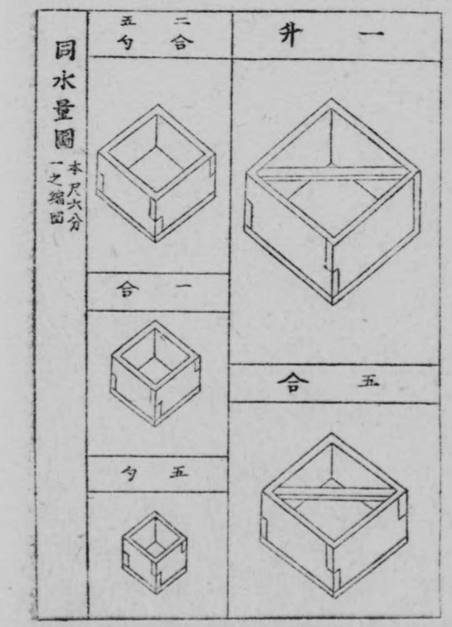


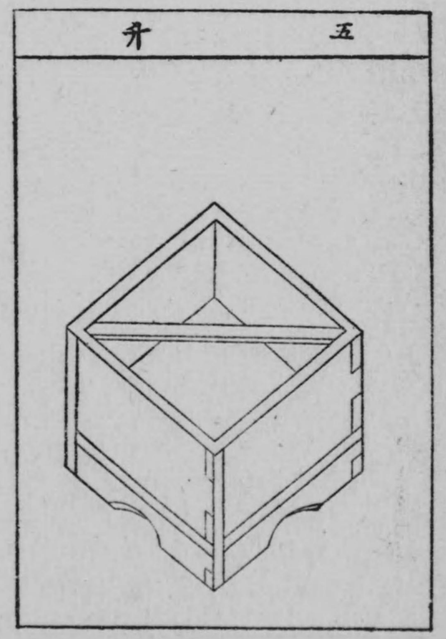
同水量圖本尺六分一之縮圖

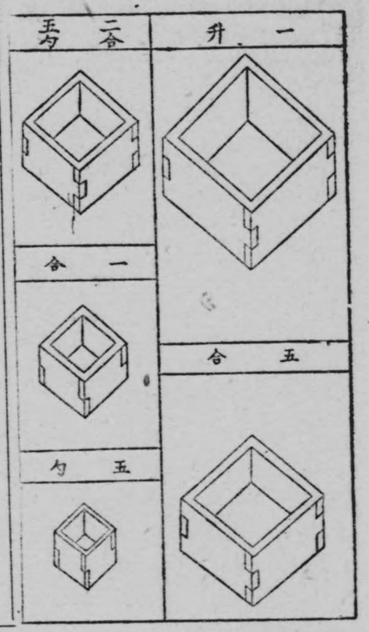












舊器斗量寸積

穀量	寸法	積立方分	弦厚幅	弦積立方分	差引現積	木厚	製作品
五合	方三寸九分五厘深二寸九厘	千三萬二百六十三個餘〇九	上下共八分八厘	百九十個餘五	三萬二千三十三個餘四	三分五厘	同
一升	方四寸九分深二寸七分一厘	六萬四千五百七十七個餘十七	上下共八分八厘五	二百四十個餘四	六萬四千二十七個餘七	三分五厘	同
五升	方四寸八分深三寸四分厘九分四厘	三萬二千二百六十五個餘十二	上下共八分五厘九	二千一〇八個餘一	三十二萬二千三百四十四個餘三	五分	同
七升	方七寸九分深四寸五分厘八分五厘	四萬二千六百七十五個餘七	上下共八分五厘八	二千二百四十九個餘八	四千七百十五個餘十七	三五分	同
一斗	方一尺〇五分深五寸九分一厘	六千七百七十四個餘八	上下共八分八厘二	三千三百八十六個餘六	六十四萬二百九十個餘十	六分	木品檢斗縁鐵弦

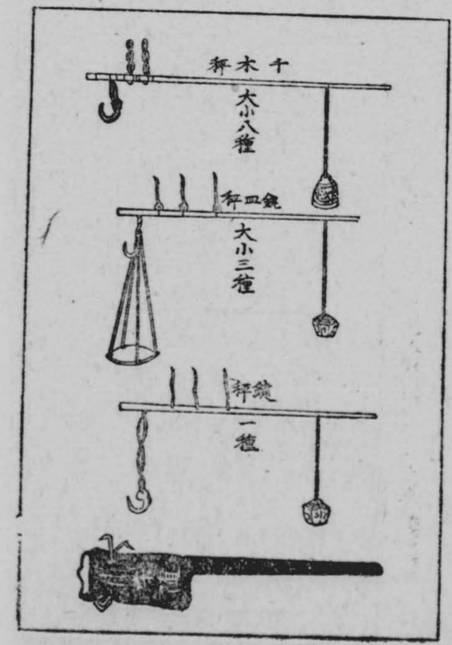
新器斗量寸積

穀量	寸法	積立方分	弦厚幅	弦積立方分	差引現積	木厚	製作品
五合	方三寸九分五厘深二寸九厘	千三萬二百六十三個餘〇九	上下共八分八厘九	百九十個餘五	三萬二千三十三個餘四	三分五厘	同
一升	方四寸九分深二寸七分一厘	六萬四千八百二十七個	上下共八分八厘八	二百四十個餘四	六萬四千二十七個餘七	三分五厘	同
五升	方四寸八分深三寸四分厘九分四厘	三萬二千二百六十五個餘十二	上下共八分五厘九	二千一〇八個餘一	三十二萬二千三百四十四個餘三	五分	同
七升	方七寸九分深四寸五分厘八分五厘	四萬二千六百七十五個餘七	上下共八分五厘八	二千二百四十九個餘八	四千七百十五個餘十七	三五分	同
一斗	方一尺〇五分深五寸九分一厘	六千七百七十四個餘八	上下共八分八厘二	三千三百八十六個餘六	六十四萬二百九十個餘十	六分	木品檢斗縁鐵弦

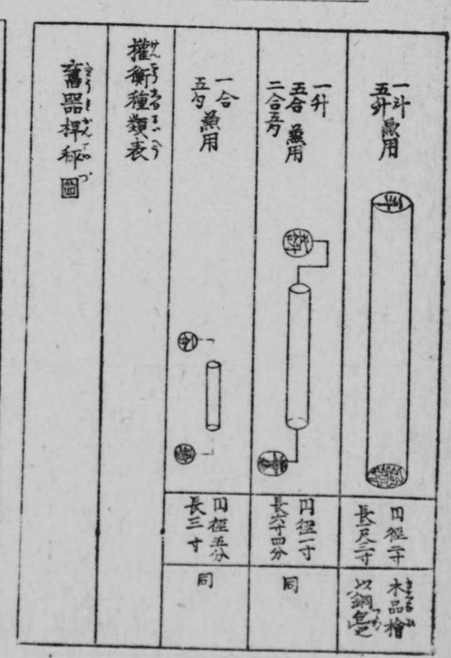
水量寸法	積立方分	木厚	製作品
一合	方二寸一分深一寸四分七厘	六千八百四十二個餘	同
一升	方四寸九分深二寸七分	六萬四千八百二十七個	四分	木品檢
五合	方三寸九分五厘深二寸〇七厘七五	三萬二千四百十四個餘	四分	同
二合五夕	方三寸〇五厘深一寸七分四厘二	一萬六千二百〇四個餘	四分	同
一分	方二寸一分深一寸四分七厘	六千四百八十二個餘	四分	同

種類	寸法	製作品
二合五夕分	方三寸〇五厘深一寸七厘四厘二	一萬六千二百〇四個餘	無弦		三分五厘	木品檜斗緣鐵
一合七厘	方二寸一分深一寸四分八十二個餘	六千四百	同		三分五厘	同
五夕六厘	方一寸六分深一寸二分	三千二百四十個余	同		二分	同
水量	寸法	積立方分	木厚	製作品
一升	方四寸九分深二寸七分	六萬四千八百二十七個	四分	木品檜
五合	方三寸九分深二寸〇七厘	五厘七五	三萬二千四百十四個餘	四分	同
二合五夕	方三寸〇五厘深一寸七分四厘二	一萬六千二百〇四個餘	四分	同
一合	方二寸一分深一寸四分七厘	六千四百八十二個餘	四分	同
五夕	方一寸六分深一寸二分六厘六	三千二百四十個餘	二分	同
通計	舊器穀量七種水量四種 新器穀量七種水量五種			

新器斗概圖　本尺六分一之縮圖　并寸法



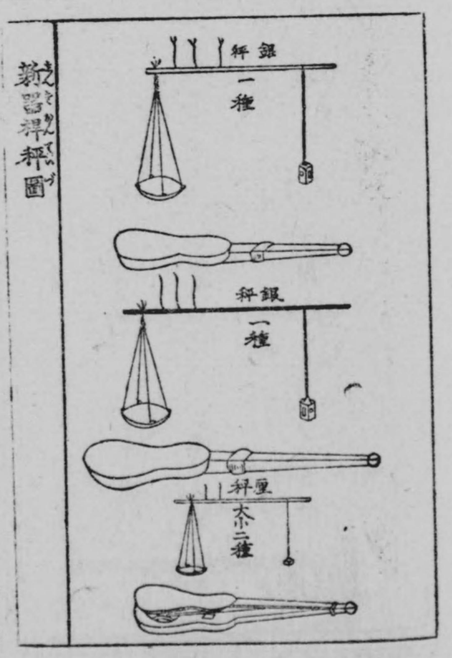
舊器概秤圖



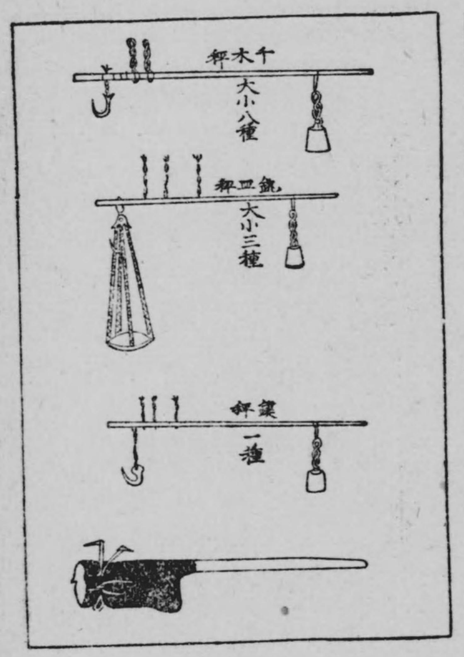
權衡種類表

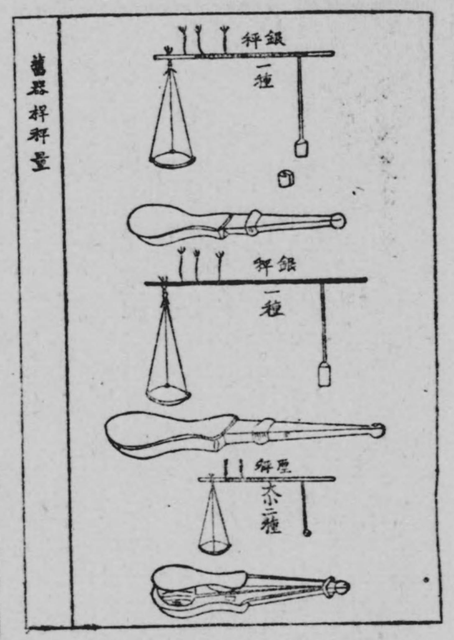
一升五升兼用	円徑一寸長尺二寸	木品檜以銅包之
一升五合兼用二合五夕	円徑一寸長六寸四分	同
一合五夕兼用	円徑五分長三寸	同

舊器概秤圖



舊器概秤量





千木秤量	盛出	星點量	錘量	衡長	製作品
上十六貫匁元卅二貫匁	十直點貫匁	二百匁百匁	二貫匁	六尺五寸、衡白檀衡帶純銅錘鉄鐵	
上十二貫匁元廿六貫匁	五直點貫匁	二百匁百匁	一貫五百匁	六尺	同
上八貫匁元十六貫匁	五直點貫匁	二百匁百匁	一貫匁	五尺五寸	同
上五貫匁元十一貫匁	三直點貫匁	百五十匁	七百匁	四尺	同
上三貫匁元六貫匁	一直點貫匁	百二十匁	五百匁	三尺	同
上一貫二百匁元三貫五百匁	一直點貫匁	二十匁	三百匁	二尺五寸	同

元上	一貫文	五百文直點	十文	百五十文	二尺	同
元上	二百文	二百文直點	二文	百五十文	二尺	同
元前上	二百文	五百文直點	一文	二文	百五十文	二尺	赤樫衡 黃銅錘
元前上	八十文	五百文直點	一文	二文	八十文	一尺八寸	赤樫衡 黃銅錘 褐
元前上	五十文	百五十文直點	一文	二文	六十文	一尺六寸	同
元前上	百六十文	五十文直點	一文	二文	三十文	一尺二寸	同
元前上	二百文	五百文直點	一文	十七文	八文五分	七寸五分	角 黃銅錘
元前上	五十文	百六十文直點	一文	十七文	五十文	一尺五分	黑柿 黃銅錘
元前上	五十文	百六十文直點	一文	十七文	五十文	十一文	黑柿 黃銅錘
元前上	二百文	五百文直點	一文	十七文	五十文	一尺五分	角 黃銅錘
元前上	一貫二百文	五百文直點	一文	十七文	五十文	七寸	角 黃銅錘
元前上	二百文	五百文直點	一文	十七文	五十文	一尺四寸	赤樫衡 黃銅錘
元上	二百文	二百文直點	二文	百五十文	二尺	同
元上	一貫文	五百文直點	一文	二文	百五十文	二尺	白樫衡 黃銅錘 帶

新器桿秤量

元上	十六貫文	十貫文直點	百二百文	二貫文	六尺五寸	同
元上	十二貫文	五貫文直點	百二百文	一貫五百文	六尺	同
元上	八十六貫文	五貫文直點	百二百文	一貫文	五尺五寸	同
元上	五十一貫文	三貫文直點	百五十文	七百文	四尺	同
元上	三六貫文	一貫文直點	二十文	五百文	三尺	同
元上	一三貫文	二百五百文直點	十二文	三百文	二尺五寸	同
元上	一貫文	五百文直點	十七文	二十文	百五十文	二尺	同
元上	二百文	二百文直點	十二文	百五十文	二尺	同
元前上	五十百六十文	百五十文直點	十二文	六十文	一尺六寸	同
元前上	八十二百五十文	百五十文直點	十二文	六十文	一尺八寸	赤樫衡 黃銅錘
元前上	二百文	五百文直點	十二文	八十文	一尺八寸	赤樫衡 黃銅錘
元前上	百六十五十文	百五十文直點	十二文	三十文	一尺二寸	同

千木秤量

元上	十六貫文	十貫文直點	百二百文	二貫文	六尺五寸	白樫衡 黃銅錘 帶

鈍皿秤量

元上	一貫文	五百文直點	十文	百五十文	二尺	同
元上	二百文	二百文直點	二文	百五十文	二尺	同
元前上	二百文	五百文直點	一文	二文	百五十文	二尺	赤樫衡 黃銅錘
元前上	五十文	百五十文直點	一文	二文	八十文	一尺八寸	赤樫衡 黃銅錘
元前上	八十二百五十文	百五十文直點	一文	二文	六十文	一尺六寸	同
元前上	百六十五十文	百五十文直點	一文	二文	三十文	一尺二寸	同
元上	一貫文	二百文直點	十二文	百五十文	二尺	同
元上	一貫文	五百文直點	十七文	二十文	百五十文	二尺	同
元上	三貫文	一貫文直點	十文	二十文	三百文	二尺五寸	同
元上	六貫文	一貫文直點	二十文	百文	五百文	三尺	同
元上	十一貫文	三貫文直點	五十文	百文	七百文	四尺	同
元上	十六貫文	五貫文直點	百文	二百文	一貫文	五尺五寸	同
元上	十廿六貫文	五貫文直點	百二百文	二百文	一貫五百文	六尺	同
元上	十冊二貫文	十貫文直點	百二百文	二貫文	六尺五寸	白樫衡 黃銅錘 帶

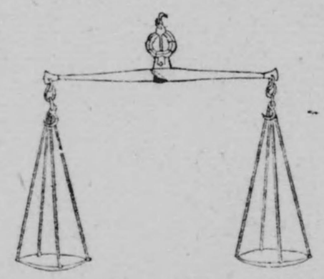
元上	六分	五直點	二厘	一文	六寸	同
元上	一文	二分	一直點	二厘	一文四分	一尺五分	角 黃銅錘
元前上	百六十文	五十文	一直點	二分	一文	十一文	一尺五分	黑柿 黃銅錘
元前上	三百二十文	五十文	十七直點	二分	一文	八文	七寸	角 黃銅錘
元前上	三百二十文	五十文	十七直點	二分	平本錘	但元緒掛に増錘を増す	五分	角 黃銅錘
元前上	一貫二百文	五百文	十百文	二分	一文	十文	一尺四寸	赤樫衡 黃銅錘
元上	一貫文	五百文	十文	六十文	一尺四寸	赤樫衡 黃銅錘
元上	三六分	五直點	二厘	一文	六寸	同

通計

新舊	器共一十六種

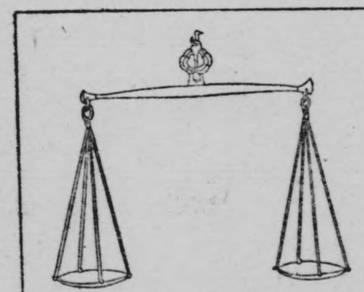
新舊天秤圓并量

第一

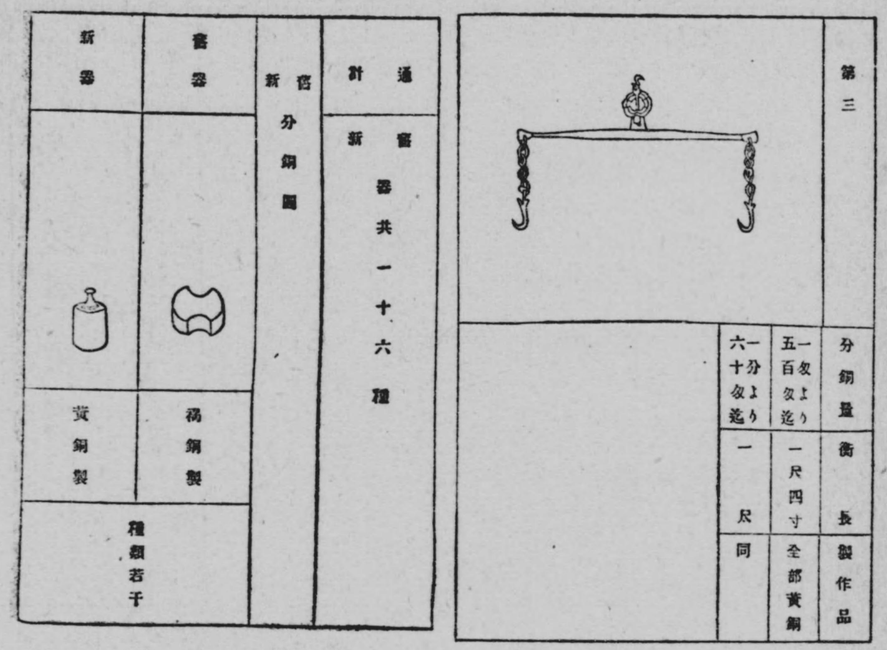


一文より十貫文迄	四尺五寸	全部黃銅
一文より五貫文迄	三尺五寸	同
一文より三貫文迄	三尺	同
一文より二貫五百文迄	二尺五寸	同
一文より二貫文迄	二尺	同
一文より一貫五百文迄	一尺七寸	同
一文より一貫文迄	一尺六寸	同

第二



一分より一貫文迄	一尺六寸	全部黃銅
一分より五百文迄	一尺三寸五分	同
一分より五百文迄	一尺二寸	同
一分より五百文迄	一尺五分	同
一分より百六十文迄	一尺二寸	同
一分より二百文迄	九寸	同
五厘より百廿文迄	七寸	同



○議長曰　本按此ノ如シ若シ不備軽微ノ條件アリト思考スルカ又ハ別ニ度量衡三器ニ就テ意見アラハ發議ス可シ

各議官發議ナシ議長各議官ノ度量衡三器ノ議ニ就テ別ニ意見ナキ者ノ起立ヲ告ク衆議官一齊ニ起立ス依テ度量衡三器ノ議ニ付キ別ニ意見ナキニ決ス

午前第十時二十分閉場

參考　**大藏省伺**　九年一月二十九日

度量衡新器發賣ノ儀度量衡取締條例第七條ニ賣捌所ニ於テ新製ノ器發賣日限ノ儀ハ各製作所ニテ新製ノ器概子出來ノ上一般ヘ布告ニ可及ニ付右出來ノ期限ヲ豫定シ大藏省ヘ可屆出事ト掲載有之候ニ就テハ右出來ノ見込府縣ヨリ追々當省ヘ屆出候處本年三月中出來見込ノ向多分ニ有之餘ハ右ニ前後イタシ出來候見込ニ付右發賣ノ儀來ル三月十五日ト御定メノ上一般ヘ公布相成候樣致度就テハ右公布案幷度量衡三器取締規則及尺枡廢置條款別紙相添此段及上申候也

追テ本文新器發賣ノ儀公布御遲延相成候テハ差支候趣申出候縣縣モ不少候ニ付何卒至急御詮議ノ上來ル二月十日迄ニ公布相成候樣致度此段申添候也〔法規分類・政體門度量衡上二八〕

回　右は明治九年二月十九日（同日太政官第十七號を以て便宜布告と同時に）内閣より下附二月廿七日檢視を經過同日上奏

第九號議案

（得）遺失物律議案

元老院會議筆記　明治九年三月七日

○第九號議案第一讀會

出席議官

一番　津田出
二番　柳原前光
三番　長谷信篤
四番　佐野常民
五番　河野敏鎌
六番　大給恒
七番　松岡時敏
九番　陸奥宗光
十一番　吉井友實
十二番　壬生基修
十三番　齋藤利行
十六番　黑田清綱
十七番　由利公正
十八番　山口尚芳
十九番　有栖川宮
二十番　秋月種樹

内閣委員　一番外三等法制官　村田保

午前第十時十五分開場

○議長曰　本日ハ第九號議案ノ一讀會ヲナシ引續テ新聞〔紙〕條例追加ノ儀ニ付意見書第二讀會ニ及フヘシ

○書記官　本田親雄　左ノ議案ヲ朗讀ス

得遺失物律（前項）

凡遺失ノ物ヲ得レハ五日内ニ其主ニ還シ其主分明ナラサレハ官ニ送ルヘシ官之ヲ榜示シ一年内ニ其主ナケレハ得ル人ニ全ク給ス若シ隱匿シテ主ニ還サス及ヒ官ニ送ラサル者ハ官物ハ坐贓ヲ以テ論シ私物ハ一等ヲ減シ並ニ物ヲ追シテ官私ニ還給シ主ナキハ官ニ入ル

○番外一番　村田保曰　此度改正ノ主意ハ本邦得遺失物ニ折半法ヲ用ユルニ付テハ内務省外務省陸軍省ヨリ上申ノ次第モア

リ且此律ハ元來支那律ニ依ル者ニシテ歐米各國ニハ之ヲ用ヒス即チ本邦ニテモ一般ニ之ヲ用ルニアラス官吏ノ得ル時ハ本ク本主ニ給シ官物ハ官ヘ納ル此等ノ不都合アルヨリ遂ニ內閣ニ於テ改正スヘキノ議ニ決セリ尙ホ其詳ナル事ハ第二讀會ニ於テ各議官ノ貴問ニ應シテ之ヲ說明スヘシ

（原文註（新聞紙條例追加ノ儀ニ付意見書第二讀會筆記ハ別冊ニ載ス）

元老院會議筆記　明治九年三月十二日

○第九號議案第二讀會

議長代理河野敏鎌

出席議官

二番　柳原前光
三番　長谷信篤
四番　佐野常民
六番　大給恒
七番　松岡時敏
九番　陸奥宗光
十番　佐々木高行
十一番　吉井友實
十二番　壬生基修
十三番　齋藤利行
十六番　黑田清綱
十七番　由利公正
十八番　山口尙芳
十九番　有栖川宮
內閣委員一番外三等法制官　村田保

午前第十時三十分開場

○議長曰　本日ハ第九號議案ノ第二讀會ヲ開ク各員例ニ從テ討論スヘシ

○書記官藤澤次謙　左ノ議案ヲ朗讀ス

得遺失物律中（前項）左ノ通改正シ改定律例第二百八十二條第二百八十三條、第二百八十四條ヲ刪除ス

得遺失物律（前項）

凡遺失ノ物ヲ得レハ五日內ニ其主ニ還シ其主分明ナラサレハ官ニ送ルヘシ官之ヲ榜示シ一年內ニ其主ナケレハ得ル人ニ全ク給ス若シ隱匿シテ主ニ還サス及ヒ官ニ送ラサル者ハ官物ハ坐贓ヲ以テ論シ私物ハ一等ヲ減シ並ニ物ヲシ追シテ官私ニ還給シ主ナキハ官ニ入ル

○九番陸奥宗光曰　予ハ本案ヲ否トス過日第一讀會ニ於テ內閣委員ノ說明セシ改正ノ要旨ヲ聞クニ其第一ハ得遺失物律ノ折半法ハ不都合ナリト云フ是ナリ其第二ハ本律ハ支那律ニ因襲シ來ルモノニシテ歐米各國ノ律ニハ此法ナシト云フ是ナリ其第三ハ折半法ハ律書ニ揭クル所ニ據レハ一般ニ施行スルニ非ス官吏邏卒等ハ其折半ヲ得ル事ナシト云フ是ナリ其第四ハ內務外務陸軍等ノ諸省ヨリ各上申ノ事モ之アリ故ニ此改正ノ企ニ及ヘリト云フ是ナリ然ラハ此四個條カ新律綱領ト改定律例トヲ改定スルノ根基ナラン然レ𪜈委員ノ此說明ハ甚短簡ニシテ殆ト分明ナラサレハ此改正ヲ要スル所以ノ事情ト道理トヲ罄ス事能ハス之ニ依テ予ハ今貴重ナル內閣委員ト我同職ノ議官中本案ヲ可トシテ主持セント欲スル諸君トニ向テ左ノ疑問ヲ發セント欲ス其第一ハ得遺失物律ノ折半法ハ實際ニ於テ不都合ナリト明言セリ惟ニ實際ニ於テ不都合ナリトノミ謂テ其不都合ノ所以ヲ述ヘサルヘキハ何等ノ事ナルヤ了解シ能ハサルナリ其第二ハ得遺失物律ハ元來支那ニ因襲シ來ル者ニシテ歐米各國ニハ此法ナシト云フ予モ亦支那ニ因襲シ來ル事ヲ知レリ然レトモ我新律綱領ハ徹頭徹尾支那律ヲ根據トシテ編輯セシ者ナレハ特ニ得遺失物律ノミ支那律ナリト謂フヲ得サルナリ又歐米各國ニナキ所ノ律ナリト謂フト雖ヘ𪜈我國律中歐米各國ニナキ所ノ者往々之アリ畢竟時ト所トヲ異ニシ又風俗國體ノ品位ニ由テ相互ニ其有無ヲ異ニスル者ナラン固ヨリ予ハ支那律ヲ尊ヒ歐米各國ノ律ヲ卑ミ又支那律ハ方今我國ノ風俗國體ニ適當シ歐米各國ノ法律ハ我國ニ適當セスト謂フニ非ス然レ𪜈現在我國ノ法律ト稱スル新律綱領、改定律例ハ多ク支那律ヲ根據トセシ者ナリ然ルニ今俄ニ得遺失物律ノミ支那律ニシテ歐米各國ニナキ所ノ者ナレハ急ニ改正ヲ要スルトノ說ハ此亦了解シ能ハサルナリ其第三ハ折半法ハ一般ニ施行スルモノニ非ス官吏邏卒等ハ遺失物ヲ得ルモ折半ノ法ヲ用ヒス故ニ此改正ヲ要スルニ至レリト云ヘリ予ヲ以テ之ヲ視ルニ我國ニ於テモ支那ニ於テモ官私ノ區別ハ其制甚タ著シ官物ノ私物ニ於ル官吏ノ庶人ニ於ル皆一樣一式ニ非ス其區別スル所以ハ自カラ其理アリ其理ヲ說明スルハ本案ヲ議スルノ要旨ニ非サレハ之ヲ略スト雖𪜈既ニ陳述セシ如ク官私ノ區別ハ甚タ著シキニ依リ律例中官吏ニ在テハ或ハ特別ノ免許ヲ得又ハ特別ノ責任ヲ負フ之ヲ要スルニ庶人ト同シクセサルノ例ナリ然ラハ官吏邏卒等ハ折半ノ法ヲ用ヒサルモ敢テ妨クル事ナキナリ然ルニ之ニ依テ改正ヲ要スルニ至レ

リト云フハ此モ亦了解シ能ハサルナリ其第四ハ內務外務陸軍等ノ諸省ヨリ上申ノ趣モアリト云ヘリ此モ亦第一ニ陳述セシ實際ニ於テ不都合ナリト曰フト同口調ニテ何等ノ事ヲ上申シテ此改正ヲ要スルニ至リシヤ上申ノ趣トノミニテハ此モ亦了解シ能ハサルナリ右ノ如クナルトキハ千思萬考スルモ本律ヲ改正セント欲スル目的ヲ認知スル事能ハス之ニ依テ予ハ此改正ヲ無用トスルノミナラス却テ新律綱領及改定律例ヲ適當トシ方今必シモ改正ヲ要セサルナリ何トナレハ本律ハ假令支那律ニ因襲スルモ實際ニ於テハ甚タ簡便ニシテ道理ト事情トニ於テモ適當セル者トス今夫誰人ヲ論セス其所有ノ物品ヲ遺失シ而シテ搜索ノ道ナキトキハ殆ト其所有ヲ失ヒタルト同樣ノ事情ナリ其時ニ當テ若シ其物ヲ拾ヒ得ル者アラハ其半ヲ分與スルモ決シテ之ヲ惜ムノ情ナカル可シ尙且報酬トシテ之ニ與フルモ亦道理上ニ於テ適當ナリトス細ニ之ヲ論スレハ之ヲ遺失スル者ハ其時既ニ搜索ノ望ミ絕テ所有ノ權ヲ失フモノナレハ之ヲ拾ヒ得ル者ヨリシテ其半ト雖モ與ヘラルルハ意外ノ幸ト謂フヘシ況ヤ其物品ニ依テハ代價ヲ計リ其代價ヲ分與スルモ妨ナキナリ且事情ニ依テハ其遺失セシ物品ニ依リ生死浮沈ニモ關係スル事アラン其時ニ方テハ物品ノ半價ハ姑ク之ヲ舍キ全價ヲ償フモ之ヲ得ント欲スルハ必然ナリ然則遺失者ニシテ些少ノ損失アルモ此方法ハ遺失物ヲシテ發出セシムルニ於テ充分ニ適當スル者ナレハ決シテ折半ノ法ヲ厭フノ情ナク亦道理モナカルヘシ凡ソ物ヲ遺失スルハ多クハ不注意ヨリ生スル者ナレト其人ニ在テハ實ニ意外ノ不幸ト謂フヘシ之ニ反シテ再ヒ之ヲ得ルハ又實ニ意外ノ幸ト謂フヘシ約リ自己ノ身力ノ及ハサル所ヨリ生スル幸不幸ハ如何トモスル事能ハスト雖モ意外ノ幸ヲ與ヘシ人ニ對シテ其報酬ヲナスハ人間社會ノ道ニ於テ當然ノ事ト謂ヘキナリ又遺失物ヲ得タル人ノ上ニ就テ論スル時ハ道路山海何ノ地ヲ問ハス或ル物品ヲ拾ヒ得ル時ハ全ク所有主ト爲ルヘカラスト雖モ幾分カ之ヲ所有スルノ權理ナシト謂ヘカラス假令其權理ナシト謂フモ之カ爲メ時間ヲ費シ身力ヲ勞セン而シテ若干ノ損失ヲ招ク可キ條理ハ万々アルヘカラサル事トス予反覆シテ本案ヲ讀ニ云ク「凡遺失ノ物ヲ得レハ五日內ニ其主ニ還シ其主分明ナラサレハ官ニ送ル可シ」ト此文意ヲ味ヒトキハ凡ソ物ヲ拾ヒ得タル人ハ必ス五日內ニ其主ニ還ササルヘカラス若シ其主ヲ見サル時ハ必ス官ニ送ラサルヘカラス然レモ其主ナル者必シモ拾ヒ得ル所ノ近傍ニ住スル者ニ非ス又所謂官ハ警視出張所等ヲ指テ謂フナルヘシ其出張所ヘ送ルモ多少ノ時間ヲ費シ多少ノ心身ヲ勞セサルヲ得ス時トシテハ若干ノ費用ヲ捐テサルヲ得ス之ニ加ルニ其主ニ還スモ彼レ報酬スルヤ否ヤ計ルヘカラス假令報酬ヲ得サルモ之ヲ責ルヲ得サルヘシ又人間ノ情狀ニ就テ之ヲ論スルトキハ世ニハ極惡ノ人モ少ク極善ノ人モ少シ多キ者ハ中等ノ人ナリ中等ノ人ハ大抵利ヲ見テ進ミ不利ヲ見テ退クモノナリ然ラハ本案ノ如ク改正スルトキハ今后遺失ノ物アルモ之ヲ拾フモノナカルヘシ何トナレハ之ヲ拾フ時ハ多少ノ心身ヲ勞シ多少ノ時間ヲ費シ時トシテハ若干ノ費用ヲ捐テサルヲ得ス鄙諺ニ所謂障ラヌ神ニ祟ナキ者ニテ假令目前ニ何等ノ遺失物アルモ之ヲ拾フモノナカルヘシ此等ヲ指テ遺チタルヲ拾ハサル聖人ノ世ト謂フヘキカ然レモ今ノ世ニ在テハ是等ノ事ハ可不可ヲ知ラサルナリ若シ人ノ心ヲ以テ一層卑劣ナル者ト看ルトキハ折半ノ法ハ幾分カノ利ヲ求ムヘキ目的アレハ其目的ヲ達セント欲シ其際又良心ニ復シ或ハ其主ニ還シ或ハ官ニ送ルヘシト雖モ本案ノ如ク改正スルトキハ自ラ其良心ヲ失ヒ隱匿スル者ナシト謂ヘカラス世間若シ此等ノ人アリトセハ政府ノ法令ハ遂ニ良心ヲ害シ惡心ヲ導クノ具トナルモ計ヘカラス右ノ如ク論スルトキハ人ヲ愛スル猶ホ己ノ如クスル最上等ノ道德家ハ姑ク之ヲ舍キ中等以下ニ在テハ遺失物ヲ見ルモ之ヲ拾ハサルカ或ハ之ヲ拾フモ隱匿スルカノ二途ニ出テス果シテ然ラハ今ニシテ后ハ遺失者ノ手ニ復スル事稀ナルヘシ其復スルヿ稀ナル時ハ前ニ既ニ陳述セシ如ク一時ノ不注意ヨリシテ至重ナル物品ヲ遺失シ搜索ノ術已ニ盡キ而シテ其物品ハ一家ノ浮沈一身ノ生死ニ關係シ金錢ノ以テ之ニ換フヘキニ非ス此ノ如キ時ハ其物品ヲ拾ヒ得ル人ヨリ已ニ還サンヿヲ望ムヨリ外ナキナリ然ルニ本案ノ如ク改正スルトキハ此意外ノ幸ニ依ラント欲スルモ得ヘカラサルナリ故ニ本案ハ遺失セシ者ノ爲ニ謀ルモ拾ヒ得ル者ノ爲ニ謀ルモ共ニ其中ヲ得サルナリ此レ卽チ予ノ新律綱領改定律例ヲ可トシテ此改正ヲ否トスル所以ナリ尙且一言シテ本論ノ全局ヲ結ン政府ノ折半法ハ實際ニ於テ不都合ナリト謂フ所以ハ或ハ方今裁判所ニ於テ遺失物ヲ處分スルニ方リ其遺失物ノ性質ヲ混淆スルニ因ルナラン抑遺失物ト稱スル者ハ淸律集注ニ彼已失物無望復還幸而爲人所得得一半足トアリ又字書ヲ按スルニ遺ハ亡ナリト又遺亡ト續ク則チ淸律集注ノ云フ所ト吻合ス然ラハ遺失物ト稱スル者ハ其所有主意外ニ遺失シ其時ト所トヲ覺知セス之ヲ搜索スルモ得ス復タ還ルニ望ミナキ者ナラン然ルニ急據ノ際物品ヲ人力車內ニ遺忘スル者アラン去テ未タ遠カラスシテ之ヲ覺知シ或ハ歸テ其車夫ヲ詰リ

或ハ近傍ノ巡査屯所ニ告ケ其時ト處トヲ詳ニス之ニ先テ其車夫其物品ヲ屯所ニ送リ語ルニ遺失物ヲ以テス此ノ如キモ猶ホ遺失物トシテ之ヲ折半スルカ裁判所ノ實際ニ於テ若シ此ノ如キ處分アラハ遺失物ノ性質ヲ混淆スル者ト謂ハサルヲ得ス曾テ乘馬アリ逸走ス他ノ馬丁之ヲ道ニ駐メ之ヲ官ニ送ル官遺失物トシテ其價ヲ折半スト聞ク此ノ如キハ既ニ遺失ノ義理ヲ失シ又法律ノ慣用ヲ誤ルト謂フヘシ爰ニ遺シテ爰ニ拾フ得遺失物ヲ以テ論スヘカラス彼畜類ノ監守ノ怠リニ乘シ逸走セシヲ以テ直ニ認テ遺失物ト爲スカ如キニ至テハ愈其理ヲ謬ル者トス予ハ所謂遺失物ナル者ハ清律ノ集注ノ如ク其遺失者其時ト處トヲ詳ニセス而シテ復タ還ルニ望ミナキ者ヲ除クノ外ハ認テ以テ遺失物ト爲ササルヲ以テ裁判所ニ於テモ今引證スル所ノ如キ不理ヲ行ハサルヘシ然レモ政府ノ實際ニ於テ不都合ナリト曰フ所以ハ乃チ裁判所ノ行フ所非理ナルナカラン乎若シ非理ナルトキハ實際ニ於テ不都合ナリト謂ヘシト雖モ此レ本律本例ノ不都合ナルニ非スシテ其處分ノ其理ヲ盡ササルナリ處分ニシテ其理ヲ盡サハ亦何ソ此改正ヲ用ヒン

○番外一番　村田保曰　今九番ノ演說ヲ聞クニ甚粗漏ナリ前日予ノ說明ハ煩雜ニ涉ラン事ヲ恐レ故意ニ之ヲ單簡ニシ且各議官問フ事アラハ之ニ答ヘント陳述セリ今九番ニ於テ委員ハ得遺失物ノ折半法ハ明清ニ因襲シ歐洲ハ此法ナシ故ニ改正ヲ要スルト陳述セリト云ヘト既ニ改正ノ要旨ハ特ニ其レノミニ非ス故ニ各議官問フ事アラハ之ニ答ヘント陳述セシナリ九番ニ於テ物ヲ遺失スレハ既ニ所有ノ權ヲ失ヒ且復タ還ルニ望ミナキ者ナレハ若シ之ヲ拾フモノ有テ已ニ還ル時ハ之ニ對シテ相當ノ報酬ヲ爲ス固ヨリ當然ナリト謂フト雖モ此ノ如キハ人民相互ノ際ニ於テ爲スヘキ者ナリ政府ノ處分ヲ仰クニ至テハ報酬ノ趣意ニ非ス卽チ政府ニ於テ折半シテ之ヲ得ル者ニ與フルノ趣意ナリ其他縷々陳述アリト雖モ煩冗ニシテ其要ヲ聞クヿヲ得ス故ニ之ヲ駁スル事能ハス唯此改正ニヨリ人ノ良心ヲ害スト云フヿヲ主意トシテ論セリ故ニ今一回此改正ヲ以テ人ノ良心ニ害アリトスル所以ノ旨趣ヲ聞ントス

○議長九番ニ謂テ曰　番外一番ヨリ此改正ヲ害アリトスル所以ノ旨趣ヲ演說センヿヲ請ヘリ

○九番　陸奥宗光曰　予ハ此改正ヲ以テ直ニ人ノ良心ヲ害スト謂フニ非ス番外一番ノ謂フ所ハ誤聞ナラン予ノ說ハ此ノ如ク改正スルトキハ遺失物ノ其主ニ還ルヿ稀ナルヘシ其所以ハ上等ノ人ハ姑ク之ヲ舍キ中等ノ人ハ勞シテ益ナキカ爲ニ遺失物ヲ見ルモ之ヲ拾フ事ヲ爲サス又下等ノ人ハ之ヲ隱匿スルニ至ルヘシ元來折半法ハ人ノ慾心ヲ誘テ遂ニ良心ニ復セシメ官ニ告ルニ至ル者ナレハ遺失物ノ其主ニ還ルヿヲ得又人ノ良心ヲ害セサルヘシト雖トモ此回ノ改正ノ如キハ其良心ヲモ併セテ之ヲ減セン故ニ不可ト爲スナリ

○番外一番　村田保曰　九番ノ說ニ勞ヲ厭フカ爲ニ遺失物ヲ見ルモ之ヲ拾フ者ナカルヘシト謂フト雖トモ改正ノ主意ハ人ヲシテ勞セシムルニ非ス又拾フ者ヲシテ自ラ往テ之ヲ遠方ニ送ラシムルニ非ス若シ自ラ往テ之ヲ送ルトスレハ長崎或ハ青森ト雖トモ自ラ往テ之ヲ送ラサルヲ得ス果シテ然ラハ勞モ亦甚シト謂フヘシ之ヲ巡査ニ告ルモ可ナリ之ヲ新聞紙ニ揭ルモ可ナリ人ニ托スルモ可ナリ歐洲ノ法モ然リ本邦ノ古令ニモ凡ソ闌遺ノ物ヲ得ル者ハ皆隨近ノ官司ニ送ル云々トアリ而シテ其費用ヲ要セハ之ヲ本主ニ求テ可ナリ元來此改正ハ警視廳ト陸軍省トノ上申ニ基ク其故ハ內國人ノ遺失物ハ折半スルト雖モ外國人ノ遺失物ハ折半スルヿヲ得ス然レモ折半ノ法アルヲ以テ外國人ノ遺失物ト雖モ之ヲ拾フ者ハ必ス其折半ヲ求ム故ニ警視廳ヨリ折半法ハ實際ニ於テ不都合ナリト上申セリ又陸軍士官ノ乘馬ト雖トモ逸走スルトキ之ヲ執フル者ハ必ス折半法ニ依ランヿヲ求ム故ニ陸軍省ヨリ士官ノ乘馬ハ尋常ノ乘馬ト異ナルヲ以テ折半ノ例ニ依ルヘカラスト上申セリ予又之ヲ司法省中ニ聞ニ尋常ノ乘馬ヲ折半スルトキハ評價人ヲ雇ハサルヲ得ス馬ヲ得ル者ハ必ス評價人ニ賂テ其價ヲ貴クセシムルノ弊アリト又船ヲ拾テ折半ヲ求ムル者アリ其ノ船ノ纜ヲ斷テ之ヲ流シ下流ニ於テ之ヲ拾フナリ然レモ折半ノ法アルヲ以テ之モ亦其法ニ依ラサルヲ得ス且折半法ハ明ニ至テ初テ之ヲ設ク其意ハ賞ニ充ルニ在ルナリ支那人ハ狡猾ニシテ遺失物ヲ隱匿スルノ風アリ故ニ之ヲ官ニ送ルモノアレハ其隱匿ノ情ナク人ニ還スノ意アルヲ以テ之ヲ賞スルニ其半ヲ以テス然ラハ官物ト雖モ折半シテ給與セサルヲ得ス而其事ナシ不條理モ亦甚シカラスヤ此ノ如キノ法ハ固ヨリ取ルニ足ラス且實際ニ於テモ種々ノ不都合アルヲ以テ此改正ヲ企ルニ及ヘリ

○九番　陸奥宗光曰　今番外一番ヨリ予ニ向テ問ヲ發セシヲ以テ予之ニ答ヘリ然ルニ其說ノ可否ヲ論セスシテ單ニ改正ノ趣意ヲ陳述セリ然ラハ予ノ說ク所ハ同意ナリト認ム其陳述中ニ於テ一二云々スル者ハ所謂文外ニ義ヲ生スル者ニシテ予ハ之ヲ知ル事能ハス其官ニ送ルニ煩勞ナシトノ說ハ之ヲ喩ルニ猶ホ荒年飢歲ニ貧人ハ窮スルモ富人ハ自若トシテ荒年飢歲ノ何物ナルヲ知ラサルカコトシ自ラ其事ヲ經歷セサレハ之ヲ知ル事能ハス縱令區ノ扱所ヨリ警視廳ニ至ルモ其際煩勞ナシト謂ヘカラス又其費用ハ之ヲ本主ニ求テ可ナリト謂

フト雖モ文面上其言ナキトハ之ヲ求テ與ヘサルモ奈何トモスル事ナキノミ又外國人ノ我邦ノ法律ニ從ハサルハ特ニ遺失物ノ折半法ニ於ルノミナラス百般ノ事一モ我律ヲ以テ處スヘカラス是レ他ナシ條約即チ然ルナリ故ニ本案ノ如ク改正スルモ外人之ニ服スル否モ亦未タ計ルヘカラサルナリ其我律ニ從ハサルハ我國人ニシテ之ヲ知ラサルノ理アランヤ此席ニ於テ遺失物ノ義理ヲ講スルハ予ノ敢テ欲スル所ニ非スト雖トモ勢已ムヘカラサレハ遺失物ノ遺失物タル所以ヲ說ン乘馬ノ逸走スルハ遺失物ニ非サルナリ船ヲ斷テ之ヲ流スハ遺失物ニ非サルナリ然ルニ遺失物ヲ以テ論シ折半スルハ裁判官ノ之ヲ過ツナリ裁判官ノ過ヲ責メスシテ罪ヲ法律ニ皈ス予其何ノ謂ナルヲ知ラサルナリ所謂遺失物ナル者ハ清律ノ註ニ彼已失物無望復還云々トアリ又字書ニ遺ハ忘ナリトアリ接續シテ遺忘ト曰フ則遺失物ニ在テハ其時ト所トヲ詳ニセス復還ルニ望ミナキ者ナリ然ラハ則チ前ニ言フ所ノ如キモノ又人力車ニ置シ所ノ者等ハ遺失物ヲ以テ論スヘカラス若シ遺失物ヲ以テ論セハ裁判官ノ過失ト謂フヘシ然レトモ方今裁判ノ官ニ在ル者ニシテ此ノ如キ過失アリト謂フハ予ノ敢テ信スル所ニ非サルナリ此ノ如ク論スル時ハ番外一番ニ於テ主張スル外國人云々モ不都合ニ非ス馬及船モ

不都合ニ非ス唯官吏邏卒等ハ折半セサルノ一事アルノミ然レトモ官吏ノ庶人ニ於ル官物ノ私物ニ於ル皆一樣一式ニ非サレハ是モ亦不都合ニ非サルナリ一モ不都合ニ非サル時ハ愈此改正ヲ要スル所以ノ理由ヲ見サルナリ

○番外一番　村田保曰　九番ノ趣意ハ勞ヲ厭フノ一點ニアリ天下ノ人豈盡ク義務ヲ知ラサラン乎前路ヲ指示スル者アリ唐兒ヲ送ル者アリ勞ヲ厭フト謂ヘカラス其遺失物ヲ得テ隱匿スル者ニ至テハ乃チ坐贓ヲ以テ論スヘキナリ外國人云々ニ至テハ九番ノ如クナレト警視廳ニ於テハ折半法ヲ廢スレハ右等ノ不都合モナク又別ニ法ヲ設クルヲ用ヒス依テ是非トモ折半法ヲ廢セン事ヲ庶希セリ其他ハ喋々論スルモ無益ニ屬セン唯本律ヲ頒布スルハ不都合ナリトノ說ヲ聞ント欲ス

○九番　陸奥宗光曰　只今予ノ陳述ハ唯勞ヲ厭フトノミ言フニ非ス人間公共ノ道ニ於テ禍福ヲ共ニスルハ當然ナリ然レトモ得ル者ニノミ公共ヲ責メ遺失者ハ其責ヲ盡サス亦不都合ニ非ス然則公共ノ道ニ原ツクモ折半法ハ至極的當ノ律トス

○番外一番　村田保曰　九番ノ說ニ折半法ハ廢スヘカラス此法アルヲ以テ遺失物ヲ得ルニ便ナリト云フト雖トモ遺失物ヲ拾フニ當テ誰カ能ク物ノ官私ヲ別タンヤ官ニ送ルニ至テ初テ之ヲ知ルナリ且公債證書證文等ハ折半ノ法アルモ其功ナク又折半ハ一般ニ行ハレス甚タ狹キ法ナリ況ヤ官物ト私物トハ官ニ送ルニ至テ初テ之ヲ知ル者ナレハ折半ヲ得ルト得サルト之ヲ預知スヘカラス然レトモ之ヲ拾フ者アレハ官ニ送ルニ至ル然ラハ折半ノ法アルニ非スンハ遺失物ノ其主ニ還ルニ不便ナリト謂フヘカラス

○十八番　山口尙芳曰　得遺失物律ハ之ヲ改正スルノ利益ヲ見ス番外一番ニ於テ之ヲ改正セスンハアルヘカラスト謂テ其弊害ヲ陳述スト雖トモ既定ノ法律ヲ改正スルハ其事甚タ至難ナリ何トナレハ法律ハ全國ノ人民ヲシテ之ヲ遵守セシメスンハアルヘカラス故ニ萬止ムヲ得サルニ非サレハ容易ニ改正スヘカラサルナリ從前ノ得遺失物律ハ財產ヲ保護スルノ趣意ナリ此法ハ本邦ニ於テハ七八年以前ニ發明スル者ナリト雖モ支那ニ於テハ數百年來經驗シテ尙未タ之ヲ改メス西洋ニナシト謂テ遽ニ之ヲ廢スヘカラス其外國云々ニ至テハ九番ノ說ノ如ク國法ノ以テ處スヘキニ非ス其所以ハ人民モ亦知ル所ナレハ外國人云々ハ不都合ニ非サルナリ此折半法ハ財產保護ノ趣意ナリト謂フ所以ハ凡遺失物ヲ得ル者ハ先ツ得失如何ト顧ル隱匿シテ所有トセンカ發覺シテ刑典ニ觸ルヿヲ恐ル元來偶然之ヲ得ル者ナレハ之ヲ官ニ送テ折半ヲ求ムルニ若カスト又遺失者ニ在テハ復タ還ルニ望ミナキ者ナリ幸ニシテ之ヲ得ル一半ヲ得レハ則チ足ン此ノ如ク論スルトキハ折半法ハ財產ヲ保護スルニ於テ信ニ便宜ト謂フヘシ而シテ之ヲ改正セント欲ス予其意ヲ解セサルナリ

○番外一番　村田保曰　十八番ノ演說ハ粗九番ト同シ其法律ハ容易ニ改正スヘキ者ニ非スト云フハ非ナリ不可ナレハ幾度改正スルモ妨ナキナリ又法律ハ飾リ物ナリト云フ若シ飾リ物トセハ婦女子ノ頭飾或ハ書畫骨董ニ類セン法律ナシト雖トモ可ナリ又折半法ハ所有ヲ保護シ且遺失物ハ復タ還ルニ望ミナキ者ナリト云フト雖トモ必シモ然ラス千圓二千圓ヲ遺失スルモ復タ其主ニ還ルヿアリ必シモ復タ還ルニ望ミナキ者ニ非サルナリ

○十八番　山口尙芳曰　番外一番ニ於テハ予ハ法律ヲ以テ飾リ物ナリト爲スト云フト雖モ是番外ノ誤聞ナラン抑法律ヲ改正スルハ其事至難ナリト云ヒシハ文字ヲ改ムルヲ之云フニ非ス三千万人ヲシテ遵守セシムルヲ以テ其事容易ニ非スト云ヒシナリ故ニ若シ人民ノ爲ニ不便ナラハ豈飾リ物ニ非スヤ其飾リ物トナランヿヲ恐レ故ニ容易ニ改正スルヲ欲セサルナリ然レモ改正ヲ拒ムニ非ス若シ害アレハ朝夕ニ改正スルモ妨ナキナリ此改正ヲ企ル所ノ要領ハ外國人云々ニアリ其云々ハ決シテ不都合ニ非サルナリ當然ナリ條約上ヲ顧レハ日

本ノ法律ヲ以テ處スヘカラサルハ特ニ得遺失物ノミニ非ス九番ノ說ノ如ク盜賊モ亦然リ又折半法ハ本邦ニ在テハ七八年前ニ發明スト雖トモ支那ニ在テハ久シク之ヲ經驗セリ又法ヲ立ルニハ國人ノ品位如何ヲ鑑ミサルヘカラス善人ノミナレハ法ヲ設ルニ及ハス中間ノ者多キヲ以テ中間ノ法ヲ制セサルヘカラス其法ニシテ不可ナレハ朝夕ニ之ヲ改正スルモ妨ナシト雖トモ未タ其不可ヲ見サルトキハ此改正ヲ可トスル能ハサルナリ

○番外一番　村田保曰　十八番ニ於テ改正ノ趣意ハ外國人云々ニ在リト云フト雖モ特ニ其ノミニ非ス其云々モ一部分ナリ或ハ舟或ハ馬或ハ道路ニテ人ノ遺セシ物ヲ直ニ拾ヒ其折半ヲ求ム豈不都合ニ非スヤ故ニ改正セント欲スルナリ又十八番ニ於テ折半法ハ本邦ニ於テ發明ト云フト雖モ發明ノ言タル英語ノ所謂「インベンション」ナリ此折半法ハ新律綱領編成ノ際明清律ニ依據セシ者ニシテ發明セシ者ニ非ス此言本案ニ關係ナシト雖モ語ノ次之ニ及フ

○九番　陸奥宗光曰　此改正ヲ否トシテ初ヨリ內閣委員ノ說明ヲ論破セシハ予ニ於テモ十八番ニ於テモ然リ又遺失物ノ誤解ハ初メ裁判官ノミナリト認メタレト今ニシテ委員モ亦誤解セシト認ム元來議場ニ於テ講譯ヲナス事ハ好マスト雖モ之ヲ講セサレハ委員ニ於テ予ノ此改正ヲ否トスル所以ヲ解セサレハ止ムヲ得ス之ヲ講セン清律ノ注ニ曰ク彼已失物無望復還幸而爲人所得得一半足矣ト又字書ニ曰ク遺ハ忘ナリト此ニ依テ之ヲ視レハ委員ノ所謂馬或ハ舟ノ如キハ遺失物ニ非サルナリ然ルニ認テ以テ遺失物トシ之ヲ折半スルハ裁判官ノ誤解ト謂フヘシ又委員ノ說ニ途中ニテ行人ニ跟隨シ其遺落スルヲ俟テ直ニ之ヲ取リ折半ヲ求ムト此モ遺失物ヲ以テ論スヘカラス又遺失物トハ只今モ陳述スル如ク復タ還ルニ望ミナキ者ナリ然ルニ右等ノ物ヲ以テ遺失物ト爲スハ裁判官警察官ノ誤解ナリ然則誤解ヨリ改正ヲ要スル者ニシテ律ノ整ハサルニ非サルナリ然レモ裁判警察ノ兩官ニシテ此ノ如キ誤解ヲ施スハ予ハ敢テ信セサルナリ全ク委員ノ誤解ナラン既ニ誤解ト認ムル以上ハ改正ノ趣旨ハ何ノ點ニ在ルヲ知ラサルナリ再三陳述セシ如ク外國云々ハ當然ノ事ナリ又此如ク改正スルモ外人能ク其法ニ從テ其主ニ還シ又ハ官ニ送ルヤ否未タ知ルヘカラス其主ニ還シ官ニ送ラサルモ亦坐贓ヲ以テ論スヘカラス最初ニ委員ノ說明ハ第一ニ折半法ハ實際上ニ不都合ナリト云ヒ第二ニ本律ハ支那ニ因襲スルト云ヒ第三ニ一般ニ施行セスト云ヒ第四ニ外務省陸軍省等ヨリ上申ノ趣モアリト云フ右等ノ言ヲ一々分析スルトキハ其

殘ル所ノ者惟外國人云々ノ一事ノミナリ其云々ハ條約上ヨリ來ルモノナレハ律ノ以テ制スヘキ所ニ非サルヘシ然則此改正ハ條約上如何トモスヘカラサル一事ト誤解トノ二元素ニ原ク是予ノ原律例ヲ可トシテ此改正ヲ否トスル所以ナリ

○番外一番　村田保曰　九番ニ於テ委員ノ誤解ナラント謂フト雖トモ右等ノ疑問ニ就テハ既ニ司法省ニテモ其指令ヲナセシ「アリ遺失物ニ非スシテ何ソヤ別ニ名稱ヲ下スヘカラサルナリ又此ノ如ク改正スルモ之ヲ以テ外國人ニ及ホスト謂フニ非ス國人ニシテ外人ノ遺失物ヲ拾ヒシトキ不都合ナルヲ以テ之ヲ改正スト謂ヒシナリ

○九番　陸奥宗光曰　番外ニ於テ司法省指令云々ト謂ト雖トモ司法省ノ指令ハ標準トナスヘカラス其日誌ヲ讀ムニ往々謬誤ヲ見ル且曩ニ某縣ヨリ書ヲ司法省ニ送リ司法省日誌ニ載ル所ヲ引用シテ事ヲ斷スルモ妨ナキヤ否ヤト問フ同省其事ヲ准サス是指令ノ標準トナスヘカラサルノ證ナリ舟ノ纜ヲ斷テ之ヲ流シ其舟ヲ得ルハ盜ナリ若シ之ヲ遺失物ト謂ハハ壁ヲ穿テ物ヲ出シ其物ヲ取ルモ亦遺失物ヲ得ルト謂ヘシ遺失物ハ到底復タ還ルニ望ミナキモノナレハ舟ノ纜ヲ斷テ之ヲ取ルハ勿論或ハ汽車人力車中ニ物ヲ置テ之ヲ忘ル等ハ遺失ヲ以テ論スヘカラス右等ノ物ヲ遺失物トスルハ裁判官ノ失錯ナレハ別ニ條例ヲ設クルカ或ハ其失錯ヲ改メシムルヲ好トス

○番外一番　村田保曰　九番ニ於テ舟ノ纜ヲ斷テ之ヲ取ルハ盜ナリト固ヨリ然リ予ノ說ハ舟ノ纜ヲ斷テ之ヲ流ス下流ニ於テ之ヲ拾フ者アリ故ニ遺失物ヲ得ルト謂ナリ又司法省ノ指令ハ標準トナスヘカラスト云フト雖トモ同省ハ法律ヲ辨明スル所ノ衙門ナレハ必シモ標準トナスヘカラスト謂ヘカラス又遺失物トハ本人望ミヲ斷ツモノナリト云フト雖トモ其ハ九番一己ノ意見ナリ豈物ヲ遺失シテ望ミヲ斷ツモノアランヤ車中ニ物ヲ置テ之ヲ忘ル等ハ遺失物ヲ以テ論スヘカラサルハ裁判官ハ固ヨリ三尺ノ童子ト雖トモ亦之ヲ識別セン又途中ニテ物ヲ拾フ本主直ニ之ヲ覺テ其主ナルヿヲ證ス之ヲ拾フ者ハ遺失物ナリト謂テ折半ヲ求ム是モ亦奈何トモスヘカラス權ノ之ヲ得ル其ニアレハナリ

○九番　陸奥宗光曰　委員ニ於テ物ヲ遺失スル者望ミヲ絕ツノ理ナシト謂フト雖トモ予ノ說ハ强テ望ミヲ絕ツモノナリト謂フニ非ス清律ノ注ニ彼既失物無望復還云々トアレハ之ヲ引用シテ遺失物ノ性質ヲ証明セシナリ此等ハ少シク文字ヲ解スル者ハ疑ヲ存スヘキ所ニ非ス且論ノ餘派ニ涉ルヲ以テ敢テ辨明スルヲ欲セハ唯論ノ要點ハ初ヨリ論スル如ク原律例ハ

本邦ノ今日ニ於テ適當ト謂ヘシ何トナレハ上等ノ人ハ姑ク之ヲ舍キ中等ノ人ハ勞ヲ厭テ遺失物見ルモ之ヲ拾ハス下等ニ至テハ折半ノ爲ニ慾心ヨリ良心ニ復セシモ遂ニ慾心ノ良心ヲ蔽フニ至ラン果シテ然ラハ遺失物ノ本主ニ還ルノ期ナカルヘシ其遺失物モ物ニ因テハ一身一家ニ關係スルモノアラン故ニ遺失者ニ在テハ不幸中ノ不幸ヲ招キ之ヲ得ル者ハ罪戾ニ陷ルニ至ラン其等ノ要點ハ委員ニ於テハ却テ之ヲ討論セス畢竟議論餘派ニ渉ルト謂ヘシ

○議長曰　各議官ノ討論未タ盡キサレ𪜈本日ハ散會シ更ニ明後十四日ヲ以テ本會ノ續キヲ開カン

正午十二時閉場

元老院會議筆記　明治九年三月十四日

○第九號議案得遺失物律改正之儀第二讀會

（十二日ノ續キ）

出席議官

一番　津田出
二番　柳原前光
三番　長谷信篤
四番　佐野常民
五番　河野敏鎌
六番　大給恒
七番　松岡時敏
九番　陸奥宗光
十一番　吉井友實
十二番　壬生基修
十三番　齋藤利行
十七番　由利公正
十八番　山口尚芳
十九番　有栖川宮

内閣委員
一番外三等法制官　村田保

午前第十時開場

○議長曰　本日ハ第九號議案ニ付テ一昨十二日第二讀會ノ後會ヲ開ク各位發論スヘシ

○番外一番村田保曰　前會九番ト十八番トヨリ改正ノ非ナルヲ反復辯論セリ然ト雖トモ委員ニ於テ其非如何ヲ見出ササルナリ抑モ改正ヲ非ナリトスルノ說ハ折半法ヲ廢スルトキハ遺失物ヲ得ル者之ヲ隱匿シテ窃ニ横奪スルニ至リ反テ人ノ良心ヲ害スト云フト又官衙ヘ告ルノ煩勞ヲ厭フヘシトノ二說ニ止レリ委員ノ所見ニ於テハ第一良心ヲ害スルノ說ヲ當ラストス今遺失物アリ之ヲ得ル者速ニ其物主ニ還サントスルハ人生ノ通情ナリ之ヲ隱匿シテ已ヲ利スルハ已ニ不良ノ民タリ之ヲ罰スル自ラ刑律ノアルアリ人豈刑憲ニ觸ルルヲ好マンヤ又煩勞ヲ厭フカ爲メ遺失物ヲ見ルモ之ヲ徒視シテ過クル者アラント現今遺失物ハ悉皆折半スルニアラス官吏巡査ハ之ヲ得ルモ全ク官ニ送リ官物ノ遺失ハ折半ノ法ナキヿ人皆之ヲ知ルモ其勞ヲ厭ハス官衙ニ送呈スルモノ實際往々之アルヲ見ル是レ折半法ノ有無ニヨリテ遺失物ノ出ルト不出トノ別アル事ナカルヘシ夫レ十八番ノ說ニ折半法ハ皇國ノ新發明ニシテ良法ナリ終ニ之ヲ歐人ニモ及ホサンヿヲ企望スト又法律ノ改正ハ苟モスヘカラストノ二說アリ然ルニ折半法ハ清律ニ依テ制定スルモノニシテ皇國ノ新發明ニアラス又歐洲ニ於テ未タ發明セサルノ說モ非ナリ遺失物處分ノ發明ナキカ如キ何ソ鐵道傳信機ノ如キ發明アルヘケンヤ又輙スク法律ヲ變更ス可カラストノ說アレ𪜈何ヲ以テカ之ヲ輕易ニ變更スルトスルヤ抑モ此改正ハ客歲來陸軍省警視廳外務省等ヨリ陸續改正ノ事ヲ申請ス已ニ左院ニ於テモ種々論議ヲ盡セリ依テ内閣決議ノ上之ヲ上奏シ勅旨ヲ以テ終ニ今日貴重賢明ナル各議官ノ議定ニ附セラルルニ至ル頗ル鄭重ヲ極ムルト云ヘシ是レ法律ノ輕易ニ改正セサル所以ナリ故ニ改正ヲ非トスルノ說ヲ以テ一々非ナリトス議案ノ主意ハ前日既ニ之ヲ說明ス今重復ニ似タレ𪜈尚又爰ニ說カン抑這回改正ヲ要スルノ主旨ニ於テ之ヲ所有物ト云字ヨリ論スルニ人持用ノ物品ヲ遺失ス直ニ所有ノ權ヲ失スルト云ノ理ナシ然ルニ折半法アルキハ全ク我カ手ニ還ラス之レ其所有權ヲ奪フモノナリ議者曰不注意ヨリ起レリト斯ノ如キ議論ヲ以テ駁スルヤ以テ言フヘキナシ爰ニ人有リ路上ニ就テ忽チ其所持ノ物品ヲ賊ノ爲ニ奪ハル賊之ヲ典舖ニ移ス此物品モ尚ホ所有ノ權ナシトセハ亦之ヲ取戻スノ權ナキ乎夫レ然リ豈夫レ然ランヤ畢竟物主ニ返還スルノ法アルハ則チ其所有ノ權ヲ失セサルカ故ナリ且其官物ハ官ニ收メ私物ヲ折半シテ物主ニ多少ノ損失ヲ得セシム官私ノ別其權衡ヲ得ス豈體裁ヲ得タリトセンヤ又世人往々船ノ漂流セシモノ牛馬ノ逸シタルモノ等ヲ以テ之ヲ遺失物ト見做スカ如キニ至テハ其最モ甚シキモノトス故ニ改正ヲ加ヘサルヲ得サルナリ九番十八番ノ非トスルカ如キハ委員ニ於テ更ニ服セス因テ原案ヲ主張スル到底斯ノ如シ

○一番津田出曰　番外一番ニ同意ナリ抑モ折半法ハ民ニ僥倖心ヲ生セシメ廉恥ヲ破ルヿ少ナカラス頗ル其良心ヲ害スルニ

至ル之ヲ撓テ民俗ヲ敦厚ナラシムヘキナリ議者ノ折半法ヲ廢サハ遺失物ノ其主ニ還ラサルヲ恐ルルトノ說アレモ民俗ヲ厚フスルノ重キニ如カス故ニ原案ヲ可ナリトス

○六番　大給恒曰　原案ヲ可トスルハ略一番ト同意ナリ只其少シク異ナル處ヲ陳ヘン抑モ此改正ヲ要スル主意ニ於テハ前會以來番外一番ノ辨明ヲ聞クニ手ヨリ落セシモノノ直ニ所有ノ權ヲ失スルト牛馬ノ逸スルト繫キタル船ノ漂フト此三者ヲ遺失物トスルノ不當ナルニ就テ改正ヲ要スルトノ說ナレモ此說ニ於テハ異論アリ如何トナレハ遺失物ト見做スヘカラサル者ヲ以テ遺失物トスルカ故ニ其不當ナリトノ說モ起ルナリ譬ヘハ繫キタル船ノ如キハ本日ノ如キ大風雨ニ方リ其纜ノ斷セシ爲ニ流レテ他所ニ漂フモノアリ又乘馬ノ如キハ練兵ノ際奔走スル等其情ヲ酌マサルヲ得ス之ヲ見做シテ一般ノ遺失物トスルノ理ナシ然ラハ之ヲ以テ改正ノ主意トスヘカラス外國人ニ對シテノ處分ハ固ヨリ此一事ニノミ止ルニアラサレハ是モ亦改正ノ主意トナスヘカラス只官物ハ全ク官ニ收入シ私物ハ折半スルトノ不權衡ヲ以テ之ヲ改正スルト云ニ於テ始テ此改正ノ主意ヲ可ナリトスルノミ抑モ所有ノ權ヲ保重スルハ佛朗西民法ニ於テモ見ルヘシ其土地ノ如キニ至テハ二三十年ヲ經サレハ全ク其所有ノ權ヲ得サルカ如シ然ルヲ況ヤ手ヨリ離レタルモノヲ以テ直ニ所有ノ權ヲ失フトスルハ其理ナキオヤ依テ折半法ヲ非ナリトス議者曰遺失ハ不注意ニ依リテ起ルモノナレハ之ヲ得ル者ニ折半ノ利アリト是人ノ不幸ニ乘シテ其所有權ヲ掠奪スト云モ可ナリ是レ人ヲ待ツノ厚カラサルニ依ル況ヤ之ヲ得ルニ官私ノ別アルニ於テオヤ夫法律ハ人民保護ヲ主トス故ニ之ヲ待ツ厚カラサルヲ得ス折半法ハ其人欲ヲ借リテ良心ヲ進メ隱匿ノ弊ナカラシメントノ主意ニメ若シ折半法ナケレハ人其利ナキヲ思テ敢テ遺失物ヲ徒視シテ過キ甚シキハ隱匿スルニ至ル却テ風俗ヲ破リ良心ヲ害スルヿ少シトセスト是レ其主意ノ眼目ナリト雖モ前ニモ演ヘタル如ク容易ニ其所有權ヲ奪フニ至テハ可トスヘカラス況ヤ官私ノ別アルニ於テオヤ又人遺失物ヲ官ニ送ルノ勞ヲ厭フヘシト云說アリ是大ニ其理由ナキニ非ス今之ヲ贊成シテ陳ヘン抑モ遺失物ヲ得ル者ノ之ヲ官ニ送ルハ成ヘキ丈煩勞ヲ加ヘサルヲ可トス此ヿハ九番ト同意ナリ五日內ニ必ス其主ニ返還スヘシトセハ甚忙シキヿナリ若シ如此ナレハ必ス其官ニ送ルノ勞ヲ厭フノ情ヲ生スヘシ故ニ五日內ト定ムルハ不可ナリ若シ遺失物ヲ得ハ之ヲ近傍ノ警視分署ヘ出サハ足ルヘシ然ルニ五日ト限リ其制限ヲ踰ヘサラントセハ自ラ人心ノ煩忙ヲ招クヘシ

如カス其日限ヲ定メサルニハ故ニ原案ハ可トスルモ此五日定限ノ制ハ修正ヲ加ヘンヿヲ要ス

○九番　陸奥宗光曰　頃來屢次意見ヲ說明スレモ委員ノ說徹底變セス尙ホ之ヲ熟考スルモ其論旨貫徹セサルモノアリ如何トナレハ陸軍士官ノ乘馬ノ奔逸スルト繫キタル船ノ漂フトヲ以テ皆遺失物ノ部分ニ入ル故ニ其改正ニ急ナルモノアリト抑モ遺失物ト云フ事ヲ誤認セルヨリ到底其說ノ貫徹セサルニ至ルヘシ且又折半法ニ於テ官民ノ別アルヲ非トスレモ本邦ノ制百般ノ事項皆官私ノ別アリ獨此遺失物ノミニ關センヤ夫レ官物ノ一人一己ノ所有物ニアラス故ニ之ヲ折半セストノ主意ナルヘシト雖モ獨リ此事ニ就テノミ官私ヲ問フノ理アルヿナシ又六番ノ本案ヲ可トスル點ハ輙ク所有ノ權ヲ奪フト云ニアリ今予ハ遺失物ヲ得ル者ニ就テ之ヲ云ナリ抑遺失物ヲ得ル者直ニ其所有ノ權ナシトスルモ之ヲ物主ニ還ス爲メニ自費ヲ散シテ多少ノ損失ヲ受ルノ義務アルノ理ナシ道德上ヨリ言ハハ義ニ稱フトモスヘシ然レモ人間交際上ヨリ見ルトキハ之ヲ何トカ云ハン或ハ曰之ヲ警視ノ分署ニ還スヘシト中人以上ノ人ナレハ從者モアルヘシ單身獨步ノ賤民日夜其營業ニ孜々タル者ヲメ官ニ還スノ勞ヲ得セシメ多少ノ時日ヲ費サシムルモ尙之ヲ可ナリトスルノ理由ハ萬々アルヘカラス又人心ヲ察スルニ之ヲ得レハ勞シ之ヲ得サレハ勞セス況ヤ折半ノ法ナキ必ス之ヲ隱匿スヘシトスルモ其理當ラサルニアラス又物主ヨリ考ルニ其遺失ノ物品ニ因テハ或ハ一家ノ安危ニ係リ一身ノ存亡ニ關スルモノナキヲ保タス然ルニ量ラス之ヲ得ル豈折半ノミナランヤ假令全額ヲ與フルモ又過キタリトス可ラス抑折半法ハ遺失物ヲ見出スニ最上等ノ良法トス明淸律ノ折半ヲ設クルハ不良心ヲ防クカ爲ナリ明淸當初ノ人心ト我明治九年ノ人心ト豈優劣アランヤ依テ原案ヲ否トス

○十八番　山口尙芳曰　九番ニ同意ナリ只聊其不足ヲ補ハントス抑モ法律ノ改正ハ其主意ノ情由ヲ明ニシテ後ニ變更スヘシ折半法ヲ設クルノ主意ハ第一遺失物ノ其主ニ還ランヿヲ覓ムルヲ以テ旨トス然ルニ委員ニ於テ此說明アルヿナク只第一ニ外國人ノ遺失物ト外國人ノ遺失物ヲ得ルトキトヲ云之レ條約上ニ定リアルヿニテ兩國人民互ニ承知ノ事ナリ之ニ付テ改正スルト云ノ理ナシ又第二ニハ逸馬漂船ノ處分實際ニ不都合ナリト云ニ過キス夫レ馬ハ動物ナリ何時奔逸スマシキモノニモアラス又其價ヲ論スレハ百圓二百圓ノモノアリ今遺失トスレハ逸犬モ又遺失トスルカ是レ物ニ就キ事ニ據リテ裁判官ノ酌量セスンハアル可ラサル處ナリ之ヲ以テ改

正セサルヲ得サルノ理ナシ第三ニハ物主ニ折半ノ損失ヲ受ケシムルハ慨然ナリト云ニ過キス是レ其物主ニノミ注意セシ論ニテ改正ヲ要スルノ理ナシ第四ニハ折半法官私ノ別アリテ權衡宜キヲ得サルト云本邦官民ノ別鄭重ニシテ官ニ對スル接待ト人民相互ノ交際ト其分別判然タリ是亦改正ノ論旨ノ貫徹セサルヲ覺フ畢竟遺失物ヲ覓ムルノ切ナルヨリ折半法ヲ設ケシナリ今前ノ四則ヲ立タヌ者トセハ殘ル處ハ只新發明云々ノ說ニ過キス然ルニ支那ニモ李唐以來世々ノ熟考ヲ以テ明清ニ至テ始テ之ヲ立ツルナリ故ニ番外一番ノ論旨一モ貫徹セサルヲ覺フ依テ之ヲ取ラサルナリ前ニモ云シ如ク凡ソ法ヲ改メントスレハ先ツ原ノ法律ヲ設タル主意ヲ顧ルヘシ然ルニ委員ニ於テ此處ノ說明ヲ缺ク故ニ之ヲ否トスルナリ夫法律上ニ皆一得一失アリテ兩全ハ必シモ得カタシ這回改正ノ主意ハ遺失物ヲ見出スノ方法ナク只民心ノ正ニ歸センヲ覓ムルニアリテ道德上ヨリ論シ起シ人ノ不幸ヲ以テ自己ノ幸トスルノ不正ヲ禁スルノ意ナリ六番ニ於テハ道德ニ關セストノ說アリ西洋ニテハ道德上ノ「ハ教法ノ部ニ入ル又情ヲ酌テ情ヲ制スルハ教法ノ活用ト云ヘシ九番ノ說ノ如ク法律ノ改正ハ苟モスヘカラス畢竟內國ノ民心ニ入テ之ヲ遵守セシメントナレハ輕々シク之ヲ設クヘカラス若シ之ヲ容易ニセハ人民信セスシテ其成蹟ヲ見ス之ヲ徒法ト云ハサルヘケンヤ今往日ヲ考ルニ八年前ノ法ト今日ノ改正案ト同一種ノモノナリ然ラハ八年前此法ノ人民ニ於テ利害如何ヲ熟慮シテ然シテ後之ヲ設ケンニハ先ツ八年前ノ往事ヲ證明シテ後チ之ニ及フヘシ然ルニ一語ノ往日ニ及フモノナシ故ニ此改正ノ杜撰ニ出ルヲ知ルナリ法律ハ人心向フ處多キニ就テ設クルヲ主トス九番ノ說之ニ協ヘリ依テ之ニ同意シテ原案ヲ否トス

○四番　佐野常民曰　本案ヲ可トス其主義一番ノ說ト稍同シ抑モ折半ノ法ヲ設クルヤ人生廉恥ヲ破ル「多ク其害ヤ淺尠ナラス元來遺失物ヲ覓ムルノ主意ヨリ起ラハ此原律ノ方カ可ナルヘシト雖モ固ト此律ハ遺失物ヲ得テ隱匿スル者ヲ罰スルカ爲ニ設ケタルナリ得者之ヲ物主ニ還スヲ煩ハシトスルノ說アレモ僅々ノ勞ヲ厭テ遺失物ヲ徒視シテ過キ又之ヲ隱匿スルニ至テハ民俗ノ最頹ナルモノナリ又物主ニ還セシヲ物主ヨリ之ヲ賞スルカ爲ニ若干ヲ與フルハ可ナレトモ官ヨリ之ヲ定メテ折半セシムルハ不可ナリ九番ノ遺失物ヲ求ムルニ切ナルヨリ起レリトスルハ可ナルニ似タレトモ元ト法ハ人民保護ヨリ起ル「言ヲ俟タス各國其法ヲ異ニスルヲ見レハ又人情風俗ヲ斟酌シテ之ヲ立ル「明ケシ今時萬民中等ノ品行多シ之レ法ノ良否ニヨリテ其風俗ヲ隆頹スル「難キニアラス歐洲各國道路ニ重荷ヲ負擔スル有レハ他人ノ來テ此勞ヲ助クル者往々之アルヲ見ル是其己レヲ利セントスルノ意ナキヲ見ルヘシ中等ノ人民ニ良心ヲ勸メ弊風ヲ救フハ折半法ヲ廢スルニ如クハナシ又委員ノ說明中外國人ニ對シテ處分ニ差閊ルトノ說アリ我法今日ニ於テハ彼ニ及ホシ難キニ似タレモ到底我法ヲ以テ彼レニ加フルノ期ナカル可ラス其時ニ方ツテ此折半法ノ如キモノアラハ却テ歐人ノ嗤ヲ招カン十八番ノ說ニ法ノ屢々改ルヲ不可ナリトスルハ其理ナキニアラサレモ其不可ナルモノヲ改メテ可ナルモノヲ設クルハ敢テ之ヲ非ナリトスヘカラス又遺失物ノ所有權ニ就テ云々九番ノ說アリト雖モ譬ヘハ人アリ車馬ニ乘リテ路上ヲ過クルニ誤テ物品ヲ落ス現ニ之ヲ目視シテ之ヲ拾フ者アリ物主ニ就テ折半ヲ請ハハ之ヲ與ヘサルヲ得ス是レ予カ不可トスル所以ナリ又漂船並ニ逸馬ノ譬喩アリ是モ暴風激潮ノ際ニアタリテハ比々失フ者アルヘク況ヤ牛馬ハ活物ナリ之ヲ遺失トナスヘカラス尤モ九番ノ說ノ如ク文章上ニノミ依レハ單ニ得者ノ迷惑ニノミナルカ如ク見ユレモ是ハ一二ノ修正ヲ加ルモ可ナリ只其得ル者一年ヲ經テ所有權ヲ得ルハ其定期短キニ似タリ宜シク佛蘭西ノ如ク三年ト改ムルヲ可トス畢竟此律意ハ遺失物ヲ得テ隱匿スルヲ罰スルノ道ナリ敢テ遺失物ヲ覓ムルノ點ヨリ出ルニアラス是レ民權ヲ保護シ良心ヲ勸ムルノ大要ト謂フヘシ依テ本案ヲ可トス

○五番　河野敏鎌曰　衆論ヲ聞クニ遺失物ノ性質ト法律ノ如何ナル主意ヨリ立ツルト云「ヲ誤認セリト覺フ九番ノ辨論精微遺ス處ナシト雖モ予カ見ル處ヲ云ハン抑法律ハ國家ノ安寧ヲ持シ人民自主ノ權ヲ護スルノ二者ニ過キス此間ニ行ハルルノ法ハ天法ニ非スシテ人定ノ法ナリ今徒ニ道義ヲ講スルモ民俗開良ノ度未タ其域ニ至ラストセハ如何ン是レ慣習ニ依リテ時ト宜キヲ制スルヲ以テ法ノ妙トスル處ナリ此折半法ハ八年前ニ設クルト云ノ說アレモ舊幕寬政度既ニ之ヲ設ク其因テ來ルヤ久シ今ニシテ卒然之ヲ改ムル又易キニアラス譬ヘハ人アリ金額百圓ヲ遺失ス其物ノ未タ眼ニ入ラサルノ前ニ於テハ之ヲ得ルニ半額五十圓タモ得ニ急ナリ折半ヲ惜ムノ意ナカルヘシ今試ニ道路ニ金圓ヲ棄テ置キテ見ヨ必ス再ヒ己ニ還ルト云「萬一モ期シカタシ若シ之ヲ還ス者アラハ假令折半ヲ望ムト云トモ豈之ヲ不良ノ民ト見做スヘケンヤ元是レ遺失物ヲ覓ムルヲ主トシテ立タル法ニシテ道義ヲ勸ムルノ律ト云ノ理ナシトセハ眞理ヲ以テ此律ヲ論スヘカラス是レ法律ノ主意如何ヲ注目セスンハアラサル處ナリ且

ツ又遺失物中棄ツルト落スト置キテ忘レタルトノ三ノ別アリ爰ニ人アリ自己ノ物ヲ以テ之ヲ路上ニ棄擲シテ再ヒ之ヲ得ルヲ欲セス是レ棄ツト云テ遺失ニアラス又傘ヲ手ヨリ落ス物主之ヲ知ラスシテ過キ去ルニ非レハ是レ手ヲ離レタリト云テ遺失ト云ヘカラス又車中ニ所携ノ物品ヲ置ク之ヲ置クト云ヘクシテ遺失ト云ヘカラス是レ遺失物ノ性質ヲ辨別シテ其折半ヲ與フルト與ヘサルトヲ定ムルトキハ實際又其處分ニ苦シムノ理ナシ既ニ本案ニモ一年内ニ其主ナケレハ得ル人ニ給ストアリ然ラハ幾分カ其得ルノ權アルヘシ又逸馬ニ就テ云ハハ是レハ動物ナリ逸馬ノ人ヲ殺傷スルハ律モ只贖ハシムルニ止ル曩ニ逸馬ヲ評價ニ附シテ之ヲ折半セシ「アレ氏畢竟裁判官ノ過リニテ成規トスヘカラス又之ニ就テ條例ヲ設ケサルヘカラス甚シク云ハハ迷子モ折半セサルヲ得サルカ如シ故ニ逸馬ヲ折半スルト云モ同一理ニノ固リ論スルニ足ラサルナリ然ラハ眞理ニ基キタリトモ思ハレス畢竟一年内ニ其主ナケレハ全ク得ル者ニ給ストアレハ便宜ニ依リテ設ケタル法ナリ便宜ヨリ設クルモノトセハ原律ノ方却テ便宜ナリトスヘシ故ニ改正ヲ加フルヲ否トス

○九番　陸奥宗光曰　番外一番ノ說ニ改正ヲ要スル主意ハ外國人ノ「ト官物私物ノ不權衡トニアリ四番一番ノ說ハ人ノ良心ヲ養ヒ廉耻ヲ勸ムル爲ニハ此改正ヲ至當トスト予カ番外一番ニ對スル駁議ハ既ニ說明セリ今四番一番ノ說ニ對シテ辨論セン一番四番ノ說ニ云折半法アレハ人ノ良心ヲ害スト譬ヘハ爰ニ孝子アリ之ヲ賞スルニ金帛ヲ以テス之ヲ受ルモ尙ホ廉耻ヲ破ルトスルカ折半法ハ褒賞ナリ褒賞ヲ得ルヲ以テ廉耻ヲ破リ良心ヲ害スルト云ノ理ナシ元來拾ヒタル者ニ就テノミ之ヲ責ムルハ甚當レリトセス番外一番ノ說モ更ニ此廉耻ヲ破リ良心ヲ害スルトノ事ニ及ハサルハ至當ト思ハル又遺失物ヲ拾ヒタル者ノ破廉耻ヲ云ハンヨリハ物主其遺失物ヲ得テ必ス其拾ヒ得タル者ニ報ユヘキノ義務ヲ履ムヘキヤ否ハ證シカタシ四番ノ說ニ別ニ敎法アリト云ハ解スヘカラス今僧侶敎誨應報輪會ヲ以テ滿天下ノ不良ヲ撓メ良心勸奬ノ功ヲ奏スル「萬々證シカタシ又外國人モ往々我カ法ニ從ハサルヘカラス故ニ現今彼ニ對シテノ差間ハ論スルニ及ハストノ說アリ是ハ我輩モ固リ企望ニ堪ヘサル處ナリ然リト雖氏前途遙遠茫乎トシテ期スヘカラス此期スヘカラサルノ事ヲ以テ今日眼前ノ利害ヲ差シ置クヘカラス遺失物ノ性質ハ前會以來云々辨論アレ氏五番ノ論ニテ大略盡セリ今一番四番ノ人ノ良心ヲ保護スヘシ云々ノ說ニ向テ駁論ヲ發スル此ノ如シ依テ本案ハ何レノ點ヨリ考フルモ之ヲ否トス

○四番　佐野常民曰　一年内ニ其主アレハ之ヲ物主ニ還シ有ラサレハ始テ得ル者ニ全ク給スルノ律意ヲ推考スレハ所有權ヲ保護スルノ厚キ甚可ナリトス得遺失物律中第二項ニ就テ見レハ「埋藏ノ物ヲ堀得ル者ハ並ニ官ニ送リ地主ト中分セシム」ト今遺失物ヲ得ル者其主ヲ探リ得ス一年以上ヲ經テ其主ナケレハ之ヲ地中埋藏ノ物ト同視シテ折半スルモ至當ナリ是レ地中ヨリ出タルニ非スト雖氏其主ノ知レサルカ故ニ之ヲ與フ是レ良心ヲ害スル事モナク全ク拾ヒタル者ノ幸トナルナリ今遺失物ヲ得ルヤ直ニ之ヲ折半スルカ如キハ人ノ不幸ヲ以テ自己ノ幸トスルモノニノ倫理ノ容レサル處ナリ敎法ニ乏シキハ九番ノ說ト同シケレ氏又一語ノ道義ニ論及セサルノ理ナシ今人ノ不幸ヲ幸トスルノ弊ヲ撓メ各國未タ有ラサルノ法ヲ廢スヘキトノ二事ニ附テ考ヘルニ本案ノ如ク改正スルヲ可トス

○五番　河野敏鎌曰　四番ノ說ヲ駁セントス今四番ノ說ク所ヲ聞クニ一年以上其主ナケレハ地中埋藏物ト同視シテ之ヲ得ル者ニ與フルハ可ナリトス然レハ遺失物ヲ見出シタル者已ニ幾分カ所有ノ權ヲ含ムモノト見做スヘシ地中ノ物ヲ折半スルハ可ナリトスレ氏此モ祖先カ埋テ置キタルナルヘシト云迄ニテ畢竟便宜法ニ過キス又一年以上其主ナケレハ得者ニ給スト云モ齊シク便宜法ニシテ眞理ニ出ルニアラス夫レ歐洲各國ハ遺失物アレハ新聞紙ヲ以テ之ヲ公告シ報謝ノ金額ヲ掛テ之ヲ覓ム是レ法律上折半ノ事ナキモ其實ニ至テハ同シ我國ハ新聞紙ヲ買得スル者僅々ノ人員ニ過キスカノ日報社ト雖氏發賣八千枚ニ過キスト云然レハ其得ル者ニ利アルノ法ヲ設ケ天下ニ知ラシメスンハアラス抑人民ハ法律ヲ懼ルルノ意ヨリ之ヲ守ルヲ常情トス警察ハ歐洲ニ密ニシテ我邦ニ粗ナリ現ニ明治六年中人ヲ殺害シテ遁逃スルモノ十九人中ニ就テ捕獲セラルル者僅ニ六人ノミ東京ノ不行屆ハ隣縣ノ不幸トナルナリ如此警察ニ粗ナル國ハ又其國ニ適スルノ方法ヲ設ケサルヘカラス新聞紙ヲ見ルモノ少ケレハ政府ヨリ又其手傳モシテヤラ子ハナラヌ事ナリ今折半ヲ廢スルトキハ遺失物ヲ得ル者之ヲ隱匿スルヤ必セリ之ヲ糺サントスルヤ警察ニ粗ナリ不良ノ民憲法ヲ罔スルナキヲ得ンヤ之ヲ新聞紙ニ就テ公告セントス新聞紙ヲ見ル者少ナリ豈其遺失ヲ覓ルモ得ヘケンヤ是レ折半ヲ廢スヘカラサルノ主意ナリ

○番外一番　村田保曰　前會以來九番ノ說ヲ聞ニ畢竟拾ヒシ者ノ迷惑ヲ主トシ或ハ人品ノ差等ヲ云又細ニ答辨ヲ須ヒス然ルニ今又五番ノ改正ヲ非トスル所以ヲ聞ニ其義甚タ當ラスト

ス予ニ於テ遺失物ニ九番ノ說ノ如キ三種ノ類別アル「何レニ在リヤヲ見出ス「能ハサルナリ英國ニハ左ノ別アリ曰ク「ツレシヤツルーブ」地中ニ隱レタルヲ發見シ其原主ヲ知ルニ由ナキ財物ヲ云曰ク「イストレー」卽牛馬ノ逸走スル者曰「ウエーブス」卽盜賍ニ係ルモノナリ折半法ナクンハ遺失品ノ出テサルトノ「ナレモ折半ナクシテ之ヲ出タササル程ノ人情ナレハ法律モ無用ニ屬スヘシ又官吏巡査及ヒ外國人ニ得ラルレハ其物主ニ還ルヤ必セリ凡民ニ得ラルレハ還ラサルモノト臆斷シテ遺失物ヲ見テ之ヲ物主ニ還サントスルノ良心ヲ挫クヘキノ理ナシ又物手中ヲ離レ腰間ヨリ落セシ時直ニ其所有權ヲ失スルト云「ハ曾テ諸規則書ニ記載セシモノナシ故ニ之ヲ辨スルニ足ラス又牛馬ノ奔逸スルモノアリ人ヲ過ツモノハ之ヲ過失殺傷ニ入ル是レ牛馬ノ罪ヲ問ニアラス之ヲ放チシ者ニ付テ云ナリ畢竟已ムヲ得サルニ出ツ故ニ之ヲ過失トスルナリ又地中埋藏物ハ英國ニテ法律上一般人民供有ノ物トシテ官ニ收ム之ヲ「コンモンストツク」ト云テ一般ノ人民ニ所有ノ權アルモノトス又之ヲ「フアーストインダー」ト云是レ其源ハ羅瑪法ナリ五番ノ說誤解アルニ似タリ依テ之ヲ辨明ス

○五番河野敏鎌曰　番外一番ニ於テ却テ予カ陳述ヲ誤聞スルヤ明ケシ如何トナレハ予カ三種ノ類別ヲ以テ悉ク其因據ナシトシテ之ヲ駁スレモ到底遺失物ヲ覓メ得ルヲ以テ主トスルノ根源ヨリ思考セハ其理否明白ナルヘシ且英國ノ例ヲ引シ「アレモ英國ノ制如何ヲ云シ「ナシ況ヤ埋藏ヲ官物ト見做スヘシト云シ「モナシ且折半ハ品物ニ付テ一々明白ニ指示セスト雖モ現ニ地券ヲ遺失セシニ之ヲ拾ヒシ者アリモ折半セサルヲ以テ知ルヘシ又所有權ノ事モ誤聞セシニ似タリ且拾フタル時已ニ幾分カノ所有權ヲ持テ居ルト云シニテ必シモ其所有權ノ悉皆其者ニ歸スルト云シニアラス

○番外一番村田保曰　今五番ノ說明ヲ聞クニ果シテ最初吾カ誤解モアルナルヘシ只拾ヒタル時直ニ所有ノ權ヲ含ムト云ノ理アルヲ知ラス若シ必スシモ所有ノ權アルモノトセハ官物ヲ官ニ入ルルノ理ナシ所有權ノ辨論當レリトセス

○五番河野敏鎌曰　馬ノ性質ハ人ノ注意ノ如クニ行屆キ衆ルト云ノ譬諭ニ引キタルモノナレハ現ニ律文過失殺傷ヲ以論スト云ヲ引テ證明セシナリ又所有ノ權ヲ含ムト云ハ往々事ニ依リ自己ノモノト成ルマシキモノニモアラス故ニ多少所有ノ權ヲ含ムト云迄ニテ必シモ權アリト云ニアラス是亦番外一番ノ誤解ナリ

○十三番齋藤利行曰　大意四番ニ同意ナリ只其立論ノ曲折ヲ異ニスルノミ夫レ所有權ハ人々勉强上ヨリ得ヘキモノニメ偶然拾ヒタル物ニ所有ノ權アルノ理ナシ然リト雖モ遺失物ヲ拾ヒ得タル爲ニ必用ノ時間ヲ費シ多少ノ損失ヲ受ケシムルハ當ラサルトノ說モ亦甚理アリ故ニ原案ヲ修正シ其遺失物ニ依リテ其幾分カヲ得ル人ニ報謝スヘキノ義ヲ加ヘ一年間其主ナケレハ得ル人ニ全給スルヲ改テ官ニ入ルルニ作ルヲ可トス其他ハ四番ノ說ニ同シ

○議長曰　既ニ他ノ發議ナキヲ以テ今日ノ議ハ茲ニ終レリトス

○番外一番村田保曰　今日午後決議會ヲ開カンヿヲ乞フ

○議長曰　第二讀會ハ既ニ終レリ決議ハ第三讀會ニ在リ今日ハ茲ニ閉場スヘシ

○番外一番村田保曰　諾

午前第十一時三十分閉場

元老院會議筆記　明治九年三月十七日

○第九號議按第三讀會

出席議官

二番　柳原前光
三番　長谷信篤
四番　佐野常民
五番　河野敏鎌
六番　大給恒
七番　松岡時敏
八番　福羽美靜
九番　陸奥宗光
十一番　吉井友實
十三番　齋藤利行
十六番　黑田清綱
十七番　由利公正
十八番　山口尙芳
二十番　秋月種樹

內閣委員番外一番三等法制官　村田保

午前第十時四十五分開場

○議長曰　本日ハ第九號議按第三讀過日引續キノ會ヲ開ク各議官例ニ從テ討論スヘシ

○書記官本田親雄　左ノ議按ヲ朗讀ス

得遺失物中前項左ノ通改正シ改定律例第二百八拾二條第二

百八拾三條第二百八拾四條ヲ刪除ス

得遺失物律（前項）

凡遺失ノ物ヲ得レハ五日内ニ其主ニ還シ其主分明ナラサレハ官ニ送ルヘシ官之ヲ榜示シ一年内ニ其主ナケレハ得ル人ニ全ク給ス若シ隱匿シテ主ニ還サス及ヒ官ニ送ラサル者ハ官物ハ坐贓ヲ以テ論シ私物ハ一等ヲ減シ並ニ物ヲ追シテ官私ニ還給シ主ナキハ官ニ入ル

○二番（柳原前光）曰　余ハ原按ヲ可トス其所以ハ折半法ハ唐律ニ於テ地中埋藏物ヲ堀得ル者ハ地主ト中分スルノ義ニ基キ明清律幷ニ新律綱領改定律例ニモ之ヲ定ムルナラン此法ハ人ノ慾情ニ因テ遺失物ノ出ルニ便ナル事アルヘシト雖モ其弊亦甚大ナリ第一遺失物ノ事ハ清律註ニモ遺失物必有其主云々無人識認物主不可踪跡云々トアリテ過日委員説明ノ如ク綱ヲ切リ流ルル舟ヲ取テ折半ヲ求メ人ノ落ス物ヲ直ニ拾ヒ取リ所有者ノ手ノ溫リモ未冷内ニ折半ヲ求ムルノ理アル可ラス然レモ律ニ明文ナキ上ハ折半セサルヲ得ス必竟拾者ノ利スル處ニ付テ折半ヲ求ムル事トナレリ第二ニハ今百萬圓ノ金ヲ拾ヘハ折半シテ五十萬圓ヲ得ルナリ人間心力ヲ勞シテ得ル所ノ物ヲ容易ニ五十萬ノ大金ヲ人ニ得ラルルニ至ル

是理ノアル可ラサル事ナリ苟モ折半法アレハ朝ニ落シタニ所有ノ權ヲ失フ誠ニ不可ナリ本律ハ三十日ヲ經レハ所有ノ權ヲ失フ歐洲抔ハ三十年間所有權ヲ失ハサラシム人民ノ所有物ハ政府ニテ保護スヘキ者ナリ然ルニ拾者ノ利スル法ヲ設ケ置時ハ所有主ハ損害ヲ蒙リ拾者ハ僥倖ヲ希フ豈政府保護ノ意ナランヤ此折半法ハ所有權ヲ輕カラシム其弊多々アリト雖モ今大ナル者ヲ論スル此ノ如シ故ニ余ハ原案ヲ可トス或ハ五日内ニ主ニ返ス事ニ付テハ過日來拾者ノ迷惑トナル説アレモ前ニ陳スル所ニ比スレハ此ヲ以テ彼レニ易難シ況ンヤ原案ノ字句ニ付テ考レハ其主意タルヤ五日内ニ主ナキハ官ヘ屆ケテヨシトスルナリ然ルトキハ强テ迷惑モアル可ラス又二百八十二條ヲ削ルハ却テ不可ナリ如何トナレハ本律後項ノ地中埋藏物ハ仍ホ中分スル法ヲ存ス二百八十二條ノ水中沈沒物ハ其屬スル所ヲ異ニスル論アル可シト雖モ要スルニ同ク主ナキ物タリ今後項ヲ存スル以上ハ二百八十二條モ存スルヲ可ナリトス

○九番（陸奥宗光）曰　本日ノ決議ニ因テ本案ハ後來我日本帝國ノ法律トナリ衆庶ノ頭上ニ光輝ヲ發ス歟或ハ廢按トナリ故紙ト同列ノ位置ヲ占ムヘキ歟孰レニモ本按ハ本日ヨリ復此席ニ留滯スル者ニ非ス故ニ余ハ勉メテ過日來ノ論説ヲ繼テ今一度説明セン抑モ余ハ最初ヨリ本按ハ即今本邦ノ法律トナスニ適當セス新律綱領改定律例ノ本律本例ヲ以テ極テ事情ト道理ニ適當スル者トシ數回辯論セリ然レモ委員ニ於テハ嘗テ内閣ノ協議ニ憑テ外國交際上及各省上申云々官吏云々官物云々ノ旨ヲ主持シ到底本按ヲ適當トシ直ニ今後ノ法律トナサントス而シテ各議官ニ於テ一番四番ハ本案可トスト雖モ其改正ヲ要スル主意ニ至テハ全ク委員ト説ヲ異ニシ高尚ナル人間道德上ニ基キ人ノ良心ヲ養ヒ廉耻ヲ厚スル點ヨリ之ヲ可トス又六番ニ於テハ委員ノ旨ニ同意スルニ非ス又一番四番ノ旨ニモ同シカラス別ニ財產所有權ノ一點ヨリ論及シテ本案ヲ可トシ尙ホ修正ヲ加ヘテ適當ノ者トタルヘシトス又十三番ニ於テハ大抵四番ト同意ニメ更ニ余ノ説ヲ折衷シ修正ヲ加フ可シトス五番十八番ハ全ク余ト同意ニメ本案ヲ否トスルナリ嚮ニ二讀會ニ聽取スル所ノ概略如此此數派ノ論説中内閣委員ノ主張スル外國交際上ノ「官吏遷卒ニ折半法ヲ用ヒサル」官物ハ全ク官ニ納ル「各省上申ノ」就中陸軍士官乘馬ノ「此等不都合ト云フ」ニ就テハ余過日來數回ノ討論大抵各議官ノ耳底ニモ徹スヘシト雖モ今一應短簡ニ辨解セン夫レ外國人ノ本邦法律ニ從ハサル事ハ即チ雙方條約上ノ然ラシムル所ニメ特ニ此得遺失物律ニ限ルニ非ス是等ハ政府モ人民モ百モ承知ノ事故他日條約改正ニナリテ本邦ノ法律外國人ヲ支配スル權力ヲ有スル迄ハ遺憾ナカラ行ハレ難シ又官吏遷卒ニ折半法ヲ用ヒス官物ハ官ニ納ル等ノ「ハ毎度陳述スル如ク支那律ト本邦ノ律ハ官民ノ區別甚シク官吏ハ特別ノ免許ヲ得ル「アリ又特別ノ責任ヲ負フ所アリ決シテ庶人ト同キ處置ヲ受ヌ慣習ナレハ此本律ヲ改正セハ萬事權衡宜キヲ得ルト云譯ナク又官物ハ殊更鄭重ニスル是亦古來ノ慣習ニテ遺失物ノミナラス新律綱領改定律例中ニモ私物ト官物ノ區別ハ大ニ有之本律ノミニ就テ不都合トハ言ヒ難シ又各省上申ノ「ハ余屢其不都合ナル所以ノ主意ヲ説明アラン「ヲ請ト雖モ委員ニ於テハ唯陸軍士官乘馬云々ノ不都合ヲノミ擧テ其他ノ事ニ及ハス此乘馬ノ逸走シタル如キハ決シテ本律ノ遺失物ト認メ難キ「ハ余ハ勿論五番十八番ニ於テモ明了ニ説破セリ委員ニ於テハ畢竟此遺失物ト云物ノ性質ヲ誤解スルナラン若シ法律ノ文義ヲ誤解スルヨリ不都合ヲ生シタリトテ其都度々々法律ノ改正ヲ求ムル時ハ法律ノ改正ニ際限ハナカルヘシ此等筋合ノ疑問ニ對シ今日迄委員ノ答辨一モ明ナルナシ然ルトキハ余ノ説ニテ壓倒スト認ムルナリ扨議論ヲ一轉シ一番四番ノ兩説ニ就テ余ノ不同意ナル所以ヲ論セン一番四番ニ於テハ人間ノ社會上最モ

貴重スヘキ道德ノ一點ヨリ議ヲ起シ折半法ハ人ノ良心ヲ害シ人ノ廉耻ヲ破ルニ至ル故此改正ヲ適當トセリ余亦道德ノ貴重スヘク良心ヲ助ケ廉耻ヲ養フヿハ甚タ希望スル所ニシテ法律上ノ主意ニ於テモ幾部分ハ道德上ノ考モ交ヘサル可ラサルヿヲ知レリ然レ𪜈古ノ政教一致ト云フ時節ト違ヒ今日ノ法律規則ハ人間交際社會上ノ典則ヲ極メタル者ニシテ最モ事情ニ切ニ是非ヲ明ニスルヿ肝要ナリ徒ニ彼人心ノ良否ヲ說キ人性ノ善惡ヲ論スルノ主意ノミニ基キ難シ乃チ法律規則トハ人間交際ノ極リヲ付ル典則ナレハ能々其人間交際社會上ノ有樣ヲ考ヘ成ルタケ其事情ニ適スル樣ニナスヘキ事ナリ即チ本律ハ物ヲ失フタル人ト物ヲ見出タル人ト雙方ノ間ニ立入ヘキ規則ナリ既ニ雙方ノ人アレハ雙方ノ關係ナカル可ラス政府ハ此雙方ノ人ノ上ニ在テ其法律ヲ取極ムル者ナレハ雙方ノ都合宜キ樣ニ規則ヲ立テサル可ラス雙方ノ人ニ對シ十分都合ヨキ規則ヲ立ルヲ得レハ甚タ宜シ若シ事情ニ因テ丁度雙方都合宜キ樣ニ立ルヲ得サル時ハ又雙方ノ人ニ各幾分ノ堪忍ヲサセ合ヒ成丈ケ片落ノ裁判ニナラヌ樣取極ムヘキヿナリ若シ此時政府ニ於テ道德上ノ考ヲ交ヘ人ノ良心ニハ箇樣ノ信實アル可キ筈人ノ廉耻ニハ此樣ノ慾心ハナキ筈抔ト云ヒ一方ノ人ニノミ其責ヲ負ハスヿ甚不都合ナラン今一番四番ノ說ハ人ノ良心ト廉耻トニ基キ道路ニテ他人ノ遺失物ヲ見出シタルトキハ速ニ之ヲ拾ヒ直ニ之ヲ其主ニ還ス手數ヲナシ自分ニハ一文半錢モ配分ヲ受ル心ヲ起ス勿レ萬一折半ヲ希フ心ニテ之ヲ其主ニ還ス樣ナル卑劣根性ヲ起シテハ良心ヲ害シ廉耻ヲ破ルト云ノ考ヨリ本律ノ折半ヲ非トシ原案ヲ可トスル主意ナルヘシ固ヨリ兩議官ノ心ヲ推セハ其物ヲ失タル人モ良心ト廉耻トアル故ニ之ヲ見出シタル人ニ對シ決シテ無太骨ヲ折ラス氣遣ハナシ必ス相當ノ謝禮ヲスルヿハ當然ト云事ナルヘシ誠ニ能ク此ノ如クナレハ人間ノ交際モ甚方正公平ナル者ニテ實ニ喜フヘキヿナリ然レ𪜈此等ノ人間ハ世間ニ澤山アルヘキ歟將タ少ナカルヘキ歟ト問ヘハ必ス少ナシト云ハサルヲ得ス則チ上等ノ人間ナリ然ルトキハ此法ハ上等ノ人物ヲ失ヒ上等ノ人之ヲ見出シタル時ノ規則ニハ至極適當ス可ト雖𪜈其一方ノ人若シ中等以下ノ人ナラハ此法ハ無用ニ屬ス可シ今試ニ世間ヲ點檢スレハ中等以下ノ人ハ澤山ニシテ上等ノ人ハ甚少シ政府ノ規則ヲ設ルハ必ス此中等以下ノ人即チ國內多分ノ人ニ適當スル樣ノ考ヲ以テセラル可ラス而シテ中等以下ノ人ハ過日モ陳述スル如ク大抵己レニ取テ利アルヿナレハ隨分面倒ナル事モ厭ハス働ケ𪜈若シ之ニ反シテ面倒ニシテ利分ナキヿハ成丈ケ手出シモセヌ位ノ者ナリ譬ヘハ人ノ失タル物ヲ見付ルトモ之ヲ拾ヘハ其主ニ還スカ或ハ官ニ送ルカ何レニモ多少ノ面倒ト時間ヲ費シ其上若干ノ損失モ掛ルト云樣ナル事ナレハ誰モ其掛リ合ニナラヌ樣思慮シテ目前ニ遺失物アルモ見ヌ振ニテ打棄置クヘシ道德上ヨリハ此等ノ人ハ良心ヲ失ヒ廉耻ナキ人ト謂フヘシト雖𪜈法律上ニテハ直ニ之ヲ指シテ惡人トハ名付難カルヘシ若シ又人間交際上ノ有樣ヲ今一層卑劣ナル者ト假定セハ折半法アル故ニ拾フ者ハ幾部分ノ利ヲ得ル目的ヨリ良心ニ立戻リ其其面倒ト時間ノ費モ厭ハス時トシテ些少ノ入費ヲ出シテ其主ニ還スカ或ハ官ニ送ルノ手數ヲモ爲スヘシ又物ヲ失タル人ハ其品ニヨリテハ金錢ニモ換ヘ難キ大切ナル物モアルヘク左ナクトモ實ニ搜索ノ手立モ盡果テ半分ニテモ得ラルレハ意外ノ大幸ト云事モアルヘシ若シ原按ノ法トナル時ハ其物ヲ失タル場合ニ於テ天幸ニ良心ト廉耻トヲ兼備シタル道德家ニ拾ハレタラハ甚宜シケレトモ若シ彼中等以下ノ人ニ拾ハレタル時ハ其品ノ還ル事ハ期ス可ラス人間交際ノ社會上斯ク迄賤ムヘク法律ハ斯クマテ無情ナルカト云ヘハ決テ然ラス唯法律ハ斯ク賤ムヘキ人ヲ導キ斯ク賤ムヘキ人ヲ懲ス爲メニ設ル者ナリ夫故ニ本律本例ハ苟クモ中等以下卽チ國內多分ノ人間交際上雙方ノ都合ヨク遺失物ヲ見出ス手立ニ宜キ事原按ニ勝ル萬々ナルヘシ抑此律ニ付テ道德ノ考ヲ交ヘ難キ一證ヲ擧ケン方今有名ナル福澤諭吉ノ文明論ニ云譬ヘハ物ヲ拾フテ之ヲ主人ニ返セハ其物ヲ半折シテ拾タル者ヘ與フルノ規則アリ今玆ニ物ヲ拾テ唯其半折ノ利ヲ得ン爲メニ之ヲ其主人ニ返ス者アラハ其心事ハ誠ニ賤ム可シ然レトモ此規則ヲ鄙劣ナリトシテ廢スルアラハ世ノ中ニ落シタル物ハ必ス主人ノ手ニ返ルヲ期スヘカラス然レハ半折ノ法ハ德義ヲ以テ論スレハ好ムヘキニ非サレ𪜈之ヲ文明ノ良法ト謂サルヲ得ストアリ右ノ說ニ因レハ折半法ノ今日時勢人情ニ適當スト爲ス事ハ同意ナリトス何分ニモ法律上ニ道德ノ考ヲ交ル事ハ甚難カル可シ又六番ノ所有權ノ長短有無ヨリシテ本律本例ノ折半法ヲ非トシ原案ニ同意セラレタル說ハ一理ナキニ非スト雖𪜈遺失物所有權ノ事ニ於テハ甚困難ナル事ニテ既ニ過日五番陳述ノ如ク余モ亦未タ其眞理ヲ見出シ能ハス則遺失物所有權ノ長短ト有無トノ眞理ハ歐米各國ノ法律トテモ學者ノ議論未タ一定一樣ナラス今六番ノ論ニ曰ハノ一時不注意ヨリ其所有物ヲ遺失スルモ俄ニ其所有權ヲ失フ理ナク又人ノ遺失物ヲ見出スモ俄ニ其ノ半ヲ所有スル理ナカル可シト則余モ此論ヲ一理アリト認ム然レ𪜈又此意味廣大ナル眞

理論ヲ以テ直ニ物ヲ失タル人ト物ヲ見出シタル人トノ間ニ持來テ論スレハ則茲ニ人アリ其所有物ヲ己ノ不注意ヨリ遺失シ百方捜索ヲ盡スト雖モ遂ニ其在ル處ヲ知ラス此場合ニ於テハ假令ヒ全ク所有ノ權ヲ失ハスト雖モ現ニ其ノ手ニ在ル品カ又ハ土藏ニ納置ク物ノ如キ完全ナル所有權ヲ有ストハ謂ヘカラス如何トナレハ所有トハ其物ノ有ルヿニテ遺失物ノ如キハ其有無ノ間ニ於テ有カ無カ未タ知レサル物ナリ譬ヘハ貳千圓ノ金ヲ所有スル者アリ其内一千圓ヲ遺失スル時ニ當リ其身代ヲ書キ出スヘキヿアランニ所有貳千圓内千圓遺失捜索中ト書得ヘキヤ是完全ノ所有權ナキ所以ナリ又一方ノ之ヲ拾得ル人モ多分其主ノアルヘキ品ニテ追テ其主ニ返スヘキ物ナレハ固ヨリ直ニ己レノ所有ニ歸スル道理ハナシ然レ𪜈世人ノ物ヲ得ル權利中ニ發見ノ權利ト云者アリ此發見者ハ其見出ス物ヲ以テ己レノ所有トスルノ權アルナリ今此ニ云フ所ノ品物ハ多分ハ他人ノ遺失物ナラント云臆想ヨリ未タ發見ノ所有權ヲ附ス可ラスト雖𪜈萬一其品物他人ノ所有ニ非ル證據明了ナレハ發見者ノ所得タルヿ疑ナシ然レハ則其品物ノ人ノ遺失スル物カ或ハ否ラサル歟ノ分カラサル時間ハ之ヲ拾得ル人ニモ全ク所有權ナシト謂可ラス是故ニ大抵政府ニテ其中間ニ入リ凡ソ何月間トカ何年間トカニ其遺失主ナキ時ハ斷然之ヲ發見者ニ給與スルヿ本邦ニテモ各國ニテモ慣習トナレリ然レトモ人ノ所有權ハ何月何年スレハ失フト云ヿハ決テ眞理ニハアル可ラス畢竟其事情ニ因テ取極タル規則ナリ是則政府ノ中間ニ立入リ雙方關係ノ規則ヲ取極メ凡ソ何月何年間ヲ過テ本主ナキ時ハ物ヲ拾タル人ニ與ル所ナリ此何月何年間ト云期限ハ固ヨリ天然ノ眞理ニ非スシテ政府ノ取極タル規則ナリ政府既ニ天然ノ眞理ニ從ハスシテ其期限ヲ取極ムルハ雙方關係ノ事ヲ斟酌シテ人間交際上ノ都合ヲ謀ル者ナリ都テ國家ノ法律ハ彼ノ眞理ニ根據セサル可ラスト雖𪜈モ道德論ニ付テ陳述スル如ク全ク眞理ニノミ拘リ難シ之ヲ要スルニ道德ヨリ論スルモ眞理ヨリ論スルモ其法律其時ノ事情ニ適當セサレハ殆ト畫餅ニ屬シ法律ノ用ヲナスト謂可ラス故ニ折半法ハ眞理ニ於テ幾分カ不都合アルニモセヨ苟モ實際上ニ於テ物ヲ遺失スル人ト之ヲ見出ス人トノ間ニ適當スル時ハ亦之ヲ以テ文明ノ良法ト謂サルヲ得ス更ニ又法律ノ必ス眞理ノ一邊ニノミ傾ク可ラサル一證ヲ擧ン本邦法律ニ本夫ノ姦夫姦婦ヲ見付ケ即時ニ殺スカ或ハ追テ門外ニ至テ之ヲ殺スモ無罪トス若シ姦所及ヒ即時ニ非スシテ姦夫ヲ殺ストモ姦情確實ナレハ闘毆傷ニ二等ヲ減ストアリ又子タル者父ノ仇ヲ即時ニ去スシテ殺ス者ハ謀殺ヲ以テ論ストアリ父ノ仇ヲ殺ス罪ノ姦夫ヲ殺ス罪ヨリ重シト云事ハ道理上ニ於テハ甚穩ナラサルニ似タリ然レ𪜈能々此法律ヲ定メラレタル時ノ事情ヲ考レハ本邦ニ於テハ古來復仇ト云事人間ノ一大義務ノ如クナリテ父ノ人ニ殺サレタル時ハ其子タル者ハ是非トモ其仇ヲ復サヽルヲ得サル慣習ニテ此慣習既ニ道理ノ如ク人ノ心根ニ徹シタレハ政府ニテ復仇ノ禁令ヲ下スニ當テ古來ノ慣習ヲ一變シ風俗ヲ矯ルニ急ナル事情アリ故ニ自然ト少ク理外ニ其權衡ヲ取ラサルヲ得サルニ至リシナル可シ此筋合ヨリ論スレハ眞理モ亦純然ト法律中ノ眼目トハ爲ス可ラス到底本律ノ如キハ物ヲ失フ人ト物ヲ見出ス人ト雙方ノ事情ニ適切ナルヲ第一トス故ニ余ハ六番ノ所有權一邊ヨリ論ヲ起シ彼ノ眞理ト認メテ折半法ヲ否トスル說モ亦今日ノ事情ニ適切ナラストス又十三番ノ大意ハ四番ノ說ニ同意シ余ノ說ヲモ折衷シテ原案ヲ修正セントス其四番ニ同意セル箇條ニ付テハ既ニ縷々論破スレハ各議官ニモ領承ナル可シ余ノ說ヲ折衷シテ修正セント云主意ハ原案ニ遺失物ヲ發見シタル人ニ對シ相當ノ償ヲ與フヘシト云フヿヲ揭ケント云ナリ即チ余數回陳述スル發見人ハ假令ヒ其物ヲ所有スル權理ナキモ之カ爲メ或ハ面倒ト時間トヲ費シ其上多少ノ入費ヲナス者ニ無太骨ヲ折ラス事ナク相當ノ償ヲ與フヘシト云意ナラン然ルトキハ其考ハ余ト同シキナリ唯彼ノ遺失シタル人ノ上ノミニ付テ論セス見出シタル人ノ上ニ付テモ注意セラレタル議論ナレハ余ノ原案ヲ否トスル一點ニ合ヒタルナリ故ニ余ト十三番トノ議論ハ立意彼ノ道德上ヨリ論及スルトハ全ク相反對ナレ𪜈其修正ニ付テハ大同小異ト謂ヘシ抑新律綱領ナリ改定律例ナリ其原則ハ支那律ニ取リタル者故今ノ歐羅巴各國ノ法律ニ比スレハ諸法律ノ混同スル者少カラス則新律綱領等ハ一部ノ刑律書ニテハナク諸法律ノ混同セル法律書ト謂ヘシ此得遺失物律トテモ或ハ民法ノ一部ニ屬スヘキ者ニテ委シク其律例ヲ定メンニハ別ニ數箇ノ條例ヲ設テ其品柄ニ付キ其場合ニ應シ具サニ分拆シテ其規則ヲ定メサル可ラサル者ナリ余カ本律本例ヲ可トシ本案ヲ否トスル所以ハ特ニ本律ト本案トノ得失ニ付テ云フ事ニシテ其修正ノ如キハ他日ニ讓ラントスルナリ然レ𪜈若シ修正スヘキ衆議ニ決スルトキハ自ラ修正ノ意見モアリ併シ今日ハ余ノ意見未タ修正ノ考ニ至ラス唯本律本例ノ意ヲ可トスルノミ如此段々論シ來ル末ニ及ヒ過日來内閣委員ト反覆討論セシ遺失物ノ文義ヲ誤解シ遂ニ誤解ヨリ今回改正ノ企ニモ及ヒタリト云フ事ヲ今一應遺失物ト云フ字義ニ就テ其誤解ヲ正サン扨遺失物

ト云フ文字ハ西洋流ニテ云フトキハ働字ニシテ所謂他ノ働字ノ種類乃チ働キ掛ケノ働字ナリ故ニ人ノ馬ヲ遺失スト云フヘクシテ馬ノ自ラ遺失セリトハ云フ可ラス内閣委員ノ陸軍士官乘馬云々ノ事ヲ述テ直ニ其馬ヲ遺失物ナリト云フト雖モ其馬ハカノ士官ノ不注意ニテ手ニ携ル物ヲ遺失シ腰ニ帶タル物ヲ遺失シタル類トハ違ヒ事實其力ニ及ハスシテ逸走シテ逃ケ出シタル者ニシテ士官ノ馬ヲ遺失シタルニ非ルナリ卽チ此譬ニテモ遺失ノ字義ハ文明ナリ然ルトキハ遺失物ト云フ文字ハ清律ノ註解ニアル彼已ニ物ヲ失ヒ復得ルニ望ナシト云如ク字書ニモ遺ハ亡也又遺忘ト續キタル如ク全ク其遺失セル場合ヲ覺ヘス百方手ヲ盡シテ搜索スレモ之ヲ恢復スルニ術ナキ者ヲ指スナリ故ニ内閣委員ナリ各議官ナリ此遺失ノ誤解タル事分明ニナリタラハ復今回政府ノ此改正ヲ企タル事ノ多分無用ト云事モ分明ナルヘシ

○番外一番　村田保曰　本日ハ下官突然出席スル事トナリ第二讀會ノ筆記ヲ携ヘサレハ詳悉記臆セスト雖トモ第二讀會ニ於テ各議官中本案ヲ否トスルハ九番十八番五番ナリ又本案ヲ可トスルハ一番四番六番十三番ナリ而シテ其一番ノ可トスル所ハ全ク委員ト說ヲ同ス六番ハ本案ヲ可トシ修正ヲ加ヘントス其意本案ノ五日内ニ其主ニ還スト云フハ拾者ノ迷惑トモナリ又ハ入費アラント云ナリ是本案ノ文意ヲ了解セヌ所アルニ由ルナラン此五日内云々ハ初ヨリ主ノ分リテアル者ニテ何モ入費ノヿハナシ其分ラヌ者ハ官ニ納ル故六番ノ心配ヲ掛ルヿアル可ラス五日ト期限ヲ定ムルハ清律ニモ大寶令ニモ五日トアルニ據ルナリ四番ノ說ハ今之ヲ忘ル十三番ハ本案ヲ可トシ修正シテ主ナキ時ハ官ニ納ルトセント云ト雖モ此ハ出來サル事ナリ如何トナレハ物ヲ拾フ時假令ヒ主ナキトモ直ニ之ヲ官物トハ見做ヲ得ス初テ見出ス時ハ一般ノ遺失物ナレハ前會ニモ辨セシ如ク官ニ納ルノ理ナク其主ニ與フルヲ當レリトス故ニ此修正ハ決シテ出來サル事ナリ而シテ今日二番ニ於テ本案ヲ可トスルニ付テ折半法ハ唐律ノ埋藏物ヲ堀得ル者地主ト中分スルニ基キ明清律ニ初ルト云說ヲ聞ケリ然レモ埋藏物ニ折半ヲ用ユルハ唐律ノミニ非ス歐州ニモ之ヲ用ユ遺失物ニ折半法ヲ用ユルハ明律ニ始ルト雖モ埋藏物ハ唐律ニ反シテ官ヘ出シ堀得ル者ニ給スル事ナシ一體埋藏物ハ主ナキ者故全ク堀得ル者ニ給シテ宜キ事ナリ又二百八十二條ヲ刪ルヲ不可ナリトノ說アレトモ水中沈沒物ハ標流物規則發行スル上ハ此ニ讓リテ遺失物ノ律ニハ刪リテ宜キナリ又今日九番ノ本案ヲ否トセラルヽ說ヲ聽クニ第二讀會ニ於テ堂々ト論セラルヽ所トハ大ニ相違シ來ルニ似タリ第二讀會ノ論說ハ折半法ヲ改正セハ遺失物ハ出ヌ樣ニナリ且拾フ者ノ迷惑ニナルト云事主意トナレリ今日ノ說ハ法律ハ雙方宜キヲ謀テ設クルト云此說前日ハ聞ク所ナシ又中等以下ノ人多キ故ニ此改正ノ法ハ不可ナリト云此上中下ノ差等ハ何ニ因テ見出ス哉政府ヨリ見出スヿ歟其レハ出來難キヿナリ然ルトキハ中等以下ノ人多キ故此改正ヲ不可トスルハ理ノ由ル所ナシ又手ニ持タル物ハ庫中ニ在ル物ニ比スレハ慥ナラスト云ト雖モ

○九番　陸奥宗光曰　無用

○議長曰　九番ニ於テ番外一番ノ說ヲ無用トスル理由ヲ說明スヘシ

○九番　陸奥宗光曰　余ハ遺失物ハ手ニ持チ倉ノ中ニ在ル樣ナル慥ナル完全ノ所有權トハ違フ事ヲ論セリ其レ故ニ貳千圓ノ内一千圓ノ諭ヲ引ケリ定メテ各議官ニモ聽取スルナラン此ヲ番外一番ニ於テ手ニ持ツ物ハ倉ノ中ノ物ヨリ慥ナラスト云フ多少ノ誤解ハ咎メスト雖モ番外一番ノ說ハ大ニ異ナリ故ニ之ヲ無用トス

○議長曰　番外一番ニ於テ九番ノ說ハ了解ナリシヤ或ハ間違アリヤ

○番外一番　村田保曰　慥ニ之レヲ聞ケリ此ハ各議官ニモ承知ナルヘシ九番ニ於テハ所有權ノヿヲ間違ヘタリト思フナリ

○九番　陸奥宗光曰　今無用ト呼ヒシハ啻ニ誤解ヲ咎ムルニ非ス余ノ說ハ遺失物ハ手ニ持チ倉ニ入レ置ク如キ慥ナル者ニ非スト云フヿナリ然ルニ番外一番ノ說ニテハ手ニ持テ居ルハ倉ニ入レタルヨリ慥ナラスト云誤解ハ宜シキヿナレモ余ノ意ト大ニ異ナリ願クハ各議官ノ聞ク所ニ付テ之ヲ正サン

○議長曰　今間違ノ是非ヲ衆議ニ取ルトモ唯其誤聞ノ如何ヲ定ムルノミニテ議事上ニ於テ無益ナリ假令前言間違アリトモ只今九番ノ說ヲ正當トシテ番外一番ニ於テ發論スヘシ

○番外一番　村田保曰　誤聞ナラハ誤聞トシテヨシ抑拾ヒシ者ハ所有權ヲ含ンテ居ルトハ五番ノ說ナリ今九番ニハ所有權アリトス且五番ニハ遺失物ニ三ツノ區別アリト云ト雖トモ此區別ハ今日出來サルヿナリ此ハ前會既ニ辨駁セリ又十八番ノ本案ヲ否トスル說ハ發明トカ何トカナレモ此亦前會既ニ辨セリ又九番ニ外國云々陸軍乘馬云々ノ說アレトモ此度ノ改正ハ決シテ此等ノ意ノミニアラス人ノ物ヲ落ストテモ捨タトハ違ヒ本ト過失ニテ落スヿ故所有權ヲ失フヿハ決テナシ今日ノ法ノ如ク官ヘ屆ケ官ヨリ折半スレハ其所有權ヲ奪フニ近シ物權上ヨリ見ルトキハ餘程醋ナリ一般人民ノ物ハ折半シ官物ハ折半セス折半ヲ其賞ニ充ル譯トスレハ官物ト雖

ニ賞スヘシ然ルニ官物ハ全ク官ニ入レ唯人民ノ物ヲ遺ル甚不條理ナリ新律綱領頒布以來之ヲ施行スル官府ニ於テ不都合ヲ見出シ昨年二月頃ヨリ改正ノ「ヲ追々申シ出シ警視廳ヨリ外國人ノ遺失物ヲ日本人ノ拾フテ折半ヲ求ムルニ付テ困却スルノ上申アリ折半ハ政府ニテ賞ニ充ル譯ナレハ外國人ノ物ト雖モ官ヨリ其レ丈ノ物ハ拾者ニ與ヘサルヲ得サルナリ舟ノ事ハ前會辨セリ又陸軍省ヨリ士官乘用ノ馬ノ逸シタルヲ拾フ者ハ容易ニ其主ニ還サヽルニ困却スルノ上申アリ此折半法ノ改正ヲ要スル譯ハ多少アリ決シテ人ノ良心ヤ新發明ナト云フ譯ヨリノ事ニテハ無之ナリ

○十三番　齋藤利行曰　本案ハ第二讀會ヨリ種々討論アリ之ヲ要スルニ可トスルト否トスルト可トシテ修正スルトノ三ナリ余ハ大意ヲ可トシテ修正ヲ加フヘシトス第二讀會ニ於テ其說ヲ陳述スト雖モ尙又其主意ヲ說明セン抑人間ノ世ニ住ム智力ヲ勞シテ活計ヲ營ム則人間ノ義務ナリ其勉强ヨリシテ得ル所ノ物ヲ一時路上ニテ僥倖ニ之ヲ得テ所有スル理ハ萬々アルヘカラス故ニ折半法ヲ廢スルハ適當セリ且又外國人モ日本一般ノ律ヲ遵奉セシムル「ヲ他日ニ希望スル所ナレハ一歩ヲ進メテ國律ヲ改正スヘキナリ此目的ヲ以テ改正スル所以ハ一番四番ノ說明ニテ詳ナレハ贅言セス是ヨリ修正ヲ要スル意ヲ述ヘン既ニ今陳述スル如ク他人勉强シテ得ル所ノ物ヲ拾ヒ之ヲ所有スルハ不可ナリ又五日內ニ其主ニ還ス其主分明ナラサレハ官ニ送ルト云フ「ハ拾者ノ迷惑少ナカラス因テ一年ニシテ其主分明ナラサレハ官ニ納ムヲ適當トス是修正ノ一ナリ扨又拾者ハ人間職務上ニ盡スノ時間ヲ費シ且失費ナキヲ保チ難シ第二讀會ニモ九番ノ說アリ甚明論ナリ之ヲ處スルノ道ヲ考サルヘカラス遺失物ノ本主ハ拾フ者ニ相當ノ謝禮ヲスルハ當然ノ義務ナリ故ニ手數ヲ煩ハシ失費アラハ拾者ニ手數ヲ給スヘシト云條例ヲ立ツヘシ是修正ノ二ナリ又二百八十二條ヲ削ルハ不可ナリ是ハ存スルヲ可トス又牛馬犬羊ノ類斷然遺失物ト認ルヲ得サル「ハ第二讀會ニ於テ五番ノ說アリ本日又九番ノ說アリ共ニ甚明了ナリ成程遺失物ノ性質ヲ分析スル時ハ器物ヲ道ニ落スト牛馬ノ一時逸走スルトハ一樣ニナシ難シ併シナカラ律ニ正條ナキヲ以テ誤解ナシトモ云難シ然レモ折半法ヲ改正スル以上ハ正條ナクトモ差支モアルヘカラス若シ牛馬等ノ動物ヲ拾フ時其所有主分ラサル時ハ飼ヲモ與ヘサルヲ得ス甚失費モアラン然レハ器物ノ遺失ト違ヒ本人ニ其失費ヲ償ハシムヘシ此モ條例ヲ立テ可ナラン是修正ノ三ナリ今假ニ余ノ說ヲ以テ修正スルトセハ或ハ差支ルノ說アラン故ニ是ヨリ其差支ナキ所以ヲ辨明セン前ニ陳スル如ク相當ノ謝禮ヲ拾者ニ給スヘキニ決スル以上ハ譬ヘハ爰ニ人アリ十里外ヘ行ク其半途ニシテ人ノ遺失物ヲ拾フ「アラン其時前途ノ用ヲ辨シ家ニ還テ後拾物ヲ本主ニ返サントスレハ五日內ノ期ヲ過ルヲ恐ル然レハ半途ヨリ引還シ來ル歟又ハ他人ニ托セサルヲ得ス些少ノ謝金ニテハ拾フ者ノ失費ヲ償ハサルノ疑アラン然モ余ハ此事ナシトス如何トナレハ今日行ク處巡丁屯處ノアラサルナシ之ニ依テ其物ヲ地方ニ屆ケ我カ用ヲ達シテ宜シ又一ノ異論ヲ設クルニ瑣細ノ物ヲ拾ヒ其物小ニシテ勞大ナリ此勞ニ酬ル時ハ得ル所失フ所ヲ償フニ足スト言ハン余之ヲ解スルニ一ノ譬諭ヲ以テセン今水ノ淸淨ヲ欲シテ井ヲ浚ルニ其費多クシテ格別得ル所ナシ然レモ其欲スル所ヲ失ハス右ノ掛リニテ余ハ原案ノ意ヲ可トシ修正ヲ加ヘント欲ス其修正案ハ朗讀セン朗讀シテ曰得遺失物律前項凡遺失ノ物ヲ得レハ五日內ニ其主ニ還シ其主分明ナラサレハ官ニ入ル若シ隱匿シテ主ニ還サス及ヒ官ニ送サル者ハ官物ハ坐贓ヲ以テ論シ私物ハ一等ヲ減シ並ニ物ヲ追シテ官私ニ官給シ主ナキハ官ニ入ル條例追加凡遺失物ヲ得テ其主ニ還スニ手數失費等アルハ相當ノ償ヲ其主ヨリ得ル人ニ給スヘシ凡牛馬犬羊ノ類其檻ヲ脫スルカ如キハ遺失物ヲ以テ論スヘカラスト雖モ其勾引主ニ還スニ手數失費等アルハ亦同此ノ如ク修正セハ條理上ヨリ論スルモ適當ナラン

○十八番　山口尙芳曰　余ハ九番ト同意ナリ抑此遺失物律ヲ今般改正スル道理ヲ見出サス其意ハ大抵九番ノ說ニテ盡セリ第一不都合トスル外國人云々ノ事ハ不都合ナシ第二ニハ馬ノ「ナリ此モ不都合ナシ第三ニハ官私ノ不同ノ「ナリ然モ官物ハ私物ト同キ物ニ非ス人間ノ交際ニ官私不同ナルハ世界一般ナレハ此モ不都合ナシ第四ニハ政府ハ人民ノ所有物ヲ保護スル職掌ナルニ遺失物ヲ處置スルノ容易ナルヲ不都合トス然モ法ヲ立ルハ人民交際ノ便宜ニ基キ制限ヲ立テサルヲ得ス本案ノ如キハ其邊ニ注意シタル改正ニ非ス折半法ハ今日本邦ノ風俗人情ニ適當ノ便法ナリ如何トナレハ物ヲ落スニ之ヲ拾ヘハ其半ヲ得ルニテ落物モ出ルナリ若シ之ヲ拾ヘハ全ク落主ニ還ス「トナレハ落物ハ出ル「トナシ是人情ナリ道ニ落タル物ハ拾ハヌ風俗ナレハ此律ハ無用ナリ又道ニ拾フ物ハ返サヌ風俗ナレハ本案ハ徒法ナリ故ニ折半ハ便宜法ニテ落物ヲ出ス爲メニ立タルナリ本案ハ法ヲ立ル上ニ於テ第一便法ト云「ヲ失セリ法律ハ兩全ヲ得ルハ難シ必ス一得一失アリ中間ニ在テ今日行ヒ今日適スルヲ見テ法ヲ立テサル可ラス卽チ折半法ハ今日ニ適セリ又道德上ヨリ善ニ導

ク說アリ然ㇲ此ハ決テ然ルヘカラス今ノ律書ハ民刑混合ス折半法ノ如キハ三千萬人ノ落物ヲ拾フ時ハ其レヲ半分セント相互ノ契約上ヨリナル者ニシテ道德ヲ害スル譯ナシ第一折半ハ便宜ナリ人民ノ便ヲ得ル爲メ遺失物ヲ保護スルノ法ニ適ヘリ故ニ余ハ折半法ヲ存スルヲ今日ニ適當セリトス

○七番松岡時敏曰　余ハ改正ヲ可トス併シ論スル所ハ違ヘリ其五日內云々得ル人ニ全ク給スト云ハ行政上ノ規則ニテ人民ニハ分ラサルヿナリ抑物ヲ遺失スルハ其人ノ不注意ヨリ起ル者ニテ人ノ之ヲ拾ハヌ時ハ其物ハ返ラヌ者ト遺失主ハ明ラムヘシ幸ニシテ人ノ拾フニ因テ其物ノ本ニ返ルハ不慮ノ僥倖ト謂フヘシ之ヲ坐贓ヲ以テ論スル理ナシ唯其隱匿スル者ニ加ル爲メ此律ヲ要用トスルナリ一體坐贓ト謂フハ官吏ノ私スルアル之ヲ坐贓トス人ノ落シタル物ヲ一寸拾ヒシトテ坐贓ニモナク盜贓ニモナク何ンテモナキ事ナリ之ニ罰ヲ付ル故彼是トヤカマシケレトモ是ハ官私ヲ論セス坐贓ニ二等ヲ減シテ可ナリ人ハ欲ナル者故隱スヿモアリ併シ坐贓ヲ以テスル程ノヿハナシ〻ナキ時ハ何ンテモ蚊テモナシ刑法ニ掛ル故此院ニテモ議スルヿトナレト余ハ二等ヲ減スルヲ可トス

○四番佐野常民曰　追々議論アレトモ余ハ二讀會ニ於テ陳述スル如ク折半法ヲ廢シ原案ニ稍修正ヲ加ヘントス先ツ折半ヲ可トスル說ニ對シ陳述セン第一折半ハ天然ノ性理ニ戻ル其所以ハ財產ハ彼我互ニ所有ノ權ヲ有スル容易ナラサル者ニテ其權ヲ護シ互ニ犯ササラシムルハ政府ノ職ナリ今人ノ誤テ財產ヲ遺失スルアルニ直ニ之ヲ折半スレハ一時ノ事ニテ一ハ得一ハ失ス實ニ所有權ヲ護スル趣意ニ背キ天然ノ性理ニ戻ルナリ第二廉耻心ヲ破ルト云一番ノ說アリ余モ同意ナリ物ヲ遺失スルハ其人ノ不幸ナリ之ヲ得ル者一半ヲ所有スルハ思ハサルノ僥倖ナリ決テ所有スヘキ原由ヲ得ルニ非ス故ニ得ル人ノ心ニモ快シトセサルヘシ既ニ九番ノ說ニモ上等ノ人ナラハ之ヲ還スト云乃チ還スノ性理ナレハナリ折半法アレハ人ノ不幸ヲ幸トスル風盛ニナリ大ニ廉耻ヲ破ル第三員外ニ於テ外國人ノ說アレㇲ此事ハ九番十三番ノ說ノ如ク本邦ニ其權力ナキ以上ハ折半法ノミ改ムトテ我法律ヲ彼ニ及ス事ノ難キハ兩議官ノ說ノ如シ併シ彼モ我地ニアル以上ハ我ニ從ハセヌハ耻辱故外國人ヲ我法律ニ從ハシムルハ政府ノ急務ナリ追々進步シテ國力張トテモ折半法アレハ外國人ハ不承知ヲ言フヘシ是天理ニ戻ル法ナレハナリ其時ニ到テハ廢セサルヲ得ス到底改正スヘキ法ナレハ今日ニシテ改正スル可ナリ是國權ヲ枉ルニ非ス天理ニ從フ所ナリ第四折半法ハ員外ノ說ノ如ク甚狹シ外國人ニ行ハヌノミニ非ス官更巡査ノ拾フ時ハ全ク本主ニ還ス惟日本ノ人民拾フ時ノミ折半ヲ得ルナリ九番ノ說ノ如ク官私不同ノヿハ此外ニモ多々アリト雖ㇲ官吏等ノ全ク還スヿトナル其還スハ正理ナル故ナリ故ニ此法ハ改正スル當然ナリ右等ニテ折半ノ不良ハ明瞭ナラン因テ折半ハ便法ト云議ノ非ヲ述ヘシ便法トハ折半法ハ隱ス物ヲ出スニ便利アルト云ノ主意ナラン吾國風浮薄ナル故一半ヲ拾フ者ニ給ストセサレハ遺失物ハ本主ニ還リ難シトスレㇲ實際上此改正ニテモ隱ス方ノ盛ニナルトハ考ヘス其レハ政府ニテ追々教化ヲ布キ遺失物ヲ拾ヘハ還ス樣ニナシ又隱ス時ハ本律ノ如ク罰スレハ人ノ常情必ス隱スヿハナカルヘシ假令アルニモセヨ盜ヲ禁シテモ止マヌニ同ク致方ナシ又人ノ物ヲ拾テ心配シ且費用ノ掛ルヿモ段々アルヘシ併シ拾テ禮物ヲ取ル計リヲ以テ人心ノ滿足トハナスヘカラス人心ノ滿足ハ善ヲナセハ鄕里鄕黨ノ譽レヲ得テ人ニモ稱セラル是滿足スヘキ所ナリ今家ニ出火アレハ路人モ之ヲ消防シ水中ニ溺ル者アレハ之ヲ救テ引上ルナリ水火ノ難ヲ救タリトテ其折半ヲ求ルヿハナシ然レㇲ水火ノ難ヲ救フ者アリ是天ノ理ニテ人ノ不幸ヲ救フナリ此ニ因テ觀レハ今日遺失物ヲ拾テ出スハ必ス折半法アル故ニ非ス今日議者ノ風俗浮薄故上等ノ人ニ適スル法ハ今日ニ不適トノ論アレトモ吾カ風俗ノ浮薄ナルハ都會開港場等ノ西洋ノ皮想ヲ見習フ土地ナリ既ニ第二讀會ニ於テ九番ニハ中江藤樹馬丁ノ說アレトモ余ハ反對ナリトス抑馬丁ハ街道ノ人足ト同ク下等ノ最下等ナル者ナリ而シテ其拾シ物ハ金ナリ金ハ人ノ最モ欲スル者ニテ之ヲ隱ストモ容易ニ顯ハレサル者ナリ最下等ノ人ニシテ最欲スル物ヲ拾テ出シタル故善行ヲ譽ラレタリ馬丁等ノ僅ニ講釋ヲ聞シ一人ニテモ亦然リ吾國浮薄ノ風ナルハ都會開港場等ニテ內地ハ淳朴外國ニモ稀ナリ併シ淳朴ニテモ法律抔ハ未開ナリ譬ヘハ幼ナル民ト謂フ可ナリ之ヲ導クニ良法ヲ以テスレハ善トナリ不良法ヲ以テスレハ惡トナル故ニ法ハ良善ナルヲ撰テ立ツヘシ西洋ニテモ昔ハ戰爭ノ餘習ニテ皆暴戾無極ナリ其レヲ色々法ヲ設ケ約束シ今日ノ形勢ヲナシタリ本邦支那ハ風俗昔ハ善美ナレトモ後世稍浮薄ニ流ル乃チ折半法モ支那本邦トモ近世ニ設ケタルナリ仁德天皇ノ御宇二十餘年未曾刑一人ト歷史ニアリ書ニ就テ考ルニ刑スヘキヲ刑セヌニ非ス政事モ善ナレハ民亦皆善行ヲ貴ヒ夜戶ヲ鎖サス路遺ルヲ拾ハス風俗淳朴ニシテ民皆彼此ノ權ノ有ル所ヲ知ルナリ今日王政復古ナル上ハ昔ノ法モ良法美事ハ存シテ可ナリ又人民ニ害アル時ハ支那ハ勿論

西洋モ其良法ヲ折衷シ之ヲ立ル可ナリ折半ハ歐洲暴戻ノ世ト雖モ此律ナシ獨本邦ト支那ニアリ今日之ヲ廢スルハ當然ナリ余本律ノ大體ニ付テハ第二讀會ニ於テ論スル如ク便利法ニハ非ス懲戒ノ意ナリ凡ソ遺失物ハ返スヘキ者之ヲ返サレハ罰スルト云事ニテ懲戒ノ爲メナリ物ノ出ルハ便利法ト云ヘハ本旨ニ戻ルヘシ故ニ此改正ノ主意ニ於テハ甚可ナリ唯修正スヘキ目的二ツアリ一ハ一年内ニ云々トアルハ甚短カシ原ノ三十日ニ比スレハ長シト雖モ所有權ヲ保護スル目的トスレハ其物ヲ遺失セシ人ハ歐米或ハ支那ニ行テ在ル歟知リ難シ然レハ期ヲ永クシテ本主ノ得ラルル樣ニスル政府ノ職掌ナルヘシ既ニ佛國ニテハ一年ニテ拾ヒシ者ニ渡スト雖モ三十年間ニ本主アレハ之ヲ取返ス權アリトス是所有ノ權ヲ重ンスレハナリ故ニ一年ヲ二年トシテ主ナキハ全給スルヲ可トス又官ニ送ルノ說アレモニ第二項ニアル如ク官私ノ地ニテ埋藏物ヲ堀リ得ル者其半ヲ給ストアリ是發見人ト見做ス故折半ス乃チ遺失物ヲ拾フ者ハ發見人ニシテ所有スル樣ニナル事既ニ九番ニ於テモ說アリ若シ主ナキ地ニ在テ埋藏物ヲ見出ス人アラハ其屬スル所ナキ物ハ政府ニ取上ケ難キヲ以テ政府ヨリ與フヘキナリ故ニ遺失物ヲ拾者ニ給スルハ一年ニテハ短カシ三年トスヘシ又五日内云々ハ先ツ本主ヲ尋子其主知レヌ時ハ官ニ送ルト云是本主ニ還スハ主意ニテ其主遂ニ知レサル時ハ拾フ者ニ與フノ意ナリ此ハ九番ノ說ノ如ク拾ヒタル者大ニ迷惑スル事モアラン譬ヘハ紙入レ包物等ヲ拾ヒ其内ノ書付類ヲ見ルニ至テハ不都合モ生セン故ニ拾フ者ハ直ニ官ニ出ストスレハ面倒ナクシテ宜シ新律亦然リ東京ハ勿論各縣トテモ今ハ屯所巡吏等モアリ此ヘ屆ケ出スハ格別手數モナカルヘシ若シ又本主早ク知レタル時ハ直ニ之ヲ還スモ亦宜シ余ハ此等ノ意ヲ含テ修正シ其主以下分明ナラサレハノ句ヲ削リ一年ヲ三年トセントス乃チ「五日内ニ官ニ送ルヘシ官之ヲ榜示シ三年内其主ナキハ全ク得ル者ニ給ス」ト改ムヘシ而シテ但書ヲ加ヘ「但限内其主分明ナレハ其主ニ還スヘシ」トセハ是非トモ官ニ屆ルヿニ限ラス本主知レタルハ直ニ還スヿモナリテ遺失物ノ出ヌ譯モナク亦天理人道ニモ戻ラス失フ者モ拾フ者(モ)迷惑ナクシテ兩全ナラン

○五番　河野敏鎌曰　余ノ意見ハ追々陳述スレトモ今日決議會ニ就テハ尙復陳述スル所アラント欲スルニ既ニ九番ノ說詳悉ニシテ復餘力ヲ遺サス余固ヨリ同意ナレハ敢テ蛇足ヲ添ヘス惟一二前說ヲ敷衍シテ此會ヲ終ヘン第二讀會以來種々ノ議論アレモ未タ余ノ說ニ對シタル適當ノ駁議ヲ與ヘラレス必竟遺失物ト云フ性質ヲ誤リ法律ノ主意ヲ辨セサルニ因ルナラン抑法ハ必シモ天然ノ眞理ニ基ク者ニ非ス歐洲トテモ天然ノ眞理ニ基ク者ハ僅ニ二三ニ過キス其他ハ皆人定律ニシテ民俗ニ基キ便宜ヲ量リ之ヲ制ス乃チ便宜法ナリ惣テ法ヲ設ケ人間交際ノ準則トスルハ其時世ヲ見ル第一ナリ既ニ九番ノ說ノ如ク人ニハ上等中等下等ノ分アリ其内中等以下ノ人多ニ居ルト見ル可シ故ニ中等以下ニ付テ法ヲ立ツヘキナリ折半法ハ明清律ニアリ我舊幕以來ニテモ慣習トナル必竟便宜ニ基クナリ此折半法ニ因テ遺失物モ出ルナリ遺失物ヲ拾ヒ直ニ其主ニ還ス樣ナル正直人アラハ鄕黨ニモ譽ヲ得レモ世上如此人間ハ千萬人中一二ヲ得難シ折半ヲ求ムルニテ官ヘモ送ルヿアリ是本邦今日ノ有樣ナリ既ニ或ル議官ニハ道德上ノ說アレモ其等ハ人智ノ進不進ニ就テ一得一失アリ人智ノ進ミ交際ノ開クルニ從ヒ人精慾心ヲ長スル者ニテ亦種々狡黠ナル者モアリ是文明國ノ人ハ却テ深山幽谷ノ人ニ及ハヌヿアル所以ナリ今ニテモ極田舍人ハ其慾心ヲ生スル美服モナク美食モナシ食腹ニ飽キ衣寒ヲ禦ケハ足レリトシ格別盜ミモセス遺レル物モ拾ハス上古ノ民寡慾ノ風俗アリ既ニ人智進ミ美服ニ誇リ美食ヲ好ムヲ知ルニ至テハ已レノ慾心モ生スル者ニテ本邦今日ノ風俗ヲ視ルニ之ヲ上古寡慾ノ道不拾遺ノ風俗ニ復スルノ難キヿハ吾カ保證スル所ナリ折半法ハ現場ノ害ヲ救フ爲メ今日ニ適當スル者ナレハ縱ヒ支那ニナク亦西洋ニナキ法ニモセヨ之ヲ立テ可ナリ折半法ニテ遺失物ノ出ルハ往々實証アリ今折半法ヲ廢スル以上ハ本邦ニテハ警察未タ行屆カス其レハ第二讀會ニモ陳述スル如ク明治元年以來人ヲ殺シ逃亡スル者スラ未タ捕縛ニ付ヌ者數人アリ此ノ如ク警察ノ行屆カサル以上折半法ヲ廢スレハ遺失物ハ出ルヿナシ警察行屆ケハ拾フ者モ恐レテ出スヿアラン行屆ネハ隱シ得トナル故ニ折半法ハ廢スヘカラス乃チ遺失物ヲ取出ス仕法ハ此ヨリ便ナルナシ西洋ハ政府ニ於テ世話ハセサレトモ廣告ヲ新聞ニ載セ報謝ノ金額ヲ揭ケ江湖ニ募ル故拾フ者ハ持來ルヘシ是レ西洋ハ誰ニテモ新聞ヲ見ルヿニナリテアレモ本邦ハ未タ其場合ニ至ラヌ故此法適當セリ且又性質ヲ誤ルト云フハ物ノ手ヲ離レタルヲ失フタト云ヘカラス諭ヘハ假ニ道傍ヘ杖ヲ置クアリ是遺失ニ非ス此ハ法律ノ原則ヲ考フレハ分ルヘシ必竟遺失ナレハコソ折半ス惟離レタ置ヰタトハ異ナルアリ或ハ往來ノ道上ニテ物ヲ取落シ一足三足行テ覺ヘ返來ル此ハ手ヲ離レタル物ニテ遺失ニ非ス若シ他人拾ハサレハ本主來テ取行ク物ニテ遺失ニアラス然ルニ本主ノ返リ來ラサル内他人ノ拾アリテ爭

訟ヲ起セハ裁判官之ヲ裁判スルハ其役目ナレハ此物ハ遺失ニアラヌ故折半セヌトサヘ云ヘハ濟ムヿナリ既ニ地券公債證書等ハ折半セス此ハ拾ヒ得ラルモ書替ヘスレハヨケレハナリ則チ此ト同斷馬ノヿハ陸軍省伺ノヿアレトモ官馬ナレハ折半セス官馬ニ非ルハ折半スルナラン既ニ馬ヲ尋常遺失物ト一樣ニ折半スルハ不都合ト云フヿハ其人ノ頭腦ニ感シナカラ其尋常遺失物ト異ナル所以アルノ理ヲ得考ヘ出サヌ故ナラン元來馬ハ動物ユヘ人ノ手ニアハヌヿアリ動物ト不動物トハ區分シ此等ハ別ニ條例ヲ設テ可ナリ又折半法ハ狹シ官吏ノ拾フハ折半セス不都合トアレモ此折半法ハ遺失物ヲ出ス爲メニ立テタル者ニテ官吏ハ人間社會ノ最上等ノ地位ヲ占テ人ノ標目トモナル者ナレハ此人々ハ折半ヲ與ヘストモ拾ヒシ物ハ必ス出スノ人ト看做ス故折半セヌモ亦一ノ道理アリ右ニ陳述スル通ニテ本邦今日ノ時勢ニ因テ視レハ此度ノ改正案ニ決シ布告アレハ實ニ明日ヨリハ人ノ不幸ヲ幸トスル說ハサテオキ丸取ニスル弊害ヲ生シ遺失物ハ十ニ八九モ出ヌヿトナリ人民ハ却テ舊律ヲ戀シフ思フヿ余カ保證シテ確言スル所ナリ

○八番福羽美靜曰　折半法ハ舊幕ニモ遺失物ヲ出サスルノ主意ヨリ起ルナラン其節列藩ニ於テハ區々ノ處置ニテ弊害モアル故維新ノ際新律綱領ニ一定セラレタルナラン此折半法ヲ今年マテ行ヒ來テ馬ノ論杯起レトモ其他ニ弊害アル歟ト云フニ目ニ見ヌ者ハ明ニ知リ難シ若シ拾フ者弊アレハ其弊ヲ改テヨシ又此法ニ因テ便宜ヲ得ルヿ亦多シ今之ヲ改正スルナラハ幾分カ謝スルノ條例ヲ設ケサレハ前ノ弊ニ比スルニ得失孰レニ在乎折半法ハ道理上ヨリ論スレハ如何アラン然レモ此改正ニ付テノ得ヲ見出サス又前ノ弊モ見出サス到底折半法ヲ補フテ存スルヲ可トス

○議長曰　論說種々ナレトモ先ツ原案ヲ保護スル說ト原案ヲ否トスル說トノ二ヲ決セン原案ヲ保護スルニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

起立者八人

○議長曰　多數ヲ以テ原案ヲ保護スル說ニ決ス

○議長曰　原案ノ儘ヲ可トスルト修正ヲ要スルノ兩說ヲ決セン原案ノ儘ヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

起立者二人

○議長曰　少數ヲ以テ原案ノ儘ヲ可トスル說ハ取ラス卽チ修正ヲ要スルニ決ス

午後第一時三十分閉場

○第九號議案第三讀會ノ續キ

出席議官

一番　津田出　　二番　柳原前光
四番　佐野常民　　五番　河野敏鎌
六番　大給恒　　七番　松岡時敏
八番　福羽美靜　　九番　陸奥宗光
十番　佐々木高行　　十一番　吉井友實
十二番　壬生基修　　十三番　齋藤利行
十六番　黑田清綱　　十八番　山口尙芳
十九番　有栖川宮　　二十番　秋月種樹

内閣委員　一番外三等法制官　村田保

午前第十時三十分開場

○議長曰　過日第九號議案第三讀會ニ於テ追々修正ノ意見ヲ發スル議官アレモ時刻遲延シ其節決議スルヲ得ス因テ本日其引續ノ會ヲ開ク而シテ修正案數通アレハ兩案ツヲ比較シテ決ヲ取リ終リニ殘リタル案ニテ委員ヲ設ケ本院ノ修正案トナシ其決議會ハ他日之ヲ開クヘシ今先ツ十三番議官ノ修正案ヨリ朗讀セシムルニ付朗讀ノ後尙其主旨ヲ演述スルモ演述セサルモ起草者ノ適意トス各案ニ於テモ亦然リ各議官ニ於テ宜ク此意ヲ領スヘシ

○書記官本田親雄　十三番ノ修正案ヲ朗讀ス

修正案

得遺失物律中前項左ノ通改正シ改定律例中第二百八十三條第二百八十四條ヲ刪除ス

得遺失物律（前項）

凡遺失ノ物ヲ得レハ五日內ニ其主ニ還シ其主分明ナラサレハ官ニ送ルヘシ官之ヲ榜示シ一年內ニ其主ナケレハ官ニ入ル若シ隱匿シテ主ニ還ヘサス及ヒ官ニ送ラサル者ハ官物ハ

坐賍ヲ以テ論シ私物ハ一等ヲ減シ並ニ物ヲ追シテ官私ニ還給シ主ナキハ官ニ入ル

條例追加

凡遺失物ヲ得テ其主ニ還スニ手數失費等アルハ相當ノ償ヲ其主ヨリ得ル人ニ給スヘシ

凡牛馬犬羊ノ類其檻ヲ脫スルカ如キハ遺失物ヲ以テ論スヘカラスト雖ㇳ其勾引主ニ還スニ手數失費等アルハ亦同

○十三番齋藤利行曰　此修正案ハ去ル十七日會議ニ於テ其主旨ヲ發議スレㇳ尙又今日其意ヲ說明セン抑原案ニ付テハ原案ヲ是トスルト之ヲ修正セント云ノ兩說アリ其原案ヲ主トスル意ハ一體人間ノ世ニ立ツ智力體力ヲ勞シテ活計ヲ爲ス是人間ノ義務ナリ此勉强力ヨリ所有スル貨財等ヲ不幸ニシテ遺失スル時僥倖ニ之ヲ拾ヒ所有スル理萬々アルヘカラス故ニ折半法ヲ廢スルハ可ナリ且外國人ニモ一般ニ我カ法律ヲ遵奉セシムルヲ期スルヿナレハ今日國律モ一歩ヲ進メテ立ツヘシ是折半ヲ廢スル主意ナリ又折半法ハ道理ニ背ク說先日一番四番ニテ陳述アリ余モ同意セリ是原案ヲ是トスル所以ナリ而シテ之ヲ修正セントスル意ハ既ニ一朝僥倖拾ヒ得テ所有スル理ナシトセハ一年ニテ全ク拾主ニ給スルハ不條理ナリ故ニ之ヲ改メテ官ニ收ムトスヘシ官ニ收ムトハ一般公共ノ官庫ニ收ムル所以ナリ是修正スヘキノ一ナリ又拾フ者ハ其物ヲ本主ニ還サントスレハ人民職務上費フヘキ時間ヲ費シ時宜ニヨリテハ多少失費ナシトセス然レハ之ニ賞ヲナスヘキハ九番ノ說ヲ可トス併シ余ハ折半シテ償フヲ欲セス此ハ相當ノ謝禮ヲナサシメハ名義ニ於テモ道理ニ於テモ當然ナラン此意ヲ條例ニ追加スルヲ可ナリトス是其二ナリ且原案ニ二百八十二條ヲ刪除ストアレト水中沈沒云々ハ存スルヲ可トス番外ノ說明ノ通リ難船規則ハアレトモ難船ハ多ク海上ノヿニテ二百八十二條ハ川ニテモ海ニテモ同ク水中沈沒ナレハ必シモ海上難船ノミナラス然レハ之ヲ存シテ抵觸スル所ナシ又番外ノ說ニ牛馬雞犬ノ事ニ付テ折半法アレハ難澁スル趣ナレトモ其レ等ハ五番九番ノ說明瞭ニテ余モ同意ナリ之ヲ一般ノ遺失物ト看做ス條理ナシ然レㇳ律ニ明文ナケレハ或ハ誤解アラン故ニ區別ヲナスヘシ且牛馬等ノ奔逸スル物ヲ拘引シテ本主ニ還スニハ隨分手數モ掛リ又失費モアラン是亦相當ノ償ヲナシ拾主ニ謝スヘキヿナリ此等ノ意ヲ追加シテ修正セサレハ全備セス是修正ノ三ケ條ナリ

凡右陳述スル所以ヲ以テ修正セシナリ

○番外一番村田保曰　十三番ニ於テ修正ノ大意ヲ陳述アレㇳ其修正ヲ要スル所ハ主ナキハ官ニ入ル處ノミニテ其他原案ニ異ナルヿナシ且條例ニ手數失費ヲ償フヘキヿアリ然レㇳ律中ノ一年內ニ其主ナキハ官ニ納ルト云事ハ條理ニ叶ハス何ナレハ條例ニ設クル如ク失費ハ主ヨリ出ストアリ主ナキ時全ク官ニ納レハ何ノ償モナシ然レハ主ナケレハ全ク拾主ニ給スヘキ者ナリ之ヲ官ニ取ルハ甚不條理ナリ主ナキハ拾主ニヤル事ハ此度ニ限ラス唐律明淸律及ヒ歐洲ニ於テモ皆然リ其譯ハ今失フタル物ハ主アルモノニテ國家ニ屬セス鑛物埋藏物等ノ主ニ屬スル物ハ官ニ納ルヿアレㇳ主ノアルヘキニ主ノ知レヌ物ハ官ニ入ルヘカラス又牛馬等ノ事ニ付條例ニ失費ヲ償フ事ヲ設ラレタレトモ此ニテハ尙ホ足ラス牛馬ヲ拾フテ若シ主ナキ時ハイツ迄モ拾主ニテ取置ク事トナリ不都合ナリ到底此修正ハ全備セス

○十三番齋藤利行曰　原案ヲ主持スルト修正案トノ議ハ既ニ十七日ノ會ニ於テ修正スヘキニ決セリ今番外ノ陳述ハ尙ホ原案ヲ主持スルニ似タリ然レハ修正案ノ發議ハ無用ナルヤ

○議長曰　修正案ニ付テ發議アリテ宜シ委員ニ於テハ其修正案ヨリハ原案ノ方可ナリト發言スルモ亦宜シ扨十三番ノ陳述ハ終リタルヤ

○十三番齋藤利行曰　然リ

○議長曰　七番議官ノ修正案アリ之ヲ朗讀セシムヘシ

○書記官本田親雄　七番ノ修正案ヲ朗讀ス

第九號得遺失物ノ議案ヲ修正スル意見書

第一條

原案ニ於テ修正セントスル所ハ惟官物ハ坐賍ヲ以テ論シ私物ハ一等ヲ減スルノ項ニ在リ其他ハ異議ヲ容レス

第二條

官物ト私物トニ輕重ヲ置ヘカラサルヲ論ス

一支那ノ政府ニ於テ官物私物ノ輕重ヲ分ツ漢唐ヨリ明淸ニ至リ皆然リ人皆慣習シテ更ニ駁議セス夫天下公共ノ財物何ソ官私ニ依テ輕重セン然ルニ其輕重スル所以ハ何ソ乎蓋シ支那ノ國タル屢革命シ兵力ヲ以テ之ヲ取リ天子必ス天下ヲ以テ一人ノ私有トナシ天下公共ノ財物亦己レ獨リ其所有ノ權ヲ專ニシ厚ク民ニ租シ多ク民ニ調シ又苛虐ニ民ニ賦役シテ少シモ之ヲ憫恤セス故ニ其官ニ在ル物ヲ重ンシ民ノ手ニ在ル物ヲ輕ンス其跡歷史上彰々タリ皇國ハ然ラス今其明證ヲ擧ン　仁德天皇曰天之立君本爲百姓故君以百姓爲本古昔聖王一人饑寒顧之責身百姓貧則朕貧也百姓富則朕富也未有百姓富而朕貧者矣天皇ノ此言是乃卓然タル國憲ナリ夫全國人民苦心勞力シテ財物ヲ生シ租稅ヲ出シテ政府ニ納ル政府之

ヲ受テ全國人民ヲ保護スルノ諸費用ニ供ス所謂官物ナリ此官物ハ人民己カ保護ヲ受ン爲ニ納メタル者ナレハ政府ニ在テモ乃チ人民ノ財物ト同一ノ道理ナリ支那ノ如ク天子ノ所有トナシ殊ニ之ヲ重ンスルハ悖謬ト謂ヘシ是其輕重ヲ分ツ可カラサルノ一ナリ又其人民ノ手ニ在ル物ハ所謂私物ナリ各自ノ人民各自ノ財物ヲ以テ用度ヲ辨シ愛國ノ誠心ヲ披テ帝室ヲ翼戴ス如シ此財物ナケレハ人民窮窘ノ極仳離顚連シテ天下必ス亂ル由是觀之ハ財物ハ人民ノ帝室ヲ翼戴スル所以ノ補助ナリ政府何ソ其私物ヲ以テ支那ノ如ク之ヲ輕視セン是其輕重ヲ分ツ可カラサルノ二ナリ　仁德天皇ノ百姓貧則朕貧也百姓富則朕富也未有百姓富而朕貧者矣ノ聖言卓然タル國憲ニシテ天下公共ノ財物ニ官私輕重ノ別ヲ置ヘカラサルノ明證ナリ故ニ支那革命國ノ法據ルニ足サルヲ駁議シ仁德天皇ノ聖訓ヲ奉シテ官物私物ヲ論セス得遺失物律ヲ修正センコトヲ欲ス

附試ニ支那ノ如ク官物ヲ重トスルモ之ヲ遺失セシ官吏ノ罪ナリ其俸ヲ食シ其物ヲ保守ス俗ニ所謂官物ノ番人ナリ番人ニシテ之ヲ遺失ス其罪豈不レ大乎愚昧ノ小民路ニ於テ之ヲ拾フ豈能還ニ其官物タル乎私物タル乎ヲ辨明センヤ蹤ヒ其慾ノ爲ニ昧マサレ隱匿スルモ彼カ不能辨明ノ心ヲ體認セハ其事同シ何ヲ以テ官物ハ罰ヲ重クシ私物ハ罰ヲ輕クスヘキノ理アランヤ是亦其不可輕重ノ一證ナリ

第三條

財貨帛物ノ本源ヲ推究シテ原案坐贓ヲ以テ論スルノ不可ナルヲ論ス

一宇宙有ヨリ此人民有リ此人民有ヨリ此財貨帛物アリ宇宙間ニ於テ財貨帛物ノ用タル流通シテ不滯有無ヲ相通シテ以テ人民ノ用ヲ達スル所以ノ本質ナル者ナレハ造物主ヨリ之ヲ視ル人民ヲ重トシ財貨帛物ヲ輕トスルコト論ナキ而已而シテ靈慧ナル人民相互ニ其義務ヲ盡シ財貨帛物ノ本質ヲ失ハサル爲ニ各自ニ之ヲ保護シ其所有ノ權ヲ全スル是人民相互ノ本職ト言ヘシ然ルニ遺失物ニ至テハ自己ノ不注意ヲ以テ其所有ノ權ヲ喪フ固ヨリ己カ本職ニ怠懦シテ財貨帛物ノ本質ニ背ク所ナレハ惟己ヲ責テ其物ノ再ヒ還ルヲ不可望此ニ於テ人アリ遺失ノ物ヲ得曰ク此天ノ所與我ナリ我取テ以テ爲ス我所有亦妨ナシト是亦有レ理矣然ニ遺失ノ患ハ人ト己ト皆所レ不レ免ナレハ更ニ其保護ノ法ヲ不レ得レ不レ設是ニ於テ人民相互ニ契約シテ曰財貨帛物ハ人々其心力ヲ勞苦シテ所有スル者ナレハ偶然手ニ落タルヲ己カ所有ト不レ可レ爲必ス其主ニ還スヘシ其主不分明ナレハ必官ニ送ルヘシ亦人民相互ノ義務ナリト是民法ノ契約ナレトモ現今民法未タ立サレハ原案ニ掲示スル所乃其意ニシテ既ニ此契約ヲ設ル上ハ之ヲ遵守セス義務ヲ不レ盡者ハ之ヲ懲ササルヘカラス是乃刑法ニ於テ得遺失物ノ條ヲ設ノ淵源也然ニ原案官物ハ坐贓ヲ以テ論シ私物ハ一等ヲ減スト官私ノ輕重スヘカラサルハ前條ニ之ヲ論セリ夫坐贓致罪ハ必ス官吏身上ノ事也官吏タル者其職ヲ奉シ其俸ヲ受ル者ナレハ其法ヲ遵守シテ少シモ之ヲ枉ルコトアル可カラス坐贓ハ枉法ノ端緒ヲ開ク者ニシテ官ノ弊害タル最大ナリトス痛責シテ嚴懲セスンハアルヘカラス今ノ坐贓律ハ較輕ニ似タリ然トモ是事ヲ以テ人民相互ノ契約ニ背キシ者ニ比擬スルハ不倫ノ甚シ然ト雖モ現行ノ律ニ於テ更ニ比擬スヘキノ條ナシ或ハ窃盜ヲ以テ視ル乎垣ヲ越ヘ壁ヲ穿テ人ノ所有權ヲ全スル財物ヲ盜者ハ其惡非ニ同日ノ談ニ故ニ姑ク坐贓ニ據テ論シ官物私物ヲ分タス一等ヲ減シテ可也況ヤ物ヲ追シテ還給ス如シ遺失物全ク還給スレハ毫髮ノ損ナシ而シテ官吏坐贓ト同罰タルハ豈非ニ不倫乎故曰不レ分ニ官私一以ニ坐贓一論減ニ一等一是乃原案ニ於テ修正セントスルノ意見也

修正案

得遺失物律（前項）

凡遺失ノ物ヲ得レハ五日内ニ其主ニ還シ其主分明ナラサレハ官ニ送ルヘシ官之ヲ榜示シ一年内ニ其主ナケレハ得ル人ニ全ク給ス若シ隱匿シテ主ニ還サス及ヒ官ニ送ラサル者ハ官物私物各坐贓ヲ以テ論シ一等ヲ減シ並ニ物ヲ追シテ官私ニ還給シ主ナキハ官ニ入ル

○七番松岡時敏曰　長キ意見書ナレハ主意ハ盡スト雖モ尙一應陳述セン官物私物ヲ分タサル可ハ譬ヘハ大藏省ノ官物ヲ官吏ノ遺失スルハ意見書ニ云フ如ク其職掌ヲ失フ者ナリ其時其失フタル丈ノ數ハ追徵ス然レハ大藏ノ官物ノ官吏ノ手ヲ離ル時ハ天地間ノ捨リ物ナリ人民ニ契約ナキ時ハ棄リ物ハ拾フ者ノ所有スル道理ナリ併シ之ヲ拾フ時ニ當テ大藏ノ帳面ニモナク棄リ物ナレハ何モヨキ譯ナレト段々詮議シテ原ハ官物ナル可ルアリ惟官物ト私物トヲ分ツヘキ物ニシテ既ニ棄リ物ト決スル上カラハ官物私物ニ罰ノ輕重ヲ付ルハ不可ナリ是意見書中漏ル所故ニ陳述ス

○議長曰　十三番ト七番ノ修正案ヲ比較シテ決議セン十三番ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

起立者二人

○議長曰　少數ニ付十三番ノ修正ハ取ラス

○議長曰　八番ノ修正案ヲ朗讀セシムヘシ

○書記官 本田親雄　八番ノ修正案ヲ朗讀ス

修正案意見書

得遺失物律中改正ノ事第三讀會ニ既ニ陳述セシ如ク原案ヲ以テ非ト論ス然ルニ其決議ニ及テハ多數ヲ以テ原案ヲ行フニ決セリ然ルニ其原案ヲ以テ直ニ行ハン歟又修正ヲ加ヘテ行ハン歟ト云議ニ至リ即チ修正ニ決ス是ニ於テ其修正ノ意見ヲ陳述シ還附ノ條例案ヲ附スル「左ノ如シ

凡遺失ノ物アル巡行ノ官吏ニアラサル人コレヲ得ルトキ其主分明ナレハ其主ニ還附ス然ラサレハ五日内ニ官ニ送ルヘシ官コレヲ榜示シ三年内其主アラサレハ得シ人ニ給ス以下原案

遺失物還附條例

第一條

凡遺失物ヲ還附スル其官物ニアラサルモノハ其主ヨリ相當ノ謝ヲナスヘシ

第二條

金穀ヲ還附スルノ謝ハ其員數ノ一半ヲ以テ相當トスヘシ

第三條

書類器物等ノ謝ハ輕重其主ノ隨意タルヘシ

第四條

書類器物等ヲ還附スルニ付消費ニ應スルノ償ハ詳細記注シテ求ムルコトヲ得ヘシ官物ハ官ヨリ私物ハ其主コレヲ給スヘシ

第五條

漂船流材又逸失馬牛闌畜等モ第三條第四條ニヨルヘシ

第六條

巡行官吏ノ還附スル所トイヘ𪜈其入費アルモノハ官私トモコレヲ償フヘシ

上ノ如クニシテ改定律例二百八十二條二百八十三條二百八十四條刪除アルヘシ

○九番 陸奥宗光曰　八番ノ修正案ハ改定律例中ニ條例ヲ加ルノ意ナリヤ

○議長曰　八番ニ於テ演述スヘシ

○八番 福羽美靜曰　先ツ主意ヲ說キ併セテ九番ノ問ニ答ヘン抑本律ハ所有物ヲ保護スル主意ヨリ起ルナリ然レハ遺失物ハ成ルヘク其主ニ返ルノ道ヲナスヘク又拾フ者ハ其主ニ還ス念ノ起ル所ヲ考ヘ法ヲ設クヘキナリ今成ル丈ケ原案ヲ助ケ成ル丈ケ遺失物ノ出ル樣ノ意ヲ用ヒ條例ヲ加ヘテ修正セントス大體人ハ善心アル者ナレトモ其内ニハ狡黠ナル者モアレハ物ヲ拾ヒ隱匿スル者ナシトセス其等ノ爲メニ罰ヲ付テ懲シ又遺失物ノ出ル樣ニスルニハ還附ノ條例ヲ設ケサルヲ得ス巡行官吏ニ非ル人トセシハ巡行官吏ハ此等ノ物ヲ處分スルハ其職掌ナレハ斯クナセシナリ又一年ハ餘リ短カケレハ三年内ト改正ス而シテ遺失物ヲ拾ヒタル者ハ其主ニ還ス其主ハ拾ヒタル者ニ謝スル是ハ大ニ人情ヨリ起テ當然ノ事ナリ此人情當然ノ事ヲスルヲ政府ニテ世話スル亦當然ノ事ナリ而シテ官物私物ノ別ハ万事ニアレハ亦此別ヲナササルヲ得ス則チ官物ハ人民公共ノ物トシ私物ハ一人所有ノ物トス一人ノ物ト公共ノ物ト人情見ル所違ヒアリ官物ハ公共ノ物故拾フ者モ大切ニ心得返ス心アリ私物ハ一人ノ物故容易ニ心得或ハ所有スル思ヲ生シ還サヌ者モアラン故ニ之ニ謝スル事ヲナス是第一條ノ意ナリ第二ハ金穀ノ類ハ遺失スレハ還リ難シ若シ還ルアレハ其悅フ心ヨリ謝スル心モ出ルモノ故他ノ物ヨリ謝ヲ多クシ一半トス都下ハ金多ケレトモ田舍ニテハ米穀多シ師匠ヤ醫者ノ禮モ米ヲ以テスル故金穀ハ重クシ一半トス第三ハ時計等ノ品物ハ代價ノ高下アレトモ隱スニ易ク亦顯ハレ易キ物ニ付拾者ノ返ストモ本主ハ心持次第ニ謝シテヨシ第四ハ品物ニヨリ其費モ色々アルヘシ或ハ持セテヤルニ人ヲ賃ヒ車ニ載ス等ノ費ハ詳記シテ償却ヲ求ムレハ此費ハ拾フ者ノ望ニ應シ落シ主ノ手ヨリ出スヘキナリ前ノ金穀ハ折半ナレハ其費ヲ出スニ及ハス又官物ハ官ヨリ其費ヲ償ハシムル私物ニ異ナルナシ拾テ還スハ人民ノ義務ニテ其費用ヲ償フハ官私共遺失主ノ義務ナリ第五條ハ謝禮ハ隨意トシ手數多キ者ニ付其費ヲ償ハシム第六條ノ巡行官吏ハ職掌ノ一部ナレハ謝スルニ及ハス乍併其失費ニ係ルモノハ官ヨリモ私ヨリモ償フヘキ「ナリ而シテ二百八十四條ヲ刪ルヘシ此條例ヲ律中ニ加ル乎何レヘ付ル哉其體裁ノ好キ都合ハ未タ勘考シ能ハス

○番外一番 村田保曰　八番ノ修正ハ巡行官吏ニ非ル云々得シ人ニ給ス以下原案トアリ聊分明ナラス今一應說明ヲ聞カン

○議長曰　八番ニ於テ說明スヘシ

○八番 福羽美靜曰　巡行官吏ノ職ハ遺失物等ヲ見出スモ其一部分ニアリ故ニ巡行官吏ニ非ルノ字ヲ加ヘサレハ常人トノ區別分リ難シ得シ人ニ給スノ下ハ若シ隱匿云々ニ續クナリ原案ノ全ノ字ハナクトモ給スト云ヘハ宜シカラン

○番外一番 村田保曰　巡行官吏ニ非ルト云テ常人ノ事トナレハ段々條例ト牴觸ス何トナレハ條例ニハ其謝スル「ヲ書シ金穀器物ニ付テ折半隨意等ノ區別アリ律ニハ給ストアリ全ク

相反ス條例ニ區別ヲナスナラハ律ニモ區別アルヲ可トス全ノ字ハ左モアラン

○八番（福羽美靜）曰　牴觸トハ思ハス律ノ給スト云フハ三年間拾者モ其主ヲ探シ官ニテモ手ヲ盡シテ遺失主遂ニ知レサル時ハ其物ヲ官ニ納ル理ナキ故拾者ニ給スルナリ條例ハ三年ヨリ內遺失主知レタルハ之ヲ還付スル時ノ條例ニシテ遺失物一般ノ條例ニアラサルナリ

○番外一番（村田保）曰　成程條例ハ還附ノ條例ニテ遺失物ノ條例ニアラスト云ヘハ三年內還附條例トシテ可ナラン且區別ヲ立ルハ最モ不可ナリ金穀ハ他物ニ異ナル理ナシ田舍ハ米穀多キ說アレトモ律ハ一般ニ通スル者ニテ田舍ノ丁ニ限ラス只田舍ニテ多キト云ヘハ人糞馬矢モ大切ナルモノナリ流材闌畜等失費多キ物ヲ償フハ格別ナレトモ金穀ノ謝ヲ一半スルハ卽折半法ニテ前會議定ノ主趣ニ戻ル故甚不可ナリ

○九番（陸奧宗光）曰　條例ハ單行スル者歟改定律例中ヘ挿入スル者歟ノ好キ都合ハ未タ考ヘスト八番ノ說アリテ其決意明ナラス今一應說明ヲ聞カン

○議長曰　八番ニ於テ陳述スヘシ

○八番（福羽美靜）曰　或ハ改定律例中ニ入ルヘキ者歟トモ考ヘ又還附條例ナレハ新聞條例等ノ如ク單行シテモ然ルヘキ歟其都合ハ未タ決シ得ス併ナカラ孰レニモ此丈ケノ事ハシテ置クヲ宜シトス

○議長曰　七番ノ修正案ト八番ノ修正案ノ可否ヲ決セン八番ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

起立者七人

○議長曰　少數ヲ以テ八番ノ修正案ハ取ラス尙他ノ修正案アレト午餐前ナルヲ以テ姑ク議事ヲ中止ス

第十二時五十分閉場

午後第一時十五分開場

○議長曰　四番議官ノ修正案アリ之ヲ朗讀セシムヘシ

○書記官（本田親雄）　四番ノ修正案ヲ朗讀ス

得遺失物律中前項左ノ通改正シ改定律例第二百八十二條第二百八十三條第二百八十四條ヲ刪除ス

得遺失物律（前項）

凡遺失ノ物ヲ得レハ五日內ニ官ニ送ルヘシ官之ヲ榜示シ三年內ニ其主ナケレハ得ル人ニ給ス若隱匿シテ官ニ送ラサル者ハ官物ハ坐贓ヲ以テ論シ私物ハ一等ヲ減シ並ニ物ヲ追シテ官私ニ還給シ主ナキハ官ニ入ル

但シ限內其主分明ナレハ直ニ之ニ還スモ妨ナシ

○四番（佐野常民）曰　此修正ノ意ハ先會ヨリ述ル所ナレトモ今復大意ヲ說明セン此折半法ヲ廢スルハ遺失主ノ所有權ヲ政府ニテ保護スル爲メ縱ヒ拾ヒタル者アルモ之ヲ其主ニ還シ勿論官物ハ官ニ還ス併シ原案ノ主意ハ五日內ニ本主ニ遺スヲ主トシ次ニ其主分明ナラサレハ官ニ送ルトアリ旣ニ九番ニモ論アル如ク孰レ拾フ者ノ迷惑トナラン此ハ新律綱領ノ如ク官ニ送ルヲ主トシ若限日內其主分明ナルハ其主ニ還スヲ可トス抑全國ヲ統轄シ人々ニ權ヲ與ヘテ保護スル以上ハタトヒ路上ニ遺失物アルモ自分ノ物ニアラサレハ之ヲ私有スル理ナキヲ知ラシメ之ヲ見出ス者ハ互ニ不幸ノ遺失物ナレハ必ス之ヲ政府ニ送リ政府ニテ成丈ケ探索シテ其主ニ還ス手數ヲナスヘシ然レハ遺失物ハ官ニ送ル者ト決定シテ拾フ者ハ巡査或ハ區戶長ヘ送ルトスレハ格別手數ノ面倒モナシ故ニ五日內ニ其主ナキノ句ヲ削リ直ニ官ニ送ルヘシトス一年ヲ三年ト改メシハ如何トナレハ前會ニモ陳述スル如ク遺失物ヲ拾ヒ其主ナキ時ハ之ヲ拾フ者ニ與ルハ發見者ト看做ス故ニテ又其遺失者ハ或ハ歐洲ニ赴ク歟亞細亞ニ游フ歟モ計リ難ク又隱シテアル物ハ政府ニテモ搜探スヘシ佛國ニテハ三拾年間ハ遺失者ヨリ拾フ者ヘ取返ヲ求ル權アリトス今一年ニテハ餘リ短カケレハ佛律ヲ折衷シ三年ト改ムルヲ可トス而シテ三年ヲ過レハ最早其主ナキ物ト認メ拾者ニ給スヘシ譬ヘハ海上三里外ニテ漂流物ヲ見出セシ者地中埋藏物ヲ堀得シ者等皆其發見者ニ給スルニ同シ又全ノ字ハ折半法ナレハアリテヨシ折半法ヲ廢スレハ削テ可ナリ又其主ニ還シ其主分明ナラサレハノ十四字ヲ削リ前ニモ陳スル如ク直ニ官ニ送ル手續トスルヲ可トス然レモ拾フ時ニ其主アリテ我落シタトカ忘レタトガ彌其主ノ所有タル名刺歟何ソ明白ナル證アレハ官ヘ送ルノ手數ヲ止メ五日內ナレハ直ニ其主ニ返シテヨシト但書ヲ附テ可ナリ都テ拾フ物ハ官ヘ送ル法トナシ若シ隱ス者アレハ之ヲ罰ストスレハ律ノ前項ノ主意モ確然トナリ其上官ニ送ルトスレハ自然盜心ヲ戒ルヿニモナルヘシ又官私ヲ區別スルハ宜シカラスト七番ノ論アレモ九番ノ說モアル如ク官私ノ別ハ此ノミニ限ラス万事ニアリ官ノ物ヲ重ンスルヿハ新律ニモ定テアル上ハ今官私ヲ混シテハ宜シカラス一體上ノ物ノミ大切ニスルト云ヨリ論スレハ私アル樣ナレトモ官林ニテモ重ンス是一般公共ノ上ヨリ論スレハ之ヲ重ンシテヨロシ本律ニノミ其別アルヲ咎メ難シ孰レ原案ノ大體ハ變セス主ニ還スヲ主トスルト官ニ送ルヲ

主トスルト一年ヲ三年トスル位ヲ修正セハ可ナリ

○七番松岡時敏曰　四番ノ陳述明了ナリ惟三年トスル主意分明ナラス一年ナレハヨク分ル譬ハ今年ノ啓蟄ニ拾テ來歲ノ啓蟄ニ至レハ太陽モ一周シテ本ノ處ニ還ル故ニ原案ノ一年ハ天地自然ノ道理ニ叶ヘリ三年ノ出處分明ナラサレハヤハリ一年ヲ可トス

○議長曰　七番ノ修正ト四番ノ修正ト兩案ノ可否ヲ決セン七番ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

起立者十人

○議長曰　多數ヲ以テ七番ノ修正案ヲ取ル

○議長曰　五番九番十八番連署ノ修正案アリ之ヲ朗讀セシムヘシ

○書記官本田親雄　連署ノ修正案ヲ朗讀ス

修正案

新律綱領得遺失物律左ノ通リ改正シ改定律例第二百八十二三、四、五、六條ヲ刪除シ得遺失物取扱規則別冊ノ通定メラレ候事

凡遺失ノ物ヲ得隱匿シテ官ニ送ラス及ヒ主ニ還ササル者ハ官私ヲ分タス窃盜ニ準シテ論シ一等ヲ減シ並ニ物ヲ追シテ官私ニ還給シ主ナキハ官ニ入ル

若シ官私地内ニ於テ埋藏ノ物ヲ堀得隱シテ官ニ送ラサル者モ罪亦同

遺失物取扱規則

第一條　凡遺失物ト稱スルハ自ラ其遺失スルヿヲ覺ラス及ヒ其所在ノ明カナラサルモノヲ云フ故ニ若シ其物ヲ得ルニ臨テ物主其場ニ就テ其主タルヿヲ證明スルニ於テハ直ニ之ヲ返還シ遺失物ヲ以テ論スルヿヲ得ス

第二條　凡遺失ノ物ヲ得レハ五日内ニ其主ニ還シ其主分明ナラサレハ之ヲ官ニ送ルヘシ官之ヲ榜示シ一年内其主ナキトキハ之ヲ得者ニ給ス

第三條　凡遺失者ハ其遺失スル物品ノ模樣員數幷ニ遺失ノ日時場所等ヲ可成丈ケ詳細ニ記載シ速カニ官ニ屆出ヘシ但得者ヨリ其返還ヲ得ル時モ亦更ニ其旨ヲ屆出ヘシ

第四條　凡遺失ノ物ヲ得レハ之ヲ其主ニ還スト雖モ其費用ヲ償ハシムルヿヲ得且得者ニ報勞ノ爲メ其物價百分ノ五ヨリ少カラス二十ヨリ多カラサル謝金ヲ給スヘシ若シ物主得者ト其價格ヲ爭フトキハ官之ヲ評價人ニ托シテ其價ヲ定ム

第五條　凡遺失物ヲ得ル物品盜贓ニ係ルモノハ直ニ官ニ送ルヘシ官之ヲ其主ニ還シ止タ其費用ノミヲ償ハシム

第六條　凡官私ノ地内ニ於テ埋藏ノ物ヲ堀得ル者ハ並ニ官ニ送リ地主ト中分セシム但其主分明ナルモノ及ヒ盜贓ニ係ルモノハ此限ニ在ラス

第七條　凡遺失ノ物ヲ得ルニ若シ其物腐敗シ易クシテ其主分明ナラサルトキハ之ヲ官ニ送ルヘシ官之ヲ賣却シ其代價ヲ領置シ榜示スルヿ第二條ノ如シ

第八條　凡家畜ノ類他所ニ逸走スル者ハ之ヲ遺失物ト稱スルヲ得スト雖モ主ヨリ之ヲ官ニ報シ及ヒ得者ニ其費用ト報勞金ヲ給與スルヿ第三條第四條ニ同シ若シ他人ノ財產ヲ毀損スルトキハ律ニ照シテ處分ス

第九條　凡逸走スル畜類ヲ得タル者其主分明ナラサレハ之ヲ官ニ送ルヘシ如シ八日内其主ナケレハ官之ヲ公賣シテ得者ニ其費用ヲ償ヒ仍ホ代金ノ剩餘スルモノハ之ヲ官ニ領置シ榜示シテ處分スルヿ第二條ノ如シ

第十條　遺失物及畜類ノ官ニ係ルモノハ官ヨリ得者ニ其費用ト報勞金ヲ給スルヿ私物ニ異ナルヿナシ

第十一條　凡警察官吏タル者ハ所部ノ内外ヲ問ハス遺失物ヲ得レハ速ニ之ヲ官ニ送リ全ク其主ニ還附シ其主ナケレハ之ヲ官ニ沒ス

第十二條　凡一切應禁ノ物ヲ得レハ遺失及ヒ埋藏ヲ論セス並ニ官ニ沒ス

第十三條　凡公私債證書地券諸鑑札等ノ類ハ遺失物ヲ以テ論スルヲ得スト雖モ物主ハ得者ニ其費用ヲ償フヘシ

第十四條　凡遺失物及ヒ畜類ヲ得若シクハ埋藏物ヲ堀得テ官私ニ全ク送還セス或ハ物主ノ其主タルヿヲ證明スルニ冒認シテ返還セサル者ハ並ニ律ニ照シテ處分ス

○九番陸奥宗光曰　此修正案ハ五番九番十八番連署ナレハ余モ一應其主意ヲ陳述セン余輩ハ二讀會以來今回改正ノ議案ヲ否トシ度々陳述スレトモ遂ニ前會ニ於テ原案ヲ保護シテ修正スルニ決ス然ル上ハ余輩モ意見ヲ呈セントス抑新律綱領改定律例ハ甚混淆セル律書ニシテ就中得遺失物等ハ民法ニ屬スヘキ者ナリ併シ物ヲ拾テ隱ス者ハ刑法ニ屬スレトモ其遺失物ノ事ハ刑法ニ關セス別ニ取扱ノ條例ヲ設ケ律ニハ之ヲ隱匿シタル時處分スル法ヲ設ケテ可ナリ扱取扱條例ニハ拾フ者ト失フ者トノ間ニ關係ノヿヲ揭クレハ前刻八番ニモ陳述アル如ク一種單行ノモノトナシ漂流物規則ノ如クシテ可ナラン而シテ之ヲ單行スル以上ハ改定律例二百八十二、三、四、五、六條ハ刪除シテ可ナリ前キニ七番ニモ說アル如

ク遺失物ヲ拾フ時官物カ私物カハ辨シ難シ庫ニアル物ヲ取ルトハ違フ故官私ヲ別タス窃盗ニ準シ一等ヲ減シテ可ナリ是前項ノ改正ナリ而シテ後項モ改正シ罪亦同トシテ可ナラン一體坐贓ヲ以テ論シ一等ヲ減ストアレトモ坐贓例圖ヲ按スルニ五圓以下懲役十日トアレハ一等ヲ減スレハ無罪ナリ本邦ニテ遺失物抔ハ五圓以下ノ物多ケレハ坐贓ヲ以テ論スルハ不都合アラン窃盗ニ準シ一等ヲ減スレハ權衡宜シカラン拠條例ハ前ニモ言フ如ク單行ノ者ナリ一年間三年間ノ事ニ付說アレ𪜈余輩ノ一年トスルハ七番ノ說ト少ク違フ併シナカラ一年ト云ヘハ隨分長キ日數ナリ若シ一年ニテモ短カシト云ヘハ三年亦長シトセス三年ト云フハ佛國ニヨルトアレトモ必竟三年ト一年トハ長短ノ事ハカリニテ榜示ハ布告ト違ヒ日本橋等ヘ榜示スル事ナレハ餘リ長クナル時ハ在ル上ニ重ナリ却テ不都合アラン世上ニ物ヲ落ス者ヨリハ金ヲ貸ス者多シ身代限ノ榜示ハ六十日限ニテ此限内ニ届出サレハ配賦金ヲ得ス遺失物ノミ三年トスルニ及フヘカラス遺失主ハ其品位格好ヲヨク云テ官ヘ届クルヨシ又毎々陳述スル如ク物ヲ拾ヒ面倒ヲシテ一文ニモナラヌハ甚不都合ナリ成程折半ハ多過ナリト云ヘハ百分ノ五ヨリ少カラス二十ヨリ多カラストスレハ裁判官ノ處分モナシ易ク其他相對ニテハ皆ヤルトモヨシ凡ソ人間ハ卑劣ナ者多ケレハ金ノ類ナラス品物ニ因テ代價ヲ爭フヿアリ此ハ評價人ヲ雇ヒ見定ヲナシテヨシ又遺失物ノヿハ種々說アリ一寸落シタ一寸拾フ抔云ヘトモ余輩ハ之ヲ遺失物トハセス併シナカラ成文律ナケレハ人ノ誤解モアラン故遺失物ト云フ者ハ箇樣々々ト分ケテ置クヲ可トス余輩ハ遺失ト云フハ落シテ探スニ道ナキ者ニテ拾フ時ニ落シ主アルハ遺失物ニ非トス又遺失物ヲ得ルニ盗賍ニ係ルモノ改定律例一般ノ盗賊ト違ヘリ夫盗賍現在スレハ人ノ錢ヲ出シテ買得タル物ニテモ取上ルヿナリ況ヤ拾フ者ニ於テ固ヨリ取上ル筈ナリ併シ其費用アルモノハ償フヘシ又埋藏物ハ新律ニ折半トナシ西洋ニテモ折半ニシテアレハ道理ニ叶ハヌカ知ラサレトモ地主ト言フ面目ヲ以テ半ヲ得ルヿナレハ道理ノ有無ヲ措テ姑ク舊ニ依ルヲヨシトス又遺失ノ内食物等腐敗物ハ庫ヘ納レ置キ難キモノナレハ其主分ルハ直ニ返シ分ラサルハ官ニ送リ官ニテ賣拂ヒ一年榜示シテ主ナキハ拾者ニ給スル當然ナリ家畜ノヿハ陸軍士官馬ノ說頻ニ聞ユル故ココニ掲ケタリ遺失物トハ云ハサレトモ費用アレハ償ハシムヘシ或ハ牛馬逸走シテ物ヲ毀損シ人ヲ毀傷スルヿモアレハ本律本例ニテ處分スルヿ故此處ニ言フニ及ハス又盗賍ナトハ官私ノ別アリテヨケレトモ拾フ時ニハ官私ハ分ラヌモノ故私物ニ同ク官物ニ係ルモノハ官ヨリ其費用報勞金ヲ給スヘシ又警察官吏ハ其職掌ナレハ全ク其主ニ還シテ報勞金ヲヤルニ及ハス主ナキハ官ニ入レテヨシ禁制ノ品物ハ官ニ沒スルニテヨケレハ稍改正セシ迄ナリ公私債證書等ハ今日司法省ノ取扱ニテモ遺失物トセス遺失物ノ性質ヨリ云ヘハ固ヨリ違ヒアリ且實際此ノ如クナレハ此ニテ差支ヘナシ又遺失物等ヲ得テ官私ニ送還セヌ者ハ律ニ照シ處分スルニテ漫然ナラス本律ハ改正スルヿナラハ斯ク迄改正スルヲ當然ナリトス尚ホ不足ノ處ハ五番十八番ヨリ說明スルヿアラン

○四番佐野常民曰　陳述ノ大意ハ了解セリ併シ修正案トシテ今日ノ會議ニ附スヘキモノニ非ス原案、主意ハ前項ヲ改正シ二百八十二、三、四條ヲ删除スルモノニテ此修正ノ主意ト異ナリ此等ハ別段ニ意見ヲ提出スヘシ今日ノ議席ヲハ却ケテ可ナリ

○九番陸奥宗光曰　四番ノ論ハ他ニ渉ル故之ヲ論スルヲ欲セスト雖𪜈短簡ニ之ヲ述ヘン四番ニ於テハ修正ハトコ迄スルト云ノ意ナリヤ抑修正ノ規則ハ最初余其掛ニテ取調ヘタリ元來修正トハ英語「アメントメント」ト云字ニテ乃チ正院ニテ飜譯アリシ會議便法ニモ之ヲ譯シテ修正ノ二字トセリ此字ハ箇ハ是ヲ添ヘルヿ箇ハ是ヲ換ヘルヿ箇ハ云々ナリト云字ニテ會議便法ニモ法律字書ニ驚クヘキ「アメントメント」ヲスルヿアリトアリ然ルトハ修正ト云ヿハ四番ノ說ノ如ク狹キモノニ非ス元來余輩ハ原案ヲ否トスレトモ遂ニ修正ニ決スル以上ハ此ノ如ク修正セハ可ナリト五番九番十八番ノ意見ヲ以テ起草セシナリ其レニ別ニ意見ヲ提出スヘシトハ殆ント解スヘカラス

○四番佐野常民曰　修正ノ字義ハ左モアラン併シ修正トハ原案ニアル者ヲ修正スルナリ今原案ニナキ條ヲ設ケタルハ原案ヲ修正スルニ非ス

○五番河野敏鎌曰　此修正案ハ余輩連署ニテ提出ス然ルニ修正ノ字義ニ付四番ニ說アリ九番之ニ答ルモ尚ホ了解セサルカ如シ抑原案ハ得遺失物律ナリ乃チ得遺失物律ニ付テ修正ヲ加ルナリ四番ニハ修正ト云ヲトコ迄スル事トナスヤ他ノ戸婚律トカ何トカニ修正セハ原案ノ修正トナササルモ可ナリ遺失物律ニ就テ改竄增加轉置删除スルハ卽修正ノ規則ナリ

○九番陸奥宗光曰　四番一己ノ意見ヲ以テ余輩ノ修正案ヲ原案ノ修正ニ非スト決シ此議席ヲ却ルノ理ナシ固ヨリ各議官ノ決議ヲ取ル迄モナク余輩ノ修正ヲ修正ニ非ストスル議官ハ決議ノ時起立セサレハ可ナラン

○十八番山口尙芳曰　九番ノ說明ニテ修正ノ主意ハ盡セリ嚮ニ第二讀會以來折半法ハ實際上不都合又ハ道理ニ叶ハヌ等議論ノ末原案ヲ修正スルニ決セリ今四番ニ於テハ修正ノ體裁ニ違ヘリト云ト雖モ原案ヲ視レハ二百八十二、三、四條ヲ刪リテ其起草者ニハ萬全ナリトス修正起草者ハ一層萬全ナラシメント欲シテ取扱規則十餘條ヲ加ヘタル迄ニテ決テ修正ノ規則ニ背カス元來折半法ヲ改正セントスル起草者ノ意ハ實際上不都合アリト云フニアリ然ルニ原案ニハ遺失物種類ノ區別ナシ故ニ此ノ儘ニテハ實際行ハレ難キ所アラン元來改正セントスル意アリテ未タ其意ヲ盡サヌ所アリ今其意ヲ達セントスルニハ此丈ケノ修正ハセサルヲ得ス故ニ原案起草者ノ意ヲ汲ミ規則十餘條ヲ設ケ他日民法設立ノ一助トナサントスルナリ

○番外一番村田保曰　連署ノ修正案ヲ熟考スルニ此遺失物律ハ民刑混淆スルヲ不都合トスルナラン固ヨリ此不都合ナルヿハ前會委員ニ於テモ陳述セリ然ルニ此度ノ改正ハ折半法ノ不都合ヨリ起リシナリ此連署ノ修正ニハ折半ノヿモナク且改正ノ意ヲ擴充シ從前司法省ヨリ指令セシヿ共ヲ一々書集メテ規則トナシ其隱匿等ノヿヲ取分ケ刑法ニ入ルヿナレハ實際上差支ユル處モナク委員ニ於テ格別異論ナシ惟其坐贓ヲ窃盜ト改ルノ可否ハ此席ニテ決シ難シ坐贓ハ五圓以下懲役十日ニテ殆ト罰ナキ如シ窃盜ハ一圓以下懲役五十日一等減シテ四十日從前ヨリ罰重シ從前折半法ナレハ拾フ者ハ半分ヲ給セラル今折半ヲ廢スレハ拾フ者ハ得ル所ナキ故或ハ隱匿スル者多カラン然ル片ハ窃盜ニ準スル方宜カラン乎其餘取扱條例モアリテ細カニ揭ケタレハ從前込リタル事モ實際上至極都合ヨカラン此修正案ニ於テハ格別差支ル所ヲ見出ササレハ委員一己ノ考ニ於テハ之ヲ可トス

○七番松岡時敏曰　連署ノ修正案ヲ熟考シ又委員ノ說ヲ熟聽スルニ余ノ修正案ニ優ルヿ萬々ナリ官私ヲ分タヌヿハ余ト同意ナリ惟坐贓窃盜ノヿハ如何アラン少シク心ニ安カラスト雖モ其等ハ後トニテ意見ヲ演ヘテ妨ケス都テノ處善ク調ヒ甚感服スルヿ故速ニ余ノ修正案ヲ棄テ此修正案ニ同意ス

○五番河野敏鎌曰　七番ニ於テハ自己ノ說ヲ棄テ余輩連署ノ修正案ニ同意スト云是善ニ遷ルノヿト雖モ七番ノ說ハ今迄院議之ヲ可トシ此席ヨリ棄ルモノニ非ス然レハ他ニ何程ノ修正アルモ仍ホ七番ニ同意ノ議官アル知リ難シ故ニ兩修正ノ可否ハ院議ニ決スヘシ

○議長曰　勿論然リ扨四番ニ於テ連署ノ修正案ハ修正ノ規則ニ背クノ說アレトモ既ニ九番ノ說アル如ク犯則ト認ムルヿノハ同意ノ決ヲ取ル時起立セスシテヨシ抑修正案ノ可否ハ議長ニ於テ之ヲ論セスト雖モ其規則ニ背キタルヤ否ヲ判スルハ議長ノ職分ナリ乃チ修正條例ニ修正トハ議案ノ意義文章節目字句ヲ改竄增加分合轉置刪除スルヲ云トアレハ譬ヘハ遺失物ノ議案ニ違令ノヿヲ持チ來レハ關係ナシトスレトモ本案中一條ヲ修正セハ二條三條ニモ及フハ當然ナリ若シソレヲ禁スルヿナラハ都テ修正ヲ禁スルニ同シ議長ニ於テハ連署ノ修正案ヲ條例ニ適セリト認ム又七番ニ於テハ自己ノ修正案ヲ棄ル說アレトモ五番ノ說ノ如ク他ノ修正案ト比較シ來リ此議席ニ殘リタル者ナレハ會議ノ物トナササルヲ得ス仍テ兩案ノ決議ヲ取ラントス乃チ五番九番十八番ノ修正案ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

起立者十三人

○議長曰　多數ヲ以テ五番九番十八番ノ修正案ニ決ス乃チ規則ニ遵ヒ委員ヲ命シ本院ノ修正案トナシ而シテ其決議會ハ更ニ之ヲ開クヘシ

午後第二時三十五分閉場

得遺律物律議案

元老院會議筆記　明治九年三月三十一日

○第九號議案修正決議會

出席議官

二番	柳原前光
五番	河野敏鎌
六番	大給恒
七番	松岡時敏
八番	福羽美靜
九番	陸奥宗光
十一番	吉井友實
十二番	壬生基修
十三番	齋藤利行
十六番	黑田淸綱
十七番	由利公正
十八番	山口尙芳
二十番	秋月種樹

午前第十時二十五分開場

○議長曰　本日ハ第九號議案ノ修正決議會ヲ開ク各員例ニ從テ發言スヘシ

○書記官藤澤次謙　左ノ議案ヲ朗讀ス

修正案

新律綱領得遺失物律左ノ通リ改正シ改定律例第二百八十二三、四、五、六條ヲ刪除シ得遺失物取扱規則別冊ノ通定メラレ候事

凡遺失ノ物ヲ得隱匿シテ官ニ送ラス及ヒ主ニ還ササル者ハ官私ヲ分タス竊盜ニ準シテ論シ一等ヲ減シ並ニ物ヲ追シテ官私ニ還給シ主ナキハ官ニ入ル

若シ官私地内ニ於テ埋藏ノ物ヲ堀得隱シテ官ニ送ラサル者モ罪亦同

遺失物取扱規則

第一條　凡遺失物ト稱スルハ自ラ其遺失スルヿヲ覺ラス及ヒ其所在ノ明カナラサルモノヲ云フ故ニ若シ其物ヲ得ルニ臨テ物主其場ニ就テ其主タルヿヲ證明スルニ於テハ直ニ之ヲ返還シ遺失物ヲ以テ論スルヿヲ得ス

第二條　凡遺失ノ物ヲ得レハ五日内ニ其主ニ還シ其主分明ナラサレハ之ヲ官ニ送ルヘシ官之ヲ榜示シ一年内其主ナキトキハ之ヲ得者ニ給ス

第三條　凡遺失者ハ其遺失スル物品ノ模樣員數幷ニ遺失ノ日時場所等ヲ可成丈ケ詳細ニ記載シ速カニ官ニ屆出ヘシ但得者ヨリ其返還ヲ得ル時モ亦更ニ其旨ヲ屆出ヘシ

第四條　凡遺失ノ物ヲ得レハ之ヲ其主ニ還スト雖モ其費用ヲ償ハシムルヿヲ得且得者ニ報勞ノ爲メ其物價百分ノ五ヨリ少カラス二十ヨリ多カラサル謝金ヲ給スヘシ若シ物主得者ト其價格ヲ爭フトキハ官之ヲ評價人ニ托シテ其價ヲ定ム

第五條　凡遺失物ヲ得ル物品盜賍ニ係ルモノハ直ニ官ニ送ルヘシ官之ヲ其主ニ還シ止タ其費用ノミヲ償ハシム

第六條　凡官私ノ地内ニ於テ埋藏ノ物ヲ堀得ル者ハ並ニ官ニ送リ地主ト中分セシム但其主分明ナルモノ及ヒ盜賍ニ係ルモノハ此限ニ在ラス

第七條　凡遺失ノ物ヲ得ルニ若シ其物腐敗シ易クシテ其主分明ナラサルトキハ之ヲ官ニ送ルヘシ官之ヲ賣却シ其代價ヲ領置シ榜示スルヿ第二條ノ如シ

第八條　凡家畜ノ類他所ニ逸走スル者ハ之ヲ遺失物ト稱スルヲ得スト雖モ主ヨリ之ヲ官ニ報シ及ヒ得者ニ其費用ト報勞金ヲ給與スルヿ第三條第四條ニ同シ若シ他人ノ財產ヲ毀損スルトキハ律ニ照シテ處分ス

第九條　凡逸走スル畜類ヲ得タル者其主分明ナラサレハ之ヲ官ニ送ルヘシ八日内其主ナケレハ官之ヲ公賣シテ得者ニ其費用ヲ償ヒ仍ホ代金ノ剩餘スルモノハ之ヲ官ニ領置シ榜示シテ處分スルヿ第二條ノ如シ

第十條　遺失物及畜類ノ官ニ係ルモノハ官ヨリ得者ニ其費用ト報勞金ヲ給スルヿ私物ニ異ナルヿナシ

第十一條　凡警察官吏タル者ハ所部ノ内外ヲ問ハス遺失物ヲ得レハ速ニ之ヲ官ニ送リ全ク其主ニ還附シ其主ナケレハ之ヲ官ニ沒ス

第十二條　凡一切應禁ノ物ヲ得レハ遺失及ヒ埋藏ヲ論セス並ニ官ニ沒ス

第十三條　凡公私債證書地券諸鑑札等ノ類ハ遺失物ヲ以テ論スルヲ得スト雖モ物主ハ得者ニ其費用ヲ償フヘシ

第十四條　凡遺失物及ヒ畜類ヲ得若クハ埋藏物ヲ堀得テ官私ニ全ク送還セス或ハ物主ノ其主タルヿヲ證明スルニ冒認シテ返還セサル者ハ並ニ律ニ照シテ處分ス

○七番松岡時敏曰　本案ハ至當ノ修正ニシテ聊モ異議ナシ

○五番河野敏鎌曰　此修正案ハ最初余九番十八番ノ議官ト連署ニテ提出シ前會決議ノ節委員ヲ設ケラレ更ニ修正ヲ加ヘラレタルニ初提出セシ主意ニ於テ分毫モ相違ハス字句潤色ヲ得テ至極完全ナリ

○六番大給恒曰　此修正案ニ付テハ余モ聊異論ナシ

○九番鍋島直奥宗光曰　此修正案ハ余輩提出シ前會各議官ノ同意ヲ得テ決議セシ者ニテ其後委員ノ修正ヲ經字句モ亦穩當ヲ覺フ但布告案中ニ得遺失物取扱トアル得ノ字ハ剩字ナレハ除テ可ナリ何トナレハ其取扱規則ノ題目ニ直ニ遺失物トアレハナリ無論印刷ノ誤ナラン各議官ニ於テ此意ヲ領セハ余ハ別ニ論スヘキ所ナシ

○議長曰　本案ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

各員悉ク起立ス

○議長曰　全會一致本案ヲ可トスルヲ以テ例ニ從テ上奏スヘシ

午前第十時五十分閉場

註　右は明治九年二月廿九日内閣より下附三月卅一日の會議に於て原案を修正し遺失物取扱規則を設くべきに決し同日上奏、遺失物律改正は四月十九日太政官第五十五號、遺失物取扱規則は太政官第五十六號を以て布告された。

〔參考〕1司法省ヘ下問　八年五月三十一日

牛馬風逸ノ節之レヲ繫留スルモノアルトキハ都テ得遺失物條例ニ照準處分シ來リ候趣ニ候ヘトモ物品動物ノ區分ナク概シテ評價折半候ハ允當ノ處分ニ無之候條其省意見審議ノ上至急可申出候也

2司法省伺　八年十月四日

是迄逸牛馬遺失物品ト同樣ノ處分ニ有之候ヘトモ先般別紙御下問ノ通動物物品ノ區分モ有之候ニ付以來ハ動物ハ勿論車船等モ拾得ルモノヘ適宜ニ謝禮イタサセ候儀允當ト存候付テハ改正處分ノ儀諸向ヘ御布達ニ相成候哉又ハ當省ニテ取計ヒ可申哉深テ相伺候也

3法制局議案　八年十一月十九日

別紙陸軍省伺放逸馬匹引渡方ノ儀ニ付司法省答議ノ趣審案候處元來一半ヲ得ルモノニ與フル所以ノ根理詳カナラス候ヘトモ清律ニハ賞ニ充ツト有之候ヘハ皇律モ亦此意ニ可有之候所畜類ヲ得ルモノニ此法ヲ用ヒサルトキハ則チ其モノニカキリ通常ノ賞ヲ與ヘサルノ理ニ付本律ヲ改メサル以上ハ普通物品ト同樣處分候テ當然ト存候然レトモ遺失物ヲ得テ其主ニ還付スルハ人民相互ノ義務ニ付英佛等ニテハ絶テ右樣ノ儀無之因テハ到底內國人ノミニ行フヘクシテ居留外國人ニハ行フヘカラサルモノニ有之加之本年第六十六號御布告ト權衡相當イタサス就中改定律例第二百八十二條ハ本年ノ御布告ト矛盾ノ廉有之候ニ付一應司法省ヘ御下問ノ上左ノ通御布告相成可然畢竟放馬ノ葛藤ハ物品ノ半ヲ得ルモノニ與フルノ律文ヨリ起リ候事故此律ヲ御改正有之候ヘハ右等ノ葛藤ハ自カラ消盡イタスヘク候因テ參照書類相添ヘ仰高裁候也

4司法省ヘ下問　八年十一月二十八日

得遺失物律別紙ノ通改正可致候條意見早々可申出候也

5布告案

改定律例第二百八十二條第二百八十三條第二百八十四條左ノ通改正候條此旨布告候事

第二百八十二條

凡遺失ノ物ヲ得ルニ私物ハ一半ヲ其主ニ給シ一半ヲ得ル人ニ給ス如シ三十日內ニ其主ナケレハ全ク給スルノ律ヲ改メ私物ハソノ主ニ給ス如シ一年內ニ其主ナケレハ得ル人ニ全ク給ス

第二百八十三條

凡遺失物ヲ得レハ必ス官ニ送ルヘシトイヘトモ失主明白ナルモノハ直ニ給還スルヿヲ聽ス

第二百八十四條

凡水中沈沒若クハ漂流ノ物品溝渠等ニ於テ得ルモノハ本律ニ依ル其河海等ニ於テ得ルモノ官物ニ係ルハ亦本律ニ依リ私物ニ係ルハ本年第六十六號布告ニ依テ處斷ス

6司法省答議　九年二月三日

得遺失物律御改正ニ付御下問ニ相成拜承イタシ候右ハ折半法御改正ノ儀ハ更ニ異存無之併シ漂流沈沒ノ物河海溝渠ノ區別ヲ立テ又河海ニ官私ノ別ヲ立ツルハ少シク煩雜ナル樣相覺候是等ノ儀ハ從前ノ通リ刑律中ニ揭載セス法律辨明ニ讓リ實際上ニ於テ昨年第六十六號公布ニ依ルヘキモノハ公布ニ依テ處シ其他ハ總テ得遺失物律ニ依リ處分スヘキ樣御議定相成可然ト被存候依テ草案幷御布告案取調差出候猶御公議相成度此段御答申上候也

7布告案〔下文參照〕

8法制局議案　九年二月二十二日

陸軍省伺失馬渡方ノ儀審案仕候處新律綱領遺失物律ハ總テ折半法ヲ用フレハ失馬トイヘトモ折半ヲ用ユルヿニ有之實際上不都合尠カラス且英佛ニ於テ遺失物ハ物主ニ還送セシムル法ニ有之旁遺失物律御改正ノ儀司法省ニ打合候處異存無之候間則別紙ノ如ク御改正相成元老院議定ニ附セラレ可然哉仰高裁候也

9元老院ヘ下議　九年二月二十九日

得遺失物律中前項ヲ改正シ改定律例第二百八十二條第二百八十三條第二百八十四條ヲ刪除スルノ儀右其院議定為附候事

得遺失物律中前項左ノ通改正シ改定律例第二百八十二條第二百八十三條第二百八十四條ヲ刪除ス

得遺失物律（前項）

得遺失物律議案

凡遺失ノ物ヲ得レハ五日內ニ其主ニ還シ其主分明ナラサレハ官ニ送ルヘシ官之ヲ榜示シ一年內ニ其主ナケレハ得ル人ニ全ク給ス若シ隱匿シテ主ニ還サス及ヒ官ニ送ラサル者ハ官物ハ坐贓ヲ以テ論シ私物ハ一等ヲ減シ幷ニ物ヲ追シテ官私ニ還給シ主ナキハ官ニ入ル

10元老院上奏　九年三月三十一日

去ル二月二十九日下付ノ得遺失物律中前項ヲ改正シ改定律例第二百八十二條第二百八十三條第二百八十四條ヲ刪除スルノ議今三月三十一日全會一致シテ本案ヲ修正シ遺失物取扱規則ヲ設クヘキニ決ス仍テ別紙修正案及ヒ院議摘要ヲ併セ謹テ之ヲ上奏ス

院議左ニ陳ス

一新律綱領改定律例ハ其源之ヲ明清ニ發スル者ナレハ民法ト刑法トノ別ヲ詳ニセス得遺失物ノ如キ其一ナリ抑遺失物ノ處分ハ民法ニ屬スヘキ者ニシテ刑法ニ屬スヘキモノニ非ス其之ヲ得ル者隱匿シテ主ニ還サス及ヒ官ニ送ラサルニ及テ初テ刑法ノ管理ニ歸ス故ニ刑法ノ部內ヲ脫シテ民法ノ部內ニ加ヘサルヲ得ス然レトモ兩書ノ民法ヲ混スル者特ニ此ノミニ非サレハ今遽ニ分別スルヿヲ要セサルニ似タリトイヘトモ既ニ意ヲ改正ニ傾クルトキハ一層其道ヲ進メ律ハ以テ其隱匿スルモノヲ處斷スルノ法ヲ示シ遺失物ノ處分ハ漂流物取扱ノ規則等ニ倣ヒ別ニ其規則ヲ設テ之ヲ單行セシメ他日民法ノ備ハルニ及テ

其一分ニ供スルヲ可ナリトス

一原案官分ハ坐贓ヲ以テ論シ私物ハ一等ヲ減ス然レトモ遺失ノ物タル未タ全ク所有主ノ權ヲ脫セシモノニアラス然則之ヲ得ルモノ其主ニ還サス及ヒ官ニ送ラサルトキハ竊盜ヲ以テ之ヲ待ツヘキモノニ似タリ然レトモ其物タル倉庫ニアルニ非ス詐欺シテ之ヲ取ルニ非サレハ亦全ク竊盜ヲ以テ之ヲ待ツヲ得サルナリ且坐贓ヲ以テ之ヲ論シ一等ヲ減スルトキハ若シ其物五圓以下ナルトキハ罪ノ論スヘキナキニ至ラン故ニ竊盜ニ準シテ一等ヲ減スルヲ可ナリトス此レ一ハ以テ所有ノ權ヲ護スルニ足リ一ハ以テ全ク竊盜ヲ以テ待タサルノ意ヲ示スニ足ラン

又官私ヲ分タサル所以ノモノハ之ヲ得ルモノハ概チ初メヨリ官物タルト私物タルトヲ辨セス其官ニ送ルニ及テ始テ覺知スルモノナリ得ルモノ、情ニ基テ之ヲ觀ルトキハ官私ノ別モ之レヲ立テサル可ナリトス

一遺失ノ物タル盜贓或ハ逸走セル家畜等ヲ謂フニアラス從來官私其別ヲ詳ニセサルヲ以テ遂ニ這回ノ改正ヲ要スル源因ノ一部ニ加フルニ至ル故ニ遺失物ト稱スヘキ物ト遺失物ト稱スヘカラサルモノトヲ區別シ仍ホ其處分ヲ揭クルヲ可ナリトス且記名ノ公債證書及ヒ地券證ノコトキ從來遺失物ヲ以テ之ヲ論セス商船生糸等ノ鑑札ノ如キモ之ニ類似スルモノナレハ遺失物ヲ以テ論セサルヲ可ナリトス然レトモ之ヲ得ル者ニ對シテハ亦相當ノ費用ヲ償フヘキ者トス

一從來行フ所ノ折半法ハ道理ニ根シテ論スルトキハ未タ全ク良法トナスヘカラサルニ似タリ故ニ之ヲ廢スルヲ以テ當然トストイヘトモ然レトモ原案ハ厚ク遺失セシモノヲ待テ薄ク之ヲ得ル者ヲ待ツト謂フヘシ如何トナレハ之ヲ得ル者ノ其主ニ還シ及ヒ官ニ送ルニ於ル或ハ多少ノ財用ヲ費シ或ハ多少ノ心力ヲ勞シ其物ニ因リ一擧手一投足ノ勞ノミニ止マサルモノアリ然則其費ヲ償ヒ其費ニ報ユ當ニ務ムヘキコトタリ故ニ折半ノ法ハ之ヲ廢ストイヘトモ費ヲ償ヒ勞ニ報ユルノ處分ハ之ヲ設クルヲ可ナリトス

右院議ノ要領トス其節目ノ如キハ該時ノ委員三等法制官村田保之ヲ悉セリ依テ之ヲ略ス

11 法制局議案　九年四月〔日闕〕

別紙得遺失物律改正幷改定律例第二百八十二三四條ヲ刪除スルノ儀元老院ニ於テ本案ヲ修正シ更ニ遺失物取扱規則ヲ議定上申相成候ニ付熟考候處不都合ノ廉モ無之ニ付御裁可相成可然哉御布告幷陸軍省ヘ御指令案調査案相添上申候也

〔以上、法規分類大全一・刑法門一ノ二四八〕

第十號議案

改定律例名例律第三十八條改正ノ儀

第十一號議案

徵兵令第六章第十二條中成丁簿ヲ國民軍名簿ト改正ノ儀

第十二號議案

代人規則第三條改正ノ儀

元老院會議筆記　明治九年三月八日

○第十號　第十一號　第十二號議案檢視會

改定律例、徵兵令中成丁簿、代人規則等改正案

出席議官

二番　三番　長谷信篤
四番　佐野常民
五番　河野敏鎌
七番　松岡時敏
九番　陸奥宗光
十二番　壬生基修
十三番　齋藤利行
十六番　黑田清綱
十七番　由利公正
十八番　山口尙芳
十九番　有栖川宮
二十番　秋月種樹

午前第十時十分開場

○議長曰　本日ハ先ツ第十號第十一號第十二號議案ヲ檢視シ次ニ新聞紙條例追加意見書ノ討論ニ及フヘシ

○書記官藤澤次謙　左ノ議案ヲ朗讀ス

改定律例名例律第三十八條左ノ通改正ス

第三十八條　凡侍養子孫ト稱スルハ十六以上ノ者ヲ謂フ

若シ家ニ十六以上ノ男ナシト雖モ妻若クハ女年十六以上ノ者アレハ留養スルコーヲ聽サス

○議長曰　各議官ノ發言ナキヲ以テ異議ナシト認ム

○書記官藤澤次謙　左ノ議案ヲ朗讀ス

徵兵令第六章第十二條中ニ掲載有之成丁簿ヲ國民軍名簿ト改正ス

○議長曰　各議官ノ發言ナキヲ以テ異議ナシト認ム

○書記官藤澤次謙　左ノ議案ヲ朗讀ス

明治六年第二百十五號布告代人規則第三條ヲ左ノ通改正ス

第三條　凡ソ代人ハ心術正實ニシテ滿二十歲以上ノ者ヲ撰ムヘシ

○議長曰　共ニ各議官ノ發言ナキヲ以テ檢視會ハ既ニ畢レリ新聞紙條例追加意見書ヲ討論スヘシ

〔原文註〕新聞紙條例追加意見書筆記ハ別冊ニ載ス

〔註〕右三案とも明治九年一月十七日上奏せる元老院意見書を採用せられ更に其布告案を檢視せしむる爲明治九年三月二日內閣より下附せられたものであるが同月八日檢視を經過し、明治九年四月一日第十號議案「改定律例名例律第三十八條改正の儀」は太政官第四十二號を以て。第十一號議案「徵兵令第六章第十二條中改正の儀」は同日太政官第四十三號を以て。又第十二號議案「代人規則第三條改正の儀」は同日太政官第四十四號を以て各々布告せられた。〔第二號議案參照〕

元老院章程第七條　元老院ハ新法ヲ制定シ若クハ舊法ヲ廢止改正スヘキノ意見書ヲ上奏スルヿヲ得其批可スル者ハ內閣ニ於テ案ヲ成ス後再ヒ本院ニ下シテ議定若クハ檢視セシム

第十三號議案

新律綱領改定律例中官吏公罪ニ係ルモノヲ廢スルノ儀

右ハ檢視ヲ經スシテ之ヲ奉還ス故ニ筆記ヲ欠ク

第十四號議案

明治七年一月第十四號達

司法警察規則廢止案

第十五號議案

糺問判事職務假規則案並司法警察假規則

元老院會議筆記　明治九年三月二十七日

○第十四號及第十五號議案檢視會

議長陸奥宗光代理

出席議官

二番　柳原前光
五番　河野敏鎌
十番　佐々木高行
十一番　吉井友實
十二番　壬生基修
十三番　齋藤利行
十七番　由利公正
十八番　山口尙芳
十九番　有栖川宮
二十番　秋月種樹

午前第十時三十分開場

○議長曰　本日ハ第十四號第十五號議案檢視會ヲ開クニ付而議按ヲ連帶シテ朗讀セシメントス各員規則ニ從ヒ檢視スヘシ

○書記官戶田秋成　左ノ規則ヲ朗讀ス

明治七年一月第十四號達　司法警察規則ヲ廢ス

司法警察假規則〔註　以下十五號議案〕

第一章　總則

第一條　凡ソ司法警察ノ爲メニ止ムヲ得サル處分ニ於テハ人ノ身體ヲ勾留シ居宅ニ進入シ物料ヲ押ヘ書簡ヲ開クヿヲ得而メ司法警察ノ處分ヲ行フハ司法警察官タル者若クハ司法警察官ヨリ委任ヲ受ケタル者ニ限ルヘシ

第二條　司法警察ノ處分ハ罪犯ヲ探索檢視メ事證ヲ取リ各

裁判所ニ付スルニ在リ

第三條　司法卿ノ命ヲ受ケ司法警察ノ事ヲ行フノ官左ノ如シ

第一　檢事及檢事補

第二　地方警部及警部補　地方ノ便宜ニ依リ區戸長ヲシテ警部ノ事ヲ兼シムルヿヲ得

第二ノ警察官吏ハ其ノ違警犯ニ於テハ司法警察ノ全權ヲ有スルヲ除クノ外其他ノ罪犯ニ於テハ檢事補助ト心得檢事檢視ノ職務ヲ攝行スルヿヲ得

但シ檢事派出ナキノ縣ハ地方官ノ命ヲ受クヘシ

東京府警視長官及地方長官ハ急遽ノ時ニ於テハ直チニ司法警察ノ事ヲ專行シ而後檢事ニ報告スルヿヲ得

但シ檢事派出ナキノ府縣ハ地方官ノ內當ニ檢事ノ事ヲ行フ

第二章　檢事司法警察職務

第四條　檢事ハ違警犯ヲ除クノ外總テ罪犯ニ付テノ告訴被害人自ラ訴フルモノ告發他人ヨリ訴フルモノヲ受取リ及自ラ現行犯ヲ檢視シテ檢視明細書ヲ作リ若クハ他ノ司法警察官ノ檢視明細書ヲ受取リ之ヲ相當ノ裁判所ニ訴ヘ裁判ヲ求ム可シ

第五條　犯罪ノ地ノ檢事又ハ犯人住所及寄留地ノ檢事又ハ犯人ヲ見出シタル地ノ檢事ハ並ニ前條ノ職務ヲ行フヿヲ得

第六條　告訴告發ノ事件法律ニ觸レサル者ハ檢事告諭シテ之ヲ退クルヿヲ得

註　右第六條は五番議官發議の如く削除されたので第七條を第六條として以下順次繰上げ發令された。

第七條　重罪犯若クハ犯情繁雜ナル者ハ檢事ヨリ糺問判事ニ付シテ下調ヲ請フ下調濟ノ後檢事更ニ證憑文書ヲ受取リ裁判所ニ訴ヘ裁判ヲ求ムヘシ

第八條　糺問判事ノ下調ニ於テ檢事不服ナル片ハ再ヒ他ノ糺問判事ニ下調ヲ求メ或ハ直チニ判事ニ付シ裁判ヲ求ムルヿヲ得

第三章　警部司法警察職務

第九條　現行罪犯ニ於テハ警部ノ先ツ事犯アルヿヲ聞知タル者直チニ犯所ニ至リ檢事ノ行フヘキ一切ノ事ヲ行フヘシ

第十條　若シ一事件ニ付檢事ト警部ト同時ニ檢視ノ爲メ犯所ニ至リタル時ハ警部ハ之ヲ檢事ニ讓ルヘシ

但シ檢事ハ警部ヲシテ引續キ檢視ヲナサシムルヿヲ得

第十一條　檢事及糺問判事ヨリ警部ニ委任シ自己職權內ノ一部ヲ行ハシムル時ハ警部ハ之ヲ率行スヘシ

……（●は朱にて刪除　○は朱にて記入　▲は藍にて刪除　△は藍にて記入　◎は藍に朱文字を刪除）……

第十二條　警部ハ受取ル所ノ告訴告發ノ文書若クハ現行犯ノ檢視明細書及ヒ其ノ他ノ書類ヲ速ニ檢事ニ送リ檢事ノ處分ニ供フヘシ故無ク淹滯勾留スルヿヲ得ス

第四章　司法警察官現行犯處分

第十三條　現ニ行フ罪犯及ヒ現ニ行ヒ終リタル罪犯ヲ現行犯ト云衆人指名シテ其犯主タル事ヲ哄傳シ若クハ兇器文書其他罪犯ノ證憑タルヘキ物ヲ携帶シ犯人ト思察スヘキ片ハ犯罪ヨリ時日ヲ過キタリト云ヒ亦現行犯ニ准ス

第十四條　現行ノ重犯アリテ巡査見知シタル片ハ急飛ヲ以テ司法警察官ニ報シ犯人ヲ追拿シ屍體若クハ兇器物具一切ノ證跡ヲ看護シ原態ヲ保存セシメ他人ノ擾動ヲ防キ見證人ノ離散ヲ制シテ以テ司法警察官ノ來着ヲ待チ司法警察官ハ其最先ニ報知ヲ得タル者卽刻犯所ニ臨ミ檢視處分ヲ行フヘシ

但シ司法警察官ノ所在遠隔ナル者ハ巡査直チニ檢視處分ヲ行ヒ司法警察官ニ報スル事ヲ得其報ヲ得タル司法警察官疾病故障アルトキハ巡査ニ委任シテ處分ヲ終ヘシムルヿヲ得

第十五條　司法警察官ハ犯罪ノ情狀ト犯所ノ模樣ヲ視察シ行兇被兇見證人ヲ問供シ證憑物件ヲ押ヘ而シテ檢視明細書ヲ作ル之ヲ檢視處分トス

第十六條　司法警察官ハ其場ニ居合セタル諸人ヲシテ檢視終ル迄ノ間事犯ノ場所ヲ出去ル事ヲ禁シ若シ背ク者アレハ直チニ勾留シテ判事ニ付スル事ヲ得

第十七條　司法警察官ハ巡査被兇人見證人近隣人及事犯ノ前後ノ事情ヲ知リタル者等一切關係ノ人ヲ喚ヒ其供述ヲ聞キ各人ノ口書ヲ作リ之ニ花押若クハ實印セシム

但シ花押スル事能ハス又實印ナキ者ハ拇印セシム

第十八條　現行犯ノ證跡アルニ於テハ被告人ヲ拿捕スル事ヲ得而シテ直チニ之ヲ糺問シテ口書ヲ作リ被告人ヲシ花押若クハ實印若クハ拇印セシム被告人逃走シタル片ハ司法警察官直チニ巡査ニ命シテ追捕セシム

第十九條　司法警察官ハ差シ押ヘタル兇器贓物文書其他犯罪ノ證憑タルヘキ物件ヲ被告人ニ示シ其答辭ヲ取リ幷セテ口書ニ記入スヘシ

第二十條　差シ押ヘタル物件ハ明細書ニ記入シ其物件ヲ封印シ若クハ器物ニ納レテ之ヲ封印スヘシ

第二十一條　司法警察官ハ技術ノ人醫師分析師建築工（彫）刻工ノ類ヲシテ司法警察官ノ面前ニ於テ檢察セシメ證書ヲ作リ花押若クハ實印セシムル事ヲ得二人以上俱ニ驗察シタル片ハ隔別

ニ證書ヲ作ルヘシ

第二十二條　司法警察官檢視ノ處分已ニ終リ罪證ヲ得ル時ハ被告人ヲ勾留シ若クハ保管シ其明細書及口書證人口書及證憑文書物件ヲ幷セテ速ニ判事ニ送リ裁判ヲ求ムヘシ

第五章　司法警察官非現行處分

第二十三條　現行犯ヲ除クノ外罪犯ヲ告訴若クハ告發スル者アリ及ヒ警部ヨリ告訴告發ノ文書ヲ送付スルアレハ檢事書類ヲ檢シ又一應問訊シ其法律ニ觸ルモノト思察スルトキハ其文書ヲ具ヘテ糺問判事ニ送付スヘシ

但シ時宜ニ依リ第十八條第二十一條第二十二條ノ規則ヲ通シテ用フルヿヲ得

糺問判事職務假規則

第一章　職員

第一條　各府縣裁判所ニ判事若クハ判事補ノ中ヨリ糺問掛ヲ置ク之ヲ糺問判事トス

但シ大審院上等裁判所及ヒ裁判所設置ナキノ縣ハ臨時ノ便宜ニ從フ

第二條　糺問判事糺問ノ事務ナキトキハ通常裁判ノ事務ヲ行フヿヲ得

第二章　現行犯

第三條　現行犯ニ於テ糺問判事直チニ告ヲ承ルトキハ檢事ヲ待タス自ラ檢事ノ爲スヘキ處分ヲ行ヒ而シテ後之ヲ檢事ニ付スヘシ

第三章　糺問

第四條　檢事ヨリ送ル所ノ罪犯ノ文書証憑ヲ受取リタルトキハ糺問判事ハ必ス速ニ糺問ヲ行フヘシ

第五條　糺問ハ糺問判事獨リ屬官ヲ引キ之ヲ行ヒ逐節口書ヲ錄シ口書成テ之ヲ讀聞カセ本犯ヲ〆花押若クハ實印若クハ拇印セシム本犯若シ肯ンセサルトキハ其由ヲ記ス而〆糺問判事紙尾ニ署名捺印スヘシ

第六條　糺問判事檢視ノ爲メニ罪犯ノ場ニ臨ムトキハ檢事ト屬官一人トヲ同伴スヘシ

但シ現行犯ヲ檢視スルハ此例ニ非ス

第七條　糺問判事ハ罪犯ノ証憑ヲ得ル爲メニ犯人ノ家宅ヲ臨檢シ及ヒ窩藏ノ疑アルトキハ其家ヲ臨檢シテ賍証ヲ差シ押フルヿヲ得又警察官ニ委任シテ臨檢セシムルヿヲ得

第八條　若シ罪犯窩藏ノ家已レノ管外ニ在ルトキハ其地ノ糺問判事ニ通牒シテ前條ノ處分ヲ求ムルヿヲ得

第九條　糺問判事ハ輕重罪ヲ論セス被告人ヲ呼出シ若クハ勾引セシメ又勾留スルヿヲ得

但勾引ハ巡査若クハ等外吏ヲシテ之ヲ行ハシム

第十條　糺問判事ハ糺問ノ間時宜ニ依リ假ニ勾留ヲ解クヿヲ得

但シ保管人ヲシテ保管誓約書ヲ出サシムルヿヲ要ス

第十一條　若シ被告人已レノ管外ニ在ルトキハ其地ノ糺問判事ニ通牒シ糺問ヲ求ムルヿヲ得

第四章　證人問供

第十二條　糺問判事ハ罪犯ノ証人ヲ呼出スヿヲ得若シ証人已レノ管外ニ在ルトキハ第十一條ノ規則ニ從フ

第十三條　証人ハ各人隔別ニ問訊シテ逐節口書ヲ錄シ口書成テ之ヲ讀聞カセ証人甘結スレハ花押若クハ實印若クハ拇印セシム而〆糺問判事紙尾ニ署名捺印スヘシ

第十四條　口書ニハ字句ヲ改竄塗抹シ及ヒ追書スルヿヲ許サス若シ挿入塗抹追書スル者ハ必ス本証人ノ認印ヲ要スヘシ

第十五條　証人若シ疾病事故アリテ呼出ニ從ヒ出頭スルヿ能ハサルニ於テハ屬官ヲ引キ其家ニ臨ミ問訊シ或ハ警察官ニ委任シテ問訊セシムルヿヲ得

第十六條　証人ノ疾病事故其實ニ非ルヿヲ發見スルトキハ引致シテ問訊シ病故不實ノ件ハ之ヲ檢事ニ付スヘシ

第五章　糺問濟

第十七條　糺問判事糺問終リ被告人違警罪ニ止マリ或ハ無罪ナリト見込ムトキハ檢事ニ通知シ而後之ヲ警察官ニ移シ或ハ之ヲ放免スヘシ

第十八條　被告人輕重罪アリト見込ムトキハ卽チ証憑文書ヲ具シテ檢事ニ還付スヘシ

但シ被告人輕罪ニ止マルト見込ムトキハ第十條ニ照シテ處分スルヿヲ得

○五番河野敏鎌曰　司法警察規則第六條ハ不明トス何ナレハ本條ニ告訴告發ノ事件法律ニ觸レサル者ハ檢事告諭シテ之ヲ退クルヲ得トアリ抑檢事ノ職ハ既ニ原告人トナリ裁判ヲ求ムルノ職ナリ今本條ノ意ヲ推セハ法律ニ觸(レ)サル者モ採上ルノ職アリトナルヘシ法ニ觸レサル者ハ取上ル理ナシ然レトモ如此聞ユル者ハ本條末行ノ得ノ字義兩樣ニ聞ユル故ナリ其所以ハ糺問判事規則第十二條ニ糺問判事ハ罪犯ノ証人ヲ呼出ス事ヲ得若シ証人已レノ管外ニ在ルトキハ第十一條ノ規則ニ從フトアリ乃チ第十一條ヲ檢スルニ若シ被告人已レノ管外ニ在ルトキハ其地ノ糺問判事ニ通牒シテ糺問ヲ求ムル事ヲ得トアリ此意ヲ推ストキハ犯人東京ニ在リ證人横濱ニ在

レハ神奈川縣廳ヘ通牒シテ糺問ヲ得ルヿニテ証人ハ犯罪ノ當廳ヘ呼出ハ常例ナリト雖モ神奈川縣廳ヘ懸合フ事モ得ラルヽノ謂ナリ此ニ因テ觀レハ得ノ字ハ如此シテモヨシト云事ナラン此文例ヲ以テ立チ返リ第六條ヲ見ル時ハ退ケテモ宜イトナル然レハ此得ノ字義何レニアルヤ十二條ノ得トスレハ法ニ觸(レ)サル者モ取揚ルトナルヘシ併シ此ノ如キ理ハアル可ラス若シ十二條ト同例ノ文ナラス法律ニ觸(レ)サル者ハ退クヘシトスル意ナラハ當然ノ事ニテ猶ホ裁判官ニ無罪ノ者ハ裁判セスシテヨシト云フ如シ全ク餘計ノ事ナリ章程等ヘハ餘計ノ事ヲ書載スレハ輕々看過シ難ク却テ疑惑ヲ生スヘシ故ニ余ハ第六條ハ完然ナラサル者トス

○議長曰　他ニ發言ナキ故五番發議ノ決ヲ取ラントス五番ノ說ニ同意ノ議官ハ起立スヘシ

起立者六人

○議長曰　多數ナルヲ以テ第六條ハ不明ニ決ス

午前第十一時十分閉場

■　右第十四號議案は明治九年三月十三日內閣より下附三月廿七日檢視を經過す四月八日上奏四月廿日太政官達第三十九號を以て。

明治七年一月第十四號達司法警察規則廢シ候條此旨相達候事

但同年九月第百貳拾八號達司法警察規則附錄ハ廢セス

と但書を付して發令された。

又第十五號議案は明治九年三月十二日內閣より下附三月廿七日會議に於て司法警察假規則第六條不明なるを以て改正を求むへきに決し其他は異議する所なし因て不明の理由を具へて太政大臣に通牒す四月七日該條刪除すへき旨を御裁可の通知を得四月八日上奏四月廿四日糺問判事職務假規則は司法省第四十七號を以て又司法警察假規則は司法省第四十八號を以て達せられた。

參考　沿革略記

明治二年九月彈正臺彈例ヲ定ム。同年十一月刑部省ニ於テ逮部司定則及規則ヲ定ム。三年五月彈正臺彈例ヲ更定ス。同年同月獄廷規則ヲ定ム。同年九月府縣ニ令シテ流以下ノ罪犯ヲ專斷スルヲ許シ死刑ノミ刑部省ニ伺出サシム。四年四月從來刑部省彈正臺ニ於テ取扱掛ノ事務一切司法省ニ引受取計フヘキ旨ヲ達ス六年二月司法省第二十二號ヲ以テ裁判所斷獄例ヲ編成シ之ヲ布達ス。六年六月司法省達ヲ以テ假ニ檢事職制ヲ定ム。七年一月第十四號達ヲ以テ檢事職制章程司法警察規則ヲ定ム。同年十月第百三十二號達ヲ以テ司法警察事務ヲ當分使府縣ヘ委任ス。八年五月達ヲ以テ檢事職制章程ヲ更定ス。同年同月第九十一號布告ヲ以テ大審院諸裁判所職制章程ヲ定ム。同年同月第九十三號布告ヲ以テ刑事上告手續ヲ定ム。同年六月第百三號布告ヲ以テ裁判所事務心得ヲ定ム。九年四月第三十九號達ヲ以テ七年第十四號達司法警察規則ヲ廢ス。同年同月司法省第四十七號達ヲ以テ糺問判事職務假規則ヲ定ム。同年同月司法省第四十八號達ヲ以テ司法警察假規則ヲ設ク。　〔法規提要　中卷　二六〇〕

第十六號議案

制規アル服着用ノ外帶刀禁止案

元老院會議筆記　明治九年三月二十三日

○第十六號議案檢視會

議長　陸奥宗光代理

出席議官

一番　津田出　　二番　柳原前光
四番　佐野常民　　五番　河野敏鎌
六番　大給恒　　七番　松岡時敏
八番　福羽美靜　　十番　佐々木高行
十一番　吉井友實　　十二番　壬生基修
十三番　齋藤利行　　十六番　黑田清綱
十八番　山口尙芳　　十九番　有栖川宮
二十番　秋月種樹

午前第十時十五分開場

○議長曰　本日ハ第十六號議案檢視會ヲ開クニ付各議官例ニ從テ發言スヘシ

○書記官　藤澤次謙　左ノ一條ヲ朗讀ス

布告案

自今大禮服着用并ニ軍人及ヒ警察官吏等制規アル服着用ノ節ヲ除クノ外帶刀被禁候條此旨布告候事

但違犯ノ者ハ其刀可取上事

○五番　河野敏鎌曰　本案ハ完然タル檢視案ニシテ都テ不備不明トスル所ナシ

○六番　大給恒曰　五番ニ同意ナリ

○議長曰　本案ヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

各員悉ク起立ス

○議長曰　全會一致可トスルヲ以テ即チ本案ニ決ス

午前第十一時閉場

■　右は明治九年三月十八日内閣より下附三月廿三日檢視を經過同日上奏、三月廿八日太政官第三十八號を以て布告せられた。

〔參考〕1制度寮撰修森金之丞建議　二年五月〔日闕〕

謹而案スルニ人ノ刀劍ヲ帶スルハ外ハ以テ人ヲ防キ内ハ以テ己レノ身ヲ護スル所ニテ天下動亂ノ際ハ又要スヘキアリ然レトモ世運漸ニ文明ニ赴キ人々自ラ道義ノ尊キヲ知ルニ至テハ粗暴殺伐ノ悪習自ラ相息ミ此等ノ物モ畢竟虜飾ニ供スルニ過キサルノミ方今國家鎮定皇運日ニ隆興良法以テ内ヲ正シ兵制以テ外ヲ守ル此際ニ當テ人各禮節ヲ砥礪シ所謂粗暴殺伐ノ悪習變シテ道義自守ノ良俗ト化スヘキ也故ニ自今以後官吏兵隊ヲ除クノ外帶刀相廢シ候儀隨意タルヘシ尤官吏ト雖モ脇差相廢シ候儀隨意タルヘシ是何ソ偏ニ文事ヲ重クシ武事ヲ輕クスルニ非ス固ヨリ文武同體唯其名ヲ異ニスル者ニシテ政治ノ賴テ擧ル所人各篤ク意ヲ注キ兩ラ之ヲ盛興スヘキナリ今此ニ陳スル所ノ二題目ハ唯其弊習ヲ一新シテ聊皇政隆興ノ際ニ裨補アラン事ヲ思而已伏テ諸賢ノ高評ヲ待ツ謹議　〔法規分類大全一・刑法門一ノ五四三〕

〔參考〕山縣陸軍卿上申　八年十二月七日

皇國ノ風タル武士ト稱スルモノ中古以來必ス佩刀ヲ帶スルヲ例トス其故何ソヤ之ヲ要スルニ刀劍ハ古來兵器ノ一部分ニ屬スルヲ以テ之ヲ大ニシテハ以テ敵ヲ防キ之ヲ小ニシテハ以テ身ヲ護ルノ理ニ過キス而シテ戰伐ノ季封建ノ習亦以テ已ムヲ得サルノ故アリテ然ルナリ世變リ時移リ士ハ文武ノ常職ヲ解キ藩ハ版籍ヲ返還シ遂ニ明治六年ニ及未曾有ノ大典朗徹兵令ヲ頒行セラル茲ニ年アリ今ヤ殆ト海内ニ浹洽セリ是レヨリ先キ已ニ近衞兵ヲ置キ以テ警蹕ノ下ヲ衞リ鎭臺兵ヲ設ケ以テ七道ヲ鎭壓シ外寇ノ草賊ニ備フ其市井村落人民保寧ノ事ノ如キハ各府縣ニ巡査ノ設アリ以テ非違ヲ糺察ス於是乎人民保護ノ方法略盡セリト云ヘシ人民タル者亦宜ク朝廷ノ盛意ヲ體シ聊モ疑惑ヲ其間ニ措サルヘキナリ然ルニ今全國ヲ通視スルニ華士族ノ輩猶依然トシテ舊習ヲ固守シ刀劍ヲ其腰間ニ挿ムモノ少ナカラス蓋此輩ハ皆頑固無識ニシテ時態ノ變遷ト兵制ノ更革トヲ曉ラス自カラ以爲ク敵ヲ防クハ猶已レ其一部ニ任シ身ヲ護ルハ必ス刀劍ヲ要スト而シテ其究極スル所劫略ノ兇器ヲ帶フルモノ國家ニ於テ糸毫ノ益ナキノミナラス徒ニ其武門武士ノ雷號ト殺伐ノ餘風トヲ存スルヲ見ルノミ此ノ如クニシテ已サル時ハ政治上多少ノ妨碍ヲ生スルハ勿論且軍隊ノ外兵器ヲ携フルモノアルハ陸軍ノ權限ニ關係スル又淺尠ナラストス願クハ速ニ廢刀ノ令ヲ下シ全國人民ヲシテ漸次開明ノ域ニ進歩セシメンコトヲ企望ス　伏テ上裁ヲ乞　謹言

〔明治文化全集二ノ二八三〕

第十七號議案

〔附第十三號議案奉還經緯〕

官吏懲戒例設定案〔參視〕
新律綱領改定律例中職制律并官吏公罪ニ係ルモノヲ廢スル議

元老院會議筆記　明治九年三月二十五日

○第十七號議案〔官吏〕公罪ニ係ルモノヲ廢シ懲戒例ヲ設クル議第一讀會

議長陸奥宗光代理

出席議官

二番　柳原前光
四番　佐野常民
五番　河野敏鎌
六番　大給恒
七番　松岡時敏
八番　福羽美靜
十番　佐々木高行
十一番　吉井友實
十二番　壬生基修
十三番　齋藤利行
十六番　黑田清綱
十七番　由利公正
十九番　有栖川宮
二十番　秋月種樹

内閣委員番外一番參議　伊藤博文

午前第十時開場

○議長曰　本日ハ第十七號議案第一讀會ヲ開ク其要旨ハ内閣委員ノ說明ニ於テ之ヲ領スヘシ

○書記官藤澤次謙　左ノ議案ヲ朗讀ス

一新律綱領改定律例中職制律ヲ廢ス

但私借官物律例ハ改メテ賊盜律監守自盜ノ部ニ入ル

一新律綱領改定律例中官吏ノ公罪ニ係ル者ヲ廢ス　公罪罰俸例、同賍犯公罪、公事失錯、出入人罪及ヒ改定律例第百五十四條等ノ類　公罪罰例、公罪

一自今官吏職務上ノ過失ハ有心故造私罪ニ入ル者ヲ除クノ外其本屬長官ニ任シテ懲戒處分セシム

參視

官吏懲戒例

第一條　自今私罪ヲ除クノ外ハ官吏職務上ノ過失ハ本屬長官ニ於テ懲戒ノ權ヲ有スヘシ

第二條　懲戒ノ法三種トス第一譴責第二罰俸第三免職

第三條　譴責ハ懲戒ノ輕キ者トシテ本屬長官ヨリ譴責書ヲ付ス

第四條　罰俸ハ半月分ヨリ少カラス三月ヨリ多カラサルノ間俸ヲ奪フ

俸ヲ追スルノ法ハ毎月給俸ノ半ヲ領置シ數滿テ大藏省ニ送付ス

第五條　懲戒ヲ以テ免職スル者ハ本屬長官ノ意見ニ從ヒ其奏任ハ具狀奏請シテ之ヲ免シ位記ヲ返上セシム

但懲戒ニ由ルニ非スシテ免職スル者ハ長官旨ヲ諭シ本人ヨリ辭職ノ願ヲ差出サシメ然後ニ免許スヘシ

第六條　諸省長官ハ所屬奏判任官ヲ懲戒ス

第七條　府縣奏任官ハ太政大臣之ヲ懲戒ス府縣并警視廳判任官ハ其長官之ヲ懲戒ス

第八條　四等以下ノ判事ハ司法卿之ヲ懲戒ス府縣官判事ヲ兼ル者ノ其所屬判任官ニ於ルハ他ノ奏任以上府縣官ノ叶議ヲ得タル後之ヲ懲戒ス

第九條　府縣長官警視長官其所屬判任官ヲ譴責スルハ專行スルヿヲ得ルヲ除クノ外其罰俸免職ヲ行フハ便宜處分シテ速ニ內務卿ニ屆ケ出ヘシ

府縣官判事ヲ兼ル者其所屬判任官ノ罰俸免職ヲ行フハ便宜處分シテ速ニ司法卿ニ屆ケ出ヘシ

第十條　其有心故造私罪ニ入ル者ハ職務上ノ罪ト云ヒ之ヲ司法官ニ移シ本屬長官專ラ處分スルヿヲ得ス

○番外一番伊藤博文曰　本日ハ近日勅ヲ奉シ元老院ノ議定ニ付セラレタル職制律并ニ官吏公罪ニ係ル者ヲ廢スル議案ノ第一讀會ナルニ付嘗テ內閣ニ於テ議定スル所ノ大綱ヲ陳述スヘシ抑從前官吏ノ過失錯ハ有心故造ト否ラサルトヲ問ハス都テ司法省ニ付シ處罰シ來レヒ追々裁判モ條例發行以後司法省ハ其進退伺ニ付テ律ニ擬スルニ止メ其罪ヲ言渡スヿハ廢セリ然ルニ尙ホ長官ハ統御ノ責任ニ在リナカラ罪ヲ擬スルヲ司法省ニ委ス未タ其當ヲ得ス苟モ長官タル者ノ官吏ニ於ケルハ公罪上ヨリモ職務上ヨリモ之ヲ懲戒スルノ權ヲ有シ衆多ヲ統御スヘシ其衆多ヲ統御スルニ付テハ亦規律ナカルヘカラス是懲戒法三種ヲ設クル所以ナリ猶ホ軍律ヲ以テ衆多ノ兵ヲ統御スル如シ長官タル者ハ何レノ國ニテモ屬官ヲ進退スル規律ヲ委托セラル者ニテ其規律ヲ以テ行政ノ事務ヲ司リ衆多ヲ統御スルナリ然ラサレハ其責任自ラ輕シ責任輕ケレハ其成蹟ハ責メ難シ故ニ其責任ヲ重カラシメントスレハ從前ノ法ヲ改正セサルヲ得ス今ノ長官タル者ハ其屬官ヲ推擧シ奏任迄モ陟黜スルヿヲ委子ラレ瑣々タル過失ニ至テハ法官ノ手ヲ煩ス實地虛罰ニ近キ者アリ既ニ此程ノ新章程ニモ屬官非常ノ勉强アレハ相當ノ賞ヲナスヿヲ長官ニ委子ラレ却テ僅小ノ責罰ヲ委子ラレスシテハ首尾相應セス是職制律并ニ公罪ニ係ル者ヲ廢シ懲戒ノ權ヲ長官ニ委スル所以ナリ這般內閣ニ於テ本案ヲ議定スル主意此ノ如シ尙ホ第二讀會ニ於テ委員モ出席シ各議官ノ討論ヲ聞クアラハ復將サニ辨明スル所アラントス

午前第十時四十分閉場

元老院會議筆記　明治九年三月二十九日

○第十七號議案〔官吏〕公罪ニ係ルモノヲ廢シ懲戒例ヲ設クル議第二讀會

議長河野敏鎌代理

官吏懲戒例設定案、新律綱領改定律例中職制律并官吏公罪ニ係ルモノヲ廢スル議

出席議官

二番　柳原前光
六番　大給恒
七番　松岡時敏
八番　福羽美靜
九番　陸奥宗光
十番　佐々木高行
十一番　吉井友實
十二番　壬生基修
十三番　齋藤利行
十六番　黑田清綱
十七番　由利公正
十八番　山口尙芳
二十番　秋月種樹
內閣委員番外二番二等法制官　井上毅

午前第十時三十分開場

○議長曰　本日ハ第十七號議案第二讀會ヲ開ク各員規則ニ從テ討論スヘシ

○書記官藤澤次謙　左ノ議案ヲ朗讀ス

一新律綱領改定律例中職則律ヲ廢ス

但シ私借官物律例ハ改メテ賊盜律監守自盜ノ部ニ入ル

一新律綱領改定律例中官吏ノ公罪ニ係ル者ヲ廢ス　公罪罰例　罰俸例　闕、官吏犯公罪、同僚犯公罪、公事失錯、失出入人罪及ヒ改定律例第百五十四條等ノ類

一自今官吏職務上ノ過失ハ有心故造私罪ニ入ル者ヲ除クノ外其本屬長官ニ任シテ懲戒處分セシム

參視

官吏懲戒例

第一條　自今私罪ヲ除クノ外ハ官吏職務上ノ過失ハ本屬長官ニ於テ懲戒ノ權ヲ有スヘシ

第二條　懲戒ノ法三種トス第一譴責第二罰俸第三免職

第三條　譴責ハ懲戒ノ輕キ者トシテ本屬長官ヨリ譴責書ヲ付ス

第四條　罰俸ハ半月ヨリ少カラス三月ヨリ多カラサルノ間俸ヲ奪フ

俸ヲ追スルノ法ハ毎月給俸ノ半ヲ領置シ數滿テ大藏省ニ送付ス

第五條　懲戒ヲ以テ免職スル者ハ本屬長官ノ意見ニ從ヒ其奏任ハ具狀奏請シテ之ヲ免シ位記ヲ返上セシム

但懲戒ニ由ルニ非スシテ免職スル者ハ長官旨ヲ諭シ本人ヨリ辭職ノ願ヲ差出サシメ然後ニ免許スヘシ

第六條　諸省長官ハ所屬奏判任官ヲ懲戒ス

第七條　府縣奏任官ハ太政大臣之ヲ懲戒ス府縣并警視廳判任官ハ其長官之ヲ懲戒ス

第八條　四等以下ノ判事ハ司法卿之ヲ懲戒ス府縣官判事ヲ兼ル者ノ其所屬判任官ニ於ルハ佗ノ奏任以上府縣官ノ叶議ヲ得タル後之ヲ懲戒ス

第九條　府縣長官警視長官其所屬判任官ヲ譴責スルハ專行スルヿヲ得ルヲ除クノ外其罰俸免職ヲ行フハ便宜處分シテ速ニ內務卿ニ屆ケ出ヘシ

府縣官判事ヲ兼ル者其所屬判任官ノ罰俸免職ヲ行フハ便宜處分シテ速ニ司法卿ニ屆ケ出ヘシ

第十條　其有心故造私罪ニ入ル者ハ職務上ノ罪ト云ヒ之ヲ司法官ニ移シ本屬長官專ラ處分スルヿヲ得ス

○十八番山口尙芳曰　本案中少ク了解セサル所アリ此公罪ニ係ル者ヲ廢シ職制律ヲ廢スレハ官吏ノ公罪ハ長官ニテ處分ス則懲戒ノ法三種ナリ然ルニ三種ノ區別ハ何ヲ以テスルヤ輕重差等ハ何ヲ以テスルヤ固ヨリ職制律ヲ廢スルニ於テハ異論ナシト雖ヒ之ヲ廢スル以上ハ之ニ換ルモノナカルヘカラス從前ハ公罪ニ輕重ノ差等ヲ區別ス此懲戒法ノ三種ハ其區別ナシ然ルトキハ長官ノ處分スルニ臨ミ都テ引當ル所ナク或ハ內務ニテ罰俸ニ科スルヲ其他ニテハ譴責ニナス等ノ弊アラン余ハ此懲戒法ニテハ其弊ヲ防クニ足ラストス

○九番陸奧宗光曰　本案ハ可ナリ只可ナルノミナラス從來各種ノ議案ニ比スレハ大ニ國家政體ノ進歩ヲ見ルニ足ル者ナリ是迄新律改定律等ノ改正モアレト皆一律一條ノ事ニシテ本案ノ如ク政體ノ大勢ニ關スル者ナシ先般第一讀會ニ於テ內閣委員ノ說明アレハ其主意ノアル所ハ了解セリ各議官ニ於テモ亦然ラン抑從前ノ法律ハ新律ナリ改定律ナリ專ラ明清律ニ淵源シ民刑混淆シタル者ニテ國家ノ典型トナスニ足ラス故ニ一律一條ノ改正ニテモ共ニ支那ノ範圍ヲ脫セサレハ前後ノ權衡ヲ取ルモ亦支那ヘ立返リテ論ヲ立サルヲ得ス今回ノ議案ト委員說明トヲ見レハ愈々行政權ト司法權トヲ區別スルノ目的判然トシテ實ニ賞スヘキナリ維新後日淺シト雖ヒ新律綱領改定律例ニテ處分シ來レハ今司法權ヲ單一ニシ行政權ヲ分離スルキハ或ハ牴觸スルヿモアラン然レヒ余ハ其牴觸スル處ヲ見出サス縱ヒ牴觸スルヿアルモ其時ニ臨ミ改正シテ可ナリ新律改定律ハ本邦法官ノ編集ニシテ勅命ヲ以テ頒布アリシ者ナレハ固ヨリ缺損スル處ナキ理ナリト雖ヒ時勢ノ轉遷ニ依リ往々不都合ノ件ヲ現出シ來レリ況ヤ本年政事始ニ司法卿ヨリ舊法ヲ改正シ新法ノ草案ヲ起シ本年中ヲ期シ刑法ヲ改正センヿヲ奏上セシヿモアレハ本年中ニハ其運ヒニモ成ルヘシ然ラハ司法行政各其任ヲ守リ後來大ニ其分界ヲ爲ス所アラントス故ニ本案ニ於テハ余ハ至極結構ノ改正ニテ一毫モ啄ヲ容ル所ナシ

○十八番山口尙芳曰　公罪ニ係ル者ヲ廢シ行政司法ノ權限ヲ區別スルノ可ナルハ余モ九番ニ同意ナリ但新律頒布以來公罪ヲ處分スル所ニ於テ各其輕重ノ區分ヲ立タリ然ルニ今此懲戒例ニ至テハ何事カ譴責ニ當ル哉何事カ罰俸ニ當ル哉其區分判然セス然ラハ實際之ヲ處分スルニ臨ミ差支ル所アラン

○九番陸奧宗光曰　十八番ノ說ハ公罪ニ係ル者ヲ廢スルハ同意ナレト懲戒例ニハ不滿足アリト云フノ意ナリ必竟新律頒布以來公罪ヲ處分スル所ハ數段アレヒ此懲戒法ハ三段ナル故不都合ナリト云フニ過キスシテ此疑問ハ存スルナラン然レヒ余ハ其疑ノアル所ヲ見出サス抑公罪ト云モノヽアル以上ハ兎モ角ナレト既ニ之ヲ廢スル以上ハ三段ハオロカ二段ニテモ差支ナカルヘシ譬ヘハ各省長官ノ此大承ハ不足アリ彼少承ハ餘リアリトスル如キモ必竟人物ノ分析ハナス能ハス然レトモ判任ハ勿論奏任迚モ進退ヲ委任セラレタルハ恰モ是ト一般ニシテ罰俸ナリ免職ナリ各長官ニ委任シテ之ヲ爲

サシムルニ在ルナリ公罪ヲ廢スル以上ハ二段ニセヨ三段ニセヨ更ニ分ラヌ事ハアルヘカラス十八番ニ於テモ之ヲ廢スル事ハ同意ナル趣ニ付一應余ノ解スル所ヲ以テ其疑ヲ辨ス若シ此意了解アラハ幸甚ナリ

○十三番齋藤利行曰　原案ニテ可ナリ十八番ノ說ハ參視ノ懲戒例ニ涉リテ本日議スヘキ「ニ非ス今九番ノ說ハ適當ニシテ余モ同意ナリ

○九番陸奥宗光曰　本案ノ大主意ニ於テハ前ニ陳述スル如ク固ヨリ異論ナシ但第二項ノ有心故造私罪ニ入ル者ヲ除クノ外ト云一句ハ贅文ナリ

○番外二番井上毅曰　九番ノ說ハ過失ニ有心故造ナシト云意ナルヘシ然レモ過失ニ二種アリ形過失ニシテ其實有心故造ナル者アリ初ハ純粹ノ過失ニシテ陷テ有心故造トナル者アリ此私罪ニ入ルト云ハ追テ入ル者ニテ即チ孔夫子ノ言ニ小人ノ過ヤ必ス飾ルトアリ余ハ之ヲ以テ十分ノ答辨ナリトス

○九番陸奥宗光曰　强テ修正ヲ要スルニ非ス然レモ今番外二番ノ答辨ニ小人ノ過ヤ必ス飾ルノ聖語ヲ引キタルハ充分ナラス既ニ飾ルト云ヘハ過失ニアラス一體除外ノ字ハ內ヨリ除ク者ニシテ外ヨリ除ク理ナシ余ハ過失ハ其本屬ト接續スルヲ可ナリトス

○番外二番井上毅曰　余ハ前說ニテ充分ノ答辨ヲ得タリトスレハ姑ク沈默ノ自由ヲ與ヘラレヨ

○六番大給恒曰　原案ニ異議ナシ各議官ニ於テモ此改正ヲ可トスルノ陳述アレハ余復多言ヲ贅セス惟九番ニ向テ陳述セン第二項ノ字句ニ付テ說アレトモ余ハ不可ナルナシトス原案ハ職制律ヲ廢スルニ付テノ文ニシテ此律トナル者ニ非ス併シ讀難キ歟讀易キ歟ト問ヘハ讀難シト云フニ過キス何モ支ルヿナカルヘシ

○番外二番井上毅曰　六番ノ說ニ付テ尙一回ノ說明ヲナサン有心故造云々ハ決シテ讀難キヿナシ却テ此一句要用ナリ若シ職務上ニ混入スル過失ト云者ナキ時ハ九番六番ノ說モ可ナリ小人ノ過ヤ必ス飾ルト云聖語ニ因テ觀レハ必ス混入スル者アリ故ニ有心故造云々ヲ要用トス

○九番陸奥宗光曰　固ヨリ瑣々タルヿ故有心故造云々ノ一句ハ存スルモ可削ルモ可ト云ヘハ强テ咎ムルニ非ス是非無ルヘカラスト云例ニ小人ノ過云々ノ聖語ヲ以テスルハ當ラス既ニ飾ルト云ヘハ即チ有心故造ニシテ最早過失ノ分界ヲ離ル者ナリ況ヤ孔子ノ小人ノ過ヤ必ス飾ルト云モノハ果シテ今日官吏職務上ノ事ニ當ルヤ否ヲ知ル能ハス要スルニ格別害ナキヿナレハ存スルモ深ク論スヘキヿニ非サレトモ成ルヘク削ルヲ可ナリトス

○六番大給恒曰　瑣末ノヿナレハ多辨ヲ要セスト雖モ讀難シト云ヒシニ付テ番外二番ノ說アレハ今一應陳述セン此條ハ無ルヘカラス此有心云々ノ句ハ九番ノ說ノ如ク無クテ可ナリ此句ヲ味フルニ跡ヨリ前ヘ戻ル意アリ元來職務上ノ過失ハ其本屬長官云々トシテ足レリ畢竟有心云々ハ注解ノ句ニ過キス故ニ讀難シト云シナリ若シ初メ過失ニシテ後有心故造トナル事アル意ナレハ尙ホ書キ方モアラン併シ大體ニ關セサレハ敢テ論セス

○十八番山口尙芳曰　有心故造云々ノ句ハ除クヲ可トス若シ之ヲ存セハ必ス司法行政兩權ノ紛紜ヲ生セン有心故造云々ノヿハ懲戒例第十條ニ委ク載スレハ律書中ニハ之ヲ除キ簡約ニシテ煩ナキヲヨシトス固ヨリ議案ノ大主意ニ關セス實地此句ナクシテ何ノ妨ナケレハ也

○十三番齋藤利行曰　二項字句ノ間ニ議論アルヲ聞クニ番外二番ノ答辨ノ如ク過失ヨリ有心故造ニナルヿモアリ然レトモ既ニ飾ルト云ヘハ有心故造ナルヿハ九番ノ說ノ如シ要スルニ過失中ヨリ此一事ヲ出スモノナリ此等ノ字句ハ本案ノ註ト看做サヽレハ解難キヿ往々アリ余ハ有テモ弊ナク除テモ弊ナシトス若シ字句ノ間此等ノ事ヲ論スレハ是迄各種ノ議案ニモ少ナカラス故ニ余ハ原案ニテ可ナリトス

○二十番秋月種樹曰　原案ハ異議ナキノミナラス大ニ賞贊スヘキ者ナリ有心故造ニ付テ彼此議論アレト六番陳述ノ如ク注解ト見レハ可ナリ只「ハ」ノ字ヲ「外」ノ下ニ加レハ分明ナラン瑣末ノヿナカラ一應陳述ス

○九番陸奥宗光曰　先刻有心故造ノ句ニ付テ云々セシカ尙思フニ十三番ノ說ノ如ク余モ格別修正スルニ及ハストス

○十八番山口尙芳曰　余ハ有心云々ノ句ハ除カントス如何トナラハ懲戒例ノ第十條ニ揭クレハ律ニハ除キテ可ナリ果シテ然ラハ公罪ハ長官ニテ處分シ有心故造ハ司法ニ移スト能ク判然スヘシ若シ此句ヲ律中ニ存スレハ後來必ス司法行政ノ牴觸ヲ生セン故ニ余ハ之ヲ除カント欲ス

○九番陸奥宗光曰　余ハ修正ニ及ハスト陳述セリ然ルニ十八番ニ於テ陳述アリ其意此文ヲ律書中ニ入ル者ト認メタルニ似タレトモ此ハ一ノ布告文ニ止リ惟私借官物云々ノミ律ニ入ル者ナリ假令ヒ律書中ニ入ルモ此句ノ存除ニ依テ司法行政牴觸ノ有無ニ關スルノ理アルヘカラス何トナレハ懲戒例ハ長官ニ渡ス者ト雖モ日本中ノ人ハ之ヲ知ルヘキ者故裁判官モ之ヲ知ルヘシ然レハ此ニ除クトモ彼ノ第十條ニ依テ論スルヲ得ヘシ畢竟牴觸ハ字句ヨリ生スルニアラス司法行政ノ權

ヲ分ルヨリ生ス若シ牴觸ヲ恐レハ始ヨリ之ヲ分タサルニ如カス抑法律改正ノ意ニ於テハ後來ノ牴觸ヲ慮テ今日要用ノ改正ヲ止ル事ナカルヘシ或ハ十八番ニ於テ誤解スル所アラン

○十八番山口尚芳　曰　律書ト申セシハ間違ナリ併シ布告スレハ一ノ律書ト認メサルヲ得ス抑有心故造ヲハ司法ニテ處分スルニ不足ナキ爲メ第十條ニ云々セリ其公罪私罪トハ行政長官ニテ辨別シ有心故造ナレハ司法ニ移ス今第二項ノ有心故造云々ノ句ヲ除キ後來本案ノ施行ニ〔差〕支ユルアラハ固ヨリ此句ヲ要用トスレトモ第十條ニ明ニ掲ケタレハ布告ニハ成ルヘク字句ヲ省クヲ可トス然ラサレハ縣廳ト裁判所ニ至テハ紛紜ノ爭ヲ生スルアラン故ニ余ハ此句ヲ除クヲ可トス

○番外二番井上毅　曰　十八番ノ說ニ答フル爲メニハ既ニ九番ノ辨明ナレハ復贅言ヲ費サス只其氣附ノ爲メニ一言セン十八番ニ於テハ參視ニ附セラレタル懲戒例ヲ本案ト連帶スル者ト誤認スルニ似タリ彼ニアル故ニ此ニハ削ルヘシト云意ナレト其レ等ハ二ツアル者ヲ並待ツノ仕方ニテ此懲戒例ハ參視ニ付セラレタルノミニテ本案ト兄弟ノ如キ者ニ非ス且懲戒例ハ行政長官ヘノミ達スル者ニテ司法官ト人民トハ探テ知ルノ外ナシ例ノ第十條ヲ可トスレハ本案ノ第二項モ可ナリ然ルニ彼ニアル故此ヲ削ラントスレハ例ト本案ヲ夫婦兄弟ノ如ク視ル〔故〕ナラン然ラサレハ偶然ノ說乎

○十八番山口尚芳　曰　固ヨリ兄弟分トスルニ非ス併シ同時ニ達スル者ナレハ亦終ニ別々ナル者ニ非ス抑公罪ニ係ル者ヲ廢シ之ニ代ルニ懲戒例ヲ以テシ本屬長官ニ任ス官吏職務上ノ過失ハ長官ニテ取調ヘ有心故造私罪ニ入ルアレハ之ヲ司法ニ送附シ有心故造ニアラサレハ之ヲ送附セス送附セサレハ司法ニ關係ナシ然ルニ二項ノ文ヲ布告スレハ有心故造ト認ル者ハ司法ヨリモ手ヲ下シ牴觸ヲ來スヿアラン爭ノ端全ク有心故造云々ノ句ニアリ故ニ之ヲ除ント言ナリ

○九番陸奥宗光　曰　十八番ノ意ハ有心故造云々ノ句ヲ除キ布告スレハ官吏ノ罪ハ本屬長官ニテ識別シ其私罪ニ入ル者ヲ司法ヘ送ラサル內ハ司法ヨリ爭ヲ起スヿナク若シ二項ノ文ヲ其儘布告シ第十條ハ長官ヘ達シ兩方ヘ出ス時ハ爭ヲ起ストス然ルニ第十條ニ於テモ處分スルヿヲ得ストアル以上ハ縱令ヒ司法ヘ送ラストモ長官ニ於テ間違アラハ司法ヨリ爭フヿモ得ヘク又間違ノ處分アレハ破毀スルヿモ得ヘシ決シテ司法ニテ默シ居ル理アルヘカラス然ル片ハ有心故造ト長官ノ識別セサル內ハ司法ヨリ手ヲ下スヲ得スト云フヿナシ到底牴觸ハ同シキナリ蓋シ誤解アラン

○十八番山口尚芳　曰　懲戒例ヲ行政長官ニ渡セハ官吏ノ罪ヲ見分ルハ長官ナリ一體過失ト云モノハ其情ヲ知ルヲ要用トス從前ハ過失モ司法ニテ處分スレモ此度之ヲ分ツニ付テ自ラ行政上ノ味ヲ知ラサレハ過失ノ情ハ知ル能ハサルヲ以テ行政裁判ナキ故長官ニ屬セラル而シテ長官ノ委任セラル罰三等アリ有心故造ノ如キハ律ニ存ス蓋シ政府ノ見込ハ過失ハ長官ニ屬シ有心故造ハ司法ニ屬スト云フノミ試ニ懲戒例ヲ見ヨ第九條迄ハ皆長官ノ處分ニテ第十條ニ至テ司法ニ送ルヲ云此ニテ不足ナシ第二項ハ箇樣々々ト布告ス乃チ律ト同斷ナリ有心故造云々ヲ除キテ妨ナシ故ニ余ハ除カント欲ス

○十六番黑田清綱　曰　有心故造ノ字句ニ付テ議論アレト此句ヲ存スルモ實際ニ於テ妨ナシ故ニ余ハ原案ヲ可トス

○議長曰　最早衆議モ盡タリト認ム第三讀會ハ四月一日ニ於テ開クヘシ今日ハ散會ス

第十二時四十分閉場

元老院會議筆記　明治九年四月一日

○第十七號議案第三讀會

官吏懲戒例設定案、新律綱領改定律例中職制律并官吏公罪ニ係ルモノヲ廢スル議

出席議官

二番　柳原前光
五番　河野敏鎌
六番　大給恒
七番　松岡時敏
八番　福羽美靜
九番　陸奥宗光
十番　佐々木高行
十一番　吉井友實
十二番　壬生基修
十三番　齋勝利行
十六番　黑田清綱
十七番　由利公正
十八番　山口尚芳
二十番　秋月種樹

內閣委員　番外二番　二等法制官　井上毅

午前第十時三十五分開場

○議長曰　本日ハ第十七號議案第三讀會ヲ開ク各員規則ニ遵ヒ發言スヘシ

○書記官本田親雄　左ノ議案ヲ朗讀ス

一新律綱領改定律例中職制律ヲ廢ス

但私借官物律例ハ改メテ賊盜律監守自盜ノ部ニ入ル

一新律綱領改定律例中官吏ノ公罪ニ係ル者ヲ廢ス　公罪贖例 圖公罪

罰俸例圖、官吏犯公罪、同僚犯公罪、公事失錯、失出入人罪及ヒ改定律例第百五十四條等ノ類

一自今官吏職務上ノ過失ハ有心故造私罪ニ入ル者ヲ除クノ外其本屬長官ニ任シテ懲戒處分セシム

參視

官吏懲戒例

第一條　自今私罪ヲ除クノ外ハ官吏職務上ノ過失ハ本屬長官ニ於テ懲戒ノ權ヲ有ス可シ

第二條　懲戒ノ法三種トス第一種譴責第二罰俸第三免職

第三條　譴責ハ懲戒ノ輕キ者トシテ本屬長官ヨリ譴責書ヲ付ス

第四條　罰俸ハ半月ヨリ少カラス三月ヨリ多カラサルノ間俸ヲ奪フ

俸ヲ追スルノ法ハ毎月給俸ノ半ヲ領置シ數滿テ大藏省ニ送付ス

第五條　懲戒ヲ以テ免職スル者ハ本屬長官ノ意見ニ從ヒ其奏任ハ具狀奏請シテ之ヲ免シ位記ヲ返上セシム

但懲戒ニ由ルニ非スシテ免職スル者ハ長官旨ヲ諭シ本人ヨリ辭職ノ願ヲ差出サシメ然後ニ免許スヘシ

第六條　諸省長官ハ所屬奏判任官ヲ懲戒ス

第七條　府縣奏任官ハ太政大臣之ヲ懲戒ス府縣幷警視廳判任官ハ其長官之ヲ懲戒ス

第八條　四等以下ノ判事ハ司法卿之ヲ懲戒ス府縣官判事ヲ兼ル者ノ其所屬判任官ニ於ルハ佗ノ奏任以上府縣官ノ叶議ヲ得タル後之ヲ懲戒ス

第九條　府縣長官警視長官其所屬判任官ヲ譴責スルハ專行スルヿヲ得ルヲ除クノ外其罰俸免職ヲ行フハ便宜處分シテ速ニ內務卿ニ屆ケ出ヘシ

府縣官判事ヲ兼ル者其所屬判任官ノ罰俸免職ヲ行フハ便宜處分シテ速ニ司法卿ニ屆ケ出ヘシ

第十條　其有心故造私罪ニ入ル者ハ職務上ノ罪ト云ヒ之ヲ司法官ニ移シ本屬長官專ラ處分スルヿヲ得ス

○二番柳原前光曰　本案ハ至當ノ改正ニシテ間然スル所ナシ嚮ニ第一讀會ニ於テ委員ノ說明アル如ク從前ハ各衙門長官ノ奏任官ヲ撰擧スルヲ得テ其過失ニ至テ法官ニ付セサルヲ得サルハ甚不都合ナリ故ニ今其懲戒ノ權ヲ本屬長官ニ委ス最モ美事ト謂ヘシ或ハ新律十三門ノ內一朝一ノ職制律ヲ廢スルハ思慮ノ足サル者ト謂フ說モアルヘシト雖ヒ追々刑法全部ノ改正ニモ及ハントスル日ニ際スレハ司法行政ノ權ヲ分別スル目的ニ於テ之ヲ廢スル何ノ不可ナルアラン余ハ至良ノ改正案トス

○十八番山口尙芳曰　前日第二讀會ニ於テ第二項ノ有心故造云々ノ字句ヲ除カンヿヲ發言セリ如何トナレハ第二項ヲ布告スレハ懲戒例第十條ニ牴觸スルヿアラントス若シ此字句ヲ除ケハ害ナク之ヲ存スレハ害アラン故ニ除カントス然ルニ尙ホ熟考スレハ除カサルモ亦可ナリ一體職制律幷ニ公罪ニ係ル者ヲ廢シ行政長官ニ委任シ懲戒セシムルハ至當ノヿニテ西洋各國ニテモ亦然リ且各國ニハ行政裁判ノ法アリ畢竟行政ノ味ハ司法ノ審判シ能ハサル者アレハナリ故ニ司法行政ノ〔ノ〕權ヲ分別スルニ於テ甚然ルヘキヿナレハ本案ニテ異論ナシトス

○番外二番井上毅曰　二讀會以來各議官ノ議論大同小異アリト雖ヒ要スルニ之ヲ可トスルノ外ナラス因テ公評ヲ以テ速ニ決議アランヿヲ希望ス然ルニ頃日仄カニ聞クニ外間刑法家ニ於テハ此改正ヲ告朔ノ餼羊トシテ惜ム者アリト故ニ一回ノ說明ヲナサン其餼羊ノ說ヲ來ス所以ノ者ハ彼ノ刑法家ノ一局ニ於テ見ル故ナリ今二番ニ於テモ說アル如ク刑法全部ノ改正ヲ目的トシ前途ニ向ヒ司法行政ノ權ヲ分別スル意ヲ以テ論スレハ此改正ヲナサヽルヲ得ス抑官吏ノ犯罪ニ三種類アリ第一ハ一己ノ私事ニ就テノ罪犯即チ平民一般ノ犯罪ナリ第二ハ職務上ヨリ起テ私ヲ行ヒ法ヲ枉ル類第三ハ職務上ヨリ起リ公ニ對シテノ過失從前名ケテ公罪トスル者此三區別アリ此三ツノ罪犯ヲ分析シ之ヲ待ツノ法ヲ設ケサルヘカラス我カ從前ノ法ハ之ヲ混シテ誤レリ必竟其誤ハ支那律ヨリス而シテ吾カ律ハ支那律ニ劣ル又一等ナリ譬ヘハ無故不參朝公坐擅離職役等ノ如キ者ヲ取リ却テ大臣專擅選官ノ如キ大ナル者ハ省キ其他倉庫律ノ一二輕重ヲナスニ足サル者ヲ引出シ職制律トナシ外ニ官吏贖例ヲ設ケ其罪アルモ贖金ニ處シ徒以下ハ閏刑アリテ實斷セス刑律上幸ニ罪ヲ免ル道ヲ開キ又ハ一封ノ進退伺ニ書シ之ヲ司法ニ移シ其末僅々一二圓ノ贖金ニ過キス大ニ不可ナルモノアリ今現行ノ律ハ支那律ニ據ルト雖ヒ支那ニ於テハ官吏ノ罪ハ平民ニ比スレハ酷ナリ歐洲亦然リ本邦ハ官吏ニ寬ニシテ幸ヲナスニ似タリ今日行政官ニテ官吏懲戒法ヲ設ントスルニ當リ職制律ヲ存シテハ支吾スル故無論之ヲ廢セサルヲ得ス凡ソ國民タル者ハ法律ノ上ニ於テハ一般ノ者ナレハ罪犯ヲ處分スルモ亦平等ヲ得セシムヘク又官吏ノ威權ヲ弄シ私ヲ行フ者ハ一層

之レヲ嚴ニスヘシ是第一第二ノ種類ニ付テ方法着手ヲ急ク所ナレハ告朔ノ餼羊ハ惜ムニ足ラス而シテ從前公罪ト稱スル過失乃チ第三ノ種類ニ至テハ罪犯ト相反シ如何ニモ之ヲ寛ニスヘキアリ何トナレハ官吏ノ勉强シ事務繁劇ニ處スル者ハ亦過失ナキヲ保チ難シ凡ソ長官ノ人ヲ用ユルニ其人常ニ過失アランヲ顧慮ス畏懼スル時ハ十分事務ヲ擔當シ能ハサル者アリ故ニ此等ハ長官ノ目鏡ニ委スルヲ宜シトス支那ニ於テハ之ヲ公罪ニ入ル故官吏ノ狡黠ナル者ハ文ヲ舞シ巧ニ罪ヲ遁ルヽヿヲ得既ニ支那ニテモ頗ル議論ノアル㆓ナリ此ノ如ク論スル時ハ斷然改正スルヲ至當トス彼ノ刑律家ノ說ハ徒ニ古ニ泥ム者ニテ固リ採ニ足ラス願クハ速ニ議決アラン㆓ヲ

○九番陸奥宗光曰　本案ハ第二讀會以來間然ナシト論セリ一體議官ノ職ニ於テハ下付ノ議案中若シ國家ノ典型トナスニ足ラストスル者アレハ之ヲ論辨シ又間然ナキ者アレハ之ヲ擴メテ一日モ早ク布告セン㆓ヲ希望スヘシ故ニ今一回本案ニ於テ間然ナキ所以ヲ陳セン第一行政司法分權ノ端緒ヲ開キ昨年四月十四日ノ聖詔ノ旨ニ基ク第二官吏ノ面目ヲ立ツ從前過失アルハ盡ク司法ニ送リ盜賊ト伍ヲナス其所犯私罪ニ係レハ固ヨリ當然ナレト左程ニナキ者ハ官吏ノ不面目ナリ今此改正ニテ大ニ官吏ノ面目ヲ護ス其公罪ノ㆓ハ番外二番ニ於テ陳述スル如ク支那ニ於テモ往々論ノアル㆓ナリ本邦ニテ法律家ト稱スル者ニ公罪ノ分界ヲ問フニ其答分明ナラサル者ノ如シ之ヲ廢スル固ヨリ可ナリ況ヤ本邦職制律ハ其要用ノ件ハ多ク削リ去リ公式律ノ事可奏不奏等ノ如キヲ集メ混淆シタル者ナリ第二讀會ニモ陳セシ如ク新律綱領ハ今日ニ至テハ國家ノ典型トスルニ足ラス就中職制律ノ如キハ廢セサルヘカラス故ニ余ハ速ニ此議案ヲ全國ニ布告シ法律トナサン㆓ヲ希望ス

○議長曰　本案ヲ可トスル議官ハ起立スヘシ

各員悉ク起立ス

○議長曰　全會一致可ト決ス

午前第十一時十分閉場

[illegible]　右は明治九年三月九日内閣より檢視に附せられたものであるが元老院に於ては「本案ノ如キハ固ト本院ノ議定ニ附セラルヘキノ條件ト存候ニ付御詮議アリ度旨」を以て三月十二日本案を奉還す。而して三月二十日參視の爲官吏懲戒例案を副へ更に議定に附せらる。四月一日本院會議に於て可と決し同日上奏。而して官吏公罪に係るものを廢するの件は同月十四日第十八號を以て布告。官吏懲戒例は同日第三十四號を以て達。又各長官心得のための「長官懲戒處分心得」は同日番外を以て内達。

[illegible]　1議案檢視條例　八年十二月二十日達

第一條　議案ノ檢視ニ係ルモノハ元老院ニ於テ可否スル㆓ヲ要セス又修正ノ權ナシ故ニ委員ヲ用ヒス直チニ衆議員ヲ會シ全案ヲ朗讀ス可シ而シテ逐條分議スル㆓ヲ用ヒス

第二條　議官中議案ノ舊法ニ害シ若クハ牴觸シ及一案中互ニ相牴觸シ及不備不明ナリトシテ發言シタルトキハ議長之ヲ衆議ニ付シ發言ノ當否ヲ決シ衆議當ト決スルトキハ其理由ヲ具ヘ太政大臣ニ通牒シテ改正ヲ求ムル㆓コトヲ得ヘシ

第三條　議案既ニ檢視ヲ經タルトキハ議長ヨリ太政大臣ヲ經テ上奏ス可シ

第四條　急施ヲ要シ元老院ノ檢視ヲ經スシテ發行シタル布告ハ布告ノ同時ニ其一本ヲ内閣ヨリ本院ニ送致ス本院檢視ノ手續キハ前ニ同シ　〔法規分類大全一・官職門一七ノ六九〕

[illegible]　2法制局議案　九年三月二日

別紙官吏懲戒例御發行ニ付テハ新律綱領改定律例中官吏公罪ニ係ル者ヲ廢止ノ儀元老院檢視ニ付セラレ可然哉議案調査仰高裁候也

官吏懲戒例設定案、新律綱領改定律例中職制律并官吏公罪ニ係ルモノヲ廢スル議

3元老院へ達　九年三月九日

新律綱領改定律例中官吏公罪ニ係ルモノヲ廢スルノ議

右其院檢視ニ付セラレ候事

4元老院上申　九年三月十二日

去三月九日本院檢視ニ被附候新律綱領改定律例中官吏公罪ニ係ルモノヲ廢シ自今官吏ノ懲戒ハ其本屬長官ニ任シテ處行セシメラルヽノ議ヲ案スルニ本案ノ如キハ固ト本院ノ議定ニ可被附ノ條件ト存候ニ付右論旨詳細伊藤參議ヘ及辯明置候間右御聞取ノ上尚一應ノ御詮議有之度存候依テ本案ヲ奉還シテ此段及上申候也　〔以上、法規分類大全一・刑法門一ノ三四七〕

[illegible]　以上は第十三號、以下は第十七號議案に關するものである。

5元老院へ達　九年三月二十日

新律綱領改定律例中職制律公罪ニ係ルモノヲ廢シ官吏懲戒例ヲ設クヘキノ議

右其院議定ニ付セラレ候事

但官吏懲戒例參視ノ爲メ相副候事

6元老院上申　九年四月一日

別紙新律綱領改定律例中職制律并公罪ニ係ルモノヲ廢シ官吏懲戒例ヲ設クヘキノ議ニ付本院議定書勅裁ヲ仰キ候爲メ御上奏有之度候也

7 元老院上奏　九年四月一日

三月二十日下附アリシ處ノ新律綱領改定律例中職制律幷公罪ニ係ルモノヲ廢シ官吏懲戒例ヲ設クヘキノ議今四月一日本院會議ニ於テ全會一致本案ヲ可トス依テ謹テ之ヲ上奏ス

8 法制局議案　九年四月日閲

別紙新律綱領改定律例中職制律幷公罪ニ係ルモノヲ廢シ官吏懲戒例ヲ設クヘキノ議案元老院ニ於テ議定上申相成候ニ付原案相副且御布告御達二案調査上申候也

9 司法省伺　九年七月三日

今般第四十八號公布ヲ以テ職制律及ヒ第百五十四條ノ類相廢セラルルニ付テハ以來律例中官吏職務上ノ過失罪ニ係ル者ハ總テ懲戒例ニ依リ處分スル儀ト被存候ヘ共就中左ノ條々疑義ヲ生シ候ニ付相伺候

第一條　有官ノ者詔書及ヒ官ノ文書ヲ棄毀スル等有心故造ニ係ル者ハ改定律例第九十九條ニ依リ處斷可致儀ニモ候哉

第二條　官吏ニ非サル者同上ノ犯罪モ前文同樣處斷可致哉

第三條　官吏ニ非サル者官ノ文書等ヲ遺失誤毀スルハ罪ヲ問ハスシテ可然哉

第四條　官廳ノ通行印鑑ヲ遺失誤毀スルトキ官吏ナレハ懲戒例ニ依リ處分スヘシト雖モ官吏ニ非サルトキハ如何可致哉

第五條　有官ノ者戶籍廨觀等職務上ニ非サル過失ハ平民ト同シク處分シ可然哉

第六條　官吏ノ不覺失囚ノ如キ懲戒例ニ依ルヘシト雖モ官吏ニ非スシテ責付ノ罪犯ヲ失スル等如何處分シ可然哉

第七條　在官ノ上懲戒スヘキ者免官ノ後發覺スルトキハ其罪ヲ問スシテ可然哉

第八條　糺問上ヨリ官吏ノ平民ニ連及スル公事上ノ錯失アルトキハ共ニ鞫審ノ上平民ハ律ニ照シ官吏ハ所屬長官ニ附シ懲戒例ニ依リ處分スル儀ニ候哉

第九條　華族懲戒例第一條ニ過失及ヒ體面ヲ汚ス者ハ懲戒ストアルハ未タ華族贖罪例廢棄セサルニ付律例ニ揭ケサル過失罪ノミ懲戒ニ附シ律例ニ揭ケル過失罪及ヒ有心故造ニ係ル者ハ總テ律例ニ依テ處分シ可然哉

右ハ諸府縣ヨリ當省ヘ伺出候間早々御指揮相成度此段相伺候也

10 指令　九年八月七日

第一第二第三第五第七第八第九條伺之通

第四條　官吏ト雖モ懲戒例ニ依ルヿヲ要セス其事實ヲ詳ニシテ新鑑札ヲ申受クヘシ若シ手數料等ノ定規アル者ハ官民ヲ問ハス之ヲ納メシムヘシ

第六條　其罪ヲ問ハス

11 法制局議案　九年八月一日

別紙司法省伺職制律例廢セラレ候ニ付テノ疑義ハ左ノ如ク御指令相成可然哉仰高裁候也（以上法規分類大全一・刑法門一ノ二四七）

第十八號議案

改正雇人盜家長財物律　竊盜條例
私借官物律

元老院會議筆記　明治九年四月十三日

○第十八號議案第一讀會

出席議官

一番　長谷信篤
二番　大給恒
三番　河野敏鎌
四番　齋藤利行
五番　秋月種樹
七番　柳原前光
八番　陸奥宗光
九番　佐々木高行
十番　中島信行
十二番　山口尙芳
十三番　壬生基修
十四番　三浦梧樓
十六番　福羽美靜
十八番　吉井友實
十九番　由利公正
廿一番　水本成美
廿二番　津田眞一郎
廿三番　細川潤次郎

内閣委員一番外三等法制官　村田保

午前第十時二十分開場

○議長曰　曩ニ本院ニ於テ議定セシ雇人盜家長財物及私借官物律ハ御允裁難相成趣ヲ以テ再議ニ付セラレ候付本日ハ其第一讀會ノ爲ニ議場ヲ開ケリ右ニ付内閣委員モ出席ナレハ各員例ニ從テ本案旨趣ノ辨明ヲ聞クヘシ

○書記官藤澤次議　左ノ條々ヲ朗讀ス

雇人盜家長財物律改正意見（内閣ノ意見）

官物ト私物ト罪ニ輕重アルハ獨リ盜罪ノミナラス諸般ノ犯罪皆然リ改定律例家長ノ物ヲ以テ官物ト同視シ監守常人ノ二盜ヲ以テ論スルハ大ニ權衡ヲ誤ル者ト謂フヘシ

監守盜常人盜ハ元來官物ヲ盜ムノ名ニシテ私物ヲ盜ムノ稱ニ非ス雇人家長ノ財物ヲ盜ムニ此稱ヲ用フルハ既ニ當ラス況ヤ其借用シ及ヒ人ニ轉借餽送スルモ亦監守盜ヲ以テ論スルニ至テハ甚タ苛刻ナル律ト謂フヘシ

私借官物律改正意見（同前）

清律枉法不枉法及ヒ竊盜皆實犯トシテ眞實死流ニ處スレ𪜈監守常人ノ二盜ハ死流並ニ雜犯トシテ之ヲ准徒ニ換フ故ニ私借官物ハ二盜ヲ以テ論スト雖𪜈其實ハ准徒五年ニ過キス我國律ハ二盜皆死ニ入ル既ニ過嚴ト云フヘシ私借ト眞盜ト其情固トヨリ同シカラス今私借ヲ眞盜ト同視シ滿數死ニ入ルカ如キハ豈苛刻ト云ハサルヘケンヤ且監守人ニ非スシテ借ル者ヲ常人盜ヲ以テ論スル時ハ官ヲ詐欺シテ財物ヲ取ル者ヲ竊盜ニ準シテ論スル律ト權衡相當ラス

原案

改正雇人盜家長財物律

凡雇人家長ノ財物ヲ盜ム者ハ窃盜ヲ以テ論ス管守者ハ一等ヲ加ヘ罪懲役終身ニ止ル

院議凡雇人ノ家長ニ於ル其信任ヲ荷シ其給料ヲ受ケ百般ノ使役ニ供シ常ニ家長ノ爲メニ災害ヲ防クヘキノ義務ヲ有スル者ナレハ財貨衣物等ノ所在熟知セサルハナシ然ルニ信ニ背キ義ニ戻テ其取リ易キノ者ヲ盜ム其惡豈壁ヲ穿チ垣ヲ踰ユルノ凡盜ニ比スヘケンヤ宜シク常人盜ヲ以テ論シ管守者ハ其罪ヲ加重シ監守盜ヲ以テ論シ嚴責シテ之ヲ痛懲セスンハアルヘカラス然リト雖𪜈家長ノ財物ハ竟ニ私物ニ屬スルヲ以テ並ニ罪懲役終身ニ止メ官物ト其罪ヲ分別スヘシ其修正案ハ別紙ニ具ス以下皆同シ

修正案

改正雇人盜家長財物律

凡雇人家長ノ財物ヲ盜ム者ハ常人盜ヲ以テ論シ管守盜ヲ以テ論シ並ニ罪懲役終身ニ止ル

附箋内閣ノ附箋

監守盜常人盜ト稱スルモノハ全ク官物ヲ盜ムヲ以テノ故ナリ家長ノ財物ハ固ヨリ官物ニアラス官物ニアラスシテ監守常人盜ト稱スルハ太タ穩當ナラス改定律例既ニ一タヒ之ヲ過テリ今之ヲ改正セント欲ス然ルニ再ヒ改定律例ニ依リ修正スル片ハ改正スル𠃊ヲ要スル𠃊本旨ト相背ク

原案

雇人盜家長財物條例

凡雇人家長ノ財物ヲ管守シテ私ニ自ラ借用シ及ヒ人ニ借ス者證書ナキハ窃盜ニ準シテ論ス證書アルハ二等ヲ減シ罪懲役三年ニ止ル

院議本例監守盜ヲ以テ論スヘキノ議ハ改正雇人盜家長財物改正私借官物ノ兩律ニ於テ之ヲ開陳セリ證書ノ兩字ハ文字ノ證而已ニ屬シ其義狹シ故ニ之ニ換フルニ憑證ヲ以テスルヲ可ナリトス而シテ又私借官物律ニ其借ル者監守人ニ非ル者ノ條ヲ加フルカ如ク本例ニ於テモ亦宜ク之ヲ置クヘシ

修正案

雇人盜家長財物條例

凡雇人家長ノ財物ヲ管守シテ私ニ借用シ及ヒ人ニ借ス者憑證ナキハ監守盜ヲ以テ論シ罪懲役終身ニ止ル憑證アルハ一等ヲ減シ罪懲役十年ニ止ル其借ルモノ管守人ニ非サレハ憑證ノ有無ヲ分タス常人盜ヲ以テ論シ一等ヲ減シ罪懲役七年ニ止ル

改正雇人盜家長財物律、改正私借官物律、竊盜條例

附箋同前

家長ノ財物ヲ自ラ借用シ及ヒ人ニ借ス者ハ自ラ盜ムノ眞盜ト間アリ然ルニ之ヲ眞盜ト看做シ修正スルハ亦改正ノ本旨ト合ハス且其借ルモノニ至テハ全ク他人ノ物ヲ借リタルナリ之ヲ常人盜ヲ以テ論スルハ最モ當ラス

○書記官戸田秋成　左ノ條々ヲ朗讀ス

原案

窃盜條例

凡客廩倉戸及ヒ工人舟子脚夫馬丁車力等其寄託ヲ受ル所ノ財物ヲ盜ム者ハ並ニ窃盜ヲ以テ論シ一等ヲ加ヘ罪懲役終身ニ止ル

院議原案ヲ可トス

原案

改正私借官物律

凡監臨主守監守スル所ノ官物ヲ私ニ借用シ若クハ人ニ借ス者證書ナキハ監守盜ニ準シテ論ス證書アルハ二等ヲ減シ罪懲役三年ニ止ル其借ル者監守人ニ非サレハ證書ノ有無ヲ分タス窃盜ニ準シ一等ヲ減シ罪懲役二年半ニ止ル若シ自己ノ